

IBM

@server

iSeries

OS/400 コマンド

OVRTAPF (テープ・ファイル一時変更) ~

バージョン 5 リリース 3





@server

iSeries

OS/400 コマンド

OVRTAPF (テープ・ファイル一時変更) ~

バージョン 5 リリース 3

ご注意

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、519ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、OS/400 (プロダクト番号 5722-SS1) のバージョン 5、リリース 3、モディフィケーション 0 に適用されます。また、改訂版で断りがない限り、それ以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。このバージョンは、すべての RISC モデルで稼働するとは限りません。また CISC モデルでは稼働しません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： iSeries
Operating System/400 Commands
Starting with OVRTAPF (Override with Tape File)
Version 5 Release 3

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.5

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2004. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

目次

テープ・ファイル一時変更 (OVRTAPF)	1
パラメーター	1
一時変更中のファイル (FILE)	3
テープ・ファイルへの一時変更 (TOFILE)	3
装置 (DEV)	3
ボリューム識別コード (VOL)	4
テープ・リール仕様 (REELS)	4
順序番号 (SEQNBR)	6
ファイル・ラベル (LABEL)	7
レコード長 (RCDLEN)	7
ブロックの長さ (BLKLEN)	7
バッファ・オフセット (BUFOFSET)	8
レコードのブロック形式 (RCDBLKFM)	9
ファイル拡張 (EXTEND)	10
テープ密度 (DENSITY)	11
データ短縮 (COMPACT)	15
コード (CODE)	15
作成日 (CRTDATE)	15
ファイル満了日 (EXPDATE)	16
テープ終了オプション (ENDOPT)	16
ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)	17
変換テーブル (TBL)	17
変換元CCSID (FROMCCSID)	18
変換先CCSID (TOCCSID)	18
ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)	18
最大ファイル待機時間 (WAITFILE)	19
他の一時変更からの保護 (SECURE)	19
有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)	19
オープン・データ・パス共用 (SHARE)	20
有効範囲のオープン (OPNSCOPE)	20
OVRTAPFの例	20
エラー・メッセージ: OVRTAPF	21
パラメーター定義 (PARM)	23
パラメーター	23
キーワード (KWD)	25
値のタイプ (TYPE)	25
値の長さ (LEN)	28
戻り値 (RTNVAL)	28
定数値 (CONSTANT)	29
制約された値 (RSTD)	29
省略時の値 (DFT)	30
有効な値 (VALUES)	31
比較式 (REL)	32
値の範囲 (RANGE)	32
特殊値 (SPCVAL)	33
単一値 (SNGVAL)	34
許される最小値 (MIN)	34
許される最大値 (MAX)	35
印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT)	35
変数名使用可能 (ALWVAR)	36

PARMはプログラム名である (PGM)	36
PARMはデータ域名である (DTAARA)	36
ファイル・パラメーターの場合の使用法 (FILE)	36
全桁入力必須 (FULL)	37
式の評価 (EXPR)	37
可変の長さ (VARY)	37
属性バイト受け渡し (PASSATR)	38
指定されない場合に渡される値 (PASSVAL)	38
大文字・小文字(CASE)	39
リスト変位(LISTDSPL)	39
画面入力 (DSPINPUT)	39
テキスト選択 (CHOICE)	39
プログラム選択 (CHOICEPGM)	40
プロンプト制御 (PMTCTL)	41
プロンプト制御プログラム (PMTCTLPGM)	41
キー・パラメーター (KEYPARM)	42
初期プロンプト長 (INLPMTLEN)	42
プロンプト仕様 (PROMPT)	43
PARMの例	43
エラー・メッセージ: PARM	44

プログラム (PGM)	45
パラメーター	45
パラメーターCL変数名 (PARM)	46
PGMの例	46
エラー・メッセージ: PGM	47

TCP/IP接続の検査 (PING)	49
パラメーター	49
リモート・システム (RMTSYS)	50
リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)	50
アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)	50
メッセージ・モード (MSGMODE)	50
パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)	51
パケット数 (NBRPKT)	51
待ち時間 (秒数) (WAITTIME)	51
ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)	52
TYPE OF SERVICE (TOS)	52
IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)	52
VFYTCPCNNの例	53
エラー・メッセージ: VFYTCPCNN	54

PM ISERIES回線制御 (PMLINMON)	55
パラメーター	55
例	55
エラー・メッセージ	56

プロンプト制御定義 (PMTCTL)	57
パラメーター	57

制御キーワード (CTL)	57
制御条件 (COND)	58
真条件の数 (NBRTRUE)	58
論理関係 (LGLREL)	58
PMTCTLの例	59
エラー・メッセージ: PMTCTL	59

データベース・ファイル位置決め (POSDBF) 61

パラメーター	61
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	61
ファイル位置 (POSITION)	61
POSDBFの例	62
エラー・メッセージ: POSDBF	62

借用オブジェクトの印刷 (PRTADPOBJ) 63

パラメーター	64
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	64
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	64
PRTADPOBJの例	65
エラー・メッセージ: PRTADPOBJ	65

AFPデータの印刷 (PRTAFPDTA) 67

パラメーター	67
ファイル (FILE)	67
メンバー (MBR)	68
印刷装置 (DEV)	68
用紙定義 (FORMDF)	68
コピー数 (COPIES)	69
開始ページ (STRPAGE)	69
終了ページ (ENDPAGE)	69
印刷精度 (FIDELITY)	70
PRTAFPDTAの例	70
エラー・メッセージ: PRTAFPDTA	70

コマンド使用状況印刷 (PRTCMDUSG) 71

パラメーター	71
コマンド (CMD)	71
プログラム (PGM)	72
PRTCMDUSGの例	73
エラー・メッセージ: PRTCMDUSG	73

通信保護機能の印刷 (PRTCMNSEC) 75

パラメーター	77
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	77
PRTCMNSECの例	77
エラー・メッセージ: PRTCMNSEC	77

通信追跡の印刷 (PRTCMNTRC) 79

パラメーター	79
構成オブジェクト (CFGOBJ)	80
FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)	80
タイプ (CFGTYPE)	81
出力 (OUTPUT)	81
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	81
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	82

文字コード (CODE)	82
回線記述 (SLTLIND)	82
制御装置記述 (SLTCTLD)	83
SNAデータのための形式設定 (FMTSNA)	83
RR, RNRコマンドの形式設定 (FMTRR)	83
TCP/IPデータの形式 (FMTCIP)	83
LCPデータの形式 (FMTCIP)	84
NCPデータの形式 (FMTCIP)	84
アドレス別TCP/IPデータ形式設定 (TCPIPADR)	84
IPポート番号 (SLTPORT)	85
UIデータだけの形式設定 (FMTCIP)	85
MACまたはSMTデータ専用形式 (FMTCIP)	85
イーサネット・データのための形式設定 (FMTCIP)	85
呼び出し制御データの形式設定 (FMTCIP)	86
ブロードキャスト・データの形式設定 (FMTCIP)	86
LMIデータの除外 (EXCLMI)	86
LMIデータのための形式設定 (FMTCIP)	86
例	86
エラー・メッセージ	87

装置アドレスの印刷 (PRTDEVADR) 89

パラメーター	89
制御装置記述 (CTLD)	89
PRTDEVADRの例	89
エラー・メッセージ: PRTDEVADR	89

ディレクトリー情報の印刷 (PRTDIRINF) 91

パラメーター	91
報告書のタイプ (RPTTYPE)	92
情報ファイルの接頭部 (INFFILEPFX)	92
情報ライブラリー (INFLIB)	92
所有者 (OWNER)	93
オブジェクト (OBJ)	93
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	94
ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)	94
最小サイズ (MINSIZE)	94
分類 (SORT)	94
パス名の組み込み (INCPATH)	95
PRTDIRINFの例	95
エラー・メッセージ: PRTDIRINF	95

ディスク情報の印刷 (PRTDSKINF) 97

パラメーター	97
報告書のタイプ (RPTTYPE)	98
ASP装置 (ASPDEV)	98
ライブラリー (LIB)	98
所有者 (OWNER)	98
フォルダー (FLR)	99
文書 (DOC)	99
オブジェクト (OBJ)	99
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	99
最小サイズ (MINSIZE)	100
分類 (SORT)	100
PRTDSKINFの例	101
エラー・メッセージ: PRTDSKINF	101

エラー・ログ印刷 (PRTERLOG) . . . 103

パラメーター	103
リストするログ・データのタイプ (TYPE)	104
論理装置 (DEV)	105
資源名 (RSRCNAME)	105
エラー・ログ識別コード (ERRLOGID)	105
出力 (OUTPUT)	105
ログ出力の期間 (PERIOD)	106
印刷形式 (PRTFMTパラメーター)	107
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	107
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	108
ボリューム・タイプ (VOLTYPE)	108
型式番号 (MODEL)	108
ボリューム (VOL)	109
ボリューム統計データ (VOLSTAT)	109
ボリューム統計タイプ (VOLSTATYP)	109
選択するエラー・ログ項目 (SELECT)	110
ソート方法 (SORT)	110
PRTERLOGの例	111
エラー・メッセージ: PRTERLOG	111

内部データ印刷 (PRINTDTA) 113

パラメーター	113
データのタイプ (TYPE)	114
ダンプ識別コード (DMPID)	114
内部データの期間 (PERIOD)	115
ジョブ名 (JOB)	116
組み込むスレッドID (SLTHD)	116
タスク名 (TASK)	117
サーバー・タイプ (SVRTYPE)	117
PRINTDTAの例	118
エラー・メッセージ: PRINTDTA	118

SNAを介したIPの印刷 (PRTIPSCFG) 121

パラメーター	121
PRTIPSCFGの例	121
エラー・メッセージ: PRTIPSCFG	121

JOB権限の印刷 (PRTJOBDAUT) . . . 123

パラメーター	124
ライブラリー (LIB)	124
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	125
PRTJOBDAUTの例	125
エラー・メッセージ: PRTJOBDAUT	126

プロファイル内部の印刷 (PRTPRFINT) 127

パラメーター	128
選択 (SELECT)	129
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	129
パーセント満杯 (PCTFULL)	129
PRTPRFINTの例	130
エラー・メッセージ: PRTPRFINT	130

共通認可オブジェクトの印刷 (PRTPUBAUT) 131

パラメーター	133
------------------	-----

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	133
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	134
ライブラリー (LIB)	134
ファイル権限の印刷 (FILAUT)	135
コマンド権限の印刷 (CMDAUT)	135
プログラム権限の印刷 (PGMAUT)	136
JOB権限の印刷 (JOBDAUT)	136
フォルダー (FLR)	136
ディレクトリー (DIR)	137
サブディレクトリーの検索 (SCHSUBDIR)	137
PRTPUBAUTの例	137
エラー・メッセージ: PRTPUBAUT	137

私用認可の印刷 (PRTPVTAUT) 139

パラメーター	141
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	141
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	142
ライブラリー (LIB)	142
権限タイプ (AUTTYPE)	142
フォルダー (FLR)	143
AUTLオブジェクトの印刷 (AUTLOBJ)	143
ディレクトリー (DIR)	143
サブディレクトリーの検索 (SCHSUBDIR)	143
PRTPVTAUTの例	144
エラー・メッセージ: PRTPVTAUT	144

待ち行列権限の印刷 (PRTQAUT) . . . 145

パラメーター	146
ライブラリー (LIB)	146
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	147
PRTQAUTの例	147
エラー・メッセージ: PRTQAUT	147

サブシステム記述の印刷 (PRTSBSDAUT) 149

パラメーター	150
ライブラリー (LIB)	150
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	151
PRTSBSDAUTの例	151
エラー・メッセージ: PRTSBSDAUT	152

SQL情報の印刷 (PRTSQLINF) 153

パラメーター	153
オブジェクト (OBJ)	153
オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)	154
PRTSQLINFの例	154
エラー・メッセージ: PRTSQLINF	154

システム情報の印刷 (PRTSYSINF) . . . 155

パラメーター	155
例	155
エラー・メッセージ	155

システム機密保護属性の印刷 (PRTSYSSECA) 157

パラメーター	157
------------------	-----

PRTSYSSECAの例	157
エラー・メッセージ： PRTSYSSECA	157

POINT-TO-POINT プロファイルの印刷 (PRTTCPPTP) 159

パラメーター	159
プロファイルの構成 (CFGPRF)	159
PRTTCPPTPの例	159
エラー・メッセージ： PRTTCPPTP	159

追跡データの印刷 (PRTRRC) 161

パラメーター	161
データ・メンバー (DTAMBR)	162
データ・ライブラリー (DTALIB)	162
ジョブの選択 (SLTJOB)	162
追跡の削除 (DLTRRC)	163
ソート方法 (SORT)	163
出力 (OUTPUT)	163
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	164
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	164
PRTRRCの例	165
エラー・メッセージ： ENDTRC	165

トリガー・プログラムの印刷 (PRTRRGPGM) 167

パラメーター	167
ライブラリー (LIB)	167
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	169
PRTRRGPGMの例	169
エラー・メッセージ： PRTRRGPGM	169

ユーザー・オブジェクトの印刷 (PRTUSROBJ) 171

パラメーター	171
ライブラリー (LIB)	172
変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)	172
PRTUSROBJの例	172
エラー・メッセージ： PRTUSROBJ	172

ユーザー・プロファイルの印刷 (PRTUSRPRF) 173

パラメーター	175
情報のタイプ (TYPE)	175
選択 (SELECT)	175
特殊権限 (SPCAUT)	176
ユーザー・クラス (USRCLS)	177
PRTUSRPRFの例	177
エラー・メッセージ： PRTUSRPRF	177

システム電源遮断 (PWRDWN SYS) . . . 179

パラメーター	180
終了方法 (OPTION)	180
制御された終了遅延時間 (DELAY)	181
電源切断後の再始動 (RESTART)	181
IPLソース (IPLSRC)	182

イメージ・カタログ (IMGCLG)	182
サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)	183
タイムアウト・オプション (TIMEOUTOPT)	183
確認 (CONFIRM)	184
PWRDWN SYSの例	184
エラー・メッセージ： PWRDWN SYS	185

文書ライブラリー照会 (QRYDOCLIB) 187

パラメーター	187
QUERY定義 (QRYDFN)	189
フォルダー中 (FLR)	192
サブフォルダーの検索 (SCHSUBFLR)	193
QUERYプログラムのテキスト (QRYTXT)	193
言語識別コード (TXTLANGID)	195
文書リスト (DOCL)	195
テキスト (TEXT)	195
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	196
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	196
出力のデータ・タイプ (OUTDATATYP)	197
ユーザー識別コード (USRID)	198
時間制限 (TIMLMT)	199
選択制限 (SELLMT)	199
順序 (ORDER)	199
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	201
QRYDOCLIBの例	202
エラー・メッセージ： QRYDOCLIB	202

配布照会 (QRYDST) 203

パラメーター	203
着信または発信 (OPTION)	204
ユーザー識別コード (USRID)	204
削除状況 (DLTSTS)	204
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	205
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	205
状況 (STATUS)	206
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	207
QRYDSTの例	207
エラー・メッセージ： QRYDST	208

問題状況の照会 (QRYPRBSTS) 209

パラメーター	209
問題識別コード (PRBID)	209
起点 (ORIGIN)	210
リモート制御点 (RMTCPNAME)	210
リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)	210
サービス番号 (SRVID)	211
問題の自動作成 (AUTOPRBCRT)	211
QRYPRBSTSの例	211
エラー・メッセージ： QRYPRBSTS	211

TIEファイル照会 (QRYTIEF) 213

パラメーター	213
QRYTIEFの例	213
エラー・メッセージ： QRYTIEF	213

QSHの開始 (QSH) 215

エラー・メッセージ： STRQSH	216
パラメーター	216
コマンド (CMD)	216
例	217
エラー・メッセージ： STRQSH	217
修飾名定義 (QUAL)	219
パラメーター	219
値のタイプ (TYPE)	220
長さの指定 (LEN)	221
定数値 (CONSTANT)	221
制約された値 (RSTD)	222
省略時の値 (DFT)	223
有効な値 (VALUES)	223
比較式 (REL)	224
値の範囲 (RANGE)	224
特殊値 (SPCVL)	224
許される最小値 (MIN)	225
印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT)	225
変数名使用可能 (ALWVAR)	225
全桁入力必須 (FULL)	226
式の評価 (EXPR)	226
可変の長さ (VARY)	226
属性バイト受け渡し (PASSATR)	227
画面入力 (DSPINPUT)	227
テキスト選択 (CHOICE)	227
プログラム選択 (CHOICEPGM)	228
初期プロンプト長 (INLPMTLEN)	229
プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)	229
QUALの例	230
エラー・メッセージ： QUAL	231
活動化グループの再利用 (RCLACTGRP) 233	
パラメーター	234
活動化グループ (ACTGRP)	234
クローズ・オプション (OPTION)	234
RCLACTGRPの例	235
エラー・メッセージ： RCLACTGRP	235
DDM会話再利用 (RCLDDMCNV) 237	
パラメーター	237
RCLDDMCNVの例	237
エラー・メッセージ： RCLDDMCNV	237
文書ライブラリー・オブジェクト回復 (RCLDLO) 239	
パラメーター	239
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	240
フォルダー中 (FLR)	241
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	241
システム・オブジェクト属性 (SYSOBJATR)	241
補助記憶域プールID (ASP)	241
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	242
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	243
RCLDLOの例	243

エラー・メッセージ： RCLDLO	244
ライブラリーの再利用 (RCLLIB) 245	
パラメーター	245
ライブラリー (LIB)	245
RCLLIBの例	245
エラー・メッセージ： RCLLIB	246
光ディスク再利用 (RCLOPT) 247	
パラメーター	247
光媒体ライブラリー (MLB)	247
オプション (OPTION)	248
ボリューム識別コード (VOL)	248
ディレクトリー索引再作成 (DIR)	248
RCLOPTの例	249
エラー・メッセージ： RCLOPT	249
資源再利用 (RCLRSC) 253	
パラメーター	254
プログラム・レベル (LVL)	254
クローズ・オプション (OPTION)	254
例	255
エラー・メッセージ	257
スプール記憶域の再利用 (RCLSPLSTG) 259	
パラメーター	259
日数 (DAYS)	259
RCLSPLSTGの例	260
エラー・メッセージ： RCLSPLSTG	260
記憶域再利用 (RCLSTG) 261	
パラメーター	262
選択 (SELECT)	262
除外 (OMIT)	262
ASP装置またはグループ (ASPDEV)	263
RCLSTGの例	263
エラー・メッセージ： RCLSTG	264
一時記憶域の再利用 (RCLTMPSTG) 267	
パラメーター	267
ライブラリー (LIB)	268
未使用の日数 (DAYS)	269
RCLTMPSTGの例	269
エラー・メッセージ： RCLTMPSTG	269
配布受信 (RCVDST) 271	
パラメーター	271
配布識別コード (DSTID)	272
ユーザー識別コード (USRID)	272
文書 (DOC)	272
フォルダー中 (FLR)	273
出力を受け取るファイル (OUTFILE)	273
出力メンバー・オプション (OUTMBR)	274
出力のデータ・タイプ (OUTDATATYP)	274
肯定応答受信 (ACKRCV)	276
配布IDエクステンション (DSTIDEXN)	276

メール・ログに保管 (KEEP)	276
コマンド文字識別コード (CMDCHRID)	276
RCVDSTの例	277
エラー・メッセージ: RCVDST	277
ファイル受信 (RCVF)	279
パラメーター	279
表示装置 (DEV)	280
レコード様式 (RCDFMT)	280
オープン・ファイル識別コード (OPNID)	280
待機 (WAIT)	281
RCVFの例	281
エラー・メッセージ: RCVF	282
ジャーナル項目受信 (RCVJRNE)	285
パラメーター	286
ジャーナル (JRN)	287
項目を受け取るプログラム (EXITPGM)	288
ジャーナルされた物理ファイル (FILE)	291
ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)	293
大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)	294
開始日および時刻 (FROMTIME)	294
大きい終了順序番号 (TOENTLRG)	295
終了日および時刻 (TOTIME)	295
ジャーナル項目の数 (NBRENT)	296
ジャーナル・コード (JRNCD)	296
ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)	297
ジョブ名 (JOB)	297
プログラム (PGM)	298
ユーザー・プロファイル (USRPRF)	298
大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)	298
従属項目 (DEPENT)	298
入力様式 (ENTFMT)	299
ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)	302
遅延時間 (DELAY)	326
ブロック長 (BLKLEN)	328
ジャーナル項目の形式 (JRNENTMFT)	328
ポインターを戻す (RTNPTR)	328
項目の組み込み (INCENT)	329
開始順序番号 (FROMENT)	329
終了順序番号 (TOENT)	330
コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)	330
例	331
エラー・メッセージ	331
メッセージ受信 (RCVMSG)	335
パラメーター	336
呼出スタック項目メッセージ待行列 (PGMQ)	337
メッセージ待行列 (MSGQ)	339
メッセージ・タイプ (MSGTYPE)	339
メッセージ・キー (MSGKEY)	340
待機時間 (WAIT)	341
メッセージ除去 (RMV)	341
コード化文字セットID (CCSID)	342
デフォルト応答の拒否 (RJTDFTRPY)	342
KEYVARのCL変数 (4) (KEYVAR)	343

第1 レベル・テキストのCL変数 (MSG)	343
MSGLENのCL変数 (5 0) (MSGLEN)	343
第2 レベル・テキストのCL変数 (SECLVL)	344
SECLVLENのCL変数 (5 0) (SECLVLEN)	344
メッセージ・データのCL変数 (MSGDTA)	344
MSGDTALENのCL変数 (5 0) (MSGDTALEN)	344
MSGIDのCL変数 (7) (MSGID)	344
SEVのCL変数 (2 0) (SEV)	345
SENDERのCL変数 (80) (SENDER)	345
送信元の形式 (SENDERFMT)	345
RTNTYPEのCL変数 (2) (RTNTYPE)	348
ALROPTのCL変数 (9) (ALROPT)	348
MSGFのCL変数 (10) (MSGF)	348
MSGFLIBのCL変数 (10) (MSGFLIB)	349
SNDMSGFLIBのCL変数 (10) (SNDMSGFLIB)	349
テキスト CCSIDのCL変数 (5 0) (TXTCCSID)	349
データ CCSIDのCL変数 (5 0) (DTACCSID)	350
RCVMSGの例	350
エラー・メッセージ: RCVMSG	351

ネットワーク・ファイル受信 (RCVNETF)	355
パラメーター	355
FROMファイル (FROMFILE)	356
TOファイル (TOFILE)	356
受け取られるメンバー (FROMMBR)	356
TOメンバー (TOMBR)	357
レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)	357
ファイル番号 (NBR)	358
ユーザー (USER)	358
取り出しファイル・タイプ (FROMTYPE)	358
RCVNETFの例	359
エラー・メッセージ: RCVNETF	360

TIEファイル受け取り (RCVTIEF)	363
パラメーター	363
ライブラリー (LIB)	363
ファイル・タイプ (TYPE)	364
出力 (OUTPUT)	364
最大レコード数 (MAXRCDS)	364
RCVTIEFの例	364
エラー・メッセージ: RCVTIEF	365

ディレクトリーの除去 (RD)	367
パラメーター	368
ディレクトリー (DIR)	368
リンクの除去 (RMVLNK)	368
RDの例	369
エラー・メッセージ: RD	369

オブジェクト名変更 (REN)	371
パラメーター	372
オブジェクト (OBJ)	372
新しいオブジェクト (NEWOBJ)	372
RENの例	372
エラー・メッセージ: REN	372

戻り (RETURN)	375
パラメーター	375
RETURNの例	375
エラー・メッセージ: RETURN	376

文書ライブラリー・オブジェクト再編成 (RGZDLO)	377
パラメーター	377
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)	378
フォルダー (FLR)	378
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)	378
最後の参照以降の日数 (DAYS)	379
未ファイル・メールの再編成 (MAIL)	379
RGZDLOの例	379
エラー・メッセージ: RGZDLO	380

物理ファイル・メンバー再編成 (RGZPFM)	381
パラメーター	382
データベース・ファイル (FILE)	382
メンバー (MBR)	383
キー・ファイル (KEYFILE)	383
アクセス・パスの再作成 (RBDACCPH)	384
取り消しの許可 (ALWCANCEL)	384
ロック状態 (LOCK)	384
ソース更新オプション (SRCOPT)	385
ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)	385
レコード様式 (RCDFMT)	386
RGZPFMの例	386
エラー・メッセージ: RGZPFM	387

通信装置解放 (RLSCMNDEV)	389
パラメーター	389
装置 (DEV)	389
RLSCMNDEVの例	390
エラー・メッセージ: RLSCMNDEV	390

配布待ち行列の解放 (RLSDSTQ)	391
パラメーター	391
配布待ち行列 (DSTQ)	391
優先順位 (PTY)	392
RLSDSTQの例	392
エラー・メッセージ: RLSDSTQ	392

ファイル・システム・ロックの解除 (RLSIFSLCK)	395
パラメーター	395
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	395
オブジェクト (OBJ)	396
RLSIFSLCKの例	396
エラー・メッセージ: RLSIFSLCK	397

ジョブ解放 (RLSJOB)	399
パラメーター	399
ジョブ名 (JOB)	400

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)	400
RLSJOBの例	400
エラー・メッセージ: RLSJOB	401

ジョブ待ち行列解放 (RLSJOBQ)	403
パラメーター	403
ジョブ待ち行列 (JOBQ)	403
RLSJOBQの例	403
エラー・メッセージ: RLSJOBQ	404

ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)	405
パラメーター	405
ジョブ名 (JOB)	405
項目番号 (ENTRYNBR)	406
RLSJOBSCDEの例	406
エラー・メッセージ: RLSJOBSCDE	406

出力待ち行列解放 (RLSOUTQ)	409
パラメーター	409
出力待ち行列 (OUTQ)	409
RLSOUTQの例	409
エラー・メッセージ: RLSOUTQ	410

読み取りプログラム解放 (RLSRDR)	411
パラメーター	411
読み取りプログラム (RDR)	411
RLSRDRの例	411
エラー・メッセージ: RLSRDR	411

リモート・フェーズの解放 (RLSRMTPHS)	413
パラメーター	413
フェーズ (PHASE)	414
計画 (PLAN)	414
適用業務識別コード (APPID)	414
リモート・フェーズの解放 (RMTLOCNAME)	414
装置記述 (DEV)	414
RLSRMTPHSの例	415
エラー・メッセージ: RLSRMTPHS	415

スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)	417
パラメーター	417
スプール・ファイル (FILE)	418
ジョブ名 (JOB)	418
スプール・ファイル番号 (SPLNBR)	418
ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)	419
作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)	419
ファイル選択 (SELECT)	420
ASP装置 (ASPDEV)	421
RLSSPLFの例	421
エラー・メッセージ: RLSSPLF	422

書き出しプログラム解放 (RLSWTR)	425
パラメーター	425
書き出しプログラム (WTR)	425

書き出し再開位置 (OPTION)	425
開始ページ (PAGE)	426
RLSWTRの例	426
エラー・メッセージ: RLSWTR	427

ディレクトリーの除去 (RMDIR) 429

パラメーター	430
ディレクトリー (DIR)	430
リンクの除去 (RMVLNK)	430
RMDIRの例	431
エラー・メッセージ: RMDIR	431

アクセス・コード除去 (RMVACC) 433

パラメーター	433
文書アクセス・コード (ACC)	433
RMVACCの例	433
エラー・メッセージ: RMVACC	434

自動開始ジョブ項目除去 (RMVAJE) 435

パラメーター	435
サブシステム記述 (SBSD)	435
ジョブ名 (JOB)	436
RMVAJEの例	436
エラー・メッセージ: RMVAJE	436

警報記述の除去 (RMVALRD) 437

パラメーター	437
メッセージ識別コード (MSGID)	437
警報テーブル (ALRTBL)	437
RMVALRDの例	438
エラー・メッセージ: RMVALRD	438

権限リスト項目除去 (RMVAUTLE) 441

パラメーター	441
権限リスト (AUTL)	441
ユーザー (USER)	442
RMVAUTLEの例	442
エラー・メッセージ: RMVAUTLE	442

停止点除去 (RMVBKP) 443

パラメーター	443
ステートメント識別コード (STMT)	443
プログラム (PGM)	444
RMVBKPの例	444
エラー・メッセージ: RMVBKP	444

バインド・ディレクトリー項目の除去 (RMVBNDIRE) 445

パラメーター	445
ディレクトリーのバインド (BNDDIR)	445
オブジェクトの仕様 (OBJ)	446
RMVBNDIREの例	447
エラー・メッセージ: RMVBNDIRE	447

構成リスト項目除去 (RMVCFGLE) 449

パラメーター	449
------------------	-----

構成リスト・タイプ (TYPE)	450
APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCLE)	451
APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMTE)	451
構成リスト (CFGL)	451
非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)	452
非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)	452
小売業パススルー項目 (RTLPAsthRE)	452
フィルター 処理制御点名 (FTRCPNAME)	453
フィルター 処理CP ネットワークID (FTRCPNETID)	453
ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)	453
SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)	454
RMVCFGLEの例	454
エラー・メッセージ: RMVCFGLE	454

クラスター・ノード項目の除去 (RMVCLUNODE) 455

パラメーター	456
クラスター (CLUSTER)	456
ノードID (NODE)	456
RMVCLUNODEの例	456
エラー・メッセージ: RMVCLUNODE	456

通信項目除去 (RMVCMNE) 457

パラメーター	457
サブシステム記述 (SBSD)	457
装置 (DEV)	458
リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)	458
モード (MODE)	459
RMVCMNEの例	459
エラー・メッセージ: RMVCMNE	459

SNMP用コミュニティの除去 (RMVCOMSNMP) 461

パラメーター	461
コミュニティ名 (COM)	461
コミュニティ名の変換 (ASCIICOM)	461
RMVCOMSNMPの例	462
エラー・メッセージ: RMVCOMSNMP	462

CRG装置項目の除去 (RMVCRGDEVE) 463

パラメーター	463
クラスター (CLUSTER)	464
クラスター資源グループ (CRG)	464
構成オブジェクト・リスト (CFGOBJ)	464
RMVCRGDEVEの例	464
エラー・メッセージ: RMVCRGDEVE	465

CRGノード項目の除去 (RMVCRGNODE) 467

パラメーター	468
クラスター (CLUSTER)	468
クラスター資源グループ (CRG)	468
ノードID (NODE)	468
RMVCRGNODEの例	468

エラー・メッセージ： RMVCRGNODE. 469

装置ドメイン項目の除去

(RMVDEVDMNE) 471

パラメーター 471
クラスター (CLUSTER) 471
装置ドメイン (DEVDMN) 472
ノードID (NODE) 472
RMVDEVDMNEの例 472
エラー・メッセージ： RMVDEVDMNE 472

ディレクトリーの除去 (RMVDIR) 473

パラメーター 474
ディレクトリー (DIR) 474
リンクの除去 (RMVLNK) 474
RMVDIRの例 475
エラー・メッセージ： RMVDIR 475

ディレクトリー項目除去 (RMVDIRE) 477

パラメーター 477
ユーザー識別コード (USRID) 477
ユーザー記述 (USRD) 478
コマンド文字識別コード (CMDCHRID) 478
RMVDIREの例 479
エラー・メッセージ： RMVDIRE 479

ディレクトリー・シャドウ・システムの除去 (RMVDIRSHD) 481

パラメーター 481
システム名 (SYSNAME) 481
データの除去 (RMVDTA) 481
RMVDIRSHDの例 482
エラー・メッセージ： RMVDIRSHD 482

DLO権限の除去 (RMVDLOAUT) 483

パラメーター 483
文書ライブラリー・オブジェクト (DLO) 483
フォルダー (FLR) 484
ユーザー・プロファイル (USER) 484
権限リスト (AUTL) 484
文書アクセス・コード (ACC) 485
システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM) 485
RMVDLOAUTの例 485
エラー・メッセージ： RMVDLOAUT 485

配布リスト項目除去 (RMVDSTLE) 487

パラメーター 487
リスト識別コード (LSTID) 487
ユーザー識別コード (USRID) 488
コマンド文字識別コード (CMDCHRID) 488
RMVDSTLEの例 489
エラー・メッセージ： RMVDSTLE 489

配布待ち行列の除去 (RMVDSTQ) 491

パラメーター 491
配布待ち行列 (DSTQ) 492

RMVDSTQの例 492

エラー・メッセージ： RMVDSTQ 492

配布経路の除去 (RMVDSTRTE) 495

パラメーター 495
システム名 (SYSNAME) 495
RMVDSTRTEの例 496
エラー・メッセージ： RMVDSTRTE 496

2次システム名の除去 (RMVDSTSYSN) 497

パラメーター 497
2次システム名 (SYSNAME) 497
RMVDSTSYSNの例 497
エラー・メッセージ： RMVDSTSYSN 498

構成項目除去 (RMVEMLCFGE) 499

パラメーター 499
構成項目 (EMLCFGE) 499
RMVEMLCFGEの例 499
エラー・メッセージ： RMVEMLCFGE 499

環境変数の除去 (RMVENVVAR) 501

パラメーター 501
環境変数 (ENVVAR) 501
レベル (LEVEL) 501
RMVENVVARの例 502
エラー・メッセージ： RMVENVVAR 502

EWCバーコード項目の除去 (RMVEWCBCDE) 503

パラメーター 503
バーコード・グループ (BCDGRP) 503
初期設定ソース・メンバー (INZMBR) 503
初期設定ソース・ファイル (INZFILE) 503
RMVEWCBCDEの例 504
エラー・メッセージ： RMVEWCBCDE 504

EWC PTC項目の除去 (RMVEWCPTCE) 505

パラメーター 505
PTCグループ (PTCGRP) 505
初期設定ソース・メンバー (INZMBR) 505
初期設定ソース・ファイル (INZFILE) 505
RMVEWCPTCEの例 506
エラー・メッセージ： RMVEWCPTCE 506

出口プログラムの除去 (RMVEXITPGM) 507

パラメーター 507
出口点 (EXITPNT) 507
出口点形式 (FORMAT) 507
プログラム番号 (PGMNBR) 507
RMVEXITPGMの例 508
エラー・メッセージ： RMVEXITPGM 508

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE) 509

パラメーター 510

フォント・テーブル (FNTTBL)	510
印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)	511
印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)	513
ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)	513
ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)	514
印刷装置相互間フォント (PPFCS).	514
RMVFNTTBLEの例	515
エラー・メッセージ： RMVFNTTBLE	515
フィルター処置項目の除去 (RMVFTRACNE)	517

パラメーター	517
フィルター (FILTER).	517
グループ (GROUP)	517
RMVFTRACNEの例	518
エラー・メッセージ： RMVFTRACNE	518
付録. 特記事項	519
商標	520
資料に関するご使用条件.	521
コードに関する特記事項.	522

テープ・ファイル一時変更 (OVRTAPF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

テープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドは、(1)プログラムで指定されているファイルを一時変更する（置き換える）か、(2)プログラムで使用されるファイルの特定の属性を一時変更するか、あるいは(3)プログラムで指定されたファイルを一時変更し、処理されるファイルの特定の属性を一時変更するために使用されます。このコマンドによって一時変更されるパラメーターは、ファイル記述、プログラム、またはその他の呼び出されたファイル一時変更コマンドに指定されています。

プログラムで指定したファイルを一時変更する場合には、そのファイルの名前をFILEパラメーターに指定し、一時変更先のファイル（処理済みのファイル）の名前をTOFILEパラメーターに指定します。OVRTAPFコマンドには、一時変更先のファイルのファイル記述に含まれる値を一時変更するパラメーターも指定することができます。プログラムに指定されたファイルが置き換えられないが、そのファイルの一部のパラメーターを一時変更する場合には、FILEパラメーターにそのファイルの名前を指定し、TOFILEパラメーターに*FILEを指定します。一時変更されるパラメーターは、OVRTAPFコマンドの他のパラメーターで指定します。指定しないパラメーターはファイル記述、プログラム、または他の呼び出されるファイル一時変更コマンドに指定されたパラメーターに影響しません。

ファイルの一時変更の詳細は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピック、APPLICATION DISPLAY PROGRAMMING (SC41-5715),および印刷装置 プログラミング (SD88-5073)にあります。

注: このコマンドを使用しても、ただちにファイルが一時変更されるわけではありません。このコマンドで与えられる情報は、ファイルが使用されるまで保存され、その時点でファイルが一時変更されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	一時変更中のファイル	名前	必須, 定位置 1
TOFILE	テープ・ファイルへの一時変更	単一値: *FILE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: テープ・ファイルへの一時変更	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	値 (最大 4 回の繰り返し): 名前	オプション, 定位置 3
VOL	ボリューム識別コード	単一値: *NONE その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
REELS	テープ・リール仕様	要素リスト	オプション
	要素 1: ラベル処理タイプ	*SL, *NL, *NS, *BLP, *LTM	
	要素 2: リールの数	1-255	
SEQNBR	順序番号	1-16777215, *END, *NEXT	オプション
LABEL	ファイル・ラベル	文字値	オプション
RCDLEN	レコード長	整数, *CALC	オプション
BLKLEN	ブロックの長さ	1-524288, *CALC	オプション
BUFOFSET	バッファ・オフセット	整数, *BLKDSC	オプション
RCDBLKfmt	レコードのブロック形式	*F, *FB, *V, *VB, *D, *DB, *VS, *VBS, *U	オプション
EXTEND	拡張	単一値: *NO その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ファイル拡張	*YES	
	要素 2: ファイル検査	*NOCHECK , *CHECK	
DENSITY	テープ密度	文字値, *DEVTYPE, *CTGTYPE, *FMT3480, *FMT3490E, *FMT3570, *FMT3570E, *FMT3590, *FMT3590E, *QIC120, *QIC525, *QIC1000, *QIC2GB, *QIC2DC, *QIC4GB, *QIC4DC, *QIC3040, *QIC5010, *MLR3, *SLR60, *SLR100, *FMT2GB, *FMT5GB, *FMT7GB, *FMT20GB, *FMT60GB, *ULTRIUM1, 1600, 3200, 6250	オプション
COMPACT	データ短縮	*DEVd, *NO	オプション
CODE	コード	*EBCDIC, *ASCII	オプション
CRtDATE	作成日	日付, *NONE	オプション
EXPDATE	ファイル満了日	日付, *NONE, *PERM	オプション
ENDOPT	テープ終了オプション	*REWIND, *LEAVE, *UNLOAD	オプション
USRLBLPGM	ユーザー・ラベル・プログラム	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: ユーザー・ラベル・プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
TBL	変換テーブル	単一値: *DFT, *NONE, *CCSID その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 変換テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
FROMCCSID	変換元CCSID	1-65533	オプション
TOCCSID	変換先CCSID	1-65533	オプション
IGCDTA	ユーザー指定のDBCSデータ	*NO, *YES	オプション
WAITFILE	最大ファイル待機時間	整数, *IMMED, *CLS	オプション
SECURE	他の一時変更からの保護	*NO , *YES	オプション
OVRSCOPE	有効範囲の一時変更	*ACTGRPDEFN , *CALLLVL, *JOB	オプション
SHARE	オープン・データ・バス共用	*NO, *YES	オプション
OPNSCOPE	有効範囲のオープン	*ACTGRPDEFN, *JOB	オプション

トップ

一時変更中のファイル (FILE)

この一時変更コマンドの適用先のプログラムによって使用中のファイルの名前を指定します。テープ・ファイルへの一時変更プロンプト (TOFILEパラメーター) に*FILEが指定されている場合には、指定するファイルはテープ・ファイルでなければなりません。そうでない場合には、任意の装置ファイルまたはデータベース・ファイル名を指定することができます。

トップ

テープ・ファイルへの一時変更 (TOFILE)

一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) に指定されたファイルの代わりに使用されるテープ・ファイルの名前を指定するか、あるいは*FILEが指定された場合には、特定の属性がこのコマンドに指定されたパラメーターによって一時変更されることを指定します。このコマンドに指定したパラメーターは、テープ・ファイルまたはプログラムに指定された他の値を一時変更します。

***FILE** 一時変更中のファイルプロンプト (FILEパラメーター) に指定された名前のテープ・ファイルは、このコマンドに指定された値によって特定の属性が一時変更されます。

テープ・ファイル名

一時変更されるファイル名の代わりに使用されるテープ・ファイルの名前とライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

テープ・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

テープ・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

装置 (DEV)

入出力操作を実行するためにテープ装置ファイルで使用される1つ以上のテープ装置または1つの媒体ライブラリー装置の名前を指定します。媒体ライブラリー装置は、1つ以上のテープ駆動機構、テープ・カートリッジ、およびカートリッジ保管スロットとテープ駆動機構間でテープ媒体を移動するための部分 (キャリッジとピッカーの組み立て品) から成るテープ記憶装置です。ここで装置名を指定する順序は、装置に装てんされたテープが処理される順序になります。プログラムまたはテープ装置ファイルに指定された装置名を一時変更する装置名 (最大4つ) を指定してください。処理されたボリュームの数がDEVリストの装置数を超えた時には、装置は指定された順序と同じ順序で使用され、必要に応じて最初の装置に循環します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

テープ・ファイルで使用される1つまたは複数のボリューム識別コードを指定します。テープ（ボリューム）は、その識別コードがここで指定され、装置名が**装置**プロンプト（DEVパラメーター）に指定されたのと同じ順序で装置に書き出さなければなりません。テープ・ファイルが逆方向の読み取りとしてオープンされた場合には、装置リスト内の装置が最初から最後への順序で使用され、リスト内のボリューム識別コードは最後から最初へ向けて処理されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

*NONE

このファイルにはテープ・ボリューム識別コードは指定されません。これらは、装置ファイルがオープンされる前に、CHGTAPFコマンドまたは別のテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドに提供されます。装置ファイルがオープンされる前に、ボリューム識別コードが指定されていない場合には、正しいラベル・タイプのボリュームが装置に入っているかどうかの検査だけが行なわれてボリューム検査は実行されず、ボリューム名は操作員メッセージに提供されません。

ボリューム識別コード

1つまたは複数のボリュームの識別コードを、それらが装置に入れられている順序で指定してください。各ボリューム識別コードには、最大6個の英数字が入っています。複数の識別コードをリストする時には、区切り文字としてブランクを使用してください。最大50個までのボリューム識別コードを指定することができます。これらの識別コードは、処理中に操作員に送られるメッセージで使用されます。*NL、*NS、*BLP、または*LTMの入力ファイルで処理されるリールの最大数は、リスト中のボリューム識別コードの数によって決定されます。

注: ファイルに使用されるVOLパラメーターの値がVOL(*NONE)ではなく、識別コードのリストを指定している場合には、REELSパラメーターの「リールの数」の部分は、指定される位置に関係なく無視されます。一時変更が使用された時にファイルのパラメーター値がどのように決定されるかについての説明、高水準言語インターフェースの説明、およびファイルをオープンした時の装置ファイルについての説明は、ISERIES INFORMATION CENTER

([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックにあります。テープ装置ファイルによって処理されるボリュームを制御するために（VOL識別コードのリストではなく）REELSパラメーターのリール数部分が使用されるようにするためには、REELSパラメーターを指定したのと同じコマンドにVOL(*NONE)を指定してください。

トップ

テープ・リール仕様 (REELS)

ボリューム識別コードプロンプト（VOLパラメーター）に指定されたボリューム識別コードのリストがなく、この装置ファイルが*NL、*LTM、*NS、または*BLP入力ファイルとして使用される場合に、テープ・リールで使用されるラベルのタイプおよび処理されるリールの最大数を指定します。リールの数を指定する時には、テープ装置に装着されているラベル付きボリュームのボリューム識別コードは無視され、その代わりに、リールが使用される順序は、操作員が検査しなければなりません。

リールの最大数の指定（このパラメーターの2番目の部分）は、標準ラベルの入力ファイルまたは出力ファイルの限界値ではありません。標準ラベルの入力ファイルの場合には、データ・ファイル・ラベルは、ファイルの終わりを示すことによって、処理されるボリュームの数を制限します。出力ファイルの場合には、リールの最大数の値は無視されます。システムは、ファイルがクローズされるまで、追加のボリュームを装置に装着するように要求します。

システムは、テープ上のロード・ポイントの後の最初のレコードを検査して、(1) EBCDICの場合に80バイトちょうど、ASCIIの場合に少なくとも80バイト入っているかどうか、(2)最初の4バイトに値のVOLと1が入っているか確認します。その場合には、リールに標準ラベルが入っています。*SLおよび*BLPファイルには標準ラベルのテープ・ボリュームが必要です。*NL、*NS、および*LTMのテープ・ファイルは、標準ラベル・ボリュームを処理することはできません。

注: 値*SL、*NL、および*LTMは、装置ファイルがテープ上での読み取りまたは書き出しに使用される場合に指定することができます。値*NSおよび*BLPは、装置ファイルがテープの読み取りに使用される場合にだけ有効です。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRTAPFコマンドで指定された値を一時変更します。

- *SL** ボリュームは標準のラベルをもっています。ボリューム識別コードのリストが（VOLパラメーターで）指定されている場合には、システムは、正しいテープ・ボリュームが指定された順序で装置上にあるかどうかを検査します。
- ボリューム識別コードのリストが指定されていないで、ファイルが出力用にオープンされている場合には、任意の標準ラベル・ボリュームを装置上に入れることができます。
 - ボリューム識別コード・リストが指定されていないで、ファイルが入力用にオープンされている場合には、最初のボリュームに任意のボリューム識別コードが入っていてもかまいませんが、ファイルが継続している場合には、正しい継続ボリュームが処理（データ・ファイル・ラベルをチェックすることによって検査）されることが必要です。入力ファイルの場合には、処理される最後のボリューム上のラベルがデータ・ファイルの最後のボリュームであることを示している時に、使用中のプログラムにファイルの終わりメッセージが送られます。
- *NL** ボリュームにはラベルがありません。ラベルのないボリュームでは、各データ・ファイルの終わりおよびボリュームの終わりを示すために、テープ・マークが使用されます。入力ファイルの場合には、ボリューム・リストに指定された数のボリュームが処理されるか、あるいはボリューム識別コードのリストが指定されていない場合にREELSパラメーターに指定された数のリールが処理されると、ファイルの終わりメッセージがプログラムに送られます。
- *NS** ボリュームには非標準ラベルがあります。各ボリュームはある種のラベル情報で始まらなければなりません。この前には任意にテープ・マーカがつき、また常にその後テープ・マーカが続きます。この標準外ラベル情報は無視されます。システムは標準外ラベルの後のテープ・マーカを超えた地点まで正方向に進み、テープをファイルのデータに位置づけます。各リールは、ファイルのデータの終わりにテープ・マーカが必要です。この終わりのテープ・マーカより後の情報は無視されます。非標準ラベルのテープに存在できるデータ・ファイルは1つだけです。標準ラベル・ボリュームは、*NSラベル処理を使用して処理することはできません。
- 入力ファイルの場合には、ボリューム・リストに指定された数のボリュームが処理されるか、あるいはボリューム識別コードのリストが指定されていない場合にREELSパラメーターに指定された数のリールが処理されると、ファイルを使用するプログラムにファイルの終わりメッセージが送られます。
- *BLP** 標準ラベル処理は迂回されます。各リールには標準ラベルがなければなりません。各リールは標準ボリューム・ラベルの有無を検査され、各ファイルには少なくとも1つの標準見出しラベル(HDR1)と1つの標準後書きラベル(EOV1またはEOF1)がなければなりません。他の大部分のラベル情報（データ・ファイルのレコード長やブロック長など）は無視されます。ボリューム上の各ファイルの順序番号は、ボリュームとテープの始まりの間のテープ・マーカの数によってのみ決定されます（データ・ファイルを見つけるために、各ファイルの見出しラベルと後書きラベルに記憶されているファイル順序番号が使用される*SL処理と対比）。

データ・ファイルの後書きラベルのほとんどの情報は無視されますが、ファイルの終わり(EOF)後書きラベルが見つかり、ファイルの終わりメッセージがテープ・ファイルを使用するプログラムに送られます。指定された数のボリュームまたはリールが処理された時点で（ボリューム識別コード・リストおよびREELSパラメーター）、ファイルの終わり後書きラベルが見つからなかった場合には、テープ・ファイルを使用するプログラムにただちにファイルの終わりメッセージが送られます。ユーザーが使用するファイルの名前を知らない場合、あるいは一部のファイル・ラベル情報が間違っている場合には、ラベル迂回処理を使用することができます。

- *LTM** ボリュームにはラベルがありませんが、最初のデータ・ファイルの前に1つの先行テープ・マーカがあります。テープに最初のデータ・ファイルを作成するために出力ファイルに対してSEQNBR(1)が指定されている時は、最初のデータ・ブロックの前のテープの開始位置に先行テープ・マーカが書き込まれることを除いて、REELS(*LTM) はREELS(*NL)と同様に処理されます。

リール数

ボリューム識別コードプロンプト（VOLパラメーター）に使用されたボリューム識別コードのリストがない時に、*NL, *LTM, *NS,または*BLP入力テープ操作で処理されるリールの最大数を指定してください。現在処理中のテープの終わりに達した時に、次のリールが装置上にない場合には、次のテープ装置に次のテープを入れるように要求するメッセージが操作員に対して出されます。リール数の値は、標準ラベル(*SL)処理ファイルまたは出力ファイルの場合には、無視されます。

トップ

順序番号 (SEQNBR)

処理されるテープ上のデータ・ファイルの順序番号を指定します。

- 標準ラベル・テープが使用される時には、データ・ファイルの最初の見出しラベルから4桁のファイル順序番号が読み取られます。
- ラベル処理のバイパスが使用される時、あるいは標準ラベル・テープが使用されない時には、システムは、テープの始めからのテープ・マーカの数のカウントして、正しい順序番号のデータ・ファイルを見つけます。
- テープ・リール仕様（REELSパラメーター）の*SLを使用して複数ファイルの複数ボリューム・テープが処理される時には、ファイル順序番号がすべてのボリュームで連続的に続きます。ファイルがどのボリュームに含まれているかに関係なく、新しい各データ・ファイルは前のファイルより1つ大きい順序番号をもちます。

ファイル順序番号

プログラムまたは装置ファイルに指定された順序番号を一時変更するファイル順序番号を指定してください。有効な値の範囲は1-16777215です。

- *END** ファイル順序番号はテープの終わりに追加されます。

テープから読み取るためにテープ装置ファイルが使用された時、およびテープ装置ファイルに*END特殊値が指定された時には、画面上にエラー・メッセージが表示されます。

*NEXT

テープ上の次のファイルが処理されます。テープが現在最初のファイルより前に位置づけられている場合には、テープ上の最初のファイルが処理されます。この値は、テープからの読み取りに使用されるテープ・ファイルにしか指定することができません。テープ・ファイルをテープへの書き出しに使用し、そのテープ・ファイルに*NEXTを指定した時には、エラー・メッセージが出されず。

ファイル・ラベル (LABEL)

このテープ装置ファイルによって処理されるデータ・ファイルの識別コードを指定します。標準ラベル出力ファイルにはラベル識別コードが必要ですが、入力ファイルの場合には任意選択です。

*SL以外のラベル処理のいずれかのタイプにデータ・ファイル識別コードが指定されている場合には、無視されます。

トップ

レコード長 (RCDLEN)

この装置ファイルで処理されるデータ・ファイルに入っているレコードの長さ（バイト数）を指定します。2番目の見出しラベル(HDR2)がテープ上にあり、*BLPラベル処理が指定されていない場合には、標準ラベルの入力ファイルまたは **ファイル拡張**プロンプト（EXTENDパラメーター）に*YESを指定した出力ファイルに対して、システムは常にデータ・ファイル・ラベルに指定されているレコード長およびブロック長を使用します。このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または他の呼び出されるOVRTAPFコマンド中に指定された値を一時変更します。

*CALC

処理されるデータ・ファイルのレコード長は指定されません。*CALCが指定されている場合には、システムは、ファイルのオープン時に適切なレコード長の計算を試みます。ラベルの付いていないテープの場合、あるいはHDR2ラベルがなく、*CALC以外の値が**ブロックの長さ**プロンプト

（BLKLENパラメーター）に指定されていて、**レコードのブロック形式**プロンプト（RCDBLKFMPTパラメーター）がスパン・レコードまたはブロック化レコードを指定しない場合には、*CALCが使用されます。この場合には、システムは、ファイルに指定されたブロックの長さ、レコードのブロック形式、およびバッファ・オフセット（ASCIIファイルの場合）から適切なレコード長を計算します。これ以外の場合には、実際のレコード長を、テープ・ファイル変更(CHGTAPF)コマンドまたはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドによって、あるいは装置ファイルをオープンする高水準言語プログラムで指定しなければなりません。

レコード長

データ・ファイルの各レコードの長さを指定する1 - 32767の範囲の値を指定してください。ファイルに使用できる最小および最大のレコード長は、レコードのブロック形式、ブロックの長さ、バッファ・オフセット（ASCIIファイルの場合）、およびレコード・コードによって決まります。

トップ

ブロックの長さ (BLKLEN)

入力または出力操作でテープとの間で転送されるデータ・ブロックの最大長（バイト数）を指定します。2番目の見出しラベル(HDR2)がテープ上にあり、*BLPラベル処理が指定されていない場合には、標準ラベルの入力ファイルまたは**ファイル拡張**プロンプト（EXTENDパラメーター）に*YESを指定した出力ファイルに対して、システムは常にデータ・ファイル・ラベルに指定されているレコード長およびブロック長を使用します。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または他のOVRTAPFコマンドで指定された値を一時変更します。

*CALC

処理されるデータ・ファイルのブロックの長さは指定されません。*CALCが指定されている場合には、システムは、ファイルのオープン時に適切なブロックの長さの計算を試みます。ラベルの付いていないテープの場合、あるいはHDR2ラベルがなく、*CALC以外の値がファイルのレコード長プロンプト（RCDLLENパラメーター）に指定されていて、レコードのブロック形式プロンプト

（RCDBLKFMFパラメーター）がスパン・レコードまたはブロック化レコードを指定しない場合には、*CALCを使用することができます。この場合には、システムは、ファイルに指定されたレコード長、レコードのブロック形式、およびバッファー・オフセット（ASCIIファイルの場合）から適切なブロックの長さを計算します。これ以外の場合には、実際のブロックの長さを、テープ・ファイル変更(CHGTAPF)コマンドまたはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドによって、あるいは装置ファイルをオープンする高水準言語プログラムで指定しなければなりません。

ブロック長

処理するデータ・ファイル中の各ブロックの最大長を指定する、524288を超えない値を指定してください。正常に処理できる最小ブロック長は、テープ装置ハードウェアおよびAS/400システムのマシン・サポート機能によって判別されます。

入力ファイルの最大ブロック長は常に524288バイトですが、ASCII出力ファイルのブロック記述子を作成する必要がある場合は、9999バイトに制限されます。

次の表は、出力ファイルに認められる最小および最大のブロック長値を示しています。

CODE BUFOFSET MIN BLKLEN MAX BLKLEN

*EBCDIC	無視	18	524288
*ASCII	0	18	524288
*ASCII	*BLKDSC	18	9999

トップ

バッファー・オフセット (BUFOFSET)

テープ・データ・ファイルの各ブロックの最初のレコードの始めを示すバッファー・オフセットの値を指定します。バッファー・オフセット値は任意のレコード・ブロック形式のASCIIファイルに使用され、EBCDICテープ・ファイルのに合うように場合には無視されます。値がテープの2番目の見出しラベル(HDR2)に含まれており、かつ*BLPラベル処理が指定されていない場合には、システムは常に、標準ラベルの入力ファイル、およびファイル拡張プロンプト（EXTENDパラメーター）に*YESが指定されている出力ファイルのデータ・ファイル・ラベルに指定されるバッファー・オフセットの値を使用します。

バッファー・オフセット・パラメーターは、ブロック中の最初のレコードより前にあるすべての情報の長さを指定します。レコードのブロック形式*D、*DB、*VS、および*VBの場合には、各レコードまたはレコード・セグメントの前にレコードまたはセグメントの長さを示す記述子が含まれます。各ブロック内の最初のレコードの記述語の前、あるいは各ブロック内の最初の固定長または未定義形式レコードのデータの前に情報があることを示すために、バッファー・オフセットが使用されます。

バッファー・オフセット値を含む2番目のファイル見出しラベル(HDR2)がテープに入っている場合には、入力として処理される標準ラベル・ファイルでは、このパラメーターは必要ありません。バッファー・オフセットは、テープ・ファイル作成(CRTTAPF)コマンド、テープ・ファイル変更(CHGTAPF)コマンド、またはテープ・ファイル一時変更(OVRTAPF)コマンドによって、あるいは各ブロックの最初のレコードの前

に情報（ブロック記述子など）が入っている入力ファイルの場合には、ファイル・ラベルによって提供しなければなりません。テープ・ファイルの作成時にバッファ・オフセットを指定しない場合には、ファイルの読み取り時にオフセット値の指定は不要です。

出力ファイルにだけ使用できるバッファ・オフセット値はゼロおよび*BLKDSCです。HDR2ラベルにバッファ・オフセット値のある既存の標準ラベル・データ・ファイルが拡張されるのは、オフセット値が0または4の場合だけです。HDR2ラベルの0のオフセット値は、バッファ・オフセットなしでデータ・ブロックを追加します。HDR2ラベルにオフセット値4が含まれる既存のテープのデータ・ファイルを拡張するためには、*BLKDSCを指定しなければなりません。

このパラメータは、装置ファイル、プログラム、または他の呼び出されるOVRTAPFコマンド中に指定された値を一時変更します。

*BLKDSC

この装置ファイルを使用して作成されるテープ・ファイルには、長さ4バイトのブロック記述子が作成されます。この装置ファイルを使用して読み取られる入力ファイルは、各データ・ブロックの最初のレコードの前に長さ4バイトのバッファ・オフセット情報があるものと見なされます。この値は、レコードのブロック形式*Dまたは*DBのファイルの場合にだけ有効です。

BUFOFSET(*BLKDSC)が指定された時の各出力データ・ブロックのバッファ・オフセット情報の内容は、ゾーン10進数形式で表されるデータ・ブロックの実際の長さです。

バッファ・オフセット

各データ・ブロックの最初のレコードの前にあるバッファ・オフセット情報の長さを指定する0 - 99の範囲の値を指定してください。

トップ

レコードのブロック形式 (RCDBLKFM)

処理されるテープ・データ・ファイルのレコードのブロック化属性のタイプを指定します。

レコード・ブロック形式*Vおよび*VBのレコードは、EBCDICファイルの場合にのみ処理することができます。*Dおよび*DBのレコードは、ASCIIファイルの場合にのみ処理することができます。標準ラベル・テープ（ラベル・タイプ*SLまたは*BLP）が処理されていて、ボリューム・コードに矛盾のあるレコード・ブロック形式が指定されている場合には、レコード・タイプは正しいボリューム・コード（VまたはD）と見なされ、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。ラベルのないボリューム（ラベル・タイプが*NL、*LTM、または*NS）に対してレコード・タイプおよびコードが矛盾している場合には、正しいボリューム・コードを確認するラベルがないので、エラー・メッセージが出され、ファイルはオープンされません。

固定長レコードに有効なレコード長、ブロック長、およびバッファ・オフセット値（ASCIIファイルの場合）が指定されているが、ブロック属性が正しくない場合には、正しいブロック属性であると見なされ（レコード・ブロック形式を*Fから*FBに変更するか、レコード・ブロック形式を*FBから*Fに変更）、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。

最大長のレコードを処理するために必要以上に大きいブロック長を指定した場合には、レコード・ブロック形式が*V、*D、または*VSから*VB、*DB、または*VBSに変更され、ファイルをオープンしたプログラムに警告メッセージが送られます。

注: ファイルにBUFOFSET(*BLKDSC)が指定されている時には、テープ上の既存のファイル・ラベルが異なる値を指定していない限り、BLKLEN演算のBUFOFSET部分には値の4を使用してください。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、または他の呼び出されるOVRTAPFコマンド中に指定された値を一時変更します。

- *F** EBCDICまたはASCIIコードの固定長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*FBに変更する場合があります。
- *FB** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの固定長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは、他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*Fに変更する場合があります。
- *V** EBCDICタイプV形式の可変長、非ブロック化レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*VB、*D、または *DBに変更する場合があります。
- *VB** EBCDICのタイプV形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは、ボリューム・コードに基づいて、このレコードのブロック形式を*DBに変更する場合があります。
- *D** ASCIIタイプD形式の可変長、非ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*DB、*V、または*VBに変更する場合があります。
- *DB** ASCIIのタイプD形式の可変長、ブロック化、非スパン・レコードが処理されます。システムは、ボリューム・コードに基づいて、このレコードのブロック形式を*VBに変更する場合があります。
- *VS** EBCDICまたはASCIIコードの可変長、非ブロック化、スパン・レコードが処理されます。システムは他のファイル・パラメーターに基づいて、このレコードのブロック形式を*VBSに変更する場合があります。テープ上のスパン・レコードの表し方は、EBCDICファイルとASCIIファイルとで異なりますが、システムはファイル・コードに基づいて正しい形式を選択します。
- *VBS** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの可変長、ブロック化、スパン・レコードが処理されます。テープ上のスパン・レコードの表し方は、EBCDICファイルとASCIIファイルとで異なりますが、システムはファイル・コードに基づいて正しい形式を選択します。
- *U** EBCDICまたはASCIIいずれかのコードの未定義（不定）形式レコードが処理されます。レコードは可変長レコードとして処理され、その場合、書き込みまたは読み取られる各レコードは別個のテープ・ブロックに入っています。

トップ

ファイル拡張 (EXTEND)

テープへの出力操作の場合に、現在テープ上にあるデータ・ファイルの終わりに新しいレコードを追加するかどうかを指定します。特定のデータ・ファイルは、**順序番号**プロンプト (SEQNBRパラメーター) により、また、**標準ラベル**・ファイルの場合には、**ファイル・ラベル**プロンプト (LABELパラメーター) により識別されます。データ・ファイルが拡張される場合には、テープ・ボリューム上の最終ファイルになります。それに続くデータ・ファイルは、指定のファイルの拡張にしたがって重ね書きされます。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRTAPFコマンドで指定された拡張値を一時変更します。

- *NO** レコードは、指定のデータ・ファイルの終わりに追加されません。テープ上に指定の順序番号を持つデータ・ファイルがすでに存在している場合でも、新しいデータ・ファイルが作成され、それによって既存のデータ・ファイルおよびそれに続くファイルに重ね書きされます。

***YES** 新しいレコードが指定のデータ・ファイルの終わりに追加されます。

***CHECK**

ファイルが拡張される前に、活動状態であるかどうかを検査されます。

***NOCHECK**

ファイルは、活動状態であるかどうかの検査を受けずに拡張されます。

トップ

テープ密度 (DENSITY)

この装置ファイルの作成時にテープ・ボリューム上に書き出されるデータの密度を指定します。このパラメーターは、テープに書き出されるテープ・ファイルの場合にのみ使用されます。テープから読み取られるテープ・ファイルの場合には無視されます（テープから読み取られるファイルの場合には、そのテープの密度が使用されます）。

標準ラベル・ボリュームの密度は、INZTAPコマンドに指定します（このコマンドは、テープにボリューム・ラベルを書き込むことによってテープを標準ラベル・ボリュームとして初期設定します）。このパラメーターに指定した密度が標準ラベル・テープの密度と異なる場合には、テープを指定された密度に合わせて再初期設定しなければなりません。

***DEVTYPE**

テープ装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。

装置 最大容量密度または形式

3480 *FMT3480

3490E *FMT3490E

3570-BXX
*FMT3570

3570-CXX
*FMT3570E

3580-001
*ULTRIUM1

3580-002
*ULTRIUM2

3590 *FMT3590

3590-EXX
*FMT3590E

3590-HXX
*FMT3590H

4685-001
*VXA2

6335 *QIC3040

6343 *QIC1000

6344 *QIC2GB

6348 *QIC1000
6349 *QIC2GB
6368 *QIC1000
6369 *QIC2GB
6379 *QIC1000
6380 *QIC2GB
6381 *QIC2DC
6382 *QIC4DC
6383 *QIC5010
6384 *SLR60
6385 *QIC5010
6386 *MLR3
6387 *SLR100
6390 *FMT7GB
7207-122
 *QIC4DC
7208-002
 *FMT2GB
7208-012
 *FMT5GB
7208-222
 *FMT7GB
7208-342
 *FMT20GB
7208-345
 *FMT60GB
9348 6250

*CTGTYPE

取り付けられたカートリッジ・タイプの装置によってサポートされる最大容量密度または形式が使用されます。装置が特殊なカートリッジ・タイプ情報をサポートしない場合には、*DEVTYPEが使用されます。

テープ密度

使用する密度または形式を指定します。

1600 このテープ・ボリュームのデータ密度は1,600ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

3200 このテープ・ボリュームのデータ密度は3,200ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

6250 このテープ・ボリュームのデータ密度は6,250ビット／インチで、これは1/2インチ・リール・テープに使用されます。

***FMT3480**

このテープの形式はFMT3480です。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3480装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3490E**

このテープの形式はFMT3490Eです。このテープ・ボリューム上のデータの密度は、3490E装置をサポートするために形式設定されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3570**

このテープの形式はFMT3570です。このデータ形式は3570装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3570E**

このテープの形式はFMT3570Eです。このデータ形式は3570E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。

***FMT3590**

このテープの形式はFMT3590です。このデータ形式は3590装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590E**

このテープの形式はFMT3590Eです。このデータ形式は3590E装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT3590H**

このテープの形式はFMT3590Hです。このデータ形式は3590H装置のテープ・ボリュームに書き出されます。この密度は、1/2インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC120**

このテープの形式はQIC120で、120メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC525**

このテープの形式はQIC525で、525メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC1000**

このテープの形式はQIC1000で、1200メガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***QIC2GB**

このテープの形式はQIC2GBです。これは、標準長のQIC2GBカートリッジに2.5ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC2DC**

このテープの形式はQIC2DCです。これは、QIC2GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC4GB**

このテープの形式はQIC4GBです。これは、標準長のQIC4GBカートリッジに4ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***QIC4DC**

このテープの形式はQIC4DCです。これは、QIC4GB形式をサポートする1/4インチ・カートリッジに短縮データを書き込むために使用されます。

***QIC3040**

このテープの形式はQIC3040で、これは840メガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・ミニカートリッジ・テープに使用されます。

***QIC5010**

このテープの形式はQIC5010で、これは13.5ギガバイトのデータを収めることができる1/4インチ・カートリッジ・テープに使用されます。

***MLR3**

このテープの形式はMLR3です。これは、標準長のMLR3カートリッジに25ギガバイトのデータを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR60**

このテープの形式はSLR60です。これは、標準長のSLR60カートリッジに一般的に60ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***SLR100**

このテープの形式はSLR100です。これは、標準長のSLR100カートリッジに一般的に100ギガバイトの短縮データを入れることができる1/4インチ・テープ装置に使用されます。

***FMT2GB**

このテープの形式はFMT2GBです。これは2ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT5GB**

このテープの形式はFMT5GBで、5ギガバイトのデータを収めることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT7GB**

このテープの形式はFMT7GBです。これは7ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・カートリッジ・テープに使用されます。

***FMT20GB**

このテープの形式はFMT20GBです。これは、標準長のカートリッジに20ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***FMT60GB**

このテープの形式はFMT60GBです。これは、標準長のカートリッジに60ギガバイトのデータを入れることができる8ミリ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM1**

このテープの形式はULTRIUM1です。これは、標準長のカートリッジに100ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***ULTRIUM2**

このテープの形式はULTRIUM2です。これは、標準長のカートリッジに200ギガバイトのデータを入れることができる1/2インチ・カートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA1** このテープの形式はVXA1です。これは、標準長のカートリッジに33ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

***VXA2** このテープの形式はVXA2です。これは、標準長のカートリッジに80ギガバイトのデータを入れることができるVXAカートリッジ・テープ装置に使用されます。

注: セルフ構成テープ装置は、密度パラメーターに有効な追加の値を定義することがあります。特定の装置に有効な追加の密度値を見つけるには、ISERIESナビゲーター（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（テープ・ライブラリー）（テープ資源）（特性）または（構成とサービス）（ハードウェア）（テープ装置）（独立型装置）（特性）を使用するか、あるいは接続されたテープ装置に有効なすべての密度値のリストを参照するには、CLコマンドの「テープ密度」フィールドのF4=プロンプト・キーを使用してください。

トップ

データ短縮 (COMPACT)

装置データの短縮が実行されるかどうかを指定します。使用中のテープ装置がデータ短縮をサポートしていない場合には、このパラメーターはファイルのオープン時に無視されます。

このパラメーターは、装置ファイル、プログラム、またはその他の呼び出されたOVRTAPFコマンドに指定された値を一時変更します。

*DEV D

使用中の装置がデータ短縮をサポートしている場合に、装置データの短縮が実行されます。

*NO 装置データの短縮は実行されません。

トップ

コード (CODE)

システムがテープ・データの読み取りまたは書き込みを行なう場合にテープ・ファイルによって使用される文字コードのタイプを指定します。

*EBCDIC

このテープ・ファイルでは、EBCDIC文字コードが使用されます。

*ASCII

ASCII文字コードが使用されます。

注: 標準ラベル(*SL)のテープの場合は、ラベルを処理する方法の判別にはCODEパラメーターが使用されます。すべてのラベル・タイプの場合は、ファイルのデータ部分に使用される変換（存在する場合）をTBL、FROMCCSID、およびTOCCSIDパラメーターが制御します。

トップ

作成日 (CRTDATE)

テープ入力データ・ファイル、およびファイル拡張プロンプト（EXTENDパラメーター）に*YESが指定されたテープ出力の場合に、データ・ファイルがテープに書き込まれた日付を指定します。データ・ファイルの作成日は、テープ上のファイル・ラベルに記憶されます。*SL以外のラベル処理タイプに作成日を指定した場合には、作成日は無視されます。

このパラメーターは、プログラム、装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRTAPFコマンドで指定された値を一時変更します。

***NONE**

データ・ファイルの作成日は検査されません。

作成日 データ・ファイルの作成日を指定してください。データはジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

ファイル満了日 (EXPDATE)

テープ出力データ・ファイルの場合にのみ、この装置ファイルによって使用されるデータ・ファイルの満了日を指定します。データ・ファイルの満了日は、テープ上のファイル・ラベルに記憶されます。*SL以外のラベル処理のタイプに対して満了日を指定した場合には、それが無視されます。日付が指定されている場合には、データ・ファイルは保護され、指定の満了日まで重ね書きすることはできません。

このパラメーターは、プログラム、装置ファイル、またはその他の呼び出されたOVRTAPFコマンドで指定された値を一時変更します。

***NONE**

データ・ファイルの満了日は指定されず、ファイルは保護されません。ファイルがスクラッチ・データ・ファイルとして使用できるように、満了日がデータ・ファイル・ラベルに書き込まれます。

***PERM**

データ・ファイルは永続的に保護されます。テープのデータ・ファイルに書き込まれる日付は999999です。

満了日 データ・ファイルが満了する日付を指定してください。データはジョブ日付の形式で指定しなければなりません。

[トップ](#)

テープ終了オプション (ENDOPT)

操作の終了後に、そのテープ・ボリュームに対して自動的に実行される操作を指定します。複数のボリュームが含まれている場合には、このパラメーターは最後に使用されたテープ・ボリュームだけに適用されます。その他のすべてのテープ・ボリュームは、テープの終わりに達した時に巻き戻されてアンロードされません。

***REWIND**

テープは巻き戻されますが、アンロードされません。

***UNLOAD**

テープは操作が終了すると自動的に巻き戻されてアンロードされます。

***LEAVE**

テープは、操作の終了後に巻き戻しまたはアンロードされません。テープ装置の現在の位置に留まります。

[トップ](#)

ユーザー・ラベル・プログラム (USRLBLPGM)

標準ラベル・テープのユーザー見出しおよび後書きラベルを、プログラムが処理することを指定します。このパラメーターが有効なのは、*SLがテープ・リール仕様プロンプト (REELSパラメーター) に指定された場合だけです。

*NONE

標準のラベル処理のみが使用されます。ユーザー・ラベルを処理するためのプログラムは呼び出されません。

ユーザー・ラベル・プログラム名

ユーザー・ラベルを処理するために呼び出されるプログラムの名前とライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

トップ

変換テーブル (TBL)

入力ファイルまたは出力ファイルの単一バイト変換に使用する変換テーブルの修飾名を指定します。ファイルのデータ部分には、指定された変換だけが使用されます。指定されたコードが*ASCII (CODEパラメーター) のときには、ISO/ASCII 8ビットコードおよびEBCDIC間でラベルが変換されます。指定されたコードが*EBCDIC (CODEパラメーター) のときには、ラベル (存在する場合) が変換されません。

注: ISO/ASCII 8ビット・コードおよびEBCDIC間の変換に使用される変換例については、システム提供の変換テーブルQSYS/QASCIIおよびQSYS/QEBCDICを参照してください。

***DFT** 指定されたコードが*ASCII (CODEパラメーター) のときには、ISO/ASCII 8ビットコードおよびEBCDIC間でデータおよびラベルが変換されます。指定されたコードが*EBCDIC (CODEパラメーター) のときには、データおよびラベルは変換されません。

*NONE

データは変換されません。

*CCSID

CCSIDパラメーターが使用されて、ファイルのデータ部分の変換に使用される変換テーブルを生成します。

変換テーブル名

1バイト文字セット間のデータ変換に使用される変換テーブルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

変換元CCSID (FROMCCSID)

入力データに使用する単一バイトCCSIDを指定します。入力データは、入力操作のテープから読み取るデータまたは出力操作のファイルから読み取るデータです。

読み取り元CCSID

要求されたCCSID値が使用されます。単一バイトCCSIDが指定されていることを確認するために、値が妥当性検査されます。有効な値の範囲は1～65533です。

[トップ](#)

変換先CCSID (TOCCSID)

出力データに使用する単一バイトCCSIDを指定します。出力データは、出力操作のテープに書き込むデータまたは入力操作のファイルに書き込むデータです。

書き込み先CCSID

要求されたCCSID値が使用されます。単一バイトCCSIDが指定されていることを確認するために、値が妥当性検査されます。有効な値の範囲は1～65533です。

[トップ](#)

ユーザー指定のDBCSデータ (IGCDTA)

ファイルが2バイト文字セット(DBCS)データを処理するかどうかを指定します。

***YES** プログラム記述ファイルの場合には、DBCSデータを処理するためにファイルが使用されることを示します。フィールド・レベル・ファイルの場合には、ALTTYPキーワードで定義されたフィールドが、英字フィールドまたは文字フィールドからDBCSフィールドに変更されます。

***NO** プログラム記述ファイルの場合には、DBCSデータを処理するためにファイルが使用されないことを示します。フィールド・レベル・ファイルの場合には、ALTTYPキーワードで定義されたフィールドが、英字フィールドまたは文字フィールドのままです。ファイル属性は、ファイルが作成された時にセットされたままです。

[トップ](#)

最大ファイル待機時間 (WAITFILE)

ファイルのオープン時にファイル資源が割り振られるか、あるいはファイルに対する獲得操作の実行時に装置資源またはセッション資源が割り振られるのを、プログラムが待機する秒数を指定します。指定された待機時間内にファイル資源を割り振ることができない場合には、エラー・メッセージがプログラムに送られます。

*IMMED

プログラムは待機しません。ファイル資源の即時割り振りが必要です。

***CLS** ファイル資源の割り振りを待つ時間として、クラス記述に指定されている省略時の待機時間が使用されます。

秒数 ファイルがオープンされる時にファイル資源がテープ・ファイルに割り振られるまでプログラムが待つ秒数、あるいはファイルに対して獲得操作が実行される時に装置が割り振られるまでの待機時間を指定してください。有効な値の範囲は1-32767秒です。

[トップ](#)

他の一時変更からの保護 (SECURE)

前に呼び出されたプログラムで開始されたファイル一時変更コマンドの影響から、このファイルを保護するかどうかを指定します。

***NO** このファイルは他のファイル一時変更から保護されません。その値は、以前に呼び出されたプログラムで実行されたファイル一時変更コマンドの影響によって一時変更されます。

***YES** このファイルは、以前に呼び出されたプログラムで実行されたファイル一時変更コマンドの影響から保護されます。

[トップ](#)

有効範囲の一時変更 (OVRSCOPE)

一時変更の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

*ACTGRPDFN

一時変更の有効範囲は、コマンドを呼び出すプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの呼び出しレベルと等しくなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、その有効範囲は呼び出し側プログラムの活動化グループと等しくなります。

*CALLLVL

一時変更の有効範囲は、現行の呼び出しレベルによって決まります。現行の呼び出しレベルと同じか、またはそれ以上の呼び出しレベルで実行されたすべてのオープン操作は、この一時変更によって影響を受けます。

***JOB** 一時変更の有効範囲は、一時変更が行なわれるジョブとなります。

[トップ](#)

オープン・データ・パス共用 (SHARE)

オープン・データ・パス(ODP)が同じ経路指定ステップの他のプログラムと共用するかどうかを指定します。ODPが共用される時には、ファイルをアクセス中のプログラムはファイル状況およびバッファなどの機能を共用します。

- *NO** このファイルのオープン操作によって作成されたODPは共用されません。プログラムがファイルをオープンするたびに、ファイルに対する新しいODPが作成され、開始されます。
- *YES** ファイルが複数回オープンされる場合には、同じODPが、プログラムがファイルをオープンした時に、このパラメーターで*YESも指定した経路指定ステップ内のこれらの各プログラムで共用されません。これには、同じプログラム内の複数回のオープン操作も含まれます。

注: SHARE(*YES)が指定され、制御がプログラムに渡される時には、そのプログラムでの読み取り操作で次の入力レコードが検索されます。書き出し操作では次の出力レコードが作成されます。

トップ

有効範囲のオープン (OPNSCOPE)

オープン操作の影響の範囲（有効範囲）を指定します。

*ACTGRPDFN

オープン操作の有効範囲は、OVRTAPFコマンド処理プログラムを呼び出したプログラムの活動化グループによって判別されます。活動化グループが省略時の活動化グループである場合には、有効範囲は呼び出し元の呼び出しレベルとなります。活動化グループが省略時の活動化グループでない場合には、有効範囲は呼び出し元の活動化グループとなります。

- *JOB** オープン操作の有効範囲は、オープン操作が行なわれるジョブとなります。

トップ

OVRTAPFの例

例1:ファイルの一時変更

```
OVRTAPF FILE(OUT) VOL(DPT706) LABEL(STATUSR)
```

このコマンドは、テープ・ボリュームDPT706上のデータ・ファイルSTATUSRを使用して、プログラム中のOUTという名前のファイルを一時変更します。

例2: DBCSデータの許可

```
OVRTAPF FILE(IGCLIB/IGCTAP) IGCDTA(*YES)
```

このコマンドは、このファイルに2バイト文字セット・データが入るよう、ライブラリーIGCLIBに保管されるIGCTAPという名前のテープ装置ファイルを一時変更します。

例3:1600ビット／インチのデータ密度の使用

```
OVRTAPF FILE(OUT) DENSITY(1600)
```

このコマンドは、OUTという名前のファイルを一時変更して、テープ・ボリュームへの書き出し時に1600ビット／インチのデータ密度を使用します。

例4:EBCDICラベル付きのテープを処理する変換テーブルの使用

```
OVRTAPF FILE(FILE1) REELS(*SL) CODE(*EBCDIC)
        TBL(LIB1/TABLE1)
```

このコマンドは、FILE1という名前のテープ装置ファイルを一時変更して、LIB1/TABLE1という名前の変換テーブルがテープ・ボリュームから読み取られる、あるいはこれに書き込まれるすべてのデータの変換に使用されるよう指定します。

例5:ラベルなしテープを処理する指定済みCCSIDの使用

```
OVRTAPF FILE(FILE2) REELS(*NL) TBL(*CCSID)
        FROMCCSID(819) TOCCSID(37)
```

このコマンドは、FILE2という名前のテープ装置ファイルを一時変更して、テープ・ボリュームから読み取られる、あるいはこれに書き込まれるデータがCCSID 819からCCSID 37に変換されるよう指定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： OVRTAPF

*ESCAPEメッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

パラメーター定義 (PARM)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

パラメーター(PARM)コマンド定義ステートメントは、作成中のコマンドのパラメーターを定義します。パラメーターは、値をコマンド処理プログラムに渡す時の手段となります。定義中のコマンドに現れる各パラメーターごとに1つのPARMステートメントを使用しなければなりません。コマンドを定位置形式で入力するときにパラメーターを指定しなければならない順序、およびパラメーターが妥当性検査プログラムおよびコマンド処理プログラムに渡される順序は、PARMステートメントがソース・ファイルに入力された順序で決定されます。1つのコマンドに最大99個のパラメーターを定義することができます。実際にコーディングされているパラメーターの数とは無関係に、たくさんのパラメーターが指定されているコマンドは、コマンド処理プログラムを呼び出す前より多くの処理時間を必要とします。

注: PARMステートメントには、定義中のコマンドによって弊社提供コマンド処理プログラムが呼び出される場合にだけ使用できる一定のパラメーターおよび事前定義の値が含まれます。一部の高水準言語の制約のために、これらの値は、ユーザー定義コマンドの定義ステートメントで有用でないことがあります。このようなパラメーターおよび値は、弊社提供コマンド用という語句によって識別されますが、その語句は適用されるパラメーター・キーワードまたは事前定義値の直後に続きます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
KWD	キーワード	単純名	必須, 定位置 1
TYPE	値のタイプ	単純名, *DEC, *LGL, *CHAR, *INT2, *INT4, *NAME, *GENERIC, *VARNAME, *DATE, *TIME, *CMD, *X, *HEX, *ZEROELEM, *NULL, *CMDSTR, *PNAME, *UINT2, *UINT4, *SNAME, *CNAME	必須, 定位置 2
LEN	値の長さ	値 (最大 3 回の繰り返し): 整数	オプション, 定位置 3
RTNVAL	戻り値	*NO, *YES	オプション
CONSTANT	定数値	文字値	オプション
RSTD	制約された値	*NO, *YES	オプション
DFT	省略時の値	文字値	オプション
VALUES	有効な値	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
REL	比較式	要素リスト	オプション
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 2: 値またはキーワード参照	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
RANGE	値の範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 下限値またはキーワード参照	文字値	
	要素 2: 上限値またはキーワード参照	文字値	
SPCVL	特殊値	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出し値	文字値	
	要素 2: 受け取り置き換え値	文字値	
SNGVAL	単一値	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出し値	文字値	
	要素 2: 受け取り置き換え値	文字値	
MIN	許される最小値	0-300, <u>0</u>	オプション
MAX	許される最大値	整数, <u>1</u>	オプション
ALWUNPRT	印刷不能文字使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWVAR	変数名使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
PGM	PARMはプログラム名である	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DTAARA	PARMはデータ域名である	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FILE	ファイル・パラメーターの場合の使用法	<u>*NO</u> , *IN, *OUT, *UPD, *INOUT, *UNSPFD	オプション
FULL	全桁入力必須	<u>*NO</u> , *YES	オプション
EXPR	式の評価	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VARY	可変の長さ	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 長さ値の戻し	*YES	
	要素 2: 値の長さ	<u>*INT2</u> , *INT4	
PASSATR	属性バイト受け渡し	<u>*NO</u> , *YES	オプション
PASSVAL	指定されない場合に渡される値	<u>*DFT</u> , *NULL	オプション
CASE	値のケース	<u>*MONO</u> , *MIXED	オプション
LISTDSPL	変位リスト	<u>*INT2</u> , *INT4	オプション
DSPINPUT	画面入力	<u>*YES</u> , *PROMPT, *NO	オプション
CHOICE	テキスト選択	文字値, <u>*VALUES</u> , *NONE, *PGM	オプション
CHOICEPGM	プログラム選択	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム選択	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
PMTCTL	プロンプト制御	単純名, <u>*NONE</u> , *PMTRQS	オプション
PMTCTLPGM	プロンプト制御プログラム	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プロンプト制御プログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
KEYPARM	キー・パラメーター	<u>*NO</u> , *YES	オプション
INLPMTLEN	初期プロンプト長	<u>*CALC</u> , *PWD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256, 512	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
PROMPT	プロンプト仕様	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: プロンプト・テキストまたはメッセージID	文字値	
	要素 2: プロンプトが表示される順序	整数	

トップ

キーワード (KWD)

定義しようとしているパラメーターのキーワード名を指定します。あらゆるCLコマンド・パラメーターには関連したキーワード名があります。パラメーター・キーワードを使用して指定されたコマンド・パラメーターは、任意の順序で指定することができます。パラメーターは、コマンド作成(CRTCMD)コマンドでMAXPOSパラメーターによって指定された定位置制限までに定位置形式（キーワード名なしで）で指定することができます。

単純名 パラメーターに対するキーワード名を指定してください。名前は、最大10文字の英数字にすることができます。最初の文字は英字でなければなりません。

トップ

値のタイプ (TYPE)

KWDに指定のパラメーターに指定できる値のタイプを指定します。値は、整数、10進数、16進数、または論理値とするか、あるいは名前、日付、または時刻を示す文字ストリング（任意選択のアポストロフィで囲んだストリング）とすることができます。値は、コマンドとすることもできます。パラメーター・タイプを指定するためには、次のオプションの1つを入力してください。

***DEC** パラメーター値はパック10進数です。

***LGL** パラメーター値は'1'または'0'の論理値です。

*CHAR

パラメーター値は、任意選択でアポストロフィで囲むことができる文字ストリングです。文字ストリングに特殊文字（アスタリスク(*)以外）がある場合には、それをアポストロフィで囲まなければなりません。文字ストリングの最大長は5000文字です。

*NAME

パラメーター値は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字、ピリオド、下線、あるいは特殊文字の1つの¥, @,または#とすることができます。また、名前は始めと終わりを2重引用符(")で囲むか、あるいは括弧で囲まれた文字のストリングとすることもできます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

*SNAME

パラメーター値は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字の1つの¥, @,または#でなければなりません。残りの文字は英数字、下

線,あるいは特殊値の1つの¥,@,または#とすることができます。文字ストリングは括弧で囲むことができます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

*CNAME

パラメーター値は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字¥,@,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字、あるいは特殊文字の1つの¥,@,または#とすることができます。文字ストリングは括弧で囲むことができます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

*PNAME

パラメーター値はパス名ストリングを表す文字ストリングです。任意選択で、パス名ストリングをアポストロフィで囲むことができます。パス名ストリングに(アスタリスク(*)以外の)特殊文字が入っている場合には、アポストロフィで囲まなければなりません。パス名ストリングの最大長は5000文字です。

*GENERIC

パラメーター値は、総称名を表す文字ストリングです。総称名には後にアスタリスク(*)を付けて最大255文字を使用できますが、総称名の規則に従った名前ではなければなりません。この名前は、名前がすべてアスタリスク(*)の前の文字で始まる1グループのオブジェクトを識別します。アスタリスク(*)を含めなかった場合には、システムは、総称名を1つの完全なオブジェクト名と見なします。

*CMDSTR

パラメーター値は、システムによって妥当性を検査されるコマンドです。これは、コマンド・ストリングとしてコマンド処理プログラムに渡されます。

コマンド分析プログラムは、妥当性を検査する時にコマンド・ストリングを再作成します。コマンドが再作成される時には、キーワードが位置指定されてパラメーターに追加され、パラメーターを再順序付けすることができ、印刷できない文字(X'FF'およびX'00 - X'3F')が入ったパラメーターは16進数表記法に変換されます。結果として、再作成されたコマンド・ストリングは元のコマンド・ストリングより実際は長くなる場合があります。再作成されたコマンドの長さがLENキーワードで指定された可能な長さより長い場合には、コマンドは正常に実行されません。

注: *CMDSTRパラメーターで選択プロンプトを使用することはできません。

*DATE

パラメーター値は、日付を表す文字ストリングです。コマンドを入力する時に、年は2桁または4桁のいずれかで指定することができます。年を2桁で指定する場合には、その日付は1940年1月1日から2039年12月31日までの範囲内になっていると見なされます。年を4桁で指定する場合には、その日付は1928年8月24日から2071年5月9日までの範囲内になっていると見なされます。それがコマンド処理プログラムに渡される時には、常にCYYMMDDの形式で渡されます。ここで、Cは世紀、YYは年、MMは月、およびDDは日を表します。世紀桁は、年が19XXである場合には0(ゼロ)に、年が20XXである場合には1に設定されます。このPARMステートメントに日付の値を指定する時には、次の形式の1つで指定しなければなりません。MMDYY, MMDDYYYY,またはCYYMMDDです。ユーザーが実行時にコマンドに日付を入力する場合には、ジョブ日付の形式で指定しなければなりません。日付を入力する時は、ジョブ日付区切り文字を使用することができます。区切り文字を使用する場合には、日付をアポストロフィで囲む必要があります。

*TIME パラメーター値は、時刻を表す文字ストリングです。これは、HHMMSSとして6バイトの文字ストリングでコマンド処理プログラムに渡されます。ここで、HH =時, MM =分, およびSS =秒です。このステートメントに指定する値はHHMMSSの形式でなければなりません。コマンドの実行時

にユーザーが時刻を入力する場合には、HHMMSSの形式で指定しなければなりません。時刻を入力する場合には、ジョブ時刻区切り記号を使用することができます。区切り文字を使用する場合には、時刻をアポストロフィで囲む必要があります。

***HEX** パラメーター値は、16進形式になります。指定する文字は0-Fでなければなりません。これは、16進(EBCDIC)文字（1バイト当たり2桁の16進数）に変換され、右寄せにされ、左側にゼロを埋め込まれます。値をアポストロフィで囲んだ場合には、偶数桁が必要です。値をアポストロフィで囲まない場合には、偶数桁である必要はありません。

***ZEROELEM**

パラメーターは常に、コマンドに値を指定できないゼロ要素のリストと見なされます。このパラメーターは、コマンド処理プログラムが値を必要としていても、リストであるパラメーターに値が入力されないようにするために使用されます。たとえば、2つのコマンドが同じコマンド処理プログラムを使用する場合には、一方のコマンドはパラメーターのリストを渡すことができますが、もう一方のコマンドに渡す値がないということもあります。2番目のコマンドには、このパラメーターに*ZEROELEMを指定することになります。

***X** （弊社提供コマンドの場合）パラメーター値は、文字ストリング、変数名、または数値です。値に数字、+または-符号、あるいは小数点だけが入っている場合には、値は数字として渡され、そうでない場合には、文字ストリングとして渡されます。

***INT2** パラメーター値は、2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***INT4** パラメーター値は、4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***UINT2**

パラメーター値は、2バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

***UINT4**

パラメーター値は、4バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

***VARNAME**

（弊社提供コマンド用）パラメーター値は、文字ストリングとして渡されるCL変数名です。名前には、アンパーサンド（&）も含めて最高11文字を使用することができます。

***CMD** （弊社提供コマンドの場合）パラメーター値はコマンドです。たとえば、IFコマンドには、値が別のコマンドでなければならないTHENと呼ばれるパラメーターがあります。このコマンドは、システムによって妥当性を検査されます。

***NULL**

パラメーター値は、定数保管場所を示すホルダーとして使用することができるヌル・ポインターです。DEPステートメント、あるいは他のPARMステートメントのRELおよびRANGEキーワードは、このパラメーターに指定された*NULLによって定義されるパラメーターの値を参照することはできません。

ステートメント・ラベル

修飾名または値の混合リストを指定してください。ここに指定するステートメント・ラベルは、このPARMステートメントによって定義している修飾名または混合リストをさらに詳しく記述する最初の一連のQUALまたはELEMステートメントを識別するラベルです。

トップ

値の長さ (LEN)

コマンド処理プログラムに渡されるパラメーター値の長さを指定します。***INT2**, ***INT4**, ***UINT2**, ***UINT4**, ***DATE**, ***TIME**, ***CMD**, ***ZEROELEM**, ***NULL**, またはステートメント・ラベルが**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに指定されていると、このパラメーターは許可されません。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに他の値が指定されている場合には、このパラメーターには次の事項が適用されます。

- **値のタイプ (TYPE)**パラメーターに***DEC**を指定した場合には、10進数の桁数が（桁数1 桁数2）の形式で指定されます。桁数1は、小数部分を含む値の合計桁数を指定し、桁数2は小数点以下の桁数を指定します。桁数2の値は任意指定です。指定しなかった場合には、ゼロと見なされます。
- **値のタイプ (TYPE)**パラメーターに***CHAR**, ***NAME**, ***SNAME**, ***CNAME**, ***CMDSTR**, または ***VARNAME**を指定した場合には、桁数1だけを指定します。この値は渡される文字数を示します。
- **値のタイプ (TYPE)**パラメーターに***HEX**を指定した場合には、桁数1だけを指定します。この桁数は、16進桁が文字桁に変換された後で渡される文字数を指定します。2桁の16進数が1桁の10進数に変換されるので、変換される16進桁数はこの桁数の値の2倍になります。
- **値のタイプ (TYPE)**パラメーターに***X**を指定した場合には、LENパラメーターは次のように使用されます。
 - 文字データの場合には、桁数は、渡される最小桁数を指定します。それより長い値が入力された場合は、その値全体が渡されます。
 - 10進データの場合には、桁数2および桁数3により、定数値の桁数および小数点以下の桁数を指定します。変数が入力された場合には、その変数は変数属性に従って渡されます。
 - 論理値の場合には、桁数1に値の桁数を指定しますが、これは常に1です。

トップ

戻り値 (RTNVAL)

このPARMステートメントで定義中のパラメーターを介してコマンド処理プログラムが値を戻すかどうかを指定します。

- *NO** 定義中のパラメーターに値を戻すことはできません。このパラメーターは入力パラメーターです。
- *YES** 値がコマンド処理プログラムによってパラメーターに戻されます。この値を受け取るためには、(CALLコマンドに) CL変数名を指定しなければなりません。***YES**が有効となるのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル, ***DEC**, ***CHAR**, ***LGL**, ***INT2**, ***INT4**, ***UINT2**, ***UINT4**, または***X**を指定した場合だけです。さらに、***YES**はCLプログラムに限定されたコマンドの場合にだけ有効です。すなわち、このPARMステートメントを含むソース・ファイルを使用するコマンド作成(CRTCMD)コマンドに***BPGM**または***IPGM**を指定した場合には、ここに***YES**を指定することができます。ここに***YES**を指定し、**属性バイト受け渡し (PASSATR)**パラメーターに***YES**を指定した場合には、**可変の長さ (VARY)**パラメーターに***YES**を指定しなければなりません。**変数名使用可能 (ALWVAR)**パラメーターに***NO**を指定した場合、あるいは**許される最大値 (MAX)**パラメーターが1より大きいである場合には、***YES**は無効です。また、***YES**を次のパラメーターと一緒に指定した場合にも無効です。
 - 定数値 (CONSTANTパラメーター)
 - 省略時の値 (DFTパラメーター)
 - 制約された値 (RSTDパラメーター)
 - 有効な値 (VALUESパラメーター)
 - 比較式 (RELパラメーター)

- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 単一値 (SNGVALパラメーター)
- ファイル・パラメーターの場合の使用法 (FILEパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)
- 式の評価 (EXPRパラメーター)

トップ

定数値 (CONSTANT)

定義中のコマンドが処理される時に、値が定数としてコマンド処理プログラムに渡されることを指定します。パラメーターは、外見上はコマンド上に現れません。このパラメーターを指定する場合には、その値は、次のパラメーターによって指定された要件を満たさなければなりません。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 値の長さ (LENパラメーター)
- 有効な値 (VALUESパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

このパラメーターに文字定数を指定する場合には、32桁より長くすることはできません。

定義中のパラメーターに定数を指定した場合には、パラメーターに関するプロンプトは出ないので、**プロンプト仕様 (PROMPT)**パラメーターにプロンプト・テキストを指定することができません。

次の場合には、このパラメーターは無効です。

- **値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CMD, *NULL, また*ZEROELEMが指定されている。
- **許される最大値 (MAX)**パラメーターに1より大きい値が指定されている。
- **省略時の値 (DFT)**パラメーター。
- *YESが**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに指定されている。
- *YESが**式の評価 (EXPR)**パラメーターに指定されている。

このパラメーターには変数をコーディングすることはできません。

トップ

制約された値 (RSTD)

パラメーター (PARMステートメントで指定) に入力する値が**有効な値 (VALUES)**パラメーター、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーター、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定された値の1つだけに制限されるか、あるいは次のパラメーターによって指定された要件を満たす値ならどの値でも入力できるかどうかを指定します。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)

- 値の長さ (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 単一値 (SNGVALパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

***NO** キーワード (**KWD**)パラメーターで指定するパラメーターに入力される値は、このPARMステートメントの次のパラメーターによって指定された要件を満たすものであれば、どのような値でも入力することができます。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 値の長さ (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)
- 単一値 (SNGVALパラメーター)
- 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

***YES** このPARMステートメントのKWDにより指定されるパラメーターに入力される値は、**有効な値 (VALUES)**パラメーターの値の1つ、または**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターまたは**単一値 (SNGVAL)**パラメーターのいずれかの比較値の1つに限定されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル、*CMD, *NULL,または*ZEROELEMを指定した場合、あるいは**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに*YESを指定した場合には、*YESを指定することはできません。

トップ

省略時の値 (DFT)

ユーザーが値を指定しなかった場合にパラメーターに割り当てられている省略時の値を指定します。すなわち、省略時の値は、コマンド入力中にユーザーがパラメーターを除外した場合、あるいはユーザーがパラメーター値として*Nを指定した場合にパラメーターの値として使用されます。省略時の値は、次のいずれかを満たすものでなければなりません。

- 省略時の値は、次のパラメーターによって指定されている要件を満たすものでなければなりません。
 - 値のタイプ (TYPEパラメーター)
 - 値の長さ (LENパラメーター)
 - 比較式 (RELパラメーター)
 - 値の範囲 (RANGEパラメーター)
 - 全桁入力必須 (FULLパラメーター)
- この値は、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーター、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターの中の取り出し値の1つでなければなりません。
- 省略時の値が文字定数である場合には、32桁を超えることはできません。
- **制約された値 (RSTD)**パラメーターに*YESを指定する場合には、省略時の値が、**有効な値 (VALUES)**パラメーター中の値のリスト、または**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターもしくは**単一値 (SNGVAL)**パラメーターのいずれかの比較値のリストに含まれていなければなりません。

- 定義中のパラメーターが類似していない値のリストであるか、修飾名である場合には、これは**単一値 (SNGVAL)**パラメーターの比較値でなければなりません。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベルが指定されている時に、このことが適用されます。このラベルは、QUALまたはELEMステートメントを識別するために使用されます。

定数値 (CONSTANT)パラメーターが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。このパラメーターが有効なのは、**許される最小値 (MIN)**パラメーターに0を指定した場合だけです。これは、**キーワード (KWD)**パラメーターに指定のパラメーターが任意指定であることを意味します。**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターにRTNVAL(*YES)が指定されている場合には、省略時の値を指定することはできません。かわりにヌル・ポインターが省略時の値として渡されます。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CMD,*ZEROELEM,または*NULLが指定されている場合には、省略時の値を指定することはできません。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*VARNAMEが指定されている場合には、省略時の特殊値を指定することができます。省略時の変数名は指定することはできません。

システム想定 of 省略時の値は、コマンド・プロンプトによって表示されません。かわりにブランクの入力フィールドが表示されます。省略時の値を指定した場合には、それが指定通りにそのままプロンプト機能によって表示されます。

値 指定した要件を満たす省略時の値、あるいは、**有効な値 (VALUES)**パラメーター、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーター、または**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定した値の1つである省略時の値を指定してください。

この値には変数をコーディングすることはできません。

トップ

有効な値 (VALUES)

最大300個の定数（固定値）からなるリストを指定します。このリストから、**キーワード (KWD)**パラメーターに指定のパラメーターの値として1つの定数を入力することができます。このパラメーターが有効なのは、次のすべての要件が満たされた場合だけです。

- *YESが制約された**値 (RSTD)**パラメーターに指定されている。
- **値の範囲 (RANGE)**パラメーターと**比較式 (REL)**パラメーターが両方とも指定されていない。
- 各固定情報が、次のパラメーターにより指定されている属性に一致していること。
 - 値のタイプ (TYPEパラメーター)
 - 値の長さ (LENパラメーター)
 - 全桁入力必須 (FULLパラメーター)

このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。パラメーターの値として指定できる定数（300個以内）を入力してください。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CMD, *CMDSTR, *X, *NULL,ステートメント・ラベル,*VARNAME,または*ZEROELEMを指定した場合、あるいは**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに*YESを指定した場合には、このパラメーターは無効です。

トップ

比較式 (REL)

このパラメーターのパラメーター値と定数または別のパラメーターの値との関係を指定します。キーワードを指定する場合には、これがテストされるキーワードの値であることを示すために、前にアンパーサンド (&)がなければなりません。参照されるキーワードに関連した値は、ユーザー指定の値ではなく、コマンド処理プログラムに渡される値です。関係が値のリストまたは修飾名である別のパラメーターとの関係である場合には、最初の値だけが比較で使用されます。

関係を指定するためには、次の比較演算子のどれかの後に、固定情報か、または他のパラメーターのキーワード名 (前に&を付けたもの) を入力してください。

- *LT より小さい
- *LE 小さいか等しい
- *EQ 等しい
- *GE 大きいか等しい
- *GT より大きい
- *NL 小さくない
- *NE 等しくない
- *NG 大きくない

次の場合には、RELパラメーターが無効です。

- 戻り値 (RTNVAL)パラメーターに*YESを指定した場合。
- 値の範囲 (RANGE)パラメーターまたは有効な値 (VALUES)パラメーターのいずれか一方が指定されている場合。
- 値のタイプ (TYPE)パラメーターに*LGL, *VARNAME, *CMD, *CMDSTR, *X, *ZEROELEM, *NULL, またはステートメント・ラベルを指定した場合。

値のタイプ (TYPE)パラメーターに*CHAR (文字タイプ) を指定した場合には、文字ストリングのEBCDIC値が比較で符号のない整数として使用されます。このパラメーターに文字定数を指定する場合には、32桁より長くすることはできません。

この要素については変数をコーディングすることができます。

[トップ](#)

値の範囲 (RANGE)

パラメーター値の範囲または制限を指定します。パラメーター値は、指定の下限值より大きいか等しく、指定の上限値より小さいか等しくなければなりません。たとえば、RANGEが(0 16)と指定されている場合には、15は有効になります。

文字などの非数字データ・タイプの場合には、指定された値の範囲およびデータは右寄せにされ、左側にブランクを埋め込まれます。先行ゼロが指定されていないか、あるいはデータ長が1文字しかないかぎり、非数字データの間隔を定義するのに数値範囲は使用しないでください。

この要素については変数をコーディングすることができます。

範囲の上限および下限は、値を表すキーワードまたは値そのものによって指定することができます。キーワードを指定する場合には、そのキーワードの値がテストされることを示すために、キーワードの前にアンパサンド(&)を付けなければなりません。検査時には、そのパラメーターの値が範囲を決定するために使用されます。テストされる値は、ユーザー指定の値ではなく、コマンド処理プログラムに渡される値です。キーワードが値のリストまたは修飾名を識別している場合には、範囲制限として最初の値だけが使用されます。キーワードは、**指定されない場合に渡される値 (PASSVAL)**パラメーターに指定された*NULLによって定義されたパラメーターを参照することはできません。**指定されない場合に渡される値 (PASSVAL)**パラメーターに*NULLが指定されている場合には、このパラメーターは無効です。

次の場合にもこのパラメーターは無効です。

- **戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに*YESを指定した場合。
- **比較式 (REL)**パラメーターまたは**有効な値 (VALUES)**パラメーターのいずれか一方が指定されている場合。
- **値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*LGL, *VARNAME, *CMD, *CMDSTR, *X, *ZEROELEM, *NULL, またはステートメント・ラベルを指定した場合。

このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。

この要素については変数をコーディングすることができます。

トップ

特殊値 (SPCVAL)

パラメーターに入力できる特殊値を定義する最大300個の項目からなるリストを指定します。各項目は、すべての妥当性検査の要件を満たしていなくても入力できる文字ストリング(比較値)を指定します。入力された文字ストリングが1つの項目の比較値に一致していて、置き換え値を指定した場合には、ストリングは置き換え値によって置き換えられてから、それ以上の検査なしにコマンド処理プログラム(CPP)に渡されます。置き換え値を省略した場合には、比較値がCPPに渡されます。**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに*YESを指定した場合、または、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CMD, *CMDSTR, *X, *ZEROELEM, *NULL, またはステートメント・ラベルを指定した場合には、このパラメーターは無効です。

比較値は文字ストリングですが、置き換え値は、渡すことができればどのようなものでもかまいません。しかし、TYPE(*DATE)の場合には、置き換え値を引用符つきでないMMDDYY, MMDDYYYY, またはCYMMDDの形式で指定しなければなりません。比較値にC L変数を使用する場合には、そのタイプは*CHARでなければなりません。置き換え値は、**値の長さ (LEN)**パラメーターに指定されたものより長くしてはいけません。また、**値のタイプ(TYPE)**パラメーターに*DEC, *INT2, *INT4, *UINT2, または*UINT4を指定した場合には、置き換え値のタイプはそれと同じでなければいけません。**値のタイプ(TYPE)**パラメーターが文字タイプ(*CHAR, *LGL, *DATEなど)である場合には、置き換え値は文字ストリングでなければなりません。このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。置き換え値を指定しない場合には、比較値は渡すことができる値でなければなりません。

*CURLIBの置き換え値を指定した場合には、値*CURLIBではなく、現行ライブラリーの名前がCPPに渡されます。比較値が*CURLIBで、置き換え値を指定しなかった場合、あるいは置き換え値が*CURLIBで、アポストロフィで囲まれている場合には、値*CURLIBがCPPに渡されます。

この要素には変数をコーディングすることはできません。

トップ

単一値 (SNGVAL)

値のタイプ (TYPE)パラメーターにステートメント・ラベルを指定した時に混合リストまたは修飾名として定義中のパラメーターに指定できる最大300個の単一値のリストを指定するか、あるいは**許される最大値 (MAX)**パラメーターで定義されたように、リストが2つ以上の値を受け入れることを指定します。パラメーターが受け入れるように定義されている値のリストまたは修飾名の代わりに単一値の1つを入力することができます。各項目は、入力できる文字ストリング（比較値）を指定します。入力された文字ストリングが1つの項目の比較値に一致していて、置き換え値を指定した場合には、データは置き換え値によって置き換えられてから、それ以上の検査なしでコマンド処理プログラム(CPP)に渡されます。置き換え値を除外した場合には、比較値がコマンド処理プログラムに渡されます。

置き換え値（置き換え値を省略した場合には比較値）は、**特殊値 (SPCVL)**パラメーターに指定された通りに渡すことができるものでなければなりません。このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。このパラメーターを指定できるのは、**許される最大値 (MAX)**パラメーターが1より大きい場合、あるいはQUALまたはELEMステートメントのステートメント・ラベルとしてTYPEが指定されている場合だけです。各単一値は値のリストまたは修飾名と置き換わることができるだけで、リスト項目または修飾子とすることはできません。単一値はリストの最初のかつ唯一の要素として渡されます。

戻り値 (RTNVAL)パラメーターに*YESを指定した場合、または、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CMD、*CMDSTR,*X、*ZEROELEM、*NULL、またはステートメント・ラベルを指定した場合には、このパラメーターは無効です。

*CURLIBの置き換え値を指定した場合には、値*CURLIBではなく、現行ライブラリーの名前がコマンド処理プログラムに渡されます。比較値が*CURLIBで、置き換え値を指定しなかった場合、あるいは置き換え値が*CURLIBで、アポストロフィで囲まれている場合には、値*CURLIBがコマンド処理プログラムに渡されます。

この要素には変数をコーディングすることはできません。

トップ

許される最小値 (MIN)

定義中のパラメーターに入力しなければならない値の最小数を指定します。複数の類似値を入力できないパラメーターでは、値の最小数として任意指定の場合にはゼロ(0)を、また、必須の場合には1だけを指定することができます。

注: 必須パラメーター・ステートメントは、任意指定のステートメントより前になければなりません。必須パラメーター・ステートメントを最初に指定しなかった場合には、システムは、指定されたパラメーターが任意指定であると見なし、必須パラメーターに関する値の最小数は無視されます。

複数の類似値を使用できるパラメーターの場合には、**許される最大値 (MAX)**パラメーターに1より大きい値を指定しているので、ゼロ(0)は、値を入力する必要がないことを示します。したがって、このパラメーターは**任意指定パラメーター**です。1以上の値は、パラメーターに入力しなければならない値の最小数を示します。したがって、このパラメーターは**必須パラメーター**です。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*NULLを指定した場合には、値は1を超えることはできません。

0 このパラメーターは任意指定であり、入力しなくてもかまいません。

最小数 このパラメーターに指定しなければならない要素の最小数を指定してください。1が割り当て値で

ある場合には、このパラメーターに少なくとも1つの値が必要であることを指定します。1より大きい数値を指定した場合には、パラメーターは、少なくとも指定した数と同じだけの要素がなければならぬリストです。

[トップ](#)

許される最大値 (MAX)

このPARMステートメントが単純リスト・パラメーターを定義している場合に、このリスト・パラメーターに入れることのできるリスト項目の最大数を指定します。1より大きい値を指定した場合には、このパラメーターは複数の類似の値（すなわち単純リスト）を受け入れることができます。このサポートは主として弊社提供コマンドを対象としています。このパラメーターに対して（コマンドの実行時に）入力されるすべての値は、このPARMステートメントの他のパラメーター値によって指定された妥当性検査要件を満たさなければなりません。

注: リスト・パラメーターの値は、ユーザーがそのパラメーターに入れた値の数を示す2バイトの2進数値を先頭にして、連続して渡されます。CLプログラムでは、変数の中での2進数値の取り扱いはサポートされていません。

1 このパラメーターは値を1つだけ受け入れます。すなわちリスト・パラメーターはありません。

最大数 リスト・パラメーターが受け入れることができる要素の最大数を指定してください。指定する最大数は、**許される最小値 (MIN)**パラメーターに指定した値より大きいか等しく、300以下でなければなりません。最大数が1より大きく、QUALまたはELEMステートメントを識別するステートメント・ラベルが**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに指定されていない場合には、このパラメーターは、類似値の単純リスト（すなわちリストの各要素がタイプ、桁数など同じ要件をもつリスト）です。ステートメント・ラベルが指定されていて、しかもそのラベルがELEMまたはQUALステートメントのラベルを指している場合には、リストのリストまたは修飾名のリストを受け入れる場合にだけ、このパラメーターに1より大きい値を指定するようにしてください。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CMD、*CMDSTR、または*NULLを指定した場合、**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに*YESを指定した場合、あるいは**定数値 (CONSTANT)**パラメーターを指定した場合には、1より大きい最大数は無効です。

[トップ](#)

印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT)

このPARMステートメントがX'FF'を超える16進数またはX'00'とX'3F'の範囲の16進数を受け入れるかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CHARまたは*Xを指定した場合だけです。

***YES** 文字は、コマンド処理プログラムに渡して、表示装置または印刷装置に送ることができます。

***NO** 印刷不能文字をコマンド処理プログラムに渡すことはできません。

[トップ](#)

変数名使用可能 (ALWVAR)

パラメーターに変数名が使用可能かどうかを指定します。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに *VARNAME, *ZEROELEM, *NULL, またはステートメント・ラベルを指定した場合には, *NOをこのパラメーターに指定することはできません。

***YES** 変数名をパラメーターとして使用することができます。

***NO** 変数名をパラメーターとして使用することはできません。

[トップ](#)

PARMはプログラム名である (PGM)

この要素がプログラム名であるかどうかを指定します。***YES**が有効となるのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル, *CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, または*GENERICを指定した場合だけです。ここに***YES**を指定しても、PARMステートメントによって定義しているパラメーター要素には影響しません。単にこのパラメーターの値がプログラム名であることをコンパイラーに示すだけです。この情報は、プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドの出力に含めることができるように記憶されます。

***NO** このPARMステートメントに定義されたパラメーターはプログラム名ではありません。

***YES** このPARMステートメントに定義されたパラメーターはプログラム名です。

[トップ](#)

PARMはデータ域名である (DTAARA)

このパラメーターがデータ域名であるかどうかを指定します。***YES**が有効となるのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル, *CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, または*GENERICを指定した場合だけです。ここに***YES**を指定しても、PARMステートメントによって定義しているパラメーターには影響しません。単にこのパラメーターの値がデータ域名であることをコンパイラーに示すだけです。この情報は、プログラム参照表示(DSPPGMREF)コマンドの出力に含めることができるように記憶されます。

***NO** このPARMステートメントに定義されたパラメーターはデータ域名ではありません。

***YES** このPARMステートメントに定義されたパラメーターはデータ域名です。

[トップ](#)

ファイル・パラメーターの場合の使用法 (FILE)

ファイルの予定している用途およびパラメーターがファイル名であるかどうかを指定します。パラメーターは、特定の用途をもったファイル名として指定することができるので、コンパイル時には、この名前を使用して、ファイルの使用状況についてのファイル参照情報を得ることができます。このパラメーターに指定しても、定義中のパラメーターの機能に影響しません。単にこのパラメーターの値がファイル名であることおよびファイルのタイプをコンパイラーに示すだけです。この情報は、DSPPGMREF (プログラム参照表示) コマンドの出力に含めることができるように記憶されます。このパラメーターが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターにステートメント・ラベル, *CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, または*GENERICを指定した場合だけです。**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに***YES**を指定した場合には、無効です。

***NO** このパラメーターはファイル名ではありません。

***IN** パラメーター値は入力ファイル名です。

***OUT** パラメーター値は出力ファイル名です。

***UPD** パラメーター値は更新ファイル名です。

***INOUT**

パラメーター値は、入力と出力の両方に使用されるファイル名です。

***UNSPFD**

パラメーター値はファイルの名ですが、その用途は指定することはできません。

ファイルの用途は、指定したファイルのタイプと一致しなければなりません。たとえば、*INを指定した場合には、ファイルは入力だけに使用することができます。*UPDを指定した場合には、ファイルは既存のレコードの更新だけに使用することができます。

トップ

全桁入力必須 (FULL)

パラメーターの文字数が**値の長さ (LEN)**パラメーターを指定した場合にはそこに指定された数、あるいはLENを指定しなかった場合には省略時の長さと同じでなければならぬかを指定します。

***NO** パラメーターの文字数は、**値の長さ (LEN)**パラメーターに指定されている文字数より少なくすることができます。

***YES** このパラメーターの文字数は、LENパラメーターによって指定された数、あるいは該当タイプの省略時の長さに等しくなければなりません。正確な長さが有効なのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*LGL, *CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, *GENERIC, *VARNAMEまたは*HEXを指定した場合だけです。**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに*YESを指定した場合に、ここに*YESを指定することができます。

トップ

式の評価 (EXPR)

KWDパラメーターに指定したパラメーターが文字連結のある式または組み込み関数(%SUBSTRINGまたは%BIN)を受け入れることができるかどうかを指定します。

制約事項：**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CMD, *ZEROELEM, *NULL,またはステートメント・ラベルを指定したパラメーターに式を使用することはできません。

***NO** パラメーターの値として連結式または組み込み関数を使用することはできません。

***YES** パラメーターの値として連結式または組み込み関数を使用することができます。

トップ

可変の長さ (VARY)

コマンド処理プログラムに渡される値の前に、コマンド・パラメーターに入力された文字数を示す長さ値を付けるかどうかを指定します。

注: 長さの値は、コマンド・パラメーターに入力され、後書きブランクを除去した実際の文字数です。渡される長さの値は、定義されたパラメーターの長さまたは宣言された変数の長さとは異なることがあります。文字ストリング・データが入っているフィールドの長さは、パラメーターについて定義された長さまたはCLプログラム変数について宣言されたLENによって決定されます。長さの値は、実際にコマンド・パラメーターに入力された文字ストリング・データ・フィールド中の文字の数を定義します。

単一値

***NO** パラメーター値の前に長さ値を付けません。

要素1: 長さ値の戻し

YES** CPPに渡されるパラメーターの値の前に、パラメーターに実際に指定された文字数を示すフィールドが先行します。YES**を使用できるのは、次のパラメーター・タイプの場合だけです。***CHAR**, ***NAME**, ***SNAME**, ***CNAME**, ***PNAME**, ***GENERIC**, ***LGL**, ***VARNAME**, ***CMD**, ***CMDSTR**, および ***X**。 **PASSATR(*YES)** および **RTNVAL(*YES)** が指定されている場合には、***YES**を指定しなければなりません。

要素2: 値の長さ

***INT2** パラメーター値は2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***INT4** パラメーター値は4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

トップ

属性バイト受け渡し (PASSATR)

(弊社提供コマンドの場合) パラメーター・データとともに属性バイトをコマンド処理プログラムに渡すかどうかを指定します。

***NO** パラメーターとともに属性バイトが渡されません。

YES** パラメーターとともに属性バイトが渡されます。属性バイトは、データ値がその値の省略時のデータ・タイプの結果として生じたものであるかどうかを示し、さらに、CHAR**が**値のタイプ(TYPE)**パラメーターに指定されている場合には、文字ストリングがアポストロフィで囲まれているかどうかを示します。

トップ

指定されない場合に渡される値 (PASSVAL)

このパラメーターの値がコマンド処理プログラムに渡されるかどうかを指定します。パラメーターが定数パラメーターである場合には、***NULL**は無効です(定数パラメーターとは、**定数值(CONSTANT)**パラメーターに値が指定されているパラメーター、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに***ZEROELEM**または***NULL**が指定されているパラメーター、あるいはすべての定数**ELEM**または**QUAL**ステートメントによって定義されたリスト/修飾名です)。**戻り値 (RTNVAL)**パラメーターに***YES**が指定されている場合、あるいは**許される最小値 (MIN)**パラメーターに指定された値がゼロより大きい場合にも無効です。**DEP**ステートメント、あるいは他の**PARM**ステートメントの**REL**および**RANGE**キーワードは、***NULL**で定義されたパラメーターの値を参照することはできません。

***DFT** 省略時の値は常にコマンド処理プログラムに渡されます。

***NULL**

パラメーターが指定されていない場合には、NULLポインターがコマンド処理プログラムに渡されます。

[トップ](#)

大文字・小文字(CASE)

CPPに渡される値を小文字から大文字に変更するか、あるいはコマンド・パラメーターに指定された大文字・小文字で保存するかどうかを指定します。

***MONO**

パラメーターの値は、小文字から大文字に変更されます。アポストロフィで囲まれたパラメーターでは、この値の指定の有無にかかわらず、大文字・小文字がそのまま保存されます。

***MIXED**

パラメーターの値は、コマンド・パラメーターに指定された大文字・小文字で保存されます。この値は、*CHARおよび*PNAMEパラメーター・タイプの場合にだけ指定することができます。

[トップ](#)

リスト変位(LISTDSPL)

リスト内のリストに対する変位が2バイトと4バイトのどちらの長さであるかを指定します。これらの変位は、CPPに渡されているパラメーターにリスト内のリストが入れられた時に生成されます。CPPについて作成中の値にリスト内のリストが含まれない場合には、このパラメーターは無視されます。

***INT2** 変位値は、2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***INT4** 変位値は、4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

[トップ](#)

画面入力 (DSPINPUT)

キーワード値をジョブ・ログに入れるか、プロンプト画面に表示するかを指定します。

***YES** 省略時の応答*YESは、パラメーター値がプロンプト画面に表示され、ジョブ・ログに入れられることを指定します。

***PROMPT**

応答*PROMPTは、パラメーター値がプロンプト画面に表示されるが、ジョブ・ログに入れられないことを示します。

***NO** 応答*NOは、値がプロンプト画面に表示されず、ジョブ・ログに入れられないことを指定します。

[トップ](#)

テキスト選択 (CHOICE)

プロンプト画面で入力フィールドの右側に表示される選択項目テキストを指定します。最大30桁のテキストを表示することができます。

*VALUES

選択項目テキストは、TYPE、RSTD、RANGE、SNGVAL、SPCVAL、およびVALUESパラメーターに指定された値を基にして生成されます。定数をRANGEパラメーターに指定する場合は、選択項目テキストはハイフンで区切られた最小値と最大値で始まります。RANGEを最小値と最大値として定数で指定しないで、RSTD(*NO)を指定する場合は、選択項目テキストはTYPEパラメーターに指定された値を基にしたパラメーター・タイプの簡略説明で始まります。SNGVALパラメーターに指定した値が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、選択項目テキストに追加されます。選択テキストに追加された最後の項目が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、SPCVALまたはVALUESパラメーターに指定された値です。30桁に入らないほど多くの値がある場合には、最後の値の後にピリオドが3つ続けられます。

以下はCHOICE(*VALUES)によって生成されることがある選択項目テキストの例です。

- TYPE(*DEC), RANGE(1.0 999.9),およびSPCVAL((*NOMAX -1))を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。
1.0-999.9, *NOMAX
- TYPE(*NAME), RSTD(*NO), SNGVAL(*ALL),およびSPCVAL(*LIBL *CURLIB)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。
名前, *ALL, *LIBL, *CURLIB
- RSTD(*YES), SNGVAL(*ALL),およびSPCVAL(*ALRTBL *BNDDIR *CHTFMT *CLD *CLS *CMD)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。
*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR...

*NONE

値は表示されません。

***PGM** 呼び出されるプログラムが表示する値を決定します。呼び出されるプログラムはPARMステートメントの**プログラム選択 (CHOICEPGM)**パラメーターで識別されます。

メッセージ識別コード

使用できる値フィールドのテキストが入っているメッセージの検索に使用されるメッセージのメッセージIDを指定します。コマンド作成(CRTCMD)コマンドの **プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルは、メッセージの検索に使用されます。

'選択項目テキスト'

30文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

トップ

プログラム選択 (CHOICEPGM)

可能な選択項目テキストおよび許される値を入力するためにコマンド・プロンプトが出されている間に、呼び出されるプログラムを指定します。**テキスト選択 (CHOICE)**パラメーターに*PGMを指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。そうでない場合には、指定することはできません。

単一値

*NONE

選択可能項目テキストおよび指定可能な値を表示するために使用するプログラムはありません。

修飾子1: プログラム選択

名前 選択可能項目テキストまたは指定可能な値を表示するためにプロンプト表示中に呼び出すプログラムの名前を指定します。プログラムが呼び出される時に例外が起こった場合には、選択可能項目テキストはブランクのままになり、指定可能値のリストはコマンドから取られます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

プロンプト制御 (PMTCTL)

このパラメーターにはプロンプト表示をどのように制御するかを指定します。プロンプト表示は、このパラメーターのラベルによって参照されるプロンプト制御(PMTCTL) ステートメントで指定する別のパラメーターによって、あるいはF10キーを押すことによるユーザー要求によって、制御することができます。

***NONE**

選択プロンプトのために除外されていないかぎり、パラメーターのプロンプトが常に表示されます。

***PMTRQS**

次の場合でないかぎり、パラメーターについてのプロンプトは表示されません。

- ユーザーが任意指定パラメーターについてのプロンプトを要求した場合。
- プロンプトが呼び出される前に値が入力された場合。
- パラメーターが選択プロンプト文字によって選択されていること。

ステートメント・ラベル

このパラメーターのプロンプトを表示するかどうかを決定するために使用されるプロンプト制御(PMTCTL)ステートメントのラベルを指定してください。次の場合でないかぎり、パラメーターについてのプロンプトは表示されません。

- 参照されたPMTCTLステートメントで指定された条件が一致しました。
- プロンプトが呼び出される前に値が入力された場合。
- パラメーターが選択プロンプト文字によって選択されていること。

[トップ](#)

プロンプト制御プログラム (PMTCTLPGM)

パラメーターに指定された値をプロンプト制御(PMTCTL)ステートメントで使用される値に変換するために呼び出されるプログラムを指定します。このパラメーターは、PMTCTLステートメントの制御キーワード(CTL)パラメーターで参照されるパラメーターについてだけ有効です。

単一値

***NONE**

プロンプト制御ステートメントのパラメーター値を変換するためのプログラムを呼び出しません。プロンプト制御(PMTCTL)ステートメントにパラメーターが指定されている場合には、そのPMTCTLステートメントで実際の値が比較されます。

要素1: プロンプト制御プログラム

名前 パラメーター値を変換するために呼び出されるプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

キー・パラメーター (KEYPARM)

コマンドのプロンプトが表示される時にこのパラメーターが最初に表示され、コマンドの作成または変更時にプロンプト一時変更プログラムが指定されたことを指定します。プロンプト一時変更プログラムが指定されていない場合には、すべてのパラメーターでKEYPARM(*NO)と見なされます。

***NO** パラメーターが最初に表示されません。

***YES** パラメーターが最初に表示されます。

トップ

初期プロンプト長 (INLPMTLEN)

コマンドのプロンプトが出された時にパラメーターに対して最初に表示される入力フィールドの長さを指定します。ユーザーは、このフィールドの先頭位置にアンバーサンド(&)を入力することによって（次の桁は空白にする）、このフィールドを最大長の512バイトまで拡張することができます。INLPMTLENは、TYPEが*CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, *PNAME, *GENERIC, *CMDSTR, *HEX, *X,または*CMDと指定された場合にのみ有効です。FULL(*YES), RSTD(*YES),またはCONSTANTが指定された場合には、INLPMTLEN(*CALC)を指定するか、あるいはこれを省略時の値として使用しなければなりません。

***CALC**

プロンプターが、パラメーターのタイプと長さに基づいてプロンプト・フィールドの長さを決定します。

***PWD** システム値QPWDLVLの現在の値が'0'または'1'の場合には、プロンプト・フィールドの長さは10バイトになります。そうでない場合には、プロンプト・フィールドの長さはパラメーターの長さによって決定されます。INLPMTLEN(*PWD)は、TYPEが*CHAR, *NAME, *SNAME, *PNAME,または*CNAMEと指定された場合にのみ有効です。

初期プロンプト長

初期長をバイト数で指定してください。有効な値は1-12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256,および512です。

[トップ](#)

プロンプト仕様 (PROMPT)

パラメーターに使用されるプロンプト・テキストを指定します。プロンプト・テキストには、コマンドのプロンプトが出されるときにパラメーター入力フィールドの横に現れるパラメーターの簡略説明が表示されません。値のタイプ (TYPE)パラメーターに*ZEROELEMまたは*NULLを指定した場合、あるいは定数値 (CONSTANT)パラメーターに定数値を指定した場合には、プロンプト・テキストを指定することはできません。

単一値

*NONE

このPARMステートメントによって定義されたパラメーターのプロンプト・テキストは表示されません。このパラメーターは、キーワード名でまだプロンプトが表示されますが、プロンプト・テキストはキーワード名の横に表示されません。

要素1: プロンプト・テキストまたはメッセージID

メッセージ識別コード

パラメーターのプロンプトが出される時に表示される最大30文字のプロンプト・テキストを含むメッセージを識別するメッセージ識別コードを指定してください。指定された識別コードをもつメッセージをコマンド作成(CRTCMD)コマンドの **プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルで見つけることができない場合には、メッセージ識別コードそのものがプロンプト・テキストとして使用されます。

'プロンプト・テキスト'

パラメーターのプロンプトが表示される時に示されるプロンプト・テキストを指定してください。このテキストは、アポストロフィで囲んだ30文字以内の文字ストリングでなければなりません。

要素2: プロンプトが表示される順序

相対プロンプト番号

このパラメーターには相対プロンプト番号を指定することができます。相対プロンプト番号は、パラメーター・キーワードのプロンプトが表示される順序を指定します。この順序はプロンプト表示の順序にだけ影響し、コマンド処理プログラムにパラメーターが渡される順序には影響しません。プロンプト番号をもつパラメーターはプログラム番号をもたないパラメーターより前にプロンプトが表示されます。

[トップ](#)

PARMの例

例1:数値パラメーターの定義

```
PARM KWD(X) TYPE(*DEC) LEN(2) MIN(1) REL(*GT 5)
```

2桁の10進数であるXという名前のパラメーターに対する値を入力する必要があります。この値は5より大きくしなければなりません。

例2:制限付きの値を指定したパラメーターの定義

```
PARM KWD(CLASS) TYPE(*CHAR) LEN(1) DFT(A) +  
VALUES(A B C) RSTD(*YES)
```

CLASSという名前のパラメーターの値は、指定する場合は、A、B、またはCとする必要があります。CLASSを指定しない場合は、コマンド処理プログラムに渡される省略時の値はAになります。

例3:有効値の範囲を指定したパラメーターの定義

```
PARM KWD(MAXREC) TYPE(*DEC) LEN(3 0) MIN(1) +  
RANGE(&MINREC 500)
```

MAXRECパラメーターの値は、小数点以下の桁数がない、3桁以下の10進数として入力する必要があります。この値は、パラメーターMINRECに入力された値（または省略時の値）以上とする必要があります、500以下である必要もあります。

例4:単純リスト・パラメーターの定義

```
PARM KWD(FILES) TYPE(*NAME) MIN(2) MAX(5)
```

FILESパラメーターは、最小で2つの名前と最大で5つの名前が入っている同種のリストです。

例5:制限付きの値を指定したリスト・パラメーターの定義

```
PARM KWD(INVFNAME) TYPE(*NAME) DFT(*ALL) +  
SNGVAL((*ALL XXX)) VALUES(DEPT1 DEPT2 DEPT3) +  
FILE(*UPD) MIN(0) MAX(3) RSTD(*YES) +  
PROMPT(USR0002 1)
```

INVFNAMEという名前のパラメーターの値は、DEPT1、DEPT2、DEPT3、および*ALLが有効な選択項目である、最大3個までのファイル名のリストとすることができます。*ALLを入力すると、その他の値をこのパラメーターには入力することができません。このパラメーターをファイル場合は、ファイル名XXXがコマンド処理プログラムに渡されます。このパラメーターをコマンドのプロンプトによって入力する場合は、このパラメーターに対するプロンプト・テキストは、コマンドの作成時に、コマンド作成(CRTCMD)コマンドのPMTFILEパラメーターに指定されたメッセージ・ファイルのメッセージID USR0002から検索されます。*ALLは省略時のパラメーター値として表示されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PARM

なし

[トップ](#)

プログラム (PGM)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プログラム(PGM)コマンドは、コンパイルされるCLプロシージャの開始位置を識別し、コンパイル後にプロシージャによって受け取られるパラメーターを指定するためにCLソース・ファイルの中で使用されます。PGMコマンドを使用する場合は、ソース・ファイル内の最初のコマンドでなければなりません。PGMコマンドを使用しないと、パラメーターのないPGMコマンドを指定したとみなされます。CLプロシージャの名前は、CLソース・ファイルのコンパイルに使用されるCLコマンドに指定されます。

また、処理のためのPGMコマンドが別のCLプロシージャによって呼び出される場合には、そのプログラムに渡すパラメーターもこのコマンドが指定します。どのようにして定数を渡すかについては、呼び出し(CALL)コマンドのPARMパラメーターの説明を参照してください。

CLプロシージャ・ソース・ファイルをコンパイルしてプログラム(*PGM)オブジェクトを作成した場合は、呼び出し(CALL)または制御権転送 (TFRCTL)コマンドによって、あるいはサブシステム記述の経路指定項目によって、そのプログラムを呼び出すことができます。CALLまたはTFRCTLコマンドによってプログラムを呼び出す時に、指定されたパラメーターをそれに渡すことができます。

プロシージャを呼び出す時に、このコマンドに定義されたパラメーターを渡す必要があります。渡されるパラメーターは、このコマンドに指定されたタイプ、長さ、および順序のものでなければなりません。各パラメーター値は、文字ストリング、数値、またはCL変数とすることができます。受け取られた各値には、それぞれ異なるCL変数名が割り当てられます。各CL変数名は、プロシージャのコンパイルの前に個別のDCL (宣言) コマンドによってCLソース・ファイルに定義されていなければなりません。最大で255個のパラメーターを渡すことができます。

ILEプログラムおよびプロシージャでは、呼び出し側プログラムまたはプロシージャと呼び出されるプログラムまたはプロシージャの間のパラメーターの不一致は検出されません。呼び出しプロシージャが呼び出されるプロシージャで必要とされる数以上のパラメーターを渡した場合には、呼び出されたプロシージャでは余分なパラメーターが無視されます。呼び出しプロシージャが呼び出されるプロシージャのPGMコマンドに指定された数より少ないパラメーターを渡した場合には、結果は予測できません。

制約事項:このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PARM	パラメーターCL変数名	値 (最大 255 回の繰り返し): CL 変数名	オプション、定位置 1

パラメーターCL変数名 (PARM)

このプロシージャに渡されたパラメーター値を受け取る1つ以上のCL変数を指定します。受け取るそれぞれの値についてCL変数名を指定してください。名前はアンパーサンド(&)で始めなければなりません。

どのパラメーターにもヌル値*Nを指定することはできません。パラメーター値は、それらがCALLまたはTFRCTLコマンドに指定された順序でPARMパラメーター中の変数と関連づけられます。渡される各値のタイプおよび長さは、呼び出し側プログラムと受け取り側プログラムで属性が一致していなければなりません。ただし、文字定数の場合には、受信プログラムではより短い長さを指定することができます。これを行った場合には、渡された文字ストリングは受信プログラムで宣言された長さで切り捨てられます。各データ・タイプがどのように渡されるかについては、CALLコマンドのPARMパラメーターの説明を参照してください。

注: パラメーター値をCLプロシージャによって変更するか、あるいはCLコマンドに変数として指定する場合には、それが書き込み可能記憶域になければなりません。たとえば、C/400では、ストリングが読み取り専用である場合があります。読み取り専用ストリングがパラメーターとしてCLプロシージャに渡され、CLプロシージャが変数の値を変更したり、CLコマンドの変数を使用しようとした場合には、そのCLプロシージャは正常に実行されません。

CL変数名

呼び出し側プログラムから渡された値を受け取るCL変数の名前を指定してください。最大255個の変数を指定することができます。

PGMの例

例1:パラメーターのないCLプロシージャ

```
PGM
:
ENDPGM
```

このPGMコマンドは、パラメーターを含まないCLプロシージャのCLソース・ファイルにある最初のコマンドです。

例2: 2つのパラメーターを含むCLプロシージャ

```
PGM  PARM(&X &Y)
```

これは、&Xおよび&Yという2つのパラメーターを含むCLプロシージャのCLソース・ファイルにある最初のコマンドで、これらのパラメーターの値は呼び出し側プログラムまたはプロシージャから渡されたものです。

例3: 2つのパラメーターを定位置形式で含むCLプロシージャ

```
PGM  (&PARM1 &PARM2)
```

これは、&PARM1および&PARM2という2つのパラメーターを定位置形式で指定するCLプロシージャのCLソース・ファイルにある最初のコマンドです。このプロシージャが呼び出されると、呼び出し側プログラムは&PARM1および&PARM2に使用するパラメーター値を渡します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PGM

なし

[トップ](#)

TCP/IP接続の検査 (PING)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

TCP/IP接続検査(VFYTCPCNN)コマンド(PINGとも呼ばれる)は、システムとリモート・システム・パラメーターに指定されているリモート・システムとの間の接続をテストします。

注:

- VFYTCPCNN (PING)コマンドはSNA接続を介したIPを検査することはできません。
- ローカル・ドメイン名は、PINGを含む多くのアプリケーションで使用されます。ドメインが指定されていない場合、あるいは指定されたホスト名の終わりにピリオド(.)が表示されない場合には、PINGはホスト名にローカル・ドメインを付加します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTSYS	リモート・システム	文字値, *INTNETADR	必須, 定位置 1
INTNETADR	リモート・インターネット・アドレス	文字値	オプション
ADRVERFMT	アドレス・バージョン形式	* CALC , *IP4, *IP6	オプション
MSGMODE	メッセージ・モード	要素リスト	オプション
	要素 1: 応答メッセージの詳細	* VERBOSE , *QUIET	
	要素 2: 要約, 応答エラーの場合	* COMP , *ESCAPE	
PKTLEN	パケットの長さ (バイト数)	8-512, 256	オプション
NBRPKT	パケット数	1-999, 5	オプション
WAITTIME	待ち時間 (秒数)	1-120, 1	オプション
LCLINTNETA	ローカル・インターネット・アドレス	文字値, * ANY	オプション
TOS	TYPE OF SERVICE	*MINDELAY, *MAXTHRPUR, *MAXRLB, *MINCOST, * NORMAL	オプション
IP TTL	IP有効時間 (ホップ限界)	1-255, * DFT	オプション

[トップ](#)

リモート・システム (RMTSYS)

TCP/IP検査命令が実行されるホストのリモート・システム名を指定します。正常に実行するためには、名前が有効なものでなければならず、リモート・システムがローカル・システムと通信できなければなりません。次のいずれかを使用して、IPアドレスに名前を割り当てることができます。

- 「ホスト・テーブルの処理」メニュー。これは「TCP/IPの構成」メニューのオプションです。
- リモート・ネーム・サーバー。リモート・システム名をIPアドレスにマップする場合。

ホスト名の分析解決は、**アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)**パラメーターに指定された値によります。

*INTNETADR

リモート・システムは、**リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)**パラメーターに指定された値によって識別されます。

文字値 検査するリモート・システムの名前を指定してください。

トップ

リモート・インターネット・アドレス (INTNETADR)

リモートIPアドレスを指定します。有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。IPバージョン4のIPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。

文字値 リモート・システムのインターネット・アドレスを指定してください。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

トップ

アドレス・バージョン形式 (ADRVERFMT)

リモート・システム (RMTSYS)パラメーターに指定したホスト名の解決方法を指定します。

*CALC

ホスト名の分析解決方法は、RMTSYSパラメーターに入力されたホスト名に基づいて「計算」(決定)されます。VFYTCPCNN (PING)は、IPアドレスの決定に際してまずIPバージョン4のホスト名分析解決を使用します。これが正常に行われないと、IPアドレスの決定でIPバージョン6のホスト名分析解決が使用されます。

***IP4** IPバージョン4ホスト名解決方法を使用します。

***IP6** IPバージョン6ホスト名解決方法を使用します。

トップ

メッセージ・モード (MSGMODE)

表示される情報の量を指定します。

要素1: 応答メッセージの詳細

***VERBOSE**

各PING応答が届くたびにメッセージを表示します。

***QUIET**

最初のPING (VFYTCPCNN)メッセージおよび要約メッセージだけを表示します。

要素2: 要約, 応答エラーの場合

***COMP**

PING (CFYTCPCNN)要求が成功した場合には, 戻される要約メッセージは完了メッセージです。

***ESCAPE**

モニター可能エスケープ・メッセージが戻されます。これは, PING要求を出すプログラムを書いていて, エラーがないかどうかPING要求をモニターしたい場合に有用です。可能なエスケープ・メッセージのリストが必要な場合には, PING (VFYTCPCNN) コマンドのエラー・メッセージの説明を参照してください。

[トップ](#)

パケットの長さ (バイト数) (PKTLEN)

リモート・システムに送られるパケットの長さ (バイト数) を指定します。

256 パケットの長さは256バイトです。

8-512 各パケットのバイト数を指定してください。

[トップ](#)

パケット数 (NBRPKT)

リモート・システムに送られるパケットの数を指定します。

5 5つのパケットが送られます。

1-999 リモート・システムに送られるパケットの数を指定してください。

[トップ](#)

待ち時間 (秒数) (WAITTIME)

このパケット転送を障害と通知する前に戻り (エコー) パケットを待機する秒数を指定します。

1 システムは1秒間待機します。

1-120 待機する秒数を指定してください。

[トップ](#)

ローカル・インターネット・アドレス (LCLINTNETA)

アウトバウンド・パケットが使用するインターフェースのローカルIPアドレスを指定します。いずれかの有効なIPバージョン4またはIPバージョン6アドレスのいずれかが受け入れられます。IPバージョン4のIPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0の場合には、正しくありません。コマンド入力行からIPアドレスを入力する場合には、そのアドレスをアポストロフィで囲まなければなりません。

***ANY** 任意のインターフェースのローカルIPアドレスを使用してください。

文字値 ローカルIPアドレスを指定してください。

[トップ](#)

TYPE OF SERVICE (TOS)

使用するTYPE OF SERVICEを指定します。TYPE OF SERVICEは、インターネット・ホストおよびルーターがスループット、遅延、信頼性、およびコストの間で行うトレードオフを定義します。

注: アウトバウンド・パケットに使用するインターフェースを指定するためにローカル・インターネット・アドレス(LCLINTNETA)を使用してVFYTCPCNNを出す場合には、そのインターフェースと一致するTYPE OF SERVICE (TOS)も指定しなければなりません。

注: リモート・システムとの接続の検査にIPバージョン6のアドレス解決が使用される場合には、このパラメーターは使用されません。

***NORMAL**

データの転送に通常のサービスが使用されます。

***MINDELAY**

遅延の最小化は、この接続ではプロンプト配信が重要であることを意味します。

***MAXTHRPUT**

スループット最大化は、この接続でデータに対する高いデータ速度が重要であることを意味します。

***MAXRLB**

信頼性最大化は、この接続でデータに対する配布を確実にするための高水準の努力が重要であることを意味します。

***MINCOST**

金銭上のコストの最小化は、この接続ではデータのコストの低下が重要であることを意味します。

[トップ](#)

IP有効時間 (ホップ限界) (IPTTL)

IPデータグラム (パケット) 存続時間値を指定します。データグラムは、このパラメーターによって指定されたルーター・ホップ数に対してのみ有効です。存続時間値は、「ホップ・カウンター」として機能します。ルーターまたはゲートウェイを介してデータグラムが渡されるたびにカウンターが減少します。ホップ数によってデータグラムの妥当性を制限することは、インターネットの経路指定ループを避ける上で役立ちます。

注: IPバージョン6は、このパラメーターを**ホップ限界**として参照します。

***DFT** 省略時の存続時間値を使用してください。

マルチキャスト・アドレスの省略時の存続時間値は1です。他のすべてのアドレスの省略時の存続時間値は、TCP/IP属性変更(CHGTCPA)コマンドのIPTTLパラメーターによって指定されます。

1-255 IPデータグラム (パケット) の存続時間値を指定してください。

トップ

VFYTCPCNNの例

例1:指定したホスト名によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPHOST)  PKTLEN(100)  NBRPKT(10)
           WAITTIME(15)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ100バイトの10パケットをリモート・システム(TCP/IP構成にはIPHOSTとして認識されています)に送信します。各パケットの転送は15秒以内に実行する必要があります。実行できないと失敗します。

例2: IPアドレスによるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(*INTNETADR)  INTNETADR('128.1.1.10')
           PKTLEN(100)  NBRPKT(10)  WAITTIME(15)
```

このコマンドは、TCP/IPインターフェースを介してそれぞれ100バイトの10パケットをリモート・システムに送信しようとします。ユーザーは、割り当てられたシステム名ではなく、IPアドレス128.1.1.10でRMTSYSを表現しています。15秒を超えて行われる各パケット転送は失敗します。

例3:ホスト名および特定のローカル・インターフェース・アドレスを使用したTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPHOST)  MSGMODE(*QUIET)
           LCLINTNETA('9.2.2.3')
```

このコマンドは、それぞれ256バイト (省略時の値) の5パケット (省略時の値) を、ローカル・アドレス9.2.2.3をもつ特定のTCP/IPインターフェースを介してリモート・システムに送信しようとします。

MSGMODE(*QUIET)が指定されているので、基本出力メッセージだけが表示されます。マルチホーム・ホストでは、特定の物理インターフェースを介したネットワーク接続を検査するのに、インターフェース・パラメーターが役立ちます。

例4: IPバージョン6によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(*INTNETADR)
           INTNETADR('1:2:3:4:5:6:7:8')
```

このコマンドは、ローカル・アドレス**1:2:3:4:5:6:7:8**をもつリモート・システムのTCP/IP接続を検査しようとします。

例5:指定したIPバージョン6定義ホスト名によるTCP/IP接続を検査

```
VFYTCPCNN  RMTSYS(IPV6HOST)
```


このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ256バイト（省略時の値）の5パケット（省略時の値）をリモート・システム(IPバージョン6 TCP/IP構成にIPV6HOSTとして認識されています)に送信しようとしています。

省略時の「アドレス・バージョン形式」は*CALCです。ホスト名の解決で、指定されたホスト名に対して複数のIPアドレスが戻されることがあります。ただし、この場合(*CALC)に、TCP/IPリンクを介してその接続を検査した時には、(IPバージョン4またはIPバージョン6で)解決された最初のIPアドレスが使用されることとなります。

例6: TCP/IP接続およびIPバージョン6ホスト名解決の明示的使用を検査

```
VFYTCPCNN RMTSYS(IPV6HOST) ADRVERFMT(*IP6)
```

このコマンドは、TCP/IPリンクを介してそれぞれ256バイト（省略時の値）の5パケット（省略時の値）をリモート・システム(IPバージョン6 TCP/IP構成にIPV6HOSTとして認識されています)に送信しようとしています。

この例は、TCP/IPリンクを介した接続の検査時に、有効なIPバージョン6解決アドレスIPV6HOSTだけが使用されるという点が例5とは異なっています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： VFYTCPCNN

なし

*ESCAPE メッセージ

TCP3210

接続検査の統計：&2の&1は正常に実行された(&3 %)

TCP3219

アドレス&1がアドレス・バージョン形式&2と一致していません。

[トップ](#)

PM ISERIES回線制御 (PMLINMON)

実行可能場所:

• 対話式ジョブ (*INTERACT)

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

PM ESERVER ISERIESが使用する回線は、接続保留状態になることが多々あります。この状態では、PM ESERVER ISERIESはその回線にアクセスできません。「PM ESERVER ISERIES回線制御」画面によって、PM/400がPM ESERVER ISERIESはその回線をオフに変更し、PM ESERVER ISERIESデータを送信した後に、回線を接続保留状態に戻すことができます。

この画面を使用した場合には、PM ESERVER ISERIES伝送タスク(Q1PCM1)を変更して、回線の状況を調べて、該当する回線をオフに変更(Q1PMOFF)します。伝送が完了すると、その同じ回線が接続保留状態になります(Q1PMON)。

1. 最初の画面に表示される警告を読んでから、実行キーを押してください。
2. 「PM ESERVER ISERIES 自動回線制御を活動状態にしますか？」というプロンプトを、機能に対するマスター制御スイッチとして使用してください。YESを指定した場合には、PM ESERVER ISERIES機能が活動状態になります。NOを指定すると、その機能は使用不可となります。

NOを指定した場合に、YESを指定した時に回線制御リストを再度定義する必要はありません。

回線は、その回線を指定するだけでオンおよびオフに変更することができます。回線、制御装置、および装置は、その3つのすべての記述を指定することによって、オフまたはオンに変更することができます。

3. 定義した回線、制御装置、および装置を確認します。選択項目の要約を表示するには、時期を押してください。
4. 実行キーを押して、選択項目を確認するか、あるいはF12キーを押して前の画面に戻り、項目を変更してください。F3キーを押した場合には、「PM ESERVER ISERIES回線制御」画面が終了します。

トップ

パラメーター

なし

トップ

例

なし

トップ

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

プロンプト制御定義 (PMTCTL)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロンプト制御(PMTCTL)ステートメントは、関連するPARMステートメントがこのPMTCTLステートメントを参照するパラメーターについて、プロンプト表示を行なうかどうかを決定するためにテストされる条件を指定します。PMTCTLステートメントには、コマンド定義のソース中の1つまたは複数のPARMステートメントの**プロンプト制御 (PMTCTL)**パラメーターで参照されたラベルと一致するステートメント・ラベルがなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTL	制御キーワード	名前	必須, 定位置 1
COND	制御条件	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG, *SPCFD, *UNSPCFD	
	要素 2: 制御キーワード値	文字値	
NBRTRUE	真条件の数	単一値: *ALL その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 2: 真条件の数	0-25	
LGLREL	論理関係	*AND , *OR	オプション

[トップ](#)

制御キーワード (CTL)

プロンプト表示を制御するパラメーターの名前を指定します。ここで指定するパラメーターの値は、**制御条件 (COND)**パラメーターに指定された値と比較されます。ここで指定したパラメーターについてPARMステートメントの**プロンプト制御プログラムプロンプト(PMTCTLPGM)**パラメーターをコーディングした場合には、そのPMTCTLPGMパラメーターで指定されたプログラムによって戻される値が**制御条件 (COND)**パラメーターで指定された値と比較されます。ここで指定したパラメーターがリストまたは修飾名の場合には、最初のリスト項目または修飾子だけが比較されます。

[トップ](#)

制御条件 (COND)

制御キーワード (CTL)パラメーターに指定されたパラメーターをテストするための条件を指定します。指定できる条件の数は最大50個です。

*SPCFD

省略時の値を使用する場合も含めて、制御パラメーターに対して条件が指定されている場合に、条件が真になります。

*UNSPCFD

条件が真となるのは、制御パラメーターが指定されていない場合だけです。省略時の値が指定されている場合には、真とはなりません。

比較演算子の値

制御パラメーターの値を**制御条件 (COND)**パラメーターに指定された値に比較するために使用される比較演算子および値を指定してください。有効な値は*GT, *EQ, *NL, *LT, *NE, *LE,および*NGです。

トップ

真条件の数 (NBRTRUE)

パラメーターのプロンプトが表示される場合に真とならなければならない**制御条件 (COND)**パラメーターに指定された条件の数を指定します。

***ALL** すべての条件が真でなければなりません。

比較演算子の値

真とならなければならない条件の数を**真条件の数 (NBRTRUE)**パラメーターに指定された数に比較するために使用される比較演算子および数を指定してください。有効な値は*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE,および*NGです。

トップ

論理関係 (LGLREL)

PMTCTLステートメントがグループになっている時に、このPMTCTLステートメントとグループ中の前のPMTCTLステートメントとの間の論理比較を指定します。これにより、1つまたは複数の制御パラメーターを使用して条件つきプロンプト表示を使用することができます。

***AND** このPMTCTLステートメントと前のPMTCTLステートメントとの論理AND演算を実行し、結果の条件を作成します。

***OR** このPMTCTLステートメントと前のPMTCTLステートメントとの論理OR演算を実行し、結果の条件を作成します。

トップ

PMTCTLの例

例1: 1つの制御パラメーターを指定した選択プロンプト

```
A:   PMTCTL   CTL(TYPE) COND((*EQ *) (*EQ *LIST)) +  
      NBRTRUE(*EQ 1)
```

TYPE(*)およびTYPE(*LIST)のどちらも指定しない場合は、このPMTCTLステートメントを参照するパラメーターがプロンプトのために選択されます。

例2: 複数のPMTCTLステートメントを使用した複数の制御パラメーターを指定した選択プロンプト

```
B:   PMTCTL   CTL(P1)  COND((*EQ *ALL))  
      PMTCTL   CTL(P1)  COND((*EQ *SOME)) LGLREL(*OR)  
      PMTCTL   CTL(P2)  COND((*EQ *ALL)) LGLREL(*AND)  
      PMTCTL   CTL(P1)  COND((*EQ *NONE)) LGLREL(*OR)  
      PMTCTL   CTL(P2)  COND((*NE *ALL)) LGLREL(*AND)
```

以下の条件のいずれかが存在している場合は、このPMTCTLステートメントのグループを参照するパラメーターがプロンプトのために選択されます。

- *ALLがP1に指定されています。
- *SOMEがP1に指定されていて、*ALLがP2に指定されています。
- *NONEがP1に指定されていて、*ALLがP2に指定されていません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PMTCTL

なし

[トップ](#)

データベース・ファイル位置決め (POSDBF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

データベース・ファイル位置指定(POSDBF)コマンドによって、データベース・ファイルの位置を、オープンされているファイルの始めまたは終わりにセットすることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPNID	オープン・ファイル識別コード	名前	必須, 定位置 1
POSITION	ファイル位置	*START, *END	必須, 定位置 2

[トップ](#)

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

再位置決めのためにオープンされたファイルを識別します。このファイルは、データベース・ファイル・オープン(OPNDBF)またはQUERYファイル・オープン(OPNQRYF)コマンドによってオープンしなければなりません。

これは必須パラメーターです。

名前 オープンされているファイルの識別コードを指定してください。

[トップ](#)

ファイル位置 (POSITION)

データベース・ファイルの始めまたは終わりの桁を指定します。

これは必須パラメーターです。

*START

データベース・ファイルの位置は、現在オープンされているメンバーの開始桁にセットされます。開始桁がセットされた後、「次の読み取り」操作がメンバーの最初のレコードを読み取ります。データベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドの一時変更しているメンバー(MBR)パラメーターに*ALLが指定された場合には、前の読み取り操作で前のメンバーの最後のレコードが読み取られます。さもなければ、「ファイルの始めを通り越す」という例外が起こります。

*END

データベース・ファイルの位置は、現在オープンされているメンバーの終わりにセットされます。データベース・ファイル一時変更(OVRDBF)コマンドのMBRパラメーターに*ALLが指定された場合

には、終了桁がセットされた後、「次の読み取り」操作で次のメンバーの最初のレコードが読み取られます。さもないと、「ファイルの終わりを乗り越す」という例外が起こります。「前の読み取り」操作はメンバーの最後のレコードを読み取ります。

[トップ](#)

POSDBFの例

```
POSDBF  OPNID(XXX)  POSITION(*START)
```

このコマンドは、OPNID(XXX)でオープンされたデータベース・ファイルのレコード位置を現在オープンされているデータベース・ファイル・メンバーの開始位置に設定します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： POSDBF

*ESCAPEメッセージ

CPF5213

メンバー&3の位置指定が正常に行なわれなかった。

CPF5230

OPNID(&4)でオープンされているファイルはない。

[トップ](#)

借用オブジェクトの印刷 (PRTADPOBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

借用オブジェクト印刷(PRTADPOBJ)コマンドによって、指定されたユーザー・プロファイルの特殊権限および私用認可を借用するオブジェクトの報告書を印刷することができます。これは、プログラム借用と関連した機密保護の露呈をチェックする1つの方法です。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。
2. このコマンドの実行中には、このコマンドに指定されたユーザー・プロファイルはロックされます。このロックによって、その所有者があるオブジェクトをこのプロファイルに変更しないようにします。このプロファイルが多数のオブジェクトを所有している場合には、長時間にわたってプロファイルをロックすることができます。

このコマンドはユーザー・プロファイルについて2つの報告書を印刷します。最初の報告書（全報告書）には、ユーザー・プロファイルの権限を借用するオブジェクトがすべて入れられます。2番目の報告書（変更報告書）には、ユーザー・プロファイルに対してPRTADPOBJコマンドを前に実行した時に、そのユーザー・プロファイルの権限を借用しなかったオブジェクトで、この時点でユーザー・プロファイルの権限を借用するオブジェクトが入れられます。ユーザー・プロファイルに対して前にPRTADPOBJコマンドを実行しなかった場合には、「変更報告書」はありません。ユーザー・プロファイルに対してこのコマンドを前に実行したが、追加のオブジェクトがユーザー・プロファイルの権限を借用しない場合には、「変更報告書」は印刷されますが、リストされるオブジェクトはありません。

報告書には、次の情報が入れられます。

- ユーザー・プロファイルの名前
- ユーザー・プロファイルが持っている特殊権限
- その報告書が最後に実行された日付および時刻（変更報告書のみに表示される）
- そのユーザー・プロファイルの権限を借用する各オブジェクトの項目。各項目には、次の情報が入っています。
 - オブジェクトの名前。
 - オブジェクトのタイプ。
 - オブジェクトの*PUBLIC権限。報告書の作成時点でそのオブジェクトまたはオブジェクトのライブラリーがロックされている場合には、この値は*LOCKEDに設定されます。
 - そのオブジェクトが入っているライブラリーの名前
 - ライブラリーの*PUBLIC権限。報告書の作成時点でそのライブラリーがロックされている場合には、この値は*LOCKEDに設定されます。
 - オブジェクトについて私用認可があるかどうかの指示（YまたはN）。報告書の作成時点でそのオブジェクトまたはオブジェクトのライブラリーがロックされている場合には、この値はブランクのままとなります。

注: ユーザー・プロファイルの権限を借用するオブジェクトがない場合には、そのユーザーの報告書は印刷されません。コマンドに指定したユーザー・プロファイルに、そのユーザー・プロファイルの権限を借用するオブジェクトがない場合には、報告書は生成されません。

ライブラリーQUSRSYSのファイルQSECADPOLDには、ユーザー・プロファイルに対して最後にPRTADPOBJコマンドを実行した時以降の情報が入っています。コマンドに前に指定した各プロファイルについて、ユーザー・プロファイルと同じ名前のメンバーがファイル内にあります。QSYPGMADの様式名を持つライブラリーQSYSのシステム・ファイルQADPGMADがQSECADPOLDファイルのモデル・ファイルです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRPRF	ユーザー・プロファイル	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	*NO, *YES	オプション, 定位置 2

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

これは必須パラメーターです。

借用オブジェクト情報を印刷するユーザー・プロファイルの名前。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルについて、借用情報を印刷します。

ユーザー名

借用情報を印刷するユーザー・プロファイルの名前。

総称ユーザー名

借用情報を印刷するユーザー・プロファイルの総称名。総称名は、1つまたは複数の文字とその後続くにアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。

トップ

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

トップ

PRTADPOBJの例

PRTADPOBJ USRPRF(OURSECOFR)

このコマンドは、ユーザー・プロファイルOURSECOFRの特殊権限と私用認可を借用するオブジェクトについて全報告書と変更報告書の両方を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTADPOBJ

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

CPF307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

[トップ](#)

AFPデータの印刷 (PRTAFPDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

高機能印刷装置データ印刷(PRTAFPDTA)コマンドは、システム/370ホストから受け取った出力を印刷します。このコマンドによって、ユーザーは、印刷するファイルおよび印刷操作の制御に使用するパラメーターを指定することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, *FIRST	オプション
DEV	印刷装置	名前, *JOB, *SYSVAL	オプション
FORMDF	用紙定義	単一値: *DEVDF, *INLINE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 用紙定義	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
COPIES	コピー数	1-255, 1	オプション
STRPAGE	開始ページ	整数, 1	オプション
ENDPAGE	終了ページ	整数, *END	オプション
FIDELITY	印刷精度	*ABSOLUTE, *CONTENT	オプション

トップ

ファイル (FILE)

印刷する高機能印刷データ・ストリーム(AFPDS)ファイルの修飾名を指定します。このコマンドには、物理ファイルだけがサポートされています。PRTAFPDTAと一緒に印刷装置ファイル一時変更(OVRPRTF)コマンドを使用する場合には、装置タイプ(DEVTYPE)パラメーターを一時変更しないようにしてください。

ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイル名を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

ファイル名

印刷するAFPDSの名前を指定します。

[トップ](#)

メンバー (MBR)

印刷するデータが入っているメンバーを指定します。

*FIRST

データベース・ファイルの最初のメンバーが使用されます。

メンバー名

印刷中のデータが入っているメンバー名を指定します。

[トップ](#)

印刷装置 (DEV)

このファイルを印刷する印刷装置を指定します。

***JOB** ジョブ記述に指定されている印刷装置が使用されます。

***SYSVAL**

システム値QPRTDEVに指定された値が使用されます。

印刷装置名

印刷装置の名前を指定します。

[トップ](#)

用紙定義 (FORMDF)

ファイルを印刷する時に使用する用紙定義を指定します。用紙定義は、オーバーレイ、用紙上のページ・データの位置、ページのコピー数、およびページに対する変更など用紙の特性を定義する資源オブジェクトです。用紙定義は印刷しているファイルとともにインラインにあるか、あるいはライブラリー中にあります。

*DEV

使用されている用紙定義の名前は装置記述から入手されます。値を指定しない場合には、*DEVとみなされます。

***INLINE**

印刷装置ファイルとインラインになっている用紙定義が使用されます。

用紙定義の名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

用紙定義名

指定したライブラリーの中に存在していなければならぬ用紙定義の名前を指定してください。最大8文字を使用することができます。

[トップ](#)

コピー数 (COPIES)

スプール・ファイルの場合には、印刷されるコピー数を指定します。

1 出力の1コピーが印刷されます。

コピー数

印刷するコピー数を指定します。

[トップ](#)

開始ページ (STRPAGE)

印刷を開始するページを指定します。このパラメーターは、ファイルの部分印刷に使用されます。

1 印刷は1ページ目から開始されます。開始ページを指定しない場合には、1とみなされます。

開始ページ番号

印刷を開始するページ番号を指定します。

[トップ](#)

終了ページ (ENDPAGE)

印刷を終了するページを指定します。このパラメーターは、指定されたページ番号で終わるファイルの部分印刷に使用されます。開始ページと終了ページの両方を指定する場合には、終了ページが開始ページより大きいか等しくなければなりません。実際のファイルの終りを越えた終了ページを指定しても、エラー条件は作成されません。

***END** 印刷がファイルの終りで終了します。

終了ページ番号

印刷を終了するページ番号を指定します。

[トップ](#)

印刷精度 (FIDELITY)

ファイルの印刷時に必要な正確さの程度を指定します。

***ABSOLUTE**

データ・ストリームおよび外部制御によって指定された通りに正確にファイルを印刷することができる場合にだけ、ジョブが印刷されます。

***CONTENT**

使用可能なすべての例外処理を使用してファイルが印刷されます。

[トップ](#)

PRTAFPDTAの例

例1:特定ページの印刷

```
PRTAFPDTA FILE(MYLIB/MYFILE) STRPAGE(2) ENDPAGE(6)
```

このコマンドは、ページ2で始まりページ6で終わる、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILE中の最初のメンバーを印刷します。

例2:使用可能なすべての例外処理を使用した印刷

```
PRTAFPDTA FILE(MYLIB/MYFILE) FORMDF(F10101) FIDELITY(*CONTENT)
```

このコマンドは、F10101の書式定義と使用可能なすべての例外処理を使用して、ライブラリーMYLIBのファイルMYFILE中の最初のメンバーを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTAFPDTA

***ESCAPEメッセージ**

CPF511B

ファイル&1のレコード&2のデータ・ストリームが正しくない。

PQT4001

ファイル&1の構造化フィールド&2のデータ・ストリームが正しくない。

PQT4003

ライブラリーに用紙定義&2が見つからなかった。

PQT4004

開始ページ番号&1が終了ページ番号&2より大きい。

PQT4006

可変長フィールドのために、ファイル&1を処理することができない。

PQT4007

ファイル&1のデータ・ストリームが正しくない。

[トップ](#)

コマンド使用状況印刷 (PRTCMDUSG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

コマンド使用状況印刷(PRTCMDUSG)コマンドは、指定されたCLプログラムのグループの中で使用されている、指定されたCLコマンドのグループの相互参照表を作成します。報告書には、指定されたコマンドのどれが各プログラムで使用されているかが、プログラム別に示されます。PRTCMDUSGコマンドに指定されたコマンドのコマンド定義オブジェクトに対して行なわれた変更のために、コンパイルが必要なプログラムを識別するために報告書を使用することができます。このコマンドの実行時間は長くかかり、印刷出力が多く作成されることに注意してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	値 (最大 50 回の繰り返し): 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: コマンド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
PGM	プログラム	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: プログラム	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *USRLIBL, *CURLIB, *ALLUSR	

トップ

コマンド (CMD)

指定されたプログラムの検索および報告書への印刷が行なわれる最大 55 個の CL コマンドの名前を指定します。システムは、指定されたプログラムを検索して、指定された各コマンドのあるすべての場所を見つけます。

注: PRTCMDUSGは、ILE CLプログラムおよびモジュールのコマンド使用状況を印刷するために使用することはできません。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: コマンド

名前 コマンドの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 CLプログラム内での使用状況を報告するCLコマンドが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

プログラム (PGM)

指定されたコマンドを見つけるために検索される1つ以上のCLプログラムを指定します。何らかの（任意の）権限を有するプログラムとライブラリーのみが、報告書に組み込まれます。このパラメーターはまた、指定されたライブラリー（たとえば、*USRLIBL/*ALLなど）に入っているすべての(*ALL)プログラムを検索することも指定することができます。

修飾子1: プログラム

***ALL** 指定したライブラリーで、ユーザーがなんらかの権限をもつすべてのCLプログラムが指定のCLコマンドを見つけるために検索されます。

総称名 指定したライブラリー修飾子を持ち、指定のコマンドを見つけるために検索されるいくつかのプログラムの総称名を指定してください。総称名は、1つまたは複数の文字とそれに続くアスタリスク(*)からなる文字ストリングとして指定することができます。

名前 指定されたCLコマンドを見つけるために検索するCLプログラムの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

CLプログラムの検索にジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB
#COBLIB #RPGLIB
#DFULIB #SDALIB

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVXRXX
QGPL QSRVAGT QUSRINFSCR
QGPL38 QSYS2 QUSRNOTES
QMGTC QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2 QS36F QUSRPOSGS
QMPGDATA QUSER38 QUSRPOSSA

QMQRDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMQRPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS
QPFRRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

PRTCMDUSGの例

PRTCMDUSG CMD(CPYF) PGM(PAYROLL/*ALL)

このコマンドはライブラリーPAYROLL内のすべてのCLプログラムを検索して、ファイル・コピー(CPYF)コマンドを見つけ、コマンドとプログラムの両方の名前を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTCMDUSG

*ESCAPEメッセージ

CPF0593

PRTCMDUSGコマンドが制御付き終了で終了した。

CPF0595

PRTCMDUSGコマンドが終了した。

CPF0596

PRTCMDUSGコマンドが終了した。印刷ファイルをオープンすることができません。

[トップ](#)

通信保護機能の印刷 (PRTCMNSEC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信保護機能印刷(PRTCMNSEC)コマンドによって、AS/400システム上に現在ある*DEVD, *CTLD,および *LINDオブジェクトの機密保護属性を含む報告書を印刷できます。このコマンドは、AS/400システム上のユーザー通信構成の機密保護を検査する1つの方法を提供します。

通信機密保護印刷コマンドは、通信機密保護情報を含む2つのスプール出力ファイルを作成します。最初のスプール出力ファイルには、構成リスト表示(DSPCFGL) CLコマンドによって生成される報告書が入れます。この報告書には、APPNリモート構成リストQAPPNRMTに現在ある項目が入れます。システム上にQAPPNRMT構成リストが存在しない場合には、報告書は印刷されません。2番目のスプール出力ファイルには、システム上の*DEVD, *CTLD,および*LINDオブジェクトの機密保護属性が入っています。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJおよび*IOSYSCFG,または*AUDIT特殊権限が必要です。

*DEVD, *CTLDおよび*LINDオブジェクトを含むスプール出力ファイルには、2つの報告書が入っています。最初の報告書(全報告書)には通信オブジェクトがすべて入れられ、各オブジェクトの機密保護属性を印刷します。2番目の報告書(変更報告書)には、最後にPRTCMNSECコマンドを実行した時以降に変更した通信オブジェクトが入れます。PRTCMNSECコマンドを前に実行していない場合には、「変更報告書」はありません。このコマンドを前に実行しているが、通信オブジェクト情報が変更されていない場合には、「変更報告書」が印刷されますが、リストされるオブジェクトはありません。

最初の報告書には、APPNリモート構成リスト・オブジェクトQAPPNRMTからの項目が入れます。QAPPNRMT構成リストが存在しない場合には、報告書は印刷されません。

2番目の報告書(変更報告書)には、下記にリストされる情報が入れます。この報告書には、*DEVD, *CTLDおよび*LINDのオブジェクト・タイプがリストされます。報告書にリストされるオブジェクトのタイプに対してフィールドが適用されない場合には、一部のフィールドはブランクになるか、あるいはゼロに設定されることがあります。

*DEVDオブジェクト・タイプ:

報告書には、次の情報が入れます。

- 報告しているオブジェクト・タイプ
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(変更報告書にだけ示される)。
- システム上の各*DEVDオブジェクトの項目
 - 通信オブジェクトの名前
 - 通信オブジェクトのオブジェクト・タイプ
 - 通信オブジェクトの装置カテゴリー
 - 通信オブジェクトの保護ロケーション値
 - 通信オブジェクトのロケーション・パスワードがあるかどうかの指示
 - 通信オブジェクトのAPPN可能値

- 通信オブジェクトの単一セッション値
- 通信オブジェクトの事前設定セッション値
- 通信オブジェクトのSNUFプログラム開始値

*CTLDオブジェクト・タイプ:

報告書には、次の情報が入れられます。

- 報告しているオブジェクト・タイプ
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(変更報告書にだけ示される)。
- システム上の各*CTLDオブジェクトの項目
 - 通信オブジェクトの名前
 - 通信オブジェクトのオブジェクト・タイプ
 - 通信オブジェクトの制御装置カテゴリー
 - 通信オブジェクトの自動作成値
 - 通信オブジェクトの交換制御装置値
 - 通信オブジェクトの呼び出し方向値
 - 通信オブジェクトのAPPN可能値
 - 通信オブジェクトのCPセッション値
 - 通信オブジェクトの切断タイマー値
 - 通信オブジェクトの自動削除の分の値
 - 通信オブジェクトの装置名値

*LINDオブジェクト・タイプ:

報告書には、次の情報が入れられます。

- 報告しているオブジェクト・タイプ
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(変更報告書にだけ示される)。
- システム上の各*LINDオブジェクトの項目
 - 通信オブジェクトの名前
 - 通信オブジェクトのオブジェクト・タイプ
 - 通信オブジェクトの回線カテゴリー
 - 通信オブジェクトの自動作成値
 - 通信オブジェクトの自動削除の分の値
 - 通信オブジェクトの自動応答値
 - 通信オブジェクトの自動ダイヤル呼び出し値

ライブラリーQUSRSYSのファイルQSECCMNOLDには、ライブラリーに対して最後にPRTCMNSECコマンドを実行した時以降の情報が入れられます。QSECCMNのファイル様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECCMNは、QSECCMNOLDファイルのモデル・ファイルです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	<u>*NO</u> , *YES	オプション、位置 1

トップ

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NO 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

トップ

PRTCMNSECの例

PRTCMNSEC

このコマンドは、通信機密保護情報について全報告書と変更報告書の両方を印刷します。

トップ

エラー・メッセージ： PRTCMNSEC

*ESCAPE メッセージ

CPFB307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

トップ

通信追跡の印刷 (PRTCMTNTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信追跡印刷(PRTCMTNTRC)コマンドは、指定された回線、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述の通信追跡データをスプール・ファイルまたは出力ファイルに送ります。

PRTCMTNTRCコマンドは、通信追跡のダンプ(DMPCMTNTRC)コマンドを使用してストリーム・ファイルに以前ダンプされた通信追跡データを形式設定するのに使用することもできます。

制約事項:

- ユーザーはサービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に対して許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- ネットワーク・サーバー記述追跡の追跡データは、スプール・ファイルにだけ転送することができます。追跡データを出力ファイルに転送することはできません。使用できる形式設定オプションはありません。
- このコマンドに対する権限は次のユーザー・プロファイルにあります。
 - QSECOFR
 - QSRV

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGOBJ	構成オブジェクト	名前	オプション、位置 1
FROMSTMF	FROMストリーム・ファイル	パス名	オプション
CFGTYPE	タイプ	*LIN, *NWI, *NWS	オプション、位置 2
OUTPUT	出力	*PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
CODE	文字コード	*EBCDIC, *ASCII, *CALC	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SLTLIND	回線記述	名前, <u>*ALL</u>	オプション
SLTCTLD	制御装置記述	名前, <u>*ALL</u>	オプション
FMTSNA	SNAデータのための形式設定	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FMTRR	RR, RNRコマンドの形式設定	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FMTTCP	TCP/IPデータの形式	<u>*LINTYPE</u> , *YES, *NO	オプション
FMTLCP	LCPデータの形式	<u>*YES</u> , *NO	オプション
FMTNCP	NCPデータの形式	<u>*YES</u> , *NO	オプション
TCPIPADR	アドレス別TCP/IPデータ形式設定	要素リスト	オプション
	要素 1: 発信元/宛先IPアドレス	文字値, <u>*ALL</u>	
	要素 2: 発信元/宛先IPアドレス	文字値, <u>*ALL</u>	
SLTPORT	IPポート番号	10 進数, <u>*ALL</u>	オプション
FMTUI	UIデータだけの形式設定	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FMTMAC	MACまたはSMTデータ専用形式	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FMTETH	イーサネット・データのための形式設定	*NO, <u>*YES</u>	オプション
FMTCCD	呼び出し制御データの形式設定	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FMTBCD	ブロードキャスト・データの形式設定	*NO, <u>*YES</u>	オプション
EXCLMI	LMIデータの除外	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FMTLMI	LMIデータのための形式設定	<u>*NO</u> , *YES	オプション

トップ

構成オブジェクト (CFGOBJ)

追跡中の構成オブジェクトを指定します。このオブジェクトは、回線記述、ネットワーク・インターフェース記述、またはネットワーク・サーバー記述でなければなりません。

CFGOBJおよびCFGTYPEパラメーター、あるいはFROMSTMFパラメーターを指定しなければなりません。

名前 構成記述オブジェクトの名前を指定します。

トップ

FROMストリーム・ファイル (FROMSTMF)

通信追跡データが形式設定される元のストリーム・ファイルのパス名を指定します。このファイルは、通信追跡ダンプ(DMPCMNTRC) CLコマンドを実行することによって作成されていなければなりません。

CFGOBJおよびCFGTYPEパラメーター、あるいはFROMSTMFパラメーターを指定しなければなりません。

パス名 DMPCMNTRCコマンドによって作成されるストリーム・ファイルのパス名を指定します。

トップ

タイプ (CFGTYPE)

追跡された構成記述のタイプを指定します。

CFGOBJおよびCFGTYPEパラメーター、あるいはFROMSTMFパラメーターを指定しなければなりません。

- *LIN 構成オブジェクトのタイプは回線記述です。
- *NWI 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・インターフェース記述です。
- *NWS 構成オブジェクトのタイプはネットワーク・サーバー記述です。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力をジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルへ送るかを指定します。

注: ネットワーク・サーバー記述追跡の場合には、このパラメーターに*PRINTを指定しなければなりません。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

*LIBL ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終わりに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

トップ

文字コード (CODE)

回線で拡張2進化10進コード(*EBCDIC)または情報交換用米国標準コード(*ASCII)文字コードを使用するかどうかを指定します。

*CALC

システムは、使用される制御装置のタイプに基づいて、ユーザー・データをEBCDICとASCIIのどちらで形式設定するかを決定します。

***ASCII**

ASCII文字コードが使用されます。

***EBCDIC**

EBCDIC文字コードが使用されます。

トップ

回線記述 (SLTLIND)

追跡中にネットワークで通信しているすべての回線のデータを形式設定するか、あるいは特定の回線のデータを形式設定するかを指定します。

***ALL** すべての回線のデータを形式設定します。

名前 追跡データを形式設定する回線の名前を指定します。

[トップ](#)

制御装置記述 (SLTCTLD)

追跡中にネットワークで通信しているすべての制御装置のデータを形式設定するか、あるいは特定の制御装置のデータを形式設定するかを指定します。

***ALL** すべての制御装置のデータを形式設定します。

制御装置名

追跡データを形式設定する制御装置の名前を指定します。

[トップ](#)

SNAデータのみの形式設定 (FMTSNA)

回線プロトコル・データまたはシステム・ネットワーク体系(SNA)データのどちらを形式設定するかを指定します。回線プロトコル・データには、SDLC, X.25,衝突検出つき搬送波センス複数アクセス(CSMA/CD),イーサネットDIX V2, DDI,無線, およびIBMトークンリング・ネットワーク(TRLAN)が含まれます。

***NO** 回線プロトコル・データだけが形式設定されます。

***YES** SNAデータだけが形式設定されます。

[トップ](#)

RR, RNRコマンドの形式設定 (FMTRR)

受信可(RR)および受信不可(RNR)コマンドをその他のデータとともに形式設定するかどうかを指定します。

***NO** RRおよびRNRコマンドはその他のデータとともに形式設定されません。

***YES** RRおよびRNRコマンドはその他のデータとともに形式設定されます。

[トップ](#)

TCP/IPデータの形式 (FMTCIP)

回線プロトコル・データまたは伝送制御プロトコル/インターネット・プロトコル(TCP/IP)データのどちらを形式設定するかを指定します。

注: ストリーム・ファイルからの追跡データを形式設定している(FROMSTMFパラメーター) 場合には、このパラメーターは無視されて、TCP/IPデータが形式設定されます。

*LINTYPE

X.25,イーサネット, DDI,無線, トークンリング, およびフレーム・リレー回線の場合には、回線プロトコル・データだけが形式設定されます。TCP/IPをサポートする他のすべての回線の場合には、TCP/IPデータが形式設定されます。

***YES** TCP/IPデータが形式設定されます。

***NO** TCP/IPデータは形式設定されません。

LCPデータの形式 (FMTLCP)

形式設定された通信追跡にリンク制御プロトコル(LCP)データが組み込まれるかどうかを指定します。

注: POINT-TO-POINTプロトコル(PPP)回線のデータを形式設定する時にFMTLCP, FMTNCP,およびFMTCPPのすべてに*NOを指定した場合には、非同期で認識できないデータはスプール・ファイルに入れられます。これは、すべてに*YES (あるいはFMTCPPに*LINTYPE) を指定した場合にも該当します。他のすべての場合、非同期で認識できないデータは除外されます。

***YES** LCPデータが形式設定されます。

***NO** LCPデータは形式設定されません。

トップ

NCPデータの形式 (FMTNCP)

形式設定された通信追跡にネットワーク制御プロトコル(NCP)データが組み込まれるかどうかを指定します。

***YES** NCPデータが形式設定されます。

***NO** NCPデータは形式設定されません。

トップ

アドレス別TCP/IPデータ形式設定 (TCPIPADR)

TCP/IPデータの形式設定の基礎になるIPアドレスの対を指定します。IPアドレス1に有効な値は、IPアドレス2にも有効です。

インターネット・アドレスはNNN.NNN.NNN.NNNの形式で指定されます。ここでNNNは0-255の範囲の10進数です。IPアドレスは、そのアドレスのネットワーク識別コード(ID)部分またはホストID部分の値がすべて2進数の1またはすべて2進数の0 の場合には、正しくありません。

IPV6 (IPバージョン6)アドレスの場合、形式はXXXX:XXXX:XXXX :XXXX:XXXX:XXXX:XXXX:XXXXとなり、ここでXは0からFの有効な16進数字です。

注: IPV6アドレスは、ストリーム・ファイルから追跡データを形式設定されている時にのみ有効です。

要素1: 発信元/宛先IPアドレス

***ALL** 要素2に指定されたシステムと他のすべてのシステムとの間の通信が印刷されます。

文字値 このシステムと要素2に指定されたシステムとの間の通信が印刷される、そのシステムのアドレスを指定します。

要素2: 発信元/宛先IPアドレス

***ALL** 要素1に指定されたシステムと他のすべてのシステムとの間の通信が印刷されます。

文字値 このシステムと要素1に指定されたシステムとの間の通信が印刷される、そのシステムのアドレスを指定します。

[トップ](#)

IPポート番号 (SLTPORT)

すべてのインターネット・プロトコル(IP)ポートのデータを形式設定するか、あるいは単一のIPポートのデータを形式設定するかを指定します。

注: このパラメーターは、FMTTCP(*YES)が指定された場合にのみ有効です。

***ALL** すべてのIPポートのデータが形式設定されます。

10進数

そのデータを形式設定する、そのIPポート番号(1-65535)を指定します。

[トップ](#)

UIデータだけの形式設定 (FMTUI)

回線プロトコル・データを形式設定するか、あるいは番号なしの情報(UI)データを形式設定するかを指定します。

***NO** すべての回線プロトコル・データが形式設定されます。

***YES** UIデータだけが形式設定されます。

[トップ](#)

MACまたはSMTデータ専用形式 (FMTMAC)

回線プロトコル・データを形式設定するか、あるいは媒体アクセス制御(MAC)または端末管理(SMT)データを形式設定するかを指定します。

***NO** 回線プロトコル・データ(TRLANまたはETHERNET)が形式設定されます。

***YES** MACまたはSMTデータだけが形式設定されます。

[トップ](#)

イーサネット・データのための形式設定 (FMTETH)

IEEE 802.3データを形式設定するか、あるいはETHERNET V2データを形式設定するかを指定します。

***YES** IEEE 802.3データとETHERNET V2データの両方が形式設定されます。

***NO** IEEE 802.3データだけが形式設定されます。

[トップ](#)

呼び出し制御データの形式設定 (FMTCCD)

すべてのネットワーク・インターフェース・データを形式設定するか、あるいはサービス総合デジタル網 (ISDN) 信号データだけを形式設定するかを指定します。

***NO** すべてのネットワーク・インターフェース・データが形式設定されます。

***YES** ISDN信号データだけが形式設定されます。

トップ

ブロードキャスト・データの形式設定 (FMTBCD)

ブロードキャスト・データおよび宛先MACとアドレスを含む受信データを形式設定するかどうかを指定します。

***YES** ブロードキャスト・データは形式設定されます。

***NO** ブロードキャスト・データは形式設定されません。

トップ

LMIデータの除外 (EXCLMI)

形式設定された出力からローカル管理インターフェース(LMI)データを除外するかどうかを指定します。

***NO** 形式設定された出力からLMIデータが除外されません。

***YES** 形式設定された出力からLMIデータが除外されます。

注: EXCLMIパラメーターとFMTLMIパラメーターの両方に*YESを指定することはできません。

トップ

LMIデータのための形式設定 (FMTLMI)

ローカル管理インターフェース(LMI)データを形式設定するかどうかを指定します。

***NO** LMIデータが形式設定されません。

***YES** LMIデータが形式設定されます。

注: EXCLMIパラメーターとFMTLMIパラメーターの両方に*YESを指定することはできません。

トップ

例

```
PRTCMNTRC  CFGOBJ(*QESLINE)  CFGTYPE(*LIN)
```

このコマンドは、回線記述QESLINEの通信追跡データを印刷します。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF39AF

追跡終了中-しばらくお待ちください。

CPF39A7

通信プロセッサの追跡記憶域が使用できない。

CPF39A8

通信追跡保守ツールに対して認可されていない。

CPF39A9

通信追跡機能の実行中にエラーが起こった。

CPF39BA

選択した形式設定オプションが正しくない。

CPF39BB

通信追跡データは印刷されない。

CPF39BC

通信追跡の印刷要求を完了できない。

CPF39B0

通信追跡が存在していない。

CPF39B1

追跡&1タイプ&2が存在していない。

CPF39B3

追跡&1タイプ&2にデータが入っていない。

CPF39B4

&1タイプ&2の追跡データを印刷できない。

CPF39B5

通信追跡データは印刷されない。

CPF39B6

通信追跡機能は実行できない。

CPF39B7

&1タイプ&2の追跡データを印刷できない。

CPF39B8

追跡&1タイプ&2でSNAデータが見つからない。

CPF39B9

追跡&1タイプ&2の印刷で追跡レコードが見つからない。

CPF39C4

IPアドレスが正しくない。

CPF3CF2

&1 APIの実行中にエラーが起こった。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

CPF9872

ライブラリー&2のプログラムまたはサービス・プログラム&1が終了した。理由コードは&3です。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

CPFA0D4

ファイル・システム・エラーが起こった。エラー番号は&1です。

[トップ](#)

装置アドレスの印刷 (PRTDEVADR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置アドレス印刷(PRTDEVADR)コマンドは、ローカルまたはリモート・ワークステーション制御装置に接続されている装置のアドレスおよび関連情報の印刷リストを提供します。この出力には、制御装置記述 (CTLDパラメーター) に指定されているローカル・ワークステーション制御装置ごとに、装置の名前、ポートおよびスイッチ設定値、タイプおよび型式番号、共用セッション番号 (装置タイプが3486または3487の場合にのみ有効)、およびその装置が表示装置か印刷装置のいずれであるかが示されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CTLD	制御装置記述	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

制御装置記述 (CTLD)

装置のアドレス情報について印刷されるローカルまたはリモート・ワークステーション制御装置の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

PRTDEVADRの例

```
PRTDEVADR CTLD(CTL01)
```

このコマンドは、CTL01ワークステーション制御装置に接続された装置の装置アドレス情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTDEVADR

*ESCAPEメッセージ

CPF2602

制御装置&1が見つからない。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF2628

装置記述が前に削除された。

CPF263B

制御装置&1がワークステーション制御装置でない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2778

制御装置記述&1に損傷がある。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9850

印刷装置ファイル&1の一時変更は許されない。

[トップ](#)

ディレクトリー情報の印刷 (PRTDIRINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー情報印刷(PRTDIRINF)コマンドは、ディレクトリー情報検索(RTVDIRINF)コマンドによって収集された統合ファイル・システム中のオブジェクトのディレクトリー情報を印刷するために使用されます。このコマンドを使用して、ファイル名QPEZDIRのスパール・ファイルがジョブと関連したスパール待ち行列に入れられます。

制約事項:

- このコマンドを実行するには、全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限がなければなりません。
- ジョブCCSID値65535は使用できません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RPTTYPE	報告書のタイプ	*DIR, *OBJ, *OWN	必須, 定位置 1
INFILEPFX	情報ファイルの接頭部	単純名, <u>*LAST</u>	オプション
INFLIB	情報ライブラリー	名前, <u>*LAST</u>	オプション
OWNER	所有者	総称名, 名前, <u>*ALL</u>	オプション
OBJ	オブジェクト	パス名, <u>*ALL</u> , *NONE	オプション
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 60 回の繰り返し): *ALRTBL, *AULT, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CHRSF, *CLD, *CLS, *CMD, *C>NNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DDIR, *DEVD, *DIR, *DOC, *DSTMF, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *MBR, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *M36, *M36CFG, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWSO, *OOPOOL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBSO, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
SUBTREE	ディレクトリーのサブツリー	<u>*ALL</u> , *NONE	オプション
MINSIZE	最小サイズ	0-99999, <u>0</u>	オプション
SORT	分類	<u>*SIZE</u> , *OWNER, *LSTCHG, *NAME	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
INCPATH	パス名の組み込み	*ALL, *NONE	オプション

トップ

報告書のタイプ (RPTTYPE)

印刷する報告書のタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

- *DIR 各ディレクトリーによって使用されているスペースの報告書が印刷されます。情報には、最外部ディレクトリーのおよびネストされたすべてのサブディレクトリーの合計サイズが含まれています。各サブディレクトリーの情報には、サブディレクトリーだけのスペースの合計が含まれ、そのサブディレクトリーに入っているディレクトリー中のオブジェクトのスペースは含まないこととなります。
- *OBJ ファイルおよびディレクトリーのオブジェクト情報の報告書が印刷されます。
- *OWN ファイルおよびディレクトリーのユーザー・プロファイル（所有者）情報の報告書が印刷されます。

トップ

情報ファイルの接頭部 (INFFILEPFX)

検索したディレクトリー情報を保管する、ディレクトリー情報検索(RTVDIRINF)コマンドで作成されたデータベース・ファイルのファイル名接頭部を指定します。

- *LAST RTVDIRINFコマンドの最新の呼び出しによって作成したデータベース・ファイルが使用されます。通知メッセージCPI1E31がジョブ・ログに送信され、使用されるファイルの名前とライブラリーがこれに含まれます。

情報ファイル接頭部

RTVDIRINFコマンドの以前の呼び出しで指定されたのと同じファイル接頭部を指定します。

RTVDIRINFコマンドは、検索したディレクトリー情報を保管するよう複数のデータベース・ファイルを作成しています。ファイル接頭部を指定した場合には、INFLIBパラメーターに*LAST以外の値を指定しなければなりません。

トップ

情報ライブラリー (INFLIB)

検索したディレクトリー情報を保管する、ディレクトリー情報検索(RTVDIRINF)コマンドで作成されたデータベース・ファイルを含むライブラリーを指定します。

- *LAST RTVDIRINFコマンドの最新の呼び出しによって作成したライブラリーが、検索したディレクトリー情報を含むデータベース・ファイルを検索するのに使用されます。通知メッセージCPI1E31がジョブ・ログに送信され、使用されるファイルの名前とライブラリーがこれに含まれます。

ライブラリー名

RTVDIRINFコマンドの以前の呼び出しで作成されたデータベース・ファイルを含むライブラリーの名前を指定してください。ライブラリー名を指定した場合には、INFFILEPFXパラメーターに*LAST以外の値を指定しなければなりません。

トップ

所有者 (OWNER)

情報を印刷するオブジェクトの所有者（ユーザー・プロファイル）の名前を指定します。

***ALL** 報告書には、ユーザー・プロファイルが所有するオブジェクトについての情報が含まれます。

所有者名

情報を印刷するオブジェクトを所有するユーザー・プロファイルを指定します。

総称名 情報を印刷するオブジェクトを所有する総称ユーザー・プロファイルを指定します。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのユーザー・プロファイルを指定します。

トップ

オブジェクト (OBJ)

情報を印刷するオブジェクトの名前を指定します。

***ALL** 所有者(OWNERパラメーター)を指定した場合には、指定した所有者が所有するすべてのオブジェクトが含まれます。OWNER(*ALL)を指定した場合には、すべてのオブジェクトが報告書に含まれます。

*NONE

*NONEがオブジェクト(OBJ)パラメーターに指定され、*OWNが報告書のタイプ(RPTTYPE)・パラメーターに指定した場合には、詳細オブジェクト情報は報告書には含まれず、所有したオブジェクトの合計サイズだけが含まれます。

オブジェクト名

オブジェクト情報は、指定した名前で指定されたオブジェクトにのみ組み込まれます。所有者が指定されている(OWNERパラメーター)場合には、所有者基準と一致していて、指定した名前と一致しているオブジェクトだけが組み込まれます。

総称名 オブジェクト情報は、指定した総称名と一致するオブジェクトにのみ組み込まれます。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスク(*)は、有効な任意の文字と置き換えられます。総称名は、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。所有者が指定されている(OWNERパラメーター)場合には、所有者基準と一致していて、指定した総称名と一致しているオブジェクトだけが組み込まれます。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

情報を印刷するオブジェクト・タイプを指定します。OWNERまたはOBJパラメーターが*ALL以外の値で指定されていた場合には、所有者およびオブジェクト名の基準も一致しなければなりません。

単一値

***ALL** すべてのタイプのオブジェクトについての情報が印刷されます。

その他の値 (繰り返し60回まで)

オブジェクト・タイプ

指定したタイプのオブジェクトについての情報が印刷されます。

[トップ](#)

ディレクトリーのサブツリー (SUBTREE)

報告書中のサブディレクトリー統計を印刷するかどうかを指定します。

***ALL** ディレクトリー情報の検索(RTVDIRINF)コマンドで処理されたディレクトリー内のすべてのサブディレクトリーの統計が組み込まれます。

*NONE

ディレクトリー情報の検索(RTVDIRINF)コマンドで処理されたディレクトリー内のオブジェクトにのみ、統計が組み込まれます。

[トップ](#)

最小サイズ (MINSIZE)

組み込む最小オブジェクトのサイズを指定します。

0 サイズにかかわらず、すべてのオブジェクトが組み込まれます。

サイズ サイズをキロバイト数で指定します。

[トップ](#)

分類 (SORT)

情報の分類順序を指定します。

***SIZE** 情報は、オブジェクト・サイズ順に最大から最小へと分類されます。

*OWNER

所有者名のアルファベット順に情報が分類されます。

*LSTCHG

最終変更日によって情報が分類されます。最も古い情報が最初に示されます。

*NAME

情報は、オブジェクト名順に分類され、名前はアルファベット順にリストされます。

[トップ](#)

パス名の組み込み (INCPATH)

オブジェクトがあるパスを報告書が組み込むかどうかを指定します。オブジェクト(OBJ)パラメーターに*NONEを指定し、報告書のタイプ(RPTTYPE)パラメーターに*OWNを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

***ALL** パスが報告書に組み込まれます。

***NONE**

パスは報告書に組み込まれません。

トップ

PRTDIRINFの例

例1:所有者によってグループ化された最新のRTVDIRINFの情報の印刷

```
PRTDIRINF RPTTYPE(*OWN) INFFILEPFX(*LAST) INFLIB(*LAST)
          OWNER(*ALL) OBJ(*ALL) OBJTYPE(*ALL) SORT(*SIZE)
```

このコマンドは、ディレクトリー情報検索(RTVDIRINF)コマンドの最新の呼び出しで作成されたデータベース・ファイルから、所有者報告書を印刷します。報告書中の情報は、所有者によってグループ化されたすべてのオブジェクトに組み込まれます。この情報は、オブジェクト・サイズ順に分類され、印刷装置ファイルQPEZDIRに送られます。

例2:ディレクトリー報告書の印刷

```
PRTDIRINF RPTTYPE(*DIR) INFFILEPFX(MYROOTDIR)
          INFLIB(QUSRSYS) SUBTREE(*ALL)
```

このコマンドは、ディレクトリー情報検索(RTVDIRINF)コマンドの最新の呼び出しで作成されたデータベース・ファイルMYROOTDIROおよびMYROOTDIRDを印刷します。RTVDIRINFコマンドによってサブディレクトリーで情報が収集された場合には、その情報はディレクトリー報告書に組み込まれます。この情報は、印刷装置ファイルQPEZDIRに送られます。

トップ

エラー・メッセージ: PRTDIRINF

***ESCAPEメッセージ**

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF1ED2

ファイル&1は使用中で、アクセスできない。

CPF1ED5

ファイルの接頭部&1またはライブラリー&2がQAEZDBFILEで見つからない。

CPF1ED6

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF1ED9

検索されたディレクトリー情報が完全でない。

CPF1EEC

ファイル&1は認可されていない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

ディスク情報の印刷 (PRTDSKINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディスク情報印刷(PRTDSKINF)コマンドを使用して、ディスク情報検索(RTVDSKINF)コマンドによってデータベース・ファイルQAEZDISKまたはQAEZDNNNNNに保管されたディスク・スペース情報を印刷します。ここで「NNNNN」はディスク・スペース情報で検索した独立ASPのASP番号です。このコマンドを使用して、ファイル名QPEZDISKの出力がジョブと関連したスプール待ち行列に入れられます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RPTTYPE	報告書のタイプ	*LIB, *FLR, *OWN, *OBJ, *SYS	必須, 定位置 1
ASPDEV	ASP装置	名前, *SYSBAS	オプション
LIB	ライブラリー	総称名, 名前, *ALL	オプション
OWNER	所有者	総称名, 名前, *ALL	オプション
FLR	フォルダー	総称名, 名前, *ALL	オプション
DOC	文書	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
OBJ	オブジェクト	総称名, 名前, *ALL, *NONE	オプション
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	単一値: *ALL その他の値 (最大 60 回の繰り返し): *ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHTFMT, *CHRSF, *CLD, *CLS, *CMD, *C>NNL, *COSD, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DEACR, *DEADI, *DEADS, *DIR, *DIRCR, *DIRDS, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODL, *NWID, *NODGRP, *OOPOOL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMORY, *QRYDFN, *RCT, *SBSD, *SCHIDX, *SPADCT, *SQLPKG, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SOCKET, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	オプション
MINSIZE	最小サイズ	10 進数, 0	オプション
SORT	分類	*SIZE, *OWNER, *LSTCHG, *LSTUSE, *NAME	オプション

トップ

報告書のタイプ (RPTTYPE)

印刷する報告書のタイプを指定します。報告書情報はQAEZDISKまたはQAEZDNNNNNのメンバーQCURRENTから使用されます。ここで「NNNNN」は、ディスク・スペース情報で検索した独立ASPのASP番号です。QCURRENTにデータが入っていない場合には、エラー・メッセージが送られます。

これは必須パラメーターです。

制約事項:

- オプション*FLRをRPTTYPEパラメーターに指定する場合は、ASPDEVパラメーターに*SYSBASを指定する必要があります。フォルダーは補助記憶域プール(ASP)装置で使用できません。使用できるのは、システムASPおよび基本ASP上だけです。

***LIB** ファイルに入っているライブラリー情報の報告書が印刷されます。

***FLR** ファイルに入っているフォルダー情報の報告書が印刷されます。

***OWN** ファイルに入っているユーザー・プロファイル（所有者）情報の報告書が印刷されます。

***OBJ** ファイルに入っているオブジェクト情報の報告書が印刷されます。

***SYS** ファイルに入っているシステム情報のみの報告書が印刷されます。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

ディスク・スペース情報が印刷される補助記憶域プール(ASP)装置を指定します。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ASPのディスク情報が印刷されます。ライブラリーQUSRSYSのファイルQAEZDISKには、印刷するディスク・スペース情報が入っています。

名前 ディスク・スペース情報を印刷するASP装置の名前を指定してください。ライブラリーQUSRSYSのファイルQAEZDNNNNNには、印刷するディスク・スペース情報が入っています。ここで「NNNNN」は、指定ASP装置のASP番号です。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

情報を印刷するライブラリーの名前を指定します。

***ALL** 報告書はシステム上のすべてのユーザー・ライブラリーに関する情報をもっています。

名前 ユーザー・ライブラリーを指定してください。

総称名 総称ライブラリー名を指定してください。

[トップ](#)

所有者 (OWNER)

情報を印刷する所有者（ユーザー・プロファイル）の名前を指定します。

***ALL** 報告書には、システム上のすべてのユーザー・プロファイルに関する情報が入っています。

名前 ユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

総称名 総称ユーザー・プロファイル名を指定してください。

トップ

フォルダー (FLR)

情報を印刷するフォルダーの名前を指定します。

***ALL** 報告書はシステム上のすべてのユーザー・フォルダーに関する情報をもっています。

名前 フォルダー名を指定してください。

総称名 総称フォルダー名を指定してください。

トップ

文書 (DOC)

情報を印刷する文書の名前を指定します。

***ALL** 報告書には、指定されたフォルダー中のすべての文書に関する情報が入っています。

名前 指定されたフォルダー内の名によって文書を指定してください。

総称名 総称修飾によって指定された文書を指定してください。

トップ

オブジェクト (OBJ)

情報を印刷するオブジェクトの名前を指定します。

***ALL** ライブラリーまたは所有者を指定した場合には、オブジェクト情報はそのライブラリー内のすべてのオブジェクトまたは所有者によって制御されるオブジェクトになります。

***NONE**

ライブラリーも所有者も指定されていません。

名前 ライブラリーまたは所有者を指定してください。オブジェクト情報はライブラリー内の名によって指定されたオブジェクトまたは所有者によって制御されるオブジェクトになります。

総称名 ライブラリーまたは所有者を指定してください。オブジェクト情報はライブラリー内の指定された総称修飾を満たすオブジェクトまたは所有者によって制御されるオブジェクトになります。

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

情報を印刷するオブジェクト・タイプを指定します。

単一値

***ALL** ライブラリーまたは所有者を指定すると、ライブラリー内にあるすべての指定オブジェクト・タイプまたは所有者によって制御されるすべての指定オブジェクト・タイプに関する情報が印刷されます。オブジェクト名を指定すると、その名前のすべてのオブジェクト・タイプ、ライブラリー内にあるすべてのオブジェクト・タイプ、または所有者によって制御されるすべてのオブジェクト・タイプに関する情報が印刷されます。ライブラリーも所有者も指定しないと、報告書にはシステム上のすべてのオブジェクト・タイプに関する情報が入ります。オブジェクト名を指定すると、その名前のオブジェクト・タイプに関する情報だけが印刷されます。

その他の値（繰り返し60回まで）

オブジェクト・タイプ

ライブラリーまたは所有者を指定してください。オブジェクト・タイプ情報はライブラリー内に指定されたオブジェクト・タイプまたは所有者によって制御されるオブジェクト・タイプになります。オブジェクトが指定された場合には、報告書はライブラリー内の指定されたオブジェクト・タイプまたは所有者によって制御されるオブジェクト・タイプのオブジェクトに関する情報を持ちます。

[トップ](#)

最小サイズ (MINSIZE)

組み込む最小情報のサイズを指定します。たとえば、オブジェクトを除外したライブラリー報告書を要求した場合には、このサイズは組み込む最小ライブラリーのサイズになります。ライブラリー内のオブジェクトを要求した場合には、このサイズは組み込むライブラリー内の最小オブジェクトのサイズになります。

0 サイズにかかわらず、すべてのオブジェクトが組み込まれます。

サイズ サイズを千バイト単位で指定してください。

[トップ](#)

分類 (SORT)

情報の分類順序を指定します。

***SIZE** サイズの大きいものから小さいものの順に情報が分類されます。

*OWNER

所有者名のアルファベット順に情報が分類されます。

*LSTCHG

最終変更日によって情報が分類されます。最も古い情報が最初に示されます。

*LSTUSE

最終使用日によって情報が分類されます。最も古い情報が最初に示されます。

*NAME

報告書タイプにしたがってアルファベット順に情報が分類されます。

[トップ](#)

PRTDSKINFの例

```
PRTDSKINF ASPDEV(*SYSBAS) RPTTYPE(*LIB) LIB(*ALL) OBJ(*ALL)
          SORT(*SIZE)
```

このコマンドは、メンバーQCURRENTのライブラリーQUSRSYS中のデータベース・ファイルQAEZDISKからのライブラリー報告書を印刷し、これにはこのライブラリー中のすべてのライブラリー、オブジェクト、およびオブジェクト・タイプについての情報が含まれています。この情報はサイズ順に分類され、印刷装置ファイルQPEZDISKに送られます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTDSKINF

*ESCAPEメッセージ

CPF1ED0

ディスク・スペース情報の現行の収集が見つからなかった。

CPF1ED1

ディスク・スペース情報の収集は認可されていない。

CPF1ED2

ファイル&1は使用中で、アクセスできない。

CPF1EEC

ファイル&1は認可されていない。

CPF1E99

予期しないエラーが起こった。

[トップ](#)

エラー・ログ印刷 (PRTERRLOG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エラー・ログ印刷(PRTERRLOG)コマンドは、主に問題分析処理に使用されます。このコマンドは、マシン・エラー・ログ中のデータの定様式印刷装置ファイルを、QPCSMPT という名前のスプール印刷装置ファイルまたは指定された出力ファイルに入れます。

制約事項:

- 次のユーザー・プロファイルはコマンドを使用するための私用認可を受けています。
 - QPGMR
 - QSYSOPR
 - QSRV
 - QSRVBAS

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	リストするログ・データのタイプ	*ALL, *ALLSUM, *ANZLOG, *MCH, *DEV, *ERRLOGID, *VOLSTAT	オプション, 位置 1
DEV	論理装置	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	オプション
RSRCNAME	資源名	値 (最大 10 回の繰り返し): 名前	オプション
ERRLOGID	エラー・ログ識別コード	値 (最大 10 回の繰り返し): 16 進値	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *OUTFILE	オプション
PERIOD	ログ出力の期間	要素リスト	オプション
	要素 1:	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *CURRENT	
	要素 2:	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日付	日付, *CURRENT	
PRTFMT	印刷形式	*CHAR, *HEX	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	
VOLTYPE	ボリューム・タイプ	文字値	オプション
MODEL	型式番号	文字値	オプション
VOL	ボリューム	単一値: <u>*ALL</u> その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値	オプション
VOLSTAT	ボリューム統計データ	<u>*KEEP</u> , *DLT	オプション
VOLSTATTYP	ボリューム統計タイプ	<u>*LIFETIME</u> , *SESSION	オプション
SELECT	選択するエラー・ログ項目	<u>*ALL</u> , *PRC, *MEDIA, *LWS, *CMN, *PWR, *LPP, *LIC	オプション
SORT	ソート方法	<u>*DATETIME</u> , *TIME, *DEVADR, *ERRTYPE, *RSRCNAME	オプション

トップ

リストするログ・データのタイプ (TYPE)

マシン・エラー・ログのどのタイプのエラー・ログ・データをスプール印刷装置ファイルに印刷するかを指定します。

***ALL** マシン・エラー・ログのすべてのエラー・コードを印刷します。さらに、各サブシステム（たとえば、ディスク装置、印刷装置）のエラー・コードを要約形式で印刷します。

*ALLSUM

エラー・ログのすべてのデータを要約形式で印刷します。

*ANZLOG

エラー・ログ中の各項目について1行の要約が作成されます。

***MCH** マシン・チェックによって生成されたエラー・データだけを印刷します。

***DEV** 次のパラメーターに指定された装置によって作成されたエラー・データだけが印刷されます。

- 論理装置 (**DEV**)パラメーター
- 資源名 (**RSRCNAME**)パラメーター

*ERRLOGID

指定されたエラー・ログ・レコードのエラー・データだけを印刷します。***ERRLOGID**を指定できるのは、エラー・ログ識別コード (**ERRLOGID**)パラメーターも指定された場合だけです。その他の要求タイプでは、無視されます。

*VOLSTAT

テープまたはディスクのボリューム統計データ・レコードだけを印刷します。

注: 出力 (**OUTPUT**)パラメーターに***PRINT**が指定され、このパラメーターに***VOLSTAT**が指定された場合には、存続時間統計が印刷されます。**OUTPUT**パラメーターに***OUTFILE**が指定されて、このパラメーターに***VOLSTAT**が指定された場合には、セッション統計は出力ファイルに送信されます。ボリュームの名前が*****と報告された場合には、このボリュームが表示可能でないことを意味します。

論理装置 (DEV)

エラー・ログ・データを印刷したい、その装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、**リストするログ・データのタイプ (TYPE)**パラメーターに*DEVが指定された場合だけです。**資源名 (RSRCNAME)**パラメーターに値を指定した場合は、このパラメーターを指定することはできません。

単一値

***ALL** すべての装置名のエラー・ログ・データを印刷します。

その他の値

名前 エラー・ログ・データを印刷したい1つまたは複数の装置名を指定します。最高10個の装置名を指定することができます。

トップ

資源名 (RSRCNAME)

エラー・ログ項目が印刷される、その資源名を指定します。このパラメーターが有効なのは、**リストするログ・データのタイプ (TYPE)**パラメーターに*DEVが指定された場合だけです。**論理装置 (DEV)**パラメーターに値を指定した場合は、このパラメーターを指定することはできません。

名前 エラー・ログ・データを印刷したい、1つまたは複数の装置名を指定します。最大10個の資源名を指定することができます。

注: 記憶域制御装置の入出力プロセッサ(IOP)を資源名として指定した場合には、その資源についてエラー・ログ項目は印刷されません。

トップ

エラー・ログ識別コード (ERRLOGID)

指定されたエラー・ログ識別コードをもつエラー・ログ項目を印刷することを指定します。このパラメーターが有効なのは、**リストするログ・データのタイプ (TYPE)**パラメーターに*ERRLOGIDが指定された場合だけです。最大10個のエラー・ログ識別コードを指定することができます。

16進値

印刷したいエラー・ログ項目のエラー・ログIDを指定します。

トップ

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力をジョブのプール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルへ送るかを指定します。

*PRINT

出力はジョブのプール出力で印刷されます。

*OUTFILE

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

トップ

ログ出力の期間 (PERIOD)

エラー・ログ・データを印刷する期間を指定します。このパラメーターには、次の値をコーディングすることができ、それぞれ2つの値をもつ2組が入っています。

注: TYPE(*VOLSTAT)およびVOLSTATTYP(*LIFETIME)が指定された時には、このパラメーターは無効です。

要素1:

要素1: 開始時刻

*AVAIL

指定された開始日または終了日に使用可能なエラー・データが印刷されます。

時刻 エラー・データの印刷に指定された開始日の開始時刻を指定してください。この時刻は、次のように、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定されます。

- 時刻区切り記号付きの場合には、5桁または8桁のストリングで指定してください。ジョブの時刻区切り記号で時、分、秒を区切ります。このコマンドをコマンド入力行から出す場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号が使用された場合には、コマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号なしの場合には、4桁または6桁(HHMMまたはHHMMSS)のストリングを指定してください。ここで、**HH**=時間、**MM**=分、および**SS**=秒です。**HH**に有効な値の範囲は00 - 23です。**MM**および**SS**に有効な値の範囲は00 - 59です。

要素2: 開始日付

*CURRENT

現行の日付で、指定された開始時刻と終了時刻（指定された場合）に使用可能なエラー・データが印刷されます。

日付 エラー・データを印刷する開始日を指定してください。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

要素2:

要素1: 終了時刻

***AVAIL**

指定された開始日または終了日に使用可能なエラー・データが印刷されます。

時刻 エラー・データの印刷に指定された終了日の終了時刻を指定してください。時刻の指定方法の詳細については、このパラメーターの**開始時刻**の説明を参照してください。

要素2: 終了日付

***CURRENT**

現行の日付で、指定された開始時刻と終了時刻（指定された場合）に使用可能なエラー・データが印刷されます。

日付 エラー・データを印刷する終了日を指定してください。この日付はジョブ日付形式で指定しなければなりません。

トップ

印刷形式 (PRTFMTパラメーター)

指示された報告書に16進データを文字形式で印刷するかどうかを指定します。***VOLSTAT**が **リストするログ・データのタイプ (TYPE)**パラメーターに指定された場合、あるいは**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに値が指定された場合には、このパラメーターを指定することはできません。

***CHAR**

16進データを文字データとして印刷するよう形式設定されます。

***HEX** 形式設定は行なわれません。16進データは16進データとして印刷されます。

トップ

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、**ライブラリー記述表示(DSPLIBD)**コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが出力を受け取るファイル (OUTFILE)パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

[トップ](#)

ボリューム・タイプ (VOLTYPE)

指定のボリューム識別コードのボリューム・タイプを指定します。有効な項目は、カートリッジ・テープ、リール・テープ、またはディスクットの4桁の装置タイプ番号です。このパラメーターは、指定されたテープ装置と同じ技術を使用しているすべてのボリュームについての情報を戻します。たとえば、このパラメーターに指定された値が6380である場合には、システム上のすべての1/4インチ・テープ・カートリッジについての情報が戻されます。

文字値 ボリューム・タイプを指定します。

[トップ](#)

型式番号 (MODEL)

指定のモデル・タイプの型式番号を指定します。装置タイプが9331であり、TYPE(*VOLSTAT)が指定された場合には、このパラメーターは必須です。

文字値 型式番号を指定します。

トップ

ボリューム (VOL)

処理したい統計のボリュームの名前を指定します。

単一値

***ALL** すべてのボリュームについてボリューム統計処理を行ないます。

その他の値

文字値 統計を処理するボリュームの名前を指定します。最大10のボリューム名を指定することができます。

トップ

ボリューム統計データ (VOLSTAT)

ボリューム統計データ・レコードの印刷の後に、これをマシン・エラー・ログに保管または削除するかを指定します。このパラメーターが有効なのは、**データのタイプ (TYPE)**パラメーターに*VOLSTATが指定された場合だけです。

注: テープ操作の完了時にボリューム統計を生成するためには、SAVE操作の実行時にENDOPT(*UNLOAD)を指定しなければなりません。

***KEEP**

ボリューム統計データ・レコードの印刷の後に、これをエラー・ログに保管します。

***DLT** 印刷後に活動状態でないボリュームのエラー・ログからボリューム統計データ・レコードが削除されます。

注:

1. **出力 (OUTPUT)**パラメーターに*OUTFILEを指定した場合には、このパラメーターに*DLTを指定することはできません。
2. VOLSTAT(*DLT)が指定されている時のこのコマンドの実行に要する時間は、削除するボリュームIDの数によって異なります。

トップ

ボリューム統計タイプ (VOLSTATTYP)

出力ファイルに印刷または送付されるボリューム統計のタイプを指定します。このパラメーターが有効となるのは、**リストするログ・データのタイプ (TYPE)**パラメーターに*VOLSTATが指定された場合だけです。

***LIFETIME**

存続時間の統計が印刷されます。出力ファイルに存続時間の統計を入れることはできません。

*SESSION

セッション統計は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターに指定された出力ファイルに送信されます。セッション統計を印刷することはできません。

[トップ](#)

選択するエラー・ログ項目 (SELECT)

報告書に含められるエラー・ログ項目のタイプを指定します。

***ALL** すべてのエラー・ログ項目が報告書に含まれます。

***PRC** 処理プログラム・エラー・ログ項目が報告書に含まれます。

*MEDIA

ディスク装置、テープ装置、およびディスク装置のエラー・ログ項目が報告書に含まれます。

***LWS** ローカル・ワークステーションのエラー・ログ項目が報告書に含まれます。

***CMN** 通信エラー・ログ項目が報告書に含まれます。これには、通信入出力プロセッサ、入出力アダプター、ポート、回線、制御装置と、SDLC, ASYNC, BSC, X.25, IDLC, ISDN,およびローカル・エリア・ネットワーク回線プロトコルによって接続された装置の項目が含まれます。

***PWR** システム電源制御ネットワーク(SPCN)のエラー・ログ項目が報告書に含まれます。

***LPP** ライセンス・プログラムのエラー・ログ項目が報告書に含まれます。

***LIC** ライセンス内部コードのエラー・ログ項目が報告書に含まれます。

[トップ](#)

ソート方法 (SORT)

項目が報告書に現れる順序を指定します。

*DATETIME

項目は日付と時刻によって分類されます。要約項目は各日付についてです。

***TIME** 項目は時刻だけで分類されます。要約項目は各時間についてです。

*DEVADR

項目は装置のアドレスによって分類されます。要約項目は、アドレスの最初の2桁が同じか、アドレスの最初の4桁が同じか、あるいはアドレスの最初の8桁が同じである3つのレベルに分割されます。

*ERRTYPE

項目は、エラー・タイプの重大度によって分類されます。エラー・タイプがより重大な項目がリストの最上部に報告されます。要約項目は、エラー・タイプが共通なものと、エラー・タイプが共通でシステム参照コードを持つもの2つのレベルに分割されます。

*RSRCNAME

項目は、装置の資源名によって分類されます。

[トップ](#)

PRTERRLOGの例

例1:エラー・ログ・データを印刷する

```
PRTERRLOG
```

このコマンドは、すべての装置タイプに対して起こったマシン・エラー・ログのエラー・データを入力し、それをスプール・ファイルに書き込みます。エラー・ログ全体が印刷されて、16進データは文字フォーマットになります。

例2:システム・リソース管理者データベースを使用する

```
PRTERRLOG TYPE(*DEV) RSRCTYPE(TAPE000001) PRTFMT(*HEX)
```

このコマンドは、リソースTAPE000001の装置タイプ、モデル、およびシリアル番号を判別するためにシステム・リソース管理者データベースを使用します。印刷要求はその情報に基づいています。レポートはスプールに書き込まれ、その装置タイプ、モデル、およびシリアル番号に適するすべてのレコードが入っています。ファイル中の16進データは16進形式に変換されます。

例3:エラー・ログ項目を処理する

```
PRTERRLOG TYPE(*DEV) DEV(DISKLU1) OUTPUT(*OUTFILE)
          OUTFILE(MYLIB/MYDBD) OUTMBR(ELOG)
```

このコマンドは、論理装置DISKLU1のすべてのエラー・ログ項目を処理します。ライブラリーMYLIB中にあるファイルMYDBDと、メンバーELOGに書き込まれます。スプール・ファイルは作成されません。

トップ

エラー・メッセージ： PRTERRLOG

*ESCAPE メッセージ

CPD36CA

OUTPUT(*OUTFILE)はDEV(*ALL)と一緒に指定できない。

CPD36C2

DEVとRSRCNAMEと一緒に使用することはできない。

CPD36C3

TYPE(*VOLSTAT)と一緒にPRTFMTパラメーターを使用することはできない。

CPD36C4

PRTFMTパラメーターと一緒にOUTFILEを使用することはできない。

CPD36C5

RSRCNAMEパラメーターはTYPE(*DEV)パラメーターの場合にしか使用することができない。

CPD36C7

ERRLOGIDはTYPE(*ERRLOGID)の場合にだけ有効である。

CPD36C9

指定したTYPEおよびVOLSTATTYPの場合にはPERIODは正しくない。

CPF3535

エラー・ログを印刷に使用することができない。

CPF3541

エラー・ログ項目が見つからなかった。

CPF3593

PERIODパラメーターの開始時刻が終了時刻を超えている。

CPF3693

エラーが起こったので保守機能は終了した。

CPI36CA

資源名&1が見つからない。

CPI36CC

&1 &2の場合にはエラー・ログ記入項目が見つからなかった。

[トップ](#)

内部データ印刷 (PRTINTDTA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

内部データ印刷(PRTINTDTA)コマンドは主に問題分析の処理で使用されます。このコマンドはマシン内部データをスプール印刷装置ファイルに書き込みます。そのデータはシステムの保守に使用されます。

制約事項:

- このコマンドは、共通の*EXCLUDE権限で出荷され、ユーザー・プロファイルQPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASは、このコマンドを使用する私用認可をもっています。
- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス・ダンプ機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_DUMPの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、ダンプ操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- コマンドは、印刷中の内部データをもつジョブ内から出さなければならず、あるいはコマンド発行側は、印刷中の内部データをもつジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。そうでない場合には、コマンド発行側は、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、実行管理機能の手引きに詳細な説明があります。
- このコマンドは、ISERIESサービス担当者の指示でのみ使用されるものです。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	データのタイプ	*DMP, *INTCFG, *NOTES, *JOB, *TASK	必須, 定位置 1
DMPID	ダンプ識別コード	文字値, *NONE, *ALL	オプション
PERIOD	内部データの期間	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 開始時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 開始日付	日付, *CURRENT	
	要素 2: 終了時刻および日付	要素リスト	
	要素 1: 終了時刻	時刻, *AVAIL	
	要素 2: 終了日付	日付, *CURRENT	
JOB	ジョブ名	単一値: *, *SVRTYPE その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	

キーワード	記述	選択項目	注
SLTTHD	組み込むスレッドID	単一値: *ALL , *SELECT その他の値 (最大 20 回の繰り返し): 16 進値	オプション
TASK	タスク名	単一値: *NONE , *SVRTYPE その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション
SVRTYPE	サーバー・タイプ	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 総称名, 名前	オプション

トップ

データのタイプ (TYPE)

印刷するデータのタイプを指定します。

これは必須パラメーターです。

DMP** 印刷するデータは、前に出されたジョブ内部事象ダンプ(DMPJOBINT)コマンドによってダンプされているか、あるいは入出力装置エラーまたはオブジェクト損傷の処理中にマシンによってダンプされています。データのダンプ識別コードまたはALL**は、**ダンプ識別コード (DMPID)**パラメーターに指定しなければなりません。

*INTCFG

マシン内部構成および資源情報を印刷します。

*NOTES

内部データの期間 (PERIOD)パラメーターで指定された期間について、マシン内部データのメモ部分を印刷します。

***JOB** 印刷されるデータは、JOBパラメーターに指定されたジョブに関するものです。

*TASK

印刷されるデータは、TASKパラメーターに指定されたライセンス内部コード(LIC)タスクに関するものです。

トップ

ダンプ識別コード (DMPID)

内部ダンプの場合にのみ、印刷されるマシン内部データに関連したダンプ識別コードを指定します。

***DMP**が**データのタイプ (TYPE)**パラメーターに指定された場合にかぎり、このパラメーターを指定する必要があります。そうでない場合には、これは無視されます。

*NONE

ダンプ識別コードは指定されません。

***ALL** **内部データの期間 (PERIOD)**パラメーターで指定された期間について、マシン内部データのダンプ部分を印刷します。

文字値 印刷されるダンプ出力のダンプ識別コードを指定してください。指定する識別コードは8文字の長さでなければなりません。

トップ

内部データの期間 (PERIOD)

印刷するマシン内部データのメモ部分またはダンプ部分の期間を指定します。このパラメーターが有効となるのは、*NOTESがデータのタイプ (TYPE)パラメーターに指定された場合、あるいは*DMPがTYPEパラメーターに指定されて、*ALLがダンプ識別コード (DMPID)パラメーターに指定された場合だけです。そうでない場合には、これは無視されます。

要素1: 開始時刻および日付

要素1: 開始時刻

*AVAIL

開始日から終了日まで（または現行の日付のみ）について使用可能なメモまたはダンプ・データが印刷されます。

時刻 メモまたはダンプ・データの印刷に指定された開始日の開始時刻を指定してください。時刻は、時刻区切り記号つきまたはなしで指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4桁または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ジョブで指定した時刻区切り記号を時、分、および秒の区切りに使用して、5桁または8桁のストリングを指定します。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

要素2: 開始日付

*CURRENT

現行の日付で、指定された開始と終了時刻（指定されている場合）の間に使用可能なメモまたはダンプ・データを印刷します。

日付 メモまたはダンプ・データを印刷したい開始日を指定してください。ジョブ日付の形式を使用する必要があります。

要素2: 終了時刻および日付

要素1: 終了時刻

*AVAIL

開始日から終了日まで（または現行の日付のみ）に使用可能なメモまたはダンプ・データが印刷されます。

時刻 メモまたはダンプ・データの印刷に指定された終了日の終了時刻を指定してください。時刻の指定方法の詳細については、このパラメーターの**開始時刻**の説明を参照してください。

要素2: 終了日付

***CURRENT**

現行の日付で、指定された開始時刻から終了時刻（指定されている場合）の間に使用可能なメモまたはダンプ・データが印刷されます。

日付 メモまたはダンプ・データを印刷したい終了日を指定してください。システム日付の形式を使用する必要があります。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

データがダンプされるジョブの修飾名を指定します。***JOB**が**データのタイプ (TYPE)**パラメーターに指定された場合にかぎり、このパラメーターを指定する必要があります。そうでない場合には、これは無視されます。

単一値

***** このコマンドを出したジョブが、ダンプされるジョブです。

***SVRTYPE**

そのサーバー・タイプが**サーバー・タイプ (SVRTYPE)**パラメーターに指定されたサーバー・タイプ属性と一致する、そのすべてのジョブがダンプされます。

修飾子1: ジョブ名

名前 ダンプされるジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが実行されたユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

ダンプされるジョブのシステム割り当てジョブ番号を指定します。

[トップ](#)

組み込むスレッドID (SLTTHD)

情報を組み込みたい最高20個までのスレッドのリストを指定します。***JOB**が**データのタイプ (TYPE)**パラメーターに指定された場合にかぎり、このパラメーターを指定する必要があります。そうでない場合には、これは無視されます。

単一値

***ALL** すべてのスレッドがダンプされます。

***SELECT**

組み込みたい最高20までを選択することができるスレッド識別コードのリストが表示されます。

*SELECTは、PRTINTDTAコマンドが対話式セッションで実行される場合にのみ有効です。そうでない場合には、エラー・メッセージが送られます。

その他の値

スレッド識別コード

情報を組み込みたい最高20までのスレッドの識別コードを指定してください。スレッドIDは、8桁の16進数の文字列です。

トップ

タスク名 (TASK)

ダンプするライセンス内部コード(LIC)タスクを指定します。*TASKが**データのタイプ (TYPE)**パラメーターに指定された場合にかぎり、このパラメーターを指定する必要があります。そうでない場合には、これは無視されます。

単一値

*NONE

タスクはダンプされません。

*SVRTYPE

そのサーバー・タイプが**サーバー・タイプ (SVRTYPE)**パラメーターに指定されたサーバー・タイプ属性と一致する、そのすべてのタスクがダンプされます。

その他の値

総称名 レコードがダンプされる、そのLICタスクの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後のアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば、ABC*)です。

アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称タスク名は、総称接頭部で始まるタスク名をもつすべてのタスクを指定します。

名前 レコードがダンプされる、そのLICタスクの名前を指定します。最大10のLICタスク名を指定できます。

トップ

サーバー・タイプ (SVRTYPE)

ダンプするジョブまたはタスクを識別するためのサーバー・タイプ属性を指定します。*SVRTYPEが**ジョブ名 (JOB)**パラメーターに指定された場合、あるいは *SVRTYPEが**タスク名 (TASK)**パラメーターに指定された場合にかぎり、このパラメーターを指定する必要があります。そうでない場合には、これは無視されます。そのサーバー・タイプがこの値と一致する、そのすべてのジョブまたはタスクがダンプされます。可能なサーバー・タイプのリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「実行管理機能」情報を参照してください。

単一値

*NONE

サーバー・タイプはダンプされません。

その他の値

総称名 ダンプするタスクまたはジョブを識別するために使用する総称サーバー・タイプを指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。

アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。そのサーバー・タイプが指定された総称接頭部と一致する、そのすべてのジョブまたはタスクがダンプされます。

名前 ダンプするタスクまたはジョブを識別するために使用するサーバー・タイプを指定します。サーバー・タイプ (最大5まで) のリストを指定することができます。

[トップ](#)

PRTINTDTAの例

例1:ダンプIDによってダンプする

```
PRTINTDTA TYPE(*DMP) DMPID(0102FA3C)
```

このコマンドは、ジョブIDが0102FA3Cのジョブ内部ダンプ出力を印刷します。

例2:ジョブIDによってダンプする

```
PRTINTDTA TYPE(*JOB) JOB(201230/ALMATM/QPADEV0008)
          SLTTHD(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのスレッド情報を含む選択済みジョブのジョブ内部ダンプ出力を印刷します。

例3:タスク名によってダンプする

```
PRTINTDTA TYPE(*TASK) TASK(MSCP)
```

このコマンドは、タスクMSCPのダンプ出力を印刷します。

例4:サーバー・タイプの指定によってジョブをダンプする

```
PRTINTDTA TYPE(*JOB) JOB(*SVRTYPE) SVRTYPE(QIBM_FTP)
```

このコマンドは、QIBM_FTPに対してサーバー・タイプ・セットをもつジョブのダンプ出力を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTINTDTA

*ESCAPE メッセージ

CPF3517

組み込むスレッドIDに対して*SELECTを指定することはできない。

CPF3519

保守機能を開始することができない。

CPF6801

ユーザーが&1キーを押して、コマンド・プロンプトを終了した。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

[トップ](#)

SNAを介したIPの印刷 (PRTIPSCFG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNA構成を経由するIPの印刷(PRTIPSCFG)コマンドは、SNA構成を経由する現行のAF_INETソケットについての情報を印刷します。このCLコマンドによって作成されるスプール・ファイルはQSYSPRTです。このファイルはジョブの省略時の出力待ち行列に送られます。スプール・ファイルのユーザー・データ値はPRTIPSCFGです。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

PRTIPSCFGの例

PRTIPSCFG

このコマンドは、SNA構成データ上の現行AF_INETソケットを印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTIPSCFG

***ESCAPE** メッセージ

CPFA116

&1構成が印刷されなかった。

[トップ](#)

JOB権限の印刷 (PRTJOBDAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ記述権限印刷(PRTJOBDAUT)コマンドによって、*EXCLUDEの共通認可を持たないで、ユーザー名がジョブ記述に指定されているライブラリー中のジョブ記述の報告書を印刷することができます。これは、ユーザーが別のユーザー・プロファイルとして実行できるように、システム上のすべてのユーザーが使用することを許可されているジョブ記述を検査する方法の1つです。

このコマンドは、ライブラリーについて2つの報告書を印刷します。最初の報告書（全報告書）には、*EXCLUDEの共通認可を持たないで、ユーザー名が指定されているすべてのジョブ記述が入れます。2番目の報告書（変更報告書）には、この時点で*EXCLUDEの共通認可を持っていないか、あるいはユーザー名が指定されていて、*EXCLUDEの共通認可を持っていたか、ユーザー名が指定されていなかったか、またはライブラリーに対して前にPRTJOBDAUTコマンドが実行された時に存在していなかったジョブ記述が入れます。ライブラリーに対して前にPRTJOBDAUTコマンドを実行していない場合には、「変更報告書」はありません。ライブラリーに対して前にこのコマンドを実行しているが、追加のジョブ記述に*EXCLUDEの共通認可および指定されたユーザー名がない場合には、「変更報告書」は印刷されますが、ジョブ記述はリストされません。ユーザー・プロファイル特殊権限に対して変更されても、「変更報告書」は生成されません。

報告書には、次の情報が入れます。

- このコマンドに指定したライブラリーの名前
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(変更報告書にだけ示される)。
- *EXCLUDEの*PUBLIC権限を持たない、ユーザー名が指定された各ジョブ記述の項目。各項目には、次の情報が入っています。
 - そのジョブ記述が入っているライブラリーの名前
 - ジョブ記述の名前
 - ジョブ記述の所有者
 - ジョブ記述に指定されたユーザー・プロファイルの名前
 - ユーザー・プロファイルと関連した特殊権限。表示される特殊権限は、そのジョブ記述の使用時に使用可能となるすべての特殊権限です。表示される特殊権限は、ユーザーが所有する権限と、そのユーザーのグループ・プロファイル(そのユーザーにグループがある場合)が所有する特殊権限をプラスしたものです。

ライブラリーQUSRSYSのファイルQSECJBDOLDには、そのライブラリーに対してPRTJOBDAUTコマンドを最後に実行した時以降の情報が入っています。このコマンドに前に指定した各ライブラリーについて、そのライブラリーと同じ名前のメンバーがファイル中にあります。ライブラリー名に対して特殊値(たとえば、*USRLIBL)が指定された場合には、'*'はそのメンバー名の'Q'と置き換えられます。QSYDSAUTの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQAOBJAUTはQSECJBDOLDファイルのモデル・ファイルです。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *ALLAVL, *ALLUSRAVL	必須, 定位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	*NO, *YES	オプション, 定位置 2

ライブラリー (LIB)

これは必須パラメーターです。

*EXCLUDEでない共通認可を持ち、ユーザー名が指定されたジョブ記述を検索するライブラリーの名前。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字Qで始まる名前をもつ次のライブラリーはIBMによって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

QDSNX	QRCLXXXX	QUSRIJS	QUSRVXRXXM
QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR	
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES	
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND	
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS	
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA	
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR	
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS	
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS	
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI	

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMユーザー・ライブラリーのVXRXXMは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPのすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSRAVL

使用可能なすべてのASPのすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。ユーザー・ライブラリーの定義については、*ALLUSRを参照してください。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前。

トップ

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

トップ

PRTJOBDAUTの例

PRTJOBDAUT LIB(QGPL)

このコマンドは、ライブラリーQGPL中のジョブ記述について全報告書と変更報告書の両方を印刷します。

トップ

エラー・メッセージ： PRTJOBDAUT

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

CPFB307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

[トップ](#)

プロファイル内部の印刷 (PRTPRFINT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

プロファイル内部印刷(PRTPRFINT)コマンドによって、ユーザー・プロファイル(*USRPRF)オブジェクトに入っている項目数に関する情報を含む報告書を印刷することができます。ユーザー・プロファイルの項目数はユーザー・プロファイルのサイズを決定します。

ユーザー・プロファイルでは、次の4つのタイプの項目を検出することができます。

所有されるオブジェクト

ユーザー・プロファイルが所有するすべてのオブジェクトには、そのユーザーのプロファイル(*USRPRF)に「所有されるオブジェクト」の項目があります。

私用認可

ユーザーが認可されるすべての私用認可には、そのユーザーのプロファイル(*USRPRF)に「私用認可」の項目があります。

認可されたオブジェクト

プロファイルが所有するオブジェクトに対して私用認可が認可されるすべてのユーザーには、そのオブジェクト所有者のプロファイル(*USRPRF)に「認可されたオブジェクト」の項目があります。

基本グループ権限

ユーザーが基本グループになっているすべてのオブジェクトには、そのユーザーのプロファイル(*USRPRF)に「基本グループ」の項目があります。

ユーザー・プロファイルの各項目によって、そのユーザー・プロファイル(*USRPRF)が拡大することになります。すべての項目の組み合わせにより、ユーザー・プロファイルのサイズが判別されます。ユーザー・プロファイル(*USRPRF)には約500万個の項目を入れることができます。

また、ユーザー・プロファイルがどの程度「フル」であるかを判別する時に、その項目の合計数を考えてみることもできます。このコマンドによって生成された報告書は、(プロファイルの実際の項目数を示すのではなく)パーセンテージを示すことによって、そのユーザー・プロファイルの「フル」の程度を示します。たとえば、ユーザー・プロファイルCJWのパーセンテージ75%が報告書に示された場合には、これは、CJWプロファイルが75%の「フル」であることを意味します。報告書には、*USRPRFの4つのタイプの各項目についてもパーセンテージが示されます。たとえば、報告書には、CJWのプロファイルが75%の「フル」であり、これが50%の所有されるオブジェクトの項目と、5%の私用認可の項目と、20%の許可されるオブジェクトの項目と、0%の基本グループの項目から構成される、などと示されます。注: この報告書では、丸めが行われるために、プロファイルの合計パーセンテージ・フルが100%を超えることがあります。

この報告書の実行は、すべてのユーザー・プロファイルについて、プロファイルのサブセットについて、あるいは少なくとも指定されたパーセンテージの「フル」の特定のプロファイルかまたはそのすべてのプロファイルについて選択することができます。たとえば、CJWプロファイルの報告書を実行するか、あるいは少なくとも99.90%の「フル」のすべてのプロファイルについて実行することができます。

V4R4M0では、ユーザー・プロファイルのサイズは大幅に増加されていました。サイズが大きいため、前のリリースでフル、または、ほぼフルとしてこの報告書に示されたプロファイルは、ここでは、0 %フルとして示されます。

プロファイルがフルになるのを回避するための推奨事項:

- 1つのプロファイルがユーザー・システム上のすべてものを所有しないようにしてください。たとえば、各アプリケーションはそれ自身のプロファイルを所有するようにしてください。
- ユーザー・アプリケーションの所有者として、IBM提供のプロファイル(QSECOFR およびQPGMRなど)を使用しないでください。IBMからの出荷時に、これらはすでに多くのオブジェクトを所有していて、さらにユーザー(非IBM)オブジェクトを所有すると、満杯になる可能性があります。
- 複数のユーザーに対して、多くのオブジェクトへの私用認可を認可している場合には、オブジェクトの機密保護をはかるために、権限リストの使用を考慮する必要があります。権限リストによって、各オブジェクトに対して1つの私用認可の項目を持たせるのではなく、ユーザーのプロファイルの権限リストに1つの私用認可項目を持たせることとなります。オブジェクト所有者のプロファイルでは、権限リストによって、すべてのオブジェクトに1つの認可されたオブジェクトの項目と、私用認可が認可されたユーザー数を乗算するのではなく、すべてのユーザー認可権限の1つの認可されたオブジェクト項目を権限リストに持つこととなります。

ファイルに対して私用認可を認可する場合には、権限リストは特に有用です。ファイルは複合オブジェクトです。複合オブジェクトでは、それぞれのオブジェクトに1つの項目があります。たとえば、ファイル所有者のプロファイルでは、それぞれ1つのファイルに所有権項目があり、各メンバーに1つまたは2つの項目が含まれています。(物理ファイルは、メンバーごとに2項目を持っています。)10人のユーザーに対して私用認可を認可し、そのファイルの50のメンバーがある場合には、そのファイル所有者のプロファイルには、100の認可されたオブジェクトの項目が存在する結果となります。権限リストによって、所有権項目数は同じままですが、認可されるオブジェクト項目数は、ファイルを機密保護する権限リストに対する各ユーザーの認可される権限の1つに減ります。

では、どの時点で関与すべきか。これは、ユーザーの環境や実行しているアプリケーションによって異なります。0.01%フルのプロファイルで4,000,000の項目を使用している、とします。この場合、フルになる危険性はありませんが、問題はないのでしょうか。ユーザー特有の環境に基づいて考慮する必要があります。これらの項目はほとんどオブジェクトによって所有されていますか。1つのプロファイルが多くのオブジェクトを所有すると、管理が容易でなくなる、ということを検討しなければなりません。それらが私用認可ですか。私用認可が多すぎると、機密保護体系の管理が困難になることを示します。プロファイルが増加する速度はどうか。その増加率が続き、自社の要件が満たされ、プロファイル・サイズの制限内にとどまることが可能ですか。自社の要件および機密保護のポリシーによってこれらの質問に答えることによって、プロファイルのサイズに問題があるかどうかを判別するのに役立ててください。

ユーザー・プロファイルのパーセンテージのフルと、ユーザー・プロファイルが所有できる最大記憶域(MAXSTG)とを混同しないでください。これらは異なった2つの概念です。

制約事項：このコマンドを使用するには、*ALLOBJ特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SELECT	選択	*USRPRF, *PCTFULL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	修飾子リスト	オプション
	修飾子 1: ユーザー・プロファイル	総称名, 名前, *ALL	
PCTFULL	パーセント満杯	0.01-100.0, 99.90	オプション

選択 (SELECT)

報告書に含めるユーザー・プロファイルの選択で使用する選択基準を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*USRPRF

USRPRFパラメーターに指定されたプロファイル名に基づいて、報告書のユーザー・プロファイルが選択されます。

*PCTFULL

PCTFULLパラメーターに指定された値に基づいて、報告書のユーザー・プロファイルが選択されます。

トップ

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

*USRPRFが**選択**プロンプト(SELECTパラメーター)に指定された場合には、報告書に組み込むユーザー・プロファイルを指定しなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

ユーザー名

報告書に組み込むユーザー・プロファイルの名前。

総称ユーザー名

報告書に組み込むユーザー・プロファイルの総称名。総称名は、1つまたは複数の文字とその後に続くにアスタリスク(*)からなる文字ストリングです。

トップ

パーセント満杯 (PCTFULL)

*PCTFULLが**選択**プロンプト(SELECTパラメーター)に指定された場合には、パーセンテージ・フルとして使用される値を入力しなければなりません。少なくともこのパラメーターに指定されたパーセンテージを完全に満たすユーザー・プロファイルが報告書に組み込まれます。指定する値は0.01から100.00の範囲内であればなりません。

99.90 少なくとも99.9 %が項目で満たされたユーザー・プロファイルが報告書に組み込まれます。

パーセント・フル

パーセント・フルの選択値としての0.01から100.00までの範囲の値。

トップ

PRTPRFINTの例

```
PRTPRFINT  SELECT(*PCTFULL)  PCTFULL(99.00)
```

このコマンドは、少なくとも99 %フルのすべてのユーザー・プロファイルについてユーザー・プロファイル内部情報の報告書を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTPRFINT

*ESCAPE メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

CPF307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

[トップ](#)

共通認可オブジェクトの印刷 (PRTPUBAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

共通認可オブジェクト印刷(PRTPUBAUT)コマンドによって、*EXCLUDEの共通認可を持たない指定されたオブジェクトの報告書を印刷することができます。*PGMオブジェクトでは、ユーザーが呼び出せる(プログラムがユーザー・ドメインであるか、あるいはシステム保護レベル(QSECURITYシステム値)が30またはそれ以下のいずれか) *EXCLUDEの共通認可を持たないプログラムだけが報告書に入れられます。これは、システム上のすべてのユーザーがアクセスを許可されているオブジェクトをチェックする1つの方法です。

このコマンドは2つの報告書を印刷します。最初の報告書(全報告書)には、*EXCLUDEの共通認可を持たない指定されたオブジェクトがすべて入れられます。2番目の報告書(変更報告書)には、この時点で*EXCLUDEの共通認可を持っていないが、前にPRTPUBAUTコマンドが実行された時に*EXCLUDEの共通認可を持っていたか、あるいはその時に存在していなかったオブジェクトが入れられます。指定されたオブジェクトおよびライブラリーまたはフォルダーに対してPRTPUBAUTコマンドを前に実行していない場合には、「変更報告書」はありません。このコマンドを前に実行したが、追加のオブジェクトが*EXCLUDEの共通認可を持っていない場合には、「変更報告書」は印刷されますが、リストされるオブジェクトはありません。

報告書には、次の情報が入れられます。

- コマンドに指定したオブジェクト・タイプ(オブジェクト・タイプが*DOCまたは*FLRでない場合)
- コマンドに指定したライブラリーの名前(オブジェクト・タイプが*BLKSF, *DIR, *DOC, *FLR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKでない場合)。
- 文書が入っているフォルダーの名前(オブジェクト・タイプが*DOCの場合)
- オブジェクトが入っているディレクトリーの名前(オブジェクト・タイプが*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKの場合)
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(変更報告書にだけ示される)。
- *EXCLUDEの*PUBLIC権限を持たない各オブジェクトの項目。各項目には、次の情報が入っています。
 - そのオブジェクトが入っているライブラリーの名前(オブジェクト・タイプが*BLKSF, *DIR, *DOC, *FLR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKでない場合)
 - そのフォルダーが入っているフォルダーの名前(オブジェクト・タイプが*FLR の場合)
 - オブジェクトの名前。
 - オブジェクトの所有者
 - オブジェクトを保護する権限リスト
 - *PUBLIC権限の特殊値(たとえば、*ALLまたは*CHANGE)
 - 文書またはフォルダーの機密レベル(オブジェクト・タイプが*DOCまたは*FLR の場合)
 - プログラムに対して*PUBLICが持っている個別権限の標識('X'または' ') (オブジェクト・タイプが*DOCまたは*FLRでない場合)

ライブラリーQUSRSYSのファイルQPXXXXXXX (この'XXXXXXX'はコマンドに指定されたオブジェクト・タイプ)には、PRTPUBAUTコマンドを最後に実行した時以降の情報が入っています。オブジェク

ト・タイプが*BLKSF, *DIR, *DOC, *FLR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKでない場合には、そのコマンドに前に指定したそれぞれのライブラリーについて、そのライブラリーと同じ名前のメンバーがファイル中にあります。ライブラリー名に対して特殊値(たとえば, *USRLIBL)が指定された場合には、'*'はそのメンバー名の'Q'と置き換えられます。ライブラリーの指定が不要なオブジェクト・タイプ(たとえば, *USRPRF)では、ライブラリー名はQSYSです。QSYDSAUTの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQAQBJAUTはそのファイルのモデル・ファイルです。

オブジェクト・タイプが*FLRの場合には、最初のメンバーには、前回コマンドに*FLRを指定した時からの情報が入れられます。QSECDLOの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECDLOはそのファイルのモデル・ファイルです。

オブジェクト・タイプが*DOCの場合には、そのコマンドに前に指定したそれぞれのフォルダーについて、ファイル内にメンバーがあります。メンバー名はそのフォルダーのシステム名と同じです。QSECDLOの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECDLOはそのファイルのモデル・ファイルです。

オブジェクト・タイプが*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKの場合には、**ディレクトリープロンプト(DIRパラメーター)**に前に指定した各ディレクトリーについてファイル内にメンバーがあります。メンバー名はディレクトリーが処理される順序が基礎になっています。メンバーの命名規則はX000000001, X000000002などとなります。メンバー名の最初の文字はNまたはYのいずれかです。この文字は、データが収集された時にサブディレクトリーが検索されたかどうかを示します。Nは、サブディレクトリーが検索されなかったことを示し、Yは、サブディレクトリーが検索されたことを示します。ディレクトリーにメンバー名が割り当てられると、上記にリストされたすべてのオブジェクト・タイプに対して適切な接頭部の数値部分が使用されます。QSECDIRの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECDIRはそのファイルのモデル・ファイルです。

注: ライブラリーQUSRSYSのファイルQASECGFIPBには、処理された各ディレクトリーのファイルID値、およびそれに割り当てられたNXXXXXXXXXメンバー名が入っています。QSECGFIの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECGFIはQASECGFIPBのモデル・ファイルです。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHRSF, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DIR, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNTTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OOPOOL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDLOD, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	<u>*NO</u> , *YES	オプション, 定位置 2
LIB	ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR	オプション
FILAUT	ファイル権限の印刷	<u>*NO</u> , *YES	オプション
CMDAUT	コマンド権限の印刷	<u>*NO</u> , *YES	オプション
PGMAUT	プログラム権限の印刷	<u>*NO</u> , *YES	オプション
JOBDAUT	JOBQ権限の印刷	<u>*NO</u> , *YES	オプション
FLR	フォルダー	文字値	オプション
DIR	ディレクトリー	パス名	オプション
SCHSUBDIR	サブディレクトリーの検索	<u>*NO</u> , *YES	オプション

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

これは必須パラメーターです。

検索するオブジェクトのタイプ。オブジェクト・タイプの完全なリストを見るためには、カーソルを**オブジェクト・タイプ**プロンプト (OBJTYPEパラメーター) のフィールドに位置付けて、F4キーを押してください。

オブジェクト・タイプ

処理するオブジェクトのタイプ。

トップ

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

トップ

ライブラリー (LIB)

これは、*AUTL、*BLKSF、*CFGL、*CNL、*COSD、*CTLD、*DEVD、*DIR、*DOC、*FLR、*LIB、*LIND、*MODD、*NWID、*NWS、*OOPOOL、*SOCKET、*STMF、*SYMLNK、および*USRPRFを除いて、すべてのオブジェクト・タイプで必須のパラメーターです。

*EXCLUDEでない共通認可を持つオブジェクトを検索するライブラリーの名前。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

#CGULIB #DSULIB #SEULIB

#COBLIB #RPGLIB

#DFULIB #SDALIB

英字Qで始まる名前をもつ次のライブラリーはIBMによって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

QDSNX QRCLXXXX QUSRIJS QUSRVRXMX

QGPL QSRVAGT QUSRINFSKR

QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA
QMOMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMOMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前。

トップ

ファイル権限の印刷 (FILAUT)

オブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に*LIBが指定された時に、*EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*FILEオブジェクトに対して、共通認可オブジェクト印刷(PRTPUBAUT)コマンドを実行するかどうかを指定します。

注: OBJTYPEが*LIBの時に限り、このパラメーターが使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

- *NO** *EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*FILEオブジェクトに対して、PRTPUBAUTコマンドは実行されません。
- *YES** *EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*FILEオブジェクトに対して、PRTPUBAUTコマンドが実行されます。

トップ

コマンド権限の印刷 (CMDAUT)

オブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に*LIBが指定された時に、*EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*CMDオブジェクトに対して、共通認可オブジェクト印刷(PRTPUBAUT)コマンドを実行するかどうかを指定します。

注: OBJTYPEが*LIBの時に限り、このパラメーターが使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

- *NO** *EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*CMDオブジェクトに対して、PRTPUBAUTコマンドが実行されません。

***YES** EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*CMDオブジェクトに対して、PRTPUBAUTコマンドが実行されます。

トップ

プログラム権限の印刷 (PGMAUT)

オブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に*LIBが指定された時に、*EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*PGMオブジェクトに対して、共通認可オブジェクト印刷(PRTPUBAUT)コマンドを実行するかどうかを指定します。

注: OBJTYPEが*LIBの時に限り、このパラメーターが使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** *EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*PGMオブジェクトに対して、PRTPUBAUTコマンドが実行されません。

***YES** *EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーの*PGMオブジェクトに対して、PRTPUBAUTコマンドが実行されます。

トップ

JOB権限の印刷 (JOBDAUT)

オブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に*LIBが指定された時に、*EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーに対して、ジョブ記述権限の印刷(PRTJOBDAUT)コマンドを実行するかどうかを指定します。PRTJOBDAUTコマンドは、*EXCLUDEの共通認可を持たないで、ユーザー名が指定されたライブラリー中のすべてのジョブ記述をリストします。

注: OBJTYPEが*LIBの時に限り、このパラメーターが使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** *EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーに対して、PRTJOBDAUTコマンドは実行されません。

***YES** *EXCLUDEの共通認可を持たない各ライブラリーに対して、PRTJOBDAUTコマンドが実行されます。

トップ

フォルダー (FLR)

*DOCがオブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に指定された場合には、これは必須パラメーターです。

*EXCLUDEでない*PUBLIC権限を持つ文書を検索するフォルダーの名前。

フォルダー名

検索するフォルダーの名前。

ディレクトリー (DIR)

オブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKが指定された場合には、これは必須パラメーターです。

*EXCLUDEの共通認可を持たないオブジェクトを検索するディレクトリーのパス名。サポートされるのは、ルート、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムのローカル・オブジェクトだけです。

ディレクトリー名

検索するディレクトリーの名前。

トップ

サブディレクトリーの検索 (SCHSUBDIR)

共通認可報告書に組み込むオブジェクトについてサブディレクトリーを検索するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが使用されるのは、OBJTYPEが*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKの場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** サブディレクトリーは検索されません。

***YES** サブディレクトリーが検索されます。

トップ

PRTPUBAUTの例

```
PRTPUBAUT OBJTYPE(*FILE) LIB(QSYS)
```

このコマンドは、ライブラリーQSYS中のファイル・オブジェクトについて全報告書と変更報告書の両方を印刷します。

トップ

エラー・メッセージ: PRTPUBAUT

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

CPFB307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

トップ

私用認可の印刷 (PRTPVTAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

私用認可印刷(PRTPVTAUT)コマンドによって、指定されたライブラリー、フォルダー、またはディレクトリーの指定されたタイプのオブジェクトのすべての私用認可の報告書を印刷することができます。この報告書には、指定されたタイプのすべてのオブジェクトおよびそのオブジェクトに対して許可されているユーザーがリストされます。これは、そのオブジェクトに対して異なった権限のソースをチェックする1つの方法です。

このコマンドは選択したオブジェクトについて3つの報告書を印刷します。最初の報告書（全報告書）には、選択した各オブジェクトの私用認可がすべて入れられます。

2番目の報告書（変更報告書）には、指定されたライブラリーまたはフォルダーの指定されたオブジェクトに対してPRTPVTAUTコマンドを前に実行した場合に、選択したそのオブジェクトに対する私用認可への追加/変更が入れます。選択したタイプの新規のオブジェクト、既存のオブジェクトに対する新規の権限、または既存のオブジェクトの既存の権限に対する変更は「変更報告書」にリストされます。指定されたライブラリーまたはフォルダーの指定されたオブジェクトに対してPRTPVTAUTコマンドを前に実行していない場合には、「変更報告書」はありません。コマンドが前に実行されたが、オブジェクトの権限がなにも変更されていない場合には、「変更報告書」は印刷されますが、リストされるオブジェクトはありません。

3番目の報告書（削除報告書）には、PRTPVTAUTコマンドを前に実行した時以降に、指定されたオブジェクトからの私用認可ユーザーの削除がすべて入れられます。削除されたオブジェクトおよび私用認可ユーザーとして削除されたユーザーがすべて「削除報告書」にリストされます。PRTPVTAUTコマンドを前に実行していない場合には、「削除報告書」はありません。このコマンドは実行されたが、そのオブジェクトに対して削除操作が行われなかった場合には、「削除報告書」は印刷されますが、リストされるオブジェクトはありません。

報告書には、次の情報が入れられます。

- コマンドに指定したオブジェクト・タイプ(オブジェクト・タイプが*AUTLでない場合)
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(全報告書には表示されない)
- コマンドに指定したライブラリーの名前(オブジェクト・タイプが*AUTL, *BLKSF, *DIR, *DOC, *FLR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF, または*SYMLNKでない場合)。
- ライブラリーの*PUBLIC権限(オブジェクト・タイプが*AUTL, *BLKSF, *DIR, *DOC, *FLR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF, または*SYMLNKでない場合)。
- その文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前(オブジェクト・タイプが*DOCまたは*FLRの場合)。
- そのオブジェクトが入っているディレクトリーの名前(オブジェクト・タイプが*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF, *SYMLNKの場合)。
- ディレクトリーの*PUBLIC権限(オブジェクト・タイプが*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF, *SYMLNKの場合)
- リスト中のオブジェクトに対して権限を持っている各ユーザーの項目。各項目には、次の情報が入っています。

- オブジェクトの名前(最初のユーザーに対してのみ表示される)
- オブジェクトの所有者(最初のユーザーに対してのみ表示される)
- オブジェクトの基本グループ(最初のユーザーに対してのみ表示される)
- オブジェクトを保護する権限リストの名前(オブジェクト・タイプが*AUTLでない場合、最初のユーザーに対してのみ表示される)
- 文書またはフォルダーの機密レベル(オブジェクト・タイプが*DOCまたは*FLRの場合、最初のユーザーに対してのみ表示される)
- そのオブジェクトに対して許可されているユーザーの名前
- そのオブジェクトに対するユーザー権限の特殊値(たとえば、*ALLまたは*CHANGE)
- オブジェクトに対してユーザーが持っている個別権限の標識('X'または' ') (オブジェクト・タイプが*DOCまたは*FLRでない場合)

ライブラリーQUSRSYSのファイルQPVXXXXXXXX (この'XXXXXXXX'はコマンドに指定されたオブジェクト・タイプ)には、PRTPVTAUTコマンドを最後に実行した時以降の情報が入っています。オブジェクト・タイプが*BLKSF、*DIR、*DOC、*FLR、*OOPOOL、*SOCKET、*STMF、または*SYMLNKでない場合には、そのコマンドの前に指定したそれぞれのライブラリーについて、そのライブラリーと同じ名前のメンバーがファイル中にあります。ライブラリーの指定が不要なオブジェクト・タイプ(たとえば、*USRPRF)では、ライブラリー名はQSYSです。QSYDSAUTの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQAOBJAUTはそのファイルのモデル・ファイルです。

オブジェクト・タイプが*FLRの場合には、最初のメンバーには、前回コマンドに*FLRを指定した時からの情報が入れます。QSECDLOの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECDLOはそのファイルのモデル・ファイルです。

オブジェクト・タイプが*DOCの場合には、そのコマンドの前に指定したそれぞれのフォルダーについて、ファイル内にメンバーがあります。メンバー名はそのフォルダーのシステム名と同じです。QSECDLOの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECDLOはそのファイルのモデル・ファイルです。

オブジェクト・タイプが*FILEであり、AUTTYPEパラメーター値が*FIELDまたは*ALLの場合には、それと関連したフィールド・レベル権限を持つ各ファイルに対して、オブジェクト権限表示(DSPOBJAUT)コマンドが実行されます。これらの各ファイルについて、QPOBJAUTの名前のスプール・ファイルが作成され、それには、そのファイルのフィールド・レベル権限のデータがすべて入っています。ファイル上のフィールド・レベル権限のデータに対して使用可能な変更報告書はサポートされていません。

オブジェクト・タイプが*BLKSF、*DIR、*OOPOOL、*SOCKET、*STMF、または*SYMLNKの場合には、ディレクトリープロンプト(DIRパラメーター)に前に指定した各ディレクトリーについてファイル内にメンバーがあります。メンバー名はディレクトリーが処理される順序が基礎になっています。メンバーの命名規則はX000000001、X000000002などとなります。メンバー名の最初の文字はNまたはYのいずれかです。この文字は、データが収集された時にサブディレクトリーが検索されたかどうかを示します。Nは、サブディレクトリーが検索されなかったことを示し、Yは、サブディレクトリーが検索されたことを示します。ディレクトリーにメンバー名が割り当てられると、上記にリストされたすべてのオブジェクト・タイプに対して適切な接頭部の数値部分が使用されます。QSECDIRの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECDIRはそのファイルのモデル・ファイルです。

注: ライブラリーQUSRSYSのファイルQASECGFIPVには、処理された各ディレクトリーのファイルID値、およびそれに割り当てられたNXXXXXXXXXメンバー名が入っています。QSECGFIの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECGFIはQASECGFIPVのモデル・ファイルです。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*ALRTBL, *AUTL, *BLKSF, *BNDDIR, *CFGL, *CHRSF, *CHTFMT, *CLD, *CLS, *CMD, *CNL, *COSD, *CRG, *CRQD, *CSI, *CSPMAP, *CSPTBL, *CTLD, *DEVD, *DIR, *DOC, *DTAARA, *DTADCT, *DTAQ, *EDTD, *EXITRG, *FCT, *FIFO, *FILE, *FLR, *FNTRSC, *FNNTBL, *FORMDF, *FTR, *GSS, *IGCDCT, *IGCSRT, *IGCTBL, *IMGCLG, *IPXD, *JOBQ, *JOBQ, *JOBSCD, *JRN, *JRNRCV, *LIB, *LIND, *LOCALE, *M36, *M36CFG, *MEDDFN, *MENU, *MGTCOL, *MODD, *MODULE, *MSGF, *MSGQ, *NODGRP, *NODL, *NTBD, *NWID, *NWS, *OOPOOL, *OUTQ, *OVL, *PAGDFN, *PAGSEG, *PDFMAP, *PDG, *PGM, *PNLGRP, *PRDAVL, *PRDDFN, *PRDL, *PSFCFG, *QMFORM, *QMQR, *QRYDFN, *RCT, *SBS, *SCHIDX, *SOCKET, *SPADCT, *SQLPKG, *SQLUDT, *SRVPGM, *SSND, *STMF, *SVRSTG, *SYMLNK, *S36, *TBL, *TIMZON, *USRIDX, *USRPRF, *USRQ, *USRSPC, *VLDL, *WSCST	必須, 定位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	* <u>NO</u> , *YES	オプション, 定位置 2
LIB	ライブラリー	名前	オプション
AUTTYPE	権限タイプ	* <u>OBJECT</u> , *FIELD, *ALL	オプション
FLR	フォルダー	文字値	オプション
AUTLOBJ	AUTLオブジェクトの印刷	* <u>NO</u> , *YES	オプション
DIR	ディレクトリー	パス名	オプション
SCHSUBDIR	サブディレクトリーの検索	* <u>NO</u> , *YES	オプション

トップ

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

これは必須パラメーターです。

検索するオブジェクトのタイプ。オブジェクト・タイプの完全なリストを見るためには、カーソルを**オブジェクト・タイプ**プロンプト (OBJTYPEパラメーター) のフィールドに位置付けて、F4キーを押してください。

オブジェクト・タイプ

処理するオブジェクトのタイプ。

トップ

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書および削除報告書だけが印刷されます。

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

これは、*AUTL, *BLKSF, *CFGL, *CNL, *COSD, *CTLD, *DEVD, *DIR, *DOC, *FLR, *LIB, *LIND, *MODD, *NWID, *NWS, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF, *SYMLNK, および *USRPRF を除いて、すべてのオブジェクト・タイプで必須のパラメーターです。

私用認可報告書に組み込むオブジェクトを検索するライブラリーの名前。

[トップ](#)

権限タイプ (AUTTYPE)

オブジェクト・レベル権限、フィールド・レベル権限、あるいはオブジェクト・レベルとフィールド・レベルの両方の報告書を生成するかどうかを指定します。フィールド・レベルの権限情報のみが *FILE オブジェクトに適用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***OBJECT**

指定されたオブジェクトに対してオブジェクト・レベル権限報告書が生成されます。

***FIELD**

フィールド・レベル権限を持つ各データベース・ファイルについて、フィールド・レベル権限報告書が生成されます。

この値が有効となるのは、*FILE がオブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPE パラメーター) に指定されている場合だけです。

***ALL**

フィールド・レベル権限を持つ各データベース・ファイルについて、フィールド・レベル権限報告書が生成されます。また、指定されたライブラリーのすべてのファイルについて、オブジェクト・レベル権限報告書も生成されます。

この値が有効となるのは、*FILE がオブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPE パラメーター) に指定されている場合だけです。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

*DOCがオブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に指定された場合には、これは必須パラメーターです。

私用認可報告書に組み込む文書を検索するフォルダーの名前。

フォルダー名

検索するフォルダーの名前。

[トップ](#)

AUTLオブジェクトの印刷 (AUTLOBJ)

システム上の各権限リストに対して権限リスト・オブジェクト表示(DSPAUTLOBJ) コマンドを実行するかどうかを指定します。DSPAUTLOBJは、特定の権限リストによって保護されているすべてのオブジェクトのリストを提供します。このパラメーターを使用するのは、オブジェクト・タイプが*AUTLの場合だけです。その他のどのオブジェクト・タイプでも、これは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** システム上の各権限リストに対して、DSPAUTLOBJコマンドは実行されません。

***YES** システム上の各権限リストに対して、DSPAUTLOBJコマンドが実行されます。コマンドの出力は、権限リスト報告書と同じ出力待ち行列に送られます。

[トップ](#)

ディレクトリー (DIR)

オブジェクト・タイププロンプト(OBJTYPEパラメーター) に*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKが指定された場合には、これは必須パラメーターです。

私用認可報告書に組み込むオブジェクトを検索するディレクトリーの名前。サポートされるのは、ルート、QOPENSYS、およびユーザー定義ファイル・システムのローカル・オブジェクトだけです。

ディレクトリー名

検索するディレクトリーの名前。

[トップ](#)

サブディレクトリーの検索 (SCHSUBDIR)

私用認可報告書に組み込むオブジェクトについてサブディレクトリーを検索するかどうかを指定します。

注: このパラメーターが使用されるのは、OBJTYPEが*BLKSF, *DIR, *OOPOOL, *SOCKET, *STMF,または*SYMLNKの場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** サブディレクトリーは検索されません。

***YES** サブディレクトリーが検索されます。

PRTPVTAUTの例

```
PRTPVTAUT OBJTYPE(*FILE) LIB(PAYROLLLIB)
```

このコマンドは、ライブラリーPAYROLLLIB中のすべてのファイル・オブジェクトについて全報告書、変更報告書、および削除報告書を印刷します。

トップ

エラー・メッセージ： PRTPVTAUT

*ESCAPE メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

CPFB307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

トップ

待ち行列権限の印刷 (PRTQAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

待ち行列権限印刷(PRTQAUT)コマンドによって、指定されたライブラリーのオブジェクトの出力待ち行列およびジョブ待ち行列権限情報の報告書を印刷することができます。このコマンドは、システム上の出力待ち行列およびジョブ待ち行列オブジェクトの権限属性をチェックする1つの方法を提供します。

このコマンドは、ライブラリーについて2つの報告書を印刷します。最初の報告書（全報告書）には、指定されたライブラリーの出力待ち行列およびジョブ待ち行列がすべて入れられます。2番目の報告書（変更報告書）には、ライブラリーに対して最後にPRTQAUTコマンドを実行した時以降に作成されたか、あるいは権限属性が変更された出力待ち行列およびジョブ待ち行列が入れます。ライブラリーに対してPRTQAUTコマンドを前に実行していない場合には、「変更報告書」はありません。ライブラリーに対してこのコマンドを前に実行しているが、追加の待ち行列情報が使用可能でない場合には、「変更報告書」は印刷されませんが、リストされる待ち行列はありません。

報告書には、次の情報が入れられます。

- このコマンドに指定したライブラリーの名前
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(変更報告書にだけ示される)。
- システム上に存在する各出力待ち行列およびジョブ待ち行列の項目。各項目には、次の情報が入っています。
 - その待ち行列が入っているライブラリーの名前
 - 待ち行列の名前
 - 待ち行列のオブジェクト・タイプ
 - 待ち行列の所有者
 - 待ち行列の共通認可
 - 出力待ち行列の表示データ値。出力待ち行列オブジェクトでは、このフィールドは*NONEに設定されます。
 - 待ち行列の操作員制御値
 - 待ち行列の値をチェックするための権限

ライブラリーQUSRSYSのファイルQSECQOLDには、ライブラリーに対して最後にPRTQAUTコマンドを実行した時以降の情報が入っています。このコマンドに前に指定した各ライブラリーについて、そのライブラリーと同じ名前のメンバーがファイル中にあります。ライブラリー名に対して特殊値(たとえば、*USRLIBL)が指定された場合には、'*'はそのメンバー名の'Q'と置き換えられます。QSECQFの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECQFはQSECQOLDファイルのモデル・ファイルです。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, <u>*ALL</u> , *ALLUSR	オプション、位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	<u>*NO</u> , *YES	オプション、位置 2

トップ

ライブラリー (LIB)

これは必須パラメーターです。

報告するために出力待ち行列およびジョブ待ち行列を検索するライブラリーの名前。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、**ASPDEV(*)**が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、**ASPDEV(*)**が唯一の有効な値です。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、**Q**以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字**Q**で始まる名前をもつ次のライブラリーは**IBM**によって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGGL       QSRVAGT     QUSRINFSKR
```

QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA
QMQMDATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前。

[トップ](#)

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

[トップ](#)

PRTQAUTの例

PRTQAUT LIB(QUSRSYS)

このコマンドは、ライブラリーQUSRSYS中の出力待ち行列およびジョブ待ち行列について全報告書と変更報告書の両方を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTQAUT

***ESCAPE** メッセージ

CPFB307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

[トップ](#)

サブシステム記述の印刷 (PRTSBSDAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

サブシステム記述権限印刷(PRTSBSDAUT)コマンドによって、サブシステム記述項目に省略時のユーザーが入っている、ライブラリー中のサブシステム記述の報告書を印刷することができます。このコマンドは、省略時のユーザー・プロファイルのもとで実行している時に、ユーザー・システムで処理の実行が可能となるサブシステム記述をチェックする1つの方法を提供します。

このコマンドは、ライブラリーについて2つの報告書を印刷します。最初の報告書（全報告書）には、サブシステム記述項目の省略時のユーザーを含むサブシステム記述がすべて入れられます。2番目の報告書（変更報告書）には、ライブラリーに対して最後にPRTSBSDAUTコマンドを実行した時以降の、省略時のユーザーを持つサブシステム項目を含めるために変更したサブシステム記述が入れます。ライブラリーに対してPRTSBSDAUTコマンドを前に実行していない場合には、「変更報告書」はありません。ライブラリーに対してこのコマンドを前に実行しているが、追加のサブシステム記述に省略時のユーザーの項目が入っていない場合には、「変更報告書」は印刷されますが、リストされるサブシステム記述はありません。ユーザー・プロファイル特殊権限に対して変更されても、「変更報告書」は生成されません。

報告書には、次の情報が入れられます。

- このコマンドに指定したライブラリーの名前
- 報告書を最後に実行した日付および時刻(変更報告書にだけ示される)。
- 省略時のユーザーが指定されたサブシステム項目を含む各サブシステム記述の項目。各項目には、次の情報が入っています。
 - そのサブシステム記述が入っているライブラリーの名前
 - サブシステム記述の名前
 - サブシステム記述の所有者
 - サブシステム項目に指定された省略時のユーザー・プロファイルの名前
 - ユーザー・プロファイルと関連した特殊権限。表示される特殊権限は、サブシステム項目の使用時に使用可能となるすべての特殊権限です。表示される特殊権限は、ユーザーが所有する権限と、そのユーザーのグループ・プロファイル(そのユーザーにグループがある場合)が所有する特殊権限をプラスしたものです。

ライブラリーQUSRSYSのファイルQSECSBDOLDには、ライブラリーに対して最後にPRTSBSDAUTコマンドを実行した時以降の情報が入っています。このコマンドに前に指定した各ライブラリーについて、そのライブラリーと同じ名前のメンバーがファイル中にあります。ライブラリー名に対して特殊値(たとえば、*USRLIBL)が指定された場合には、'*'はそのメンバー名の'Q'と置き換えられます。QSECSBFの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQASECSBFはQSECSBDOLDファイルのモデル・ファイルです。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR, *ALLAVL, *ALLUSRAVL	必須, 定位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	*NO, *YES	オプション, 定位置 2

トップ

ライブラリー (LIB)

これは必須パラメーターです。

省略時のユーザー・プロファイルが指定されたサブシステム項目を含むサブシステム記述を検索するライブラリーの名前。

考えられる値は、次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、ASPDEV(*)が唯一の有効な値です。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、Q以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字Qで始まる名前をもつ次のライブラリーはIBMによって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXXMX
```

QGPL	QSRVAGT	QUSRINFSKR
QGPL38	QSYS2	QUSRNOTES
QMGTC	QSYS2XXXXX	QUSROND
QMGTC2	QS36F	QUSRPOSGS
QMPGDATA	QUSER38	QUSRPOSSA
QMQMATA	QUSRADSM	QUSRPYMSVR
QMQMPROC	QUSRBRM	QUSRDRARS
QPFRDATA	QUSRDIRCL	QUSRSYS
QRCL	QUSRDIRDB	QUSRVI

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXXMXの形式の別のライブラリー名を作成することができます。QUSRVXRXXMXユーザー・ライブラリーのVXRXXMXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

*ALLAVL

使用可能なすべてのASPのすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSRAVL

使用可能なすべてのASPのすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。ユーザー・ライブラリーの定義については、*ALLUSRを参照してください。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前。

[トップ](#)

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

[トップ](#)

PRTSBSDAUTの例

PRTSBSDAUT LIB(QSYS)

このコマンドは、ライブラリーQSYS中のすべてのサブシステム記述について全報告書と変更報告書の両方を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTSBSDAUT

*ESCAPE メッセージ

CPFB307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

[トップ](#)

SQL情報の印刷 (PRTSQLINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SQL情報印刷(PRTSQLINF)コマンドによって、プログラム、SQLパッケージ、サービス・プログラム、またはジョブのSQLステートメントに関する情報を印刷できます。この情報には、SQLステートメント、ステートメントの実行時に使用されるアクセス・プラン、およびオブジェクトのソース・メンバーのプリコンパイル時、あるいはSQLステートメントの実行時に定義されているコマンド・パラメーターのリストが含まれます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	単一値: *JOB その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: オブジェクト	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OBJTYPE	オブジェクト・タイプ	*PGM, *SQLPKG, *SRVPGM	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

オブジェクト (OBJ)

SQL情報を印刷したいオブジェクトの名前、ジョブのSQL情報を印刷することを指示しようとしているジョブのいずれかを指定します。名前付きオブジェクトは、プログラム、SQLパッケージ、またはサービス・プログラムとすることができます。

単一値

***JOB** 現行ジョブのSQL情報が印刷されます。出力に含まれるのは、ジョブのために動的に準備したステートメントに関する情報だけです。ジョブによって使用される、プログラム、サービス・プログラム、またはSQLパッケージ中のSQLステートメントに関する情報は含まれません。

修飾子1: オブジェクト

名前 印刷される情報に関係するプログラムまたはSQLパッケージの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクト・タイプ (OBJTYPE)

オブジェクト (OBJ)パラメーターに指定したオブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

***PGM** オブジェクトはプログラムです。

***SQLPKG**

オブジェクトはSQLパッケージです。

***SRVPGM**

オブジェクトはサービス・プログラムです。

[トップ](#)

PRTSQLINFの例

例1: SQL情報の印刷

PRTSQLINF PAYROLL

このコマンドは、プログラムPAYROLLに入っているSQLステートメントに関する情報を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTSQLINF

***ESCAPE** メッセージ

SQL9011

SQL情報の印刷が正常に実行されなかった。

[トップ](#)

システム情報の印刷 (PRTSYSINF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム情報印刷(PRTSYSINF)コマンドは、災害時回復やシステム妥当性検査などの目的のために維持しておかなければならないシステム情報を印刷します。システムのカスタマイズ方法、ライブラリーの内容などのシステムの内容の記録は、次のことを行なうのに役立つのでアップグレードの成否にとって重要です。

- アップグレード手順の計画
- 情報移動の成否の評価
- 災害時回復の実行（必要な場合）

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ

不明

[トップ](#)

システム機密保護属性の印刷 (PRTSYSSECA)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム機密保護属性印刷(PRTSYSSECA)コマンドは、機密保護関連システム値およびネットワーク属性の報告書をスプール・ファイルに印刷します。この報告書には、システム値またはネットワーク属性名、現在の値、および推奨値が入っています。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

PRTSYSSECAの例

PRTSYSSECA

このコマンドは、現行値および推奨値を示す、すべての機密保護関連システム値およびネットワーク属性の報告書を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTSYSSECA

***ESCAPE** メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

POINT-TO-POINT プロファイルの印刷 (PRTTCPPTP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

POINT-TO-POINT TCP/IPプロファイル印刷(PRTTCPPTP)コマンドは、POINT-TO-POINT TCP/IPプロファイルの構成データを印刷するために使用されます。印刷装置ファイルQPTOCPPPは、スプール・ファイルを生成するために使用されます。スプール・ファイル名はPOINT-TO-POINTプロファイル名と同じになり、スプール・ファイル・ユーザー・データは「PRTTCPPTP」になります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CFGPRF	プロファイルの構成	文字値	必須, 定位置 1

[トップ](#)

プロファイルの構成 (CFGPRF)

印刷するPOINT-TO-POINT構成プロファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

文字値 有効な構成プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

PRTTCPPTPの例

PRTTCPPTP CFGPRF(ANSPROFILE)

このコマンドは、POINT-TO-POINTプロファイルANSPROFILEの構成データを印刷します。スプール・ファイル名はANSPROFILEになり、スプール・ファイル・ユーザー・データは'PRTTCPPTP'になります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: PRTTCPPTP

***ESCAPE** [メッセージ](#)

TCP83F1

POINT-TO-POINTプロファイル&1は印刷されていません。

[トップ](#)

追跡データの印刷 (PRTTRC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

追跡印刷(PRTTRC)コマンドは、追跡レコードを形式設定して、これを選択した出力ファイルに書き込みます。追跡レコードは、ENDTRC（追跡の終了）コマンドによってデータベース・ファイルのセットに書き込まれ、PRTTRCは、これらの追跡レコードをスプール出力ファイルまたはデータベース出力ファイルに対して形式設定するのに使用されます。追跡レコードは、スプール出力ファイルに書き込まれ、印刷ファイルQPSRVTRCJが使用されます。スプール・ファイルのユーザー・データは、DTAMBR（データ・メンバー（パラメーターに指定した値と同じになります）。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、サービス(*SERVICE)特殊権限をもっているか、あるいはISERIESナビゲーターのアプリケーション管理サポートを介してOS/400のサービス追跡機能に許可されていなければなりません。また、QIBM_SERVICE_TRACEの機能IDをもつ機能使用法変更(CHGFCNUSG)コマンドも、追跡操作に実行できるユーザーのリストを変更するために使用できます。
- 追跡データが保管されるそのライブラリー内のライブラリーおよびデータベース・ファイルに対する権限が必要です。
- DLTTRC(*YES)が指定された場合には、DLTTRC（追跡データ削除）コマンドに対する権限が必要です。
- データベース出力ファイルのレコード様式は、IBM提供の出力ファイルQASCTJFLのレコード様式と一致しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DTAMBR	データ・メンバー	名前	オプション、定位置 1
DTALIB	データ・ライブラリー	名前, *CURLIB	オプション
SLTJOB	ジョブの選択	単一値: *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブの選択	総称名, 名前	
	修飾子 2: ユーザー	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 3: 番号	000001-999999, *ALL	
DLTTRC	追跡の削除	*YES, *NO	オプション
SORT	ソート方法	*TIME, *THREAD	オプション
OUTPUT	出力	*PRINT, *OUTFILE	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*ADD , *REPLACE	

トップ

データ・メンバー (DTAMBR)

印刷したい追跡データのメンバー名を指定します。このメンバー名は、追跡の開始(STRTTC)および追跡の終了(ENDTRC)コマンドに指定した追跡セッション識別コードと同じです。メンバー名は、追跡データが入っている各物理ファイルと同じです。

これは必須パラメーターです。

名前 追跡データが入っているデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

トップ

データ・ライブラリー (DTALIB)

収集された追跡データが記憶される、データベース・ファイルのセットが入っているライブラリーを指定します。

***CURLIB**

追跡データは、ジョブの現行ライブラリー中のファイルから印刷されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 追跡データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定します。

トップ

ジョブの選択 (SLTJOB)

どのジョブを追跡リストに組み込むかを指定します。これによって、追跡の一部であったジョブのサブセットだけを選択して、追跡リストのサイズを小さくすることができます。修飾ジョブ名は、最大10まで指定することができます。

単一値

***ALL** 追跡の一部であったジョブがすべて組み込まれます。

修飾子1: ジョブの選択

総称名 追跡リストに組み込むジョブの総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称ジョブ名は、総称接頭部で始まるジョブ名をもつすべてのジョブを指定します。

名前 追跡リストに組み込むジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

***ALL** 指定したジョブ名と一致するジョブがすべて含まれます。

総称名 含まれるジョブの総称ユーザー名を指定してください。

名前 含まれるジョブのユーザーの名前を指定してください。

修飾子3: 番号

***ALL** 指定したジョブ名およびユーザー名に一致するすべてのジョブが含まれます。

000001-999999

ジョブ名およびユーザー名をさらに修飾するジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

追跡の削除 (DLTTRC)

追跡データを印刷した後、それを削除するかどうかを指定します。

***YES** 印刷が完了した後、データベース・ファイルの追跡データは削除されます。

***NO** データベース・ファイルの追跡データは保管されます。そのデータ他がもう不要な場合には、DLTTRC(追跡削除)コマンドを使用して、それを削除することができます。

[トップ](#)

ソート方法 (SORT)

ジョブごとの追跡データが指定された出力ファイルでソートされる方法を指定します。

***THREAD**

ジョブごとの追跡データは、スレッドによってソートされます。ジョブに複数のスレッドがある場合には、スレッドごとの追跡データが時刻によってソートされます。

***TIME** ジョブごとの追跡データは、時刻によってソートされます。ジョブに複数のスレッドがある場合には、ジョブ内のすべてのスレッドの追跡データが時刻によってソートされます。これによって、複数のスレッドの追跡出力が混合されます。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力をジョブのスパール出力で印刷するか、あるいはデータベース・ファイルへ送るかを指定します。

***PRINT**

出力はジョブのスパール出力で印刷されます。

***OUTFILE**

出力は、出力を受け取るファイル (**OUTFILE**)パラメーターで指定されたデータベース・ファイルに送られます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

コマンドの出力が送られるデータベース・ファイルを指定します。ファイルが存在していない場合には、このコマンドが指定されたライブラリー内にデータベース・ファイルを作成します。ファイルが作成される場合には、ファイルの共通権限は、ファイルが作成されるライブラリーに指定された作成権限と同じものになります。ライブラリーの作成権限を表示するには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

修飾子1: 出力を受け取るファイル

名前 コマンド出力が送られる先のデータベース・ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。ファイルが見つからない場合には、現行ライブラリーにファイルが作成されます。現行ライブラリーが存在していない場合には、ファイルはQGPLライブラリーに作成されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

注: このコマンドでファイルが作成された場合には、テキストは「OUTFILEがPRTTTRCコマンドによって作成されました」となり、共通認可は*EXCLUDEとなります。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力 (OUTPUT)パラメーターに*OUTFILEが指定された時に、出力を指示するデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。

要素1: 出力を受け取るメンバー

*FIRST

ファイル中の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムが**出力を受け取るファイル (OUTFILE)**パラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。

名前 出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。OUTMBR (メンバー名) が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがそのメンバーを作成します。

メンバーが存在している場合には、レコードを既存メンバーの終りに追加するか、既存メンバーを消去してレコードを追加することができます。

要素2: レコードの置き換えまたは追加

*REPLACE

指定したデータベース・ファイル・メンバー中に既存のレコードは、新規レコードで置き換えられます。

***ADD** 新規レコードが指定されたデータベース・ファイル・メンバーの既存情報に追加されます。

PRTRTCの例

例1:追跡の印刷および削除

```
PRTRTC DTAMBR(TRACE8) DTALIB(TRCLIB1) DLTRTC(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーTRCLIB1のデータベース・ファイル・メンバー名TRACE8に入っている追跡データを書式設定および印刷します。追跡データ・メンバーは、追跡データ・スプール・ファイルが書き込まれた後で除去されます。追跡の一部だったすべてのジョブが、追跡リストの一部になります。

例2:サブセット追跡を印刷する

```
PRTRTC DTAMBR(T123456789) DTALIB(QGPL)
      SLTJOB(*ALL/QSYS/QCMN*) DLTRTC(*YES)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのデータベース・ファイル・メンバー名T123456789に入っている追跡データを書式設定および印刷します。追跡データ・メンバーは、追跡データ・スプール・ファイルが書き込まれた後で除去されます。ユーザー・プロファイルQSYSで開始されて、「QCMN」で始まるジョブ名をもつ追跡ジョブだけが、追跡リストの一部になります。

例3:追跡および時間によるソートを印刷する

```
PRTRTC DTAMBR(MYTRACE) DTALIB(MYTRCLIB)
      DLTRTC(*YES) SORT(*TIME)
```

このコマンドは、ライブラリーMYTRCLIBのデータベース・ファイル・メンバー名MYTRACEに入っている追跡データを書式設定および印刷します。追跡データ・メンバーは、追跡データ・スプール・ファイルが書き込まれた後で除去されます。追跡レコードは、レコードが収集された時間によってソートされます。追跡されたジョブがマルチスレッドの場合は、追跡出力はジョブによってソートされ、すべてのスレッドが時間によってソートされたそのジョブに入ります。結果の出力には、混合したマルチスレッドの追跡情報が入る場合があります。

例4:出力ファイルに追跡を印刷する

```
PRTRTC DTAMBR(BIGTRACE) DTALIB(TRACELIB) DLTRTC(*YES)
      OUTPUT(*OUTFILE) OUTFILE(MYLIB/MYFILE)
```

このコマンドは、ライブラリーTRACELIBのデータベース・ファイル・メンバー名BIGTRACEに入っている追跡データを、ライブラリーMYLIBのデータベース出力ファイルMYFILEに保管します。追跡データ・メンバーBIGTRACEは、追跡データがデータベース出力ファイルに書き込まれた後で除去されます。

エラー・メッセージ： ENDTRC

*ESCAPE メッセージ

CPF39CD

PRTRTCコマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF98A2

&1コマンドは認可されていない。

[トップ](#)

トリガー・プログラムの印刷 (PRTRGPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

トリガー・プログラム印刷(PRTRGPGM)コマンドは、指定されたライブラリーの物理ファイルのトリガー・プログラムとして定義されているプログラムをリストします。

このコマンドは、ライブラリーについて2つの報告書を印刷します。最初の報告書（全報告書）には、指定されたライブラリーのファイルと関連したトリガー・プログラムがすべて入れられます。2番目の報告書（変更報告書）には、指定されたライブラリーにこの時点で表示されていて、ライブラリーに対して前にPRTRGPGMコマンドが実行された時にライブラリー中になかったトリガー・プログラムが入れられます。ライブラリーに対してPRTRGPGMコマンドを前に実行しなかった場合には、「変更報告書」はありません。ライブラリーに対してこのコマンドを前に実行しているが、追加のトリガー・プログラムが指定されたライブラリーにない場合には、「変更報告書」は印刷されますが、リストされるオブジェクトはありません。トリガー・プログラムのトリガー時、トリガー事象またはトリガー更新条件が変更されても、「変更報告書」は生成されません。

ライブラリーQUSRSYSのファイルQSECTRGOLDには、ライブラリーに対して最後にPRTRGPGMコマンドを実行した時以降の情報が入っています。このコマンドに前に指定した各ライブラリーについて、指定されたライブラリーと同じ名前のメンバーがファイル中にあります。QWHFDTRGの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQAFDTRGは、QSECTRGOLDファイルのモデル・ファイルです。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *LIBL, *USRLIBL, *CURLIB, *ALL, *ALLUSR	必須, 定位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	*NO, *YES	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

これは必須パラメーターです。

トリガー・プログラムを持つファイルを検索するライブラリーの名前。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

スレッドの現行ライブラリーが検索されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**ライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、**ASPDEV(*)**が唯一の有効な値です。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。この値が使用される時に**ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターが指定された場合には、**ASPDEV(*)**が唯一の有効な値です。

***ALL ASP装置 (ASPDEV)**パラメーターに指定された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのライブラリーが検索されます。

*ALLUSR

ASP装置 (ASPDEV)パラメーターによって定義された補助記憶域プール(ASP)内のすべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。

ユーザー・ライブラリーは、**Q**以外の文字で始まる名前を持つライブラリーのうち、次のものを除くすべてのライブラリーです。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

英字**Q**で始まる名前をもつ次のライブラリーは**IBM**によって提供されますが、一般的に、これらには頻繁に変更されるユーザー・データが入っています。したがって、これらのライブラリーもユーザー・ライブラリーと見なされます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS     QUSRVXRXXM
QGPL       QSRVAGT     QUSRINFSCR
QGPL38     QSYS2       QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F       QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38     QUSRPOSSA
QMQRDATA   QUSRADSM    QUSRPYMSVR
QMQRPROC   QUSRBRM     QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL   QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB   QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースの**CL**プログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用に**QUSRVXRXXM**の形式の別のライブラリー名を作成することができます。**QUSRVXRXXM**ユーザー・ライブラリーの**VXRXXM**は弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前。

トップ

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

[トップ](#)

PRTRTRGPGMの例

PRTRTRGPGM LIB(*ALL)

このコマンドは、すべてのライブラリーのすべてのファイルを検索して、全報告書と変更トリガー・プログラム報告書の両方を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTRTRGPGM

***ESCAPE** メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

ユーザー・オブジェクトの印刷 (PRTUSROBJ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・オブジェクト印刷(PRTUSROBJ)コマンドによって、IBMで作成されていないライブラリー中のオブジェクトの報告書を印刷することができます。「ユーザーによる作成」属性が*IBMまたはQLPINSTALLでない場合には、そのオブジェクトが報告書に入れられます。このコマンドを使用して、IBM専用で使用する予定のライブラリー中にあるユーザー作成オブジェクトをチェックします。たとえば、ライブラリーQSYSに対してこのプログラムを実行して、IBM以外の(ユーザー)オブジェクトがこれに入っているかどうかを判別することができます。

注: IBMで作成された一部のオブジェクトは、この報告書にまだ表示されます。たとえば、PTF出口プログラムによって作成されるオブジェクトがこの報告書に入れられます。オブジェクトが報告書から除外されるのは、「ユーザーによる作成」属性が*IBMまたは"QLPINSTALL"のいずれかである場合だけです。

このコマンドは、ライブラリーについて2つの報告書を印刷します。最初の報告書(全報告書)には、IBMによって作成されていないオブジェクトがすべて入れられます。2番目の報告書(変更報告書)には、指定されたライブラリーにこの時点で表示されていて、ライブラリーに対して前にPRTUSROBJコマンドが実行された時にライブラリー中になかったオブジェクトが入れられます。ライブラリーに対してPRTUSROBJコマンドを前に実行しなかった場合には、「変更報告書」はありません。ライブラリーに対してこのコマンドを前に実行しているが、IBMによって作成されなかったライブラリーに追加のオブジェクトが追加されなかった場合には、「変更報告書」が印刷されますが、リストされるオブジェクトはありません。

ライブラリーQUSRSYSのファイルQSECPUOOLDには、ライブラリーに対して最後にPRTUSROBJコマンドを実行した時以降の情報が入っています。このコマンドに前に指定した各ライブラリーについて、指定されたライブラリーと同じ名前のメンバーがファイル中にあります。QLIDOBJDの様式名を用いたライブラリーQSYSのシステム・ファイルQADSPOBJは、QSECPUOOLDファイルのモデル・ファイルです。

制約事項:このコマンドを使用するには、*ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1
CHGRPTONLY	変更済み報告書専用	*NO, *YES	オプション, 定位置 2

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

これは必須パラメーターです。

IBMによって作成されたものでないオブジェクトを検索するライブラリーの名前。

[トップ](#)

変更済み報告書専用 (CHGRPTONLY)

変更報告書だけを印刷する必要があるかどうかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***NO** 全報告書および変更報告書が印刷されます。

***YES** 変更報告書だけが印刷されます。

[トップ](#)

PRTUSROBJの例

```
PRTUSROBJ LIB(QSYS) CHGONLY(*NO)
```

このコマンドは、IBMによって作成されたものでないすべてのオブジェクトをライブラリーQSYSから検索して、全報告書と変更報告書の両方を印刷します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PRTUSROBJ

***ESCAPE** メッセージ

CPF304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイルの印刷 (PRTUSRPRF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ユーザー・プロファイル印刷(PRTUSRPRF)コマンドによって、システム上のユーザー・プロファイルの情報を含む報告書を印刷することができます。4つの異なる報告書を印刷することができます。その1つには権限タイプ情報が入っていて、もう1つには環境タイプ情報が入っていて、もう1つにはパスワード・タイプ情報が入っていて、残りの1つにはパスワード・レベル・タイプ情報が入っています。

権限情報報告書には、次の情報が入っています。

- 報告書のタイプ
- 報告書のユーザー・プロファイルの選択に使用する基準
- 選択している特殊権限('選択基準'が*SPCAUTの場合)
- 選択しているユーザー・クラス('選択基準'が*USRCLSの場合)
- 選択した各ユーザー・プロファイルの項目。各項目には、次の情報が入っています。
 - ユーザー・プロファイルの名前
 - ユーザーのグループ・プロファイルの名前

ユーザー・プロファイルにグループ・プロファイルがない場合には、このフィールドには'*NONE'が入っています。ユーザーにグループ・プロファイルがある場合には、各ユーザーのグループのユーザー・プロファイル項目の後に、追加の項目が続きます。この項目にはグループ・プロファイル名、およびそのグループ・プロファイルが持っている特殊権限が入れられます。

- ユーザー・プロファイルが持っている特殊権限の標識('X'または'')
- ユーザー・プロファイルのユーザー・クラス
- このユーザー・プロファイルまたはそのグループ・プロファイルが、このユーザー・プロファイルで作成されたオブジェクトを所有しているかどうか
- 新規に作成されたオブジェクトのユーザーのグループ・プロファイルに対して、どんな権限を付与するか(所有者の値が*USRPRFの場合)
- ユーザー・プロファイルの制約された機能の値

環境情報報告書には、次の情報が入れます。

- 報告書のタイプ
- 報告書のユーザー・プロファイルの選択に使用する基準
- 選択している特殊権限('選択基準'が*SPCAUTの場合)
- 選択しているユーザー・クラス('選択基準'が*USRCLSの場合)
- 選択した各ユーザー・プロファイルの項目。各項目には、次の情報が入っています。
 - ユーザー・プロファイルの名前
 - ユーザーの現行ライブラリーの名前
 - ユーザーの初期メニューの名前、およびそれが入っているライブラリー
 - ユーザーの初期プログラムの名前、およびそれが入っているライブラリー

- ユーザーのジョブ記述の名前, およびそれが入っているライブラリー
- ユーザーのメッセージ待ち行列の名前, およびそれが入っているライブラリー
- ユーザーのアテンション・プログラムの名前, およびそれが入っているライブラリー

パスワード情報報告書には, 次の情報が入っています。

- 報告書のタイプ
- 報告書のユーザー・プロファイルの選択に使用する基準
- 選択している特殊権限('選択基準'が*SPCAUTの場合)
- 選択しているユーザー・クラス('選択基準'が*USRCLSの場合)
- QPWDEXPITVシステム値の値(ユーザーのパスワード有効期限が*SYSVALの場合の参照用)
- 選択した各ユーザー・プロファイルの項目。各項目には, 次の情報が入っています。
 - ユーザー・プロファイルの名前
 - ユーザー・プロファイルの状況
 - 無効であったサインオン試行回数
 - 'パスワードなし'の標識(ユーザーにパスワードがない場合には'X', ある場合には'')
 - パスワードがローカルに管理されるかどうか
 - ユーザーの前のサインオン日付
 - ユーザーのパスワードが最後に変更された日付
 - ユーザーのパスワード有効期限
 - ユーザーのパスワードの有効期限が設定されるかどうか

パスワード・レベル情報報告書には, システムでパスワード・レベルの変更が可能かどうかの判別に使用できる次の情報が入っています。

- 報告書のタイプ
- 報告書のユーザー・プロファイルの選択に使用する基準
- 選択している特殊権限('選択基準'が*SPCAUTの場合)
- 選択しているユーザー・クラス('選択基準'が*USRCLSの場合)
- 選択した各ユーザー・プロファイルの項目。各項目には, 次の情報が入っています。
 - ユーザー・プロファイルの名前
 - 「レベル0または1のパスワード存在」の標識(ユーザーにパスワードがある場合には'*YES', ユーザーにパスワードがない場合には'*NO', あるいはパスワード情報を使用できない場合には'*UNKNOWN')。
 - 「レベル2または3のパスワード存在」の標識('*YES', '*NO',または'*UNKNOWN')。
 - WINDOWS 95および98 NETSERVERパスワードの「NETSERVERのパスワード存在」の標識('*YES', '*NO',0または'*UNKNOWN')。

注: 機密保護属性表示(DSPSECA)コマンドは, システムの現行および保留パスワード・レベルを表示するために使用することができます。パスワード・レベルは, QPWDLVLシステム値を変更することによって変更できます。

制約事項:このコマンドを使用するには, *ALLOBJまたは*AUDIT特殊権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	情報のタイプ	*ALL , *AUTINFO, *ENVINFO, *PWDINFO, *PDDLVL	オプション
SELECT	選択	*SPCAUT , *USRCLS, *MISMATCH	オプション
SPCAUT	特殊権限	単一値: *ALL その他の値 (最大 9 回の繰り返し): *ALLOBJ, *AUDIT, *JOBCTL, *IOSYSCFG, *SAVSYS, *SECADM, *SERVICE, *SPLCTL, *NONE	オプション
USRCLS	ユーザー・クラス	単一値: *ALL その他の値 (最大 5 回の繰り返し): *USER, *SYSOPR, *PGMR, *SECADM, *SECOFR	オプション

トップ

情報のタイプ (TYPE)

選択したユーザー・プロファイルについて印刷できる情報のタイプ。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 選択したユーザー・プロファイルのすべての報告書が印刷されます。

***AUTINFO**

選択したユーザー・プロファイルの権限タイプ情報を含む報告書が印刷されます。

***ENVINFO**

選択したユーザー・プロファイルの環境タイプ情報を含む報告書が印刷されます。

***PWDINFO**

選択したユーザー・プロファイルのパスワード・タイプ情報を含む報告書が印刷されます。

***PDDLVL**

選択したユーザー・プロファイルのパスワード・レベル・タイプ情報を含む報告書が印刷されます。この報告書は、異なったパスワード・レベルで使用するパスワードがどのユーザー・プロファイルにあるかの判別に使用することができます。

トップ

選択 (SELECT)

報告書に含めるユーザー・プロファイルの選択で使用する選択基準を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***SPCAUT**

特殊権限に基づいて、報告書のユーザー・プロファイルが選択されます。

***USRCLS**

ユーザー・クラスに基づいて、報告書のユーザー・プロファイルが選択されます。

*MISMATCH

そのユーザー・クラスに割り当てられた省略時の値でない、それらの特殊権限に基づいて、報告書のユーザー・プロファイルが選択されます。

注: V3R7で変更されたユーザー・クラスの省略時の特殊権限。したがって、V3R7より前に作成されたプロファイルについてこの報告書を実行する時には、省略時の値とは一致しない、予測より多いプロファイル数が通知されることがあります。

[トップ](#)

特殊権限 (SPCAUT)

*SPCAUTが選択プロンプト(SELECTパラメーター)に指定された場合には、これは、ユーザーの選択で使用する必要がある特殊権限を指定します。このパラメーターに指定された特殊権限のどれかを持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。最大9個の特殊権限を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

あるいは、次の1つまたは複数の値を選択します(最大9)。

*ALLOBJ

*ALLOBJの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*AUDIT

*AUDITの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*IOSYSCFG

*IOSYSCFGの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*JOBCTL

*JOBCTLの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*SAVSYS

*SAVSYSの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*SECADM

*SECADMの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*SERVICE

*SERVICEの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*SPLCTL

*SPLCTLの特殊権限を持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

*NONE

特殊権限を持たないユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

[トップ](#)

ユーザー・クラス (USRCLS)

*USRCLSが選択プロンプト(SELECTパラメーター)に指定された場合には、これは、ユーザーの選択で使用する必要があるユーザー・クラスを指定します。このパラメーターに指定されたユーザー・クラスを持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。最大5つのユーザー・クラスを指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** すべてのユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

あるいは、次の1つまたは複数の値を選択します(最大5)。

***USER**

*USERのユーザー・クラスを持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

***SYSOPR**

*SYSOPRのユーザー・クラスを持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

***PGMR**

*PGMRのユーザー・クラスを持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

***SECADM**

*SECADMのユーザー・クラスを持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

***SECOFR**

*SECOFRのユーザー・クラスを持つユーザー・プロファイルが報告書に入れられます。

トップ

PRTUSRPRFの例

```
PRTUSRPRF TYPE(*ALL) SELECT(*SPCAUT) SPCAUT(*ALLOBJ *SECADM)
```

このコマンドは、*ALLOBJか*SECADMのいずれかの特殊権限を持つユーザー・プロファイルについて4つのすべての報告書を印刷します。

トップ

エラー・メッセージ: PRTUSRPRF

***ESCAPE** メッセージ

CPFB304

ユーザーに必要な特殊権限がない。

CPFB307

コマンド&1は別のジョブが使用中である。

トップ

システム電源遮断 (PWRDWN SYS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンドは、システムを終了するための準備をし、そして電源遮断手順を開始します。活動中のすべてのサブシステムに、システムの電源遮断が進行中であることが通知されます。どのサブシステムも、新しいジョブまたは経路指定ステップを開始することはできません。たとえば、ジョブ待ち行列上のジョブは開始されません。さらに、ジョブ転送 (TFRJOB)コマンドの結果としてジョブ待ち行列上にあるジョブは完了しません。それらは、次の初期プログラム・ロード (IPL)時にジョブ待ち行列から除去され、そのジョブ・ログが作成されます。

*CNTRLDオプションを使用してシステムの電源を遮断する時には、構成オブジェクトのオフへの構成変更が開始されますが、電源が遮断される前に完了しない可能性があります。*IMMEDオプションを使用してシステムの電源を遮断する時には、構成オブジェクトのオフへの構成変更は実行されません。

注:

1. システムにネットワーク・サーバー記述が構成されている場合には、各ネットワーク・サーバーに関連したシステムおよびユーザー・データの保全性を確保するために、PWRDWN SYSコマンドを出す前に、すべてのNWSDをオフに構成変更しなければなりません。
2. システムにテープ装置がインストール済みされている場合には、テープのデータの保全性を保つために、システムの電源遮断の前に装置のすべてのテープ・リールをアンロードしなければなりません。
3. システムに1次区画があり、その1次区画で電源遮断すると、他の区画も電源遮断されます。1次区画を電源遮断する前に、他の区画が電源遮断の準備ができていることを確認してください。
4. システムに補助記憶域プール(ASP)装置が構成されている場合には、それぞれの独立ASPと関連したデータの保全性を確保するために、PWRDWN SYSコマンドを出す前に、すべての独立ASPをオフに構成変更しなければなりません。
5. システム電源遮断出口点(QIBM_QWC_PWRDWN SYS)は、PWRDWN SYSコマンドを使用する時に呼び出すプログラムの登録に使用することができます。このプログラムは、システムの電源遮断の前にクリーンアップ機能を実行することができます。
6. QENDJOB LMTおよびQPWRDWN LMTシステム値を変更する場合には、QPWRDWN LMTがQENDJOB LMTより大きくなるように値を指定してください。これらの値では、コミットメント制御処理の完了およびデータベース・ファイルのクローズなど、システム提供ジョブ終了機能のために十分な時間を考慮する必要があります。

制約事項:このコマンドを使用するためには、ジョブ制御(*JOBCTL)権限が必要です。次の制約事項が適用されます。

1. **イメージ・カタログ (IMGCLG)**パラメーターに指定されたイメージ・カタログに対する*USE権限、およびそのイメージ・カタログが入っているQUSRSYSライブラリーに対する*EXECUTE権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	終了方法	* <u>CNTRL</u> D, *IMMED	オプション、位置 1
DELAY	制御された終了遅延時間	1-99999, <u>3600</u> , *NOLIMIT	オプション、位置 2
RESTART	再始動オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 電源切断後の再始動	* <u>NO</u> , *YES	
	要素 2: 再始動タイプ	* <u>IPLA</u> , *SYS, *FULL	
IPLSRC	IPLソース	* <u>PANEL</u> , A, B, D, *IMGCLG	オプション
IMGCLG	イメージ・カタログ	名前	オプション
ENDSBSOPT	サブシステム終了オプション	単一値: * <u>DFT</u> その他の値 (最大 3 回の繰り返し): *NOJOBLOG, *CHGPTY, *CHGTSL	オプション
TIMOUTOPT	タイムアウト・オプション	*CONTINUE, * <u>MSD</u> , *SYSREFCDE	オプション
CONFIRM	確認	* <u>ENVVAR</u> , *INTERACT, *YES, *NO	オプション

トップ

終了方法 (OPTION)

システムがすべての活動サブシステムに活動ジョブの処理を制御方式で終了できるようにするのか (アプリケーション・プログラムは処理終結を実行することができます) , それともシステムが即時にジョブを終了するのかを指定します。いずれの場合にも、システムはある種のジョブ終結機能を実行します。

*CNTRLD

サブシステムは、**制御された終了遅延時間 (DELAY)**パラメーターに指定された時間内に、すべての活動ジョブを制御付きで終了させます。この間、該当するジョブで実行中のプログラムでは、クリーンアップ (ジョブ終了処理) を実行することができます。終了中のジョブに非同期信号 SIGTERM のための信号処理プロシージャがあった場合には、そのジョブについて、SIGTERM 信号が生成されます。活動ジョブがループし始める可能性または照会メッセージを QSYSOPR に送る可能性がある場合には、DELAY パラメーターを使用して遅延時間を指定しなければなりません。

*IMMED

サブシステムはすべての活動ジョブを即時に終了させます。終了中のジョブに非同期信号 SIGTERM のための信号処理プロシージャがあった場合には、そのジョブについて、SIGTERM 信号が生成され、時間制限は QENDJOBLMT によって指定されます。SIGTERM 信号を処理する以外に、それらのジョブで実行中のプログラムはいかなるクリーンアップも実行できません。*IMMED が指定されている場合には、最小限度の時間しか必要ありません。*IMMED が指定されている場合にクリーンアップに使用できる時間は、システム値 QENDJOBLMT および QPWRDWNLMT により制御されます。

注: *IMMED 値は、データが部分的に更新されている場合に好ましくない結果をもたらす可能性があります。この値は、制御付き終了が正常に試みられなかった後に限り使用してください。

注: システムが補助電源のもとで作動中に *IMMED が指定された場合、またはシステムが補助電源のもとで作動中に**制御された終了遅延時間 (DELAY)**パラメーターに指定された遅延時間が終了した場合に、システムは、それ以上のジョブ・クリーンアップ活動を行わずに即時に電源遮断します。

制御された終了遅延時間 (DELAY)

システムが活動サブシステムによって実行される制御された終了を可能にする時間の量 (秒数) を指定します。指定された遅延時間内にジョブ終了ルーチンが完了しない場合には、残りのジョブはすべて即時に終了します。

3600 制御付き終了処理を完了するための時間は、3600秒に制限されます。

*NOLIMIT

最後のジョブが完了するまで、システムは電源遮断されません。

注: *NOLIMITを指定した場合には、バッチ・ジョブのループが起こることになり、システムは電源遮断されません。

1-99999

制御された終了を実行できる最大遅延時間の量 (秒数) を指定してください。

電源切断後の再始動 (RESTART)

システムが終了して、電源遮断されるのか、あるいは不在時モードで再開されるのかを指定します。

このパラメーターの2番目の要素は、初期プログラム・ロード(IPL)の再始動を開始する点を指定します。

*FULLよりも*SYSを指定した方が、システムの再始動に必要な時間を短くすることができます。

要素1: 電源切断後の再始動

***NO** システムは終了し、電源が遮断されます。

***YES** システムが通常電源で作動している場合には、システムは処理を終了して (電源遮断を行わずに) 簡略IPLを行います。また、システムが補助電源で作動している場合には、システムは電源を遮断し、(QPWRRSTIPLシステム値が'1'にセットされている場合のみ) 通常電源が復元された時に自動IPLが行われます。システムが再開される時、あるいは自動IPLが行われる時には、IPLは不在時モードで行われます。不在時モードでは、IPLオプション画面などの画面は表示されません。

要素2: 再始動タイプ

***IPLA** IPL属性の変更 (CHGIPLA)コマンドに指定された値が使用されます。この値の現在の設定を判別するには、IPL属性の表示 (DSPIPLA)コマンドを使用します。

***SYS** オペレーティング・システムが再始動されます。ハードウェアが再始動されるのは、システムで必要となる場合だけです。

***FULL** ハードウェアを含めて、システムのすべての部分が再始動されます。

IPLソース (IPLSRC)

初期プログラム・ロード(IPL)をシステムのソースA、ソースB、またはソースDのいずれから開始するかを指定してください。このパラメーターによって、システムのどのライセンス内部コード(LIC)記憶装置のソースをIPLするかを制御することができます。また、システムのソースがLICプログラム一時修正(PTF)の適用対象を判別します。また、このパラメーターによって、システムはDASDの導入イメージから新規リリースにアップグレードすることができます。

ソースに関する考慮事項

LICには、ソースA、ソースB、およびソースDと呼ばれる3つの記憶域があります。ソースDは導入媒体です。ソースAおよびソースBはシステム・メモリーの一部です。最初はソースAとソースBは同じですが、ライセンス内部コード修正が一時的に実行される(PTF)と、一時的な修正はソースBに記憶されます。同じ修正が永続的なものになると、これがソースBからソースAにコピーされます。したがって、修正はソースAおよびソースBの両方に存在します。

一時修正をソースBに送る場合には、システムをソースAから開始しなければなりません。これによって、修正がソースBに送られます。

ソースAからシステムを開始すると、システムは永続修正から実行されます。ソースB からシステムを開始すると、システムは一時修正と永続修正の組み合わせから実行されます。ソースDからシステムを開始すると、導入媒体からロードされたライセンス内部コードが使用されます。

RESTART(*YES)を指定されるようお奨めします。さもないと、システムのどのソースから実際に開始されるかを確認することはできません。この予防措置は、ある程度の時間の節約になります。

*PANEL

システムは操作員の画面に現在示されているソース（ソースA、ソースB、またはソースD）から開始されます。

- A システムは、ソースAから開始されます。
- B システムは、ソースBから開始されます。
- D システムはソースDの導入媒体から開始されます。

*IMGCLG

システムは、**イメージ・カタログ (IMGCLG)**パラメーターで指定されたイメージ・カタログから開始されます。このオプションを選択する時には、RESTART(*YES)を使用しなければなりません。

トップ

イメージ・カタログ (IMGCLG)

IPLSRC(*IMGCLG)の選択時に使用するイメージ・カタログを指定します。システムの電源遮断の後は、指定されたイメージ・カタログを使用しての導入が行われます。詳細については、カタログ項目の処理(WRKIMGCLGE)コマンドを参照してください。このパラメーターを指定する時には、RESTART(*YES)を使用しなければなりません。

名前 ライブラリーQUSRSYSのイメージ・カタログの名前を指定します。

トップ

サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)

活動サブシステムの終了時に取られるオプションを指定します。一般に、これらのオプションを指定すると、PWRDWN SYSコマンドのパフォーマンスが改善されます。各オプションには特定の副次作用があるので、それらのオプションの使用の前にそれを分析する必要があります。

このパラメーターは、すでに終了状況にあるジョブには影響しません。

***DFT** サブシステムは特殊な終了オプションなしで終了されます。

- ジョブ・ログが生成されます。
- 実行優先順位は変わりません。
- タイム・スライス値は変わりません。

***NOJOBLOG**

このコマンドの呼び出しによって、終了されるジョブのジョブ・ログは作成されません。これには、サブシステム・モニター・ジョブおよびサブシステムのすべてのユーザー・ジョブが含まれます。このオプションでは、PWRDWN SYSコマンドの完了までに要する時間を大幅に短縮することができますが、ジョブ中で問題が起こった場合には、その問題を記録するジョブ・ログがないので、問題の診断が困難になるかまたは不可能になる可能性があります。

注: OPTION(*IMMED)が指定された場合には、サブシステム終了オプション (ENDSBSOPT)パラメーターに関係なく、PWRDWN SYS中にジョブ・ログは作成されません。ただし、*NOJOBLOGオプションが指定されない限り、これらのジョブ・ログはシステムの次のIPLで作成されます。したがって、OPTION(*IMMED) ENDSBSOPT(*NOJOBLOG)を指定した場合には、システム電源遮断は迅速に行われませんが、その後のIPLが早くなります。

***CHGPTY**

終了しているジョブのCPU優先順位が高い値（より劣る優先順位）に変わります。*CHGPTYを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。システムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

***CHGTSL**

終了しているジョブのタイム・スライスは下限値に変わります。*CHGTSLを指定すると、システム上の残りの活動ジョブのパフォーマンスは改善されることがありますが、終了中のジョブはその完了に長くかかる場合があります。システムが制御付きで終了される場合には、このオプションは無視されます。しかし、DELAY時間制限が満了すると、このオプションは即時に有効となります。

[トップ](#)

タイムアウト・オプション (TIMOUTOPT)

QPWRDWN LMTシステム値によって指定された時間制限内にシステムが終了しない時に取られるオプションを指定します。この時間制限が過ぎると、このパラメーターに指定された値とは関係なく、後続のIPLは異常となります。

***CONTINUE**

システムはタイムアウト条件を無視して、システムの電源遮断を続行します。RESTART(*YES)を指定した場合には、システムは自動的に再始動されます。システムをデバッグするサービスについての最小情報が使用可能になります。

***MSD** システムは、システムをデバッグするサービスで利用できるメイン記憶ダンプを出します。メイン記憶ダンプ・マネージャーが正しく構成されている場合には、ダンプの終了後にシステムを再始動します。

***SYSREFCDE**

システムはシステム参照コードB900 3F10を表示して、システムを停止します。これによって、サービスでのシステムのデバッグが可能になります。

トップ

確認 (CONFIRM)

システムを電源遮断する前に、その要求を確認する必要があるかどうかを指定します。

***ENVVAR**

環境変数QIBM_PWRDWN SYS_CONFIRMの値は、その要求を確認する必要があるかどうかの判別に使用されます。この値が*INTERACT, *YES,または*NOに設定された場合には、その値について下記で説明される処置が取られます。環境変数が定義されないか、あるいはこれらの値の1つに設定されない場合には、確認は行われません。システムが開始した電源遮断では、環境変数は使用されません。

***INTERACT**

PWRDWN SYSコマンドが対話式ジョブで出されると、確認パネルが表示されます。PWRDWN SYSコマンドが非対話式ジョブで出されると、確認は行われません。

***YES** PWRDWN SYSコマンドが対話式ジョブで出されると、確認パネルが表示されます。PWRDWN SYSコマンドが非対話式ジョブで出されると、照会メッセージが送信されます。

***NO** PWRDWN SYSコマンドが出されると、確認は行われません。

トップ

PWRDWN SYSの例

例1:即時終了の実行

```
PWRDWN SYS OPTION(*IMMED)
```

このコマンドによって、システムはどの活動ジョブにもクリーンアップ・ルーチンの実行を許可しないで即時終了を実行します。システムがその終了機能を完了すると、電源遮断手順を開始します。

例2:制御付き終了の指定

```
SBMJOB JOB(LASTJOB) JOBD(QBATCH) JOBPTY(9) JOBQ(QBATCH)
RQSDTA('PWRDWN SYS *CNTRLD 3600')
```

このコマンドは、実行された場合にシステムに制御付き終了を実行させる低優先順位のバッチ・ジョブを投入します。制御付き終了には、残りのジョブが終了される前に完了するために1時間(3600秒)が許可されます。PWRDWN SYSを出すこの方式は、ジョブ待ち行列QBATCH上の他の高優先順位のジョブ(ジョブ転送(TFRJOB)コマンドの結果として待ち行列上にあるジョブを含む)をPWRDWN SYSコマンドが実行される前に完了できるようにするために使用されることがあります。QBATCHジョブ待ち行列が処理のソースとなる活動サブシステムがなければなりません。

例3:時間制限のない制御付き終了の指定

184 iSeries: OS/400 コマンド OVRTAPF (テープ・ファイル一時変更) ~

```
PWRDWNSYS OPTION(*CNTRLD) RESTART(*YES)
```

このコマンドによって、システムは時間制限なしに制御付き終了を実行します。システム内のすべてのジョブが完了した時点で、システムは終了の準備をし、IPLを開始します。

PWRDWNSYS OPTION(*CNTRLD)を入力した後、遅延時間が終了する前に、PWRDWNSYS OPTION(*IMMED)を入力することによってこのコマンドを一時変更することができます。この場合には、2番目のコマンドのRESTARTパラメーターに指定した値または省略時の値が、最初のコマンドに指定した値または省略時の値も一時変更します。

例4:即時終了後のIPLソースの変更

```
PWRDWNSYS OPTION(*IMMED) RESTART(*YES) IPLSRC(A)
```

このコマンドによって、システムは即時に終了し、IPLソースがAに変更されます。システムが再始動される時には、そのIPLはAソースで行われます。

例5:オペレーティング・システムによる再始動点の決定の許可

```
PWRDWNSYS OPTION(*IMMED) RESTART((*YES *SYS))
```

このコマンドによって、オペレーティング・システムによって決定された点で再始動するようにIPLが行われます。

例6:タイムアウト・オプションの変更

```
PWRDWNSYS OPTION(*IMMED) TIMOUTOPT(*MSD)
```

このコマンドによって、システムは即時に終了します。QPWRDWNLMTシステム値を超えた場合には、システムは主記憶域をダンプします。主記憶域ダンプ・マネージャーが正しく構成されていれば、システムが再始動します。そうでない場合には、B900 3F10システム参照コードが表示され、システムは停止します。

例7:オペレーティング・システムの新規リリースの導入

```
PWRDWNSYS RESTART(*YES) IPLSRC(*IMGCLG) IMGCLG(MYCAT1)
```

このコマンドによって、システムは終了し、イメージ・カタログMYCAT1からのオペレーティング・システムの新規リリースの導入が開始されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： PWRDWNSYS

*ESCAPE メッセージ

CPF1001

システム応答の待機時間が満了した。

CPF1036

*CNTRLDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1037

*IMMEDオプションでシステムの電源が切られた。

CPF1038

コマンドを使用する権限がない。

CPF1091

システム・アービターで機能チェックが起こった。

CPFBC42

イメージ・カタログ&1の検査が失敗した。

[トップ](#)

文書ライブラリー照会 (QRYDOCLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリーQUERY (QRYDOCLIB)コマンドによって、文書ライブラリー内の文書を検索することができます。検索の結果を含む文書リストが作成されます。また、検索要求を満たす文書に関する情報を、処理のためにデータベース・ファイルにコピーすることもできます。

QRYDOCLIBコマンドが実行されると、文書リスト・オブジェクトが作成されます。ユーザーがDOCLパラメーターに*NONEを指定しない限り、出力ファイルが生成されるかどうかにかかわらず、文書リスト・オブジェクトが作成されます。この文書オブジェクト・リストは、SAVDLOコマンドによってだけでなく、OFFICEVISION/400プロダクトによっても使用されます。

制約事項: このコマンドの現行ユーザーは、指定したユーザーIDアドレスの代行処理を行なう権限をもっていない限りなりません。他のユーザーの代行処理を行なうためには、ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによって認可された特殊認可を受けていない限りなりません。

注: 出力ファイルの形式はシステム・ファイルQSYS/QAOSIQDLのOSIQDLと同じでなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
QRYDFN	QUERY定義	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 照会開始	*IF	
	要素 2: 検索基準	値 (最大 49 回の繰り返し); 要素リスト	
	要素 1: プロファイル	*ACTDATE, *ALWRPL, *ASP, *AUTHOR, *CHGDATE, *CMPDATE, *CPYLST, *CRTDATE, *DOCCLS, *DOCD, *DOCDATE, *DOCTYPE, *EXPDATE, *FILDATE, *IDXDATE, *KWD, *OWNER, *PROJECT, *REF, *REVDATE, *STATUS, *SUBJECT, *USEDATE	
	要素 2: 比較演算子	*EQ, *GT, *LT, *NE, *GE, *NL, *LE, *NG, *CT, *BG	
	要素 3: 比較値	文字値, *YES, *NO	
	要素 4: 論理演算子	*AND , *OR	
FLR	フォルダー中	単一値: *ALL その他の値 (最大 100 回の繰り返し): 文字値, *NONE	オプション
SCHSUBFLR	サブフォルダーの検索	*NO , *YES	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
QRYTXT	QUERYプログラムのテキスト	単一値: *NONE その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 照会開始	*IF	
	要素 2: 検索基準	値 (最大 30 回の繰り返し): 要素リスト	
	要素 1: 句	文字値	
	要素 2: 一致のタイプ	*ALL , *EXACT	
	要素 3: 同義語可能	*NO , *YES	
	要素 4: 論理演算子	*OR , *AND , *ANDNOT	
TXTLANGID	言語識別コード	文字値, *JOB	オプション
DOCL	文書リスト	文字値, *DFT , *NONE	オプション
TEXT	テキスト	文字値, *BLANK	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
OUTDTATYP	出力のデータ・タイプ	単一値: *DFT , *ALL その他の値 (最大 21 回の繰り返し): *ACTDATE , *AUTHOR , *CHGDATE , *CMPDATE , *CPYLST , *CRTDATE , *DOCCLS , *DOCD , *DOCDATE , *EXPDATE , *FILCAB , *FILDATE , *IDP , *IDXDATE , *KWD , *PROJECT , *REF , *REVDATE , *STATUS , *SUBJECT , *USEDATE	オプション
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
TIMLMT	時間制限	1-9999, *NOMAX	オプション
SELLMT	選択制限	1-32767, *NOMAX	オプション
ORDER	順序	単一値: *NONE その他の値 (最大 5 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: プロファイル	*ACTDATE , *ASP , *AUTHOR , *CHGDATE , *CMPDATE , *CPYLST , *CRTDATE , *DOCCLS , *DOCD , *DOCDATE , *DOCTYPE , *EXPDATE , *FILDATE , *IDXDATE , *KWD , *OWNER , *PROJECT , *REF , *REVDATE , *STATUS , *SUBJECT , *USEDATE	
	要素 2: 選択順序	*ASCEND , *DESCEND	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

QUERY定義 (QRYDFN)

文書を選択するためにどのQUERY定義選択値を使用するかを指定します。このパラメーターに指定する値は、文書ライブラリーの検索に使用されます。*NONE以外の値が **QUERYプログラムのテキストプロンプト** (QRYTXTパラメーター) とこのパラメーターの両方に指定された場合には、両方のセットの値と一致する文書だけが選択されます。両方のパラメーターに*NONEを指定した場合には、ユーザーに許可されたすべての文書が選択されます。

可能な**QUERY開始**の値は次の通りです。

***NONE**

文書を選択にQUERY定義は使用されません。

***IF** 文書を選択にQUERY定義が使用されます。

文書を選択するための条件を指定するためには、各条件に対して1セットの値を指定します。各セットには、必ず次の4つの値が含まれていなければなりません。

1. 比較される文書プロファイル・パラメーターの名前（後出のリストから選択する）
2. 比較演算子値の1つ（後出のリストから選択する）
3. 比較値
4. 論理演算子*AND, *OR,または*ANDNOTの1つ。

値1および3は値2によって指定された関係について比較されます。各QRYDFN関連セットは括弧で囲まなければなりません。最大49セットの値を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能な**プロファイル**の値は次の通りです。

値	説明
---	----

***ACTDATE**

処置期日

***ALWRPL**

文書の置き換えの許可

***ASP** 補助記憶域プールID

***AUTHOR**

文書の作成者

***CHGDATE**

最終変更日

***CMPDATE**

完了日

***CPYLST**

コピー・リスト

***CRTDATE**

作成日

***DOCCLS**

文書クラス

- *DOCD**
文書記述
- *DOCDATE**
文書日付
- *DOCTYPE**
文書タイプ
- *EXPDATE**
満了日
- *FILDATE**
ファイル日付
- *IDXDATE**
最終索引付け日付
- *KWD** キーワード
- *OWNER**
文書の所有者
- *PROJECT**
文書のプロジェクト
- *REF** 参照
- *REVDATE**
最終変更日付
- *STATUS**
文書状況
- *SUBJECT**
文書件名
- *USEDATE**
最終使用日付

可能な**比較演算子**の値は次の通りです。

演算子 説明

- *EQ** 等しい
- *GT** より大きい
- *LT** より小さい
- *NE** 等しくない
- *GE** より大きいか等しい
- *NL** より小
- *LE** より小さいか等しい
- *NG** より大きくない
- *CT** 含む
- *BG** 始める

比較演算子は、文書内のプロファイル・パラメーターの内容と、その関係のQUERY 定義の比較値パラメーターとして指定された値との間に存在する関係が真であることを示します。

文脈検索を実行するためには、*CT演算子が使用されます。これは、比較値によって指定された文字ストリングがプロファイル・パラメーターのどこかに含まれているかどうかを判別するようシステムに依頼します。

*BG演算子は、比較値をプロファイル・パラメーターの始めと比較する検索を実行するために使用されます。プロファイル・パラメーターは、指定された値の長さとも一致させるために必要があれば切り捨てまたは拡張されます。これは、値によって指定された文字ストリングがプロファイル・パラメーターの始めに含まれているかどうか調べるようにシステムに依頼します。

すべての演算子をすべてのプロファイル・パラメーターで使用できるわけではありません。その場合には、診断メッセージに続いてエスケープ・メッセージが送られます。

次のケースは正しくありません。

- *ALWRPL (文書の置き換えの許可) がYES/NOスイッチである。*ALWRPLで使用できる演算子は*EQ演算子だけです。
- *CTおよび*BG演算子は、*ASP値または*CRTDATEおよび*EXPDATEなどの日付の値と一緒に使用することはできません。

可能な比較値は次の通りです。

比較値 指定されたプロファイル・パラメーターの内容と比較する値を指定してください。パラメーター値にブランクまたは特殊文字が入っている場合には、パラメーター値をアポストロフィで囲んで指定しなければなりません。

*ALWRPLフィールドは2つの特殊値*YESおよび*NOをもっています。*ALWRPLフィールドでこれらを指定した時には、これらは標識の内部値に変更されます。テキスト・フィールドに*YESまたは*NOを指定した時には、これらはそのままの状態で使用されます。

*OWNERフィールドは、8桁のユーザーIDとその後にそのアドレスが続きます。ユーザーIDから後書きブランクを省略することはできません。たとえば、ユーザーIDがJMDOEで、アドレスがSYSTEM1である場合には、QUERY要求は次の通りになります。

```
(*IF ((*OWNER *EQ 'JMDOE SYSTEM1'))
```

ユーザーIDがJIMSMITHの場合には、QUERY要求は次の通りになります。

```
(*IF ((*OWNER *EQ 'JIMSMITHSYSTEM1'))
```

日付はシステム日付の形式で入力しなければなりません。

注: 日付プロファイル・パラメーターの1つを指定し、比較値が' ' (ブランク) の場合には、その比較値は年間通算日の01/01/01または01/001と同等と見なされます。'/'は、システム区切り記号値QDATSEPにしたがって変更されます。

検索フィールドの使用できる長さは、文書交換アーキテクチャー(DIA)検索データベースによって制限されます。値の長さが最大値より大きい時には、その値は許容される長さに切り捨てられます。最大長は次の通りです。

値 **最大長**

***DOCD**

44文字

- *DOCCLS**
16文字
- *SUBJECT**
60文字
- *AUTHOR**
20文字
- *KWD** 60文字
- *CPYLST**
60文字
- *OWNER**
16文字
- *REF** 60文字
- *STATUS**
20文字
- *PROJECT**
10文字

*CTおよび*BG以外のすべての演算子については、プロファイル・パラメーター値より短い値を指定した場合には、指定した値はプロファイル・パラメーターの長さと同じになるようにブランクで拡張されます。

元のパラメーター値を入力するために使用される文字ケース（大文字、小文字、または混合）や比較値の文字ケースは重要ではありません。システムは、比較を行なう前に、入力された比較値と元のパラメーター値の両方を大文字に変更します。

可能な論理演算子の値は次の通りです。

- *AND** *AND値の両側にあるプロファイル・パラメーター値関係グループがすべて満足されなければ、文書は選択されません。
- *OR** *OR値のいずれか一方の側にあるパラメーター値関係グループが満足されれば、文書は選択されます。

論理演算子は、条件をグループにするために使用されます。最初に出てきた**AND**演算子は、条件グループが**AND**演算子の直前の条件から開始することを表します。**AND**演算子の次の条件はその条件グループに追加されます。**OR**演算子を含む条件で最初にある条件または**QUERY**定義の最後の条件でその条件グループが終了します。

トップ

フォルダー中 (FLR)

QUERY定義プロンプト (QRYDFNパラメーター) および **QUERY**プログラムのテキストプロンプト (QRYTXTパラメーター) に指定された検索値と一致する文書を検索するフォルダーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** システム上のすべてのフォルダーが検索されます。

***NONE**

どのフォルダーにも入っていない文書が検索されます。

フォルダー名

文書を検索するフォルダーの名前を指定してください。これは検索される唯一のフォルダーです。検索する文書の入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名(FLR1/FLR2/その他) から構成することができます。最大100個のフォルダーを指定することができます。各フォルダー名の長さは最大63桁とすることができます。

トップ

サブフォルダーの検索 (SCHSUBFLR)

FLRパラメーターに指定されたフォルダーのサブフォルダーが検索されるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NO** サブフォルダーは検索されません。

***YES** 指定されたフォルダーのサブフォルダーが検索されます。

トップ

QUERYプログラムのテキスト (QRYTXT)

文書の選択に使用されるテキスト検索値を指定します。このパラメーターに指定する値は、テキスト索引の検索に使用されます。***NONE**以外の値が **QUERY定義**プロンプト (QRYDFNパラメーター) とこのパラメーターの両方に指定された場合には、両方のセットの値と一致した文書だけが選択されます。両方のパラメーターに***NONE**を指定した場合には、ユーザーに許可されたすべての文書が選択されます。

可能な**QUERY開始**の値は次の通りです。

***NONE**

テキスト検索値は入力されません。

***IF** テキスト検索値は文書検索で使用されます。

文書を選択するための条件を指定するためには、各条件に対して1セットの値を指定します。各セットには、次の4つの値が含まれます。

1. システムがテキスト検索索引内の項目と比較する句
2. 一致のタイプの値の1つ
3. 同義語可能値の1つ
4. 論理演算子の1つ

最大30セットの値を指定することができます。各セットは括弧で囲まなければなりません。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能な句は次の通りです。

‘句’ 1つまたは複数語の句を指定します。句読点は使用しないでください。句の指定では、次を行なうことができます。

- 1つの句内の語全体にマスクをかけるためには、アスタリスク(*)を使用します。たとえば、各種の年間報告書の参照文書を検索したい場合には、その句を次の通り指定することができます。

年間*報告書

この検索結果には、年間予算報告書、年間進行状況報告書、および年間販売報告書などの句を含む文書が入ります。また、この検索結果には、年間と報告書の間に他の語がない「年間報告書」を含む文書も入れられます。

1つの語のマスクを使用する時には、アスタリスクの前後に語を指定しなければなりません。1つの句の始めまたは終わりの位置での語のマスクは無視されます。

- ある句内の1つの語の一部にマスクをかけるためには、アスタリスクを使用します。このマスクは語の始め、中間、または終わりで使用することができます。たとえば、ワード処理の参照文書を検索したい場合には、その句を次の通り指定することができます。

ワード処理*

この検索結果には、ワード処理、ワード処理システム、およびワード処理プログラムなどの句を含む文書が入れます。

- 1つの語の1つまたは複数の文字にマスクをかけるためには、疑問符(?)を使用します。たとえば、MICHIKOの各種のつづりを参照する文書を検索する場合には、その句を次のように指定することができます。

M?CHI?O

この検索結果には、MICHIKO、MICHIO、およびMACHIKOなどを含む文書が入れます。

可能な**一致のタイプ**の値は次の通りです。

***ALL** この句は1つの文の中に入っていないければなりません、この語は指定された順序でなくてもかまいません。

***EXACT**

この句は1つの文の中に入っていないければならず、この語は指定された順序でなければなりません。

可能な**同義語可能**の値は次の通りです。

***NO** 同義語は使用されません。

***YES** また、その句の各語の同義語（使用可能な場合）は、テキスト索引の項目との比較にも使用されます。

注: 同義語を使用すると、さらに多くの語が検索されることになり、その上、さらに多くの文書が選択される結果になることがあるために、要求のパフォーマンスに影響することがあります。

可能な**論理演算子**の値は次の通りです。

***OR** *OR値のどちらかの句が見つかった場合には、その文書が選択されます。

***AND** *AND値の両方の句が見つかった場合には、その文書が選択されます。

***ANDNOT**

*ANDNOT値の後の句が見つからなかった場合には、その文書が選択されます。

言語識別コード(TXTLANGID)

QUERYテキストの句の言語識別コードを指定します。 **QUERYプログラムのテキストプロンプト** (QRYTXTパラメーター) を指定した場合には、このパラメーターは必須パラメーターです。QRYTXTパラメーターを指定しないか、あるいは*NONEの値となっている場合には、このパラメーターは使用されません。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** このコマンドを入力したジョブに指定された言語識別コードが使用されます。

言語識別コード

言語識別コードを指定してください。有効な識別コードのリストを表示するためには、**言語識別コードプロンプト** (TXTLANGIDパラメーター) からPF4キーを押してください。

トップ

文書リスト (DOCL)

文書リストの名前を指定します。文書リストには、文書ライブラリー中の検索権限がある各文書を指すポインターが入っています。このリストは、検索が実行された時のライブラリーのコピーです。ライブラリーから文書が削除される時、またはライブラリーに文書が追加される時、文書リストは更新されません。文書ライブラリー・リスト名は、検索を要求したユーザーの名前と一緒に指定されます。

考えられる値は次の通りです。

***DFT** システム作成名が省略時の値として使用されます。省略時のリストは、**ユーザー識別コードプロンプト** (USRIDパラメーター) のユーザーIDと同じです。

*NONE

文書リストは作成されません。

文書リスト名

文書リストの名前を指定してください。最大8文字を使用することができます。

制約事項: 複数のQRYDOCLIBコマンドを同時に実行する場合には、文書リスト名および出力ファイル名またはメンバー名は、これらの各QRYDOCLIBコマンドで異なったものでなければなりません。

トップ

テキスト (TEXT)

オブジェクトを簡単に記述したテキストを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*BLANK

テキストは指定されません。

記述 最大50文字をアポストロフィで囲んで指定してください。

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力を向けるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。特定権限をもたないユーザーの権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定された作成権限と同じになります。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

出力はデータベース・ファイルに送られません。

データベース・ファイル名

出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

制約事項：複数のQRYDOCLIBコマンドを同時に実行する場合には、文書リスト名および出力ファイル名またはメンバー名は、これらの各QRYDOCLIBコマンドで異なったものでなければなりません。

注：新しいファイルを作成する場合には、システムはQSYS中の様式名OSQDLのQAOSIQDLをモデルとして使用します。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。このメンバーが存在していない場合には、システムは**出力を受け取るファイルプロンプト** (OUTFILEパラメーター) で指定されたファイルの名前のメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場

合には、システムはそのファイル・メンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、システムはメンバーの終わりにレコードを追加するか、あるいはメンバーを消去してからレコードを追加します。

可能な追加または置き換えの値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

出力のデータ・タイプ (OUTDTATYP)

出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) に値が指定された場合に、選択された文書に関するある種の情報が出力ファイルに書き出されることを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***DFT** 文書情報レコードが出力ファイルに書き出されます。これは*DOCDを指定した場合と同じです。レコード・コードは105です。

***ALL** 文書に関するすべての情報レコードが書き出されます。

***ACTDATE**

処置期日レコードが書き出されます。レコード・コードは135です。

***AUTHOR**

作成者レコードが書き出されます。レコード・コードは145です。

***CHGDATE**

最終変更日レコードが書き出されます。レコード・コードは130です。

***CMPDATE**

完了日レコードが書き出されます。レコード・コードは140です。

***CPYLST**

コピー・リスト・レコードが書き出されます。レコード・コードは150です。

***CRTDATE**

作成日レコードが書き出されます。レコード・コードは110です。

***DOCCLS**

文書クラス・レコードが書き出されます。レコード・コードは155です。

***DOCD**

文書記述レコードが書き出されます。レコード・コードは105です。

***DOCDATE**

文書日付レコードが書き出されます。レコード・コードは120です。

***EXPDATE**

満了日レコードが書き出されます。レコード・コードは115です。

***FILCAB**

ファイル・キャビネット参照レコードが書き出されます。レコード・コードは160です。

***FILDATE**

ファイル日付レコードが書き出されます。レコード・コードは125です。

***IDP** 交換文書プロファイル(IDP)が書き出されます。レコード・コードは500です。

***IDXDATE**

最終索引付け日付レコードが出力ファイルに書き出されます。この値が指定された場合には、OFFICEVISION/400-テキスト検索サービスが導入されていなければなりません。

***KWD** キーワード・レコードが書き出されます。レコード・コードは170です。

***PROJECT**

プロジェクト・レコードが書き出されます。レコード・コードは185です。

***REF** 参照レコードが書き出されます。レコード・コードは175です。

***REVDATE**

文書内容に対する最終変更の日付が出力ファイルに書き出されます。

***STATUS**

状況レコードが書き出されます。レコード・コードは180です。

***SUBJECT**

件名レコードが書き出されます。レコード・コードは165です。

***USEDATE**

最終使用日付レコードが書き込まれました。レコード・コードは200です。

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連づけるかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***CURRENT**

自分自身で要求を実行します。

ユーザーID

別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは*ALLOBJ権限をもっていなければなりません。

トップ

時間制限 (TIMLMT)

要求された検索の実行に許される時間を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NOMAX**

検索の時間制限は設定されません。資格のあるすべての文書が検索されます。

時間制限

検索が実行される最大時間制限（分数）を指定してください。この分数には、1 - 9999の範囲で最大4桁を指定することができます。2時間の制限はTIMLMT(120)として指定されます。時間制限に達するまでに検索が完了しない場合には、通知メッセージに続いて完了メッセージが示されて、検索が終了します。出力ファイル（文書リストが指定された場合）には、指定された時間制限内に見つかった文書が入ります。

[トップ](#)

選択制限 (SELLMT)

検索で選択する文書の許容数を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***NOMAX**

検索の文書限界はセットされません。修飾されたすべての文書がシステム限界の最大32,767まで選択されます。

選択制限

選択する文書の最大数を指定します。セットされた限界より多い文書がある場合には、文書リストおよび出力ファイルには、この限界まで選択した文書に関する情報、および限界に達したことを示す通知メッセージが入られます。完了メッセージは選択した文書数を示します。

[トップ](#)

順序 (ORDER)

選択された文書を作成された文書リストまたは出力ファイルに入れる時に（昇順または降順に）並べることを指定します。この順序は、指定された1つまたは複数の文書プロファイル・パラメーターに対して最大5まで定義されます。

注: *NONE以外の値が **QUERY**プログラムのテキストプロンプト（QRYTXTパラメーター）に指定された場合には、順序づけを使用することはできません。

ユーザーが検索要求に順序を指定すると、要求のパフォーマンスが影響を受けることがあります。順序を指定しない場合には要求のパフォーマンスはいい状態で実行されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

可能なプロファイルの値は次の通りです。

***NONE**

選択された文書に順序は適用されません。

***ACTDATE**

戻された文書は処置期日順になっています。

***ASP** 戻された文書は補助記憶域プールID (ASPID)パラメーターによって順序づけられます。

***AUTHOR**

戻された文書は作成者順になっています。

***CHGDATE**

戻された文書は最終変更日順になっています。

***CMPDATE**

戻された文書は完了日順になっています。

***CPYLST**

戻された文書はコピー・リスト順になっています。

***CRTDATE**

戻された文書は作成日順になっています。

***DOCCLS**

戻された文書は文書クラス順になっています。

***DOCD**

戻された文書は文書記述順になっています。

***DOCDATE**

戻された文書は文書日付順になっています。

***DOCTYPE**

戻された文書は文書タイプ・プロファイル・パラメーター順になっています。有効な値の範囲は2-65535です。

***EXPDATE**

戻された文書は満了日順になっています。

***FILDATE**

戻された文書は、文書がファイルされた日付の順になっています。

***IDXDATE**

戻された文書は最終索引付け日付プロファイル・パラメーター順になっています。この値が指定された場合には、テキスト検索サービスが導入されていなければなりません。

***KWD** 戻された文書はキーワード順になっています。

***OWNER**

戻された文書は、所有者ユーザー・プロファイル名の名前の順になっています。

***PROJECT**

戻された文書はプロジェクト順になっています。

***REF** 戻された文書は参照順になっています。

***REVDATE**

戻された文書は最終内容改訂日付順になっています。

***STATUS**

戻された文書は状況順になっています。

***SUBJECT**

戻された文書は件名順になっています。

***USEDATE**

戻された文書は最終使用日付順になっています。

可能な**選択順序**の値は次の通りです。

***ASCEND**

戻された文書は照合順序の昇順になっています。

***DESCEND**

戻された文書は照合順序の降順になっています。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字識別コードはコマンドの入力に使用される表示装置に関連づけられています。

CMDCHRIDパラメーターは次のパラメーターに適用され、データが検索データベース内のすべての文書に共通するコード・ページおよび文字セットに変換されることを意味します。この文字セットおよびコード・ページは'697 500'です。ただし、例外として、**ユーザー識別コードプロンプト**（USRIDパラメーター）の場合は'930 500'です。

次のパラメーターが変換されます。

- **ユーザー識別コード** (USRID)
- **文書リスト** (DOCL)
- **QUERY定義** (QRYDFN)
- **QUERYプログラムのテキスト** (QRYTXT)
- **テキスト** (TEXT)

単一値

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

***DEV D**

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

QRYDOCLIBの例

```
QRYDOCLIB  USRID(*CURRENT)  OUTFILE(*NONE)  DOCL(MYLIST)
           QRYDFN(*IF (( *DOCD *EQ DOCDESC *AND)
                     (*DOCCLS *BG CLASS *OR)
                     (*FILDATE *LE '06/13/88'))))
```

このコマンドは、次の検索条件を満たしている文書を検索します。つまり、文書記述がDOCDESCと等しく、かつ文書クラスがクラスで始まっているか、あるいはファイル日付が06/13/88以前です。検索の結果は文書リストMYLISTに保管されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： QRYDOCLIB

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF905D

文書ライブラリーのQUERYが正常に実行されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

配布照会 (QRYDST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布照会(QRYDST)コマンドにより、自分自身のためにあるいは他のユーザーに代わって配布情報を要求することができます。

制約事項:

1. 他のユーザーに代わって配布情報を要求する場合には、GRTUSRPMNコマンドによりそのユーザーに代わって処理を行なう許可が与えられていなければなりません。
2. ユーザー ID(*ALLAUT)を指定して、他のユーザーに代わって処理を行なう許可を得ていない場合には、自分自身の配布に関する情報しか戻されません。
3. コマンドの要求元はシステム配布ディレクトリーに登録されていなければなりません。要求元が他のユーザーに代わって処理を行なう場合には、個人用配布を要求することはできません。
4. DLTSTSパラメーターは着信配布には適用されません。OPTION (*IN)を指定すると、DLTSTSパラメーターは無視されます。
5. 要求元が他のユーザーに代わって処理を行なう場合には、個人用配布を照会することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OPTION	着信または発信	*IN, *OUT	オプション, 位置 2
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT, *ALLAUT その他の値: 要素リスト	オプション, 位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DLTSTS	削除状況	*NO, *YES	オプション
OUTFILE	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE, *ADD	
STATUS	状況	*ALL, *NEW, *OLD, *OPENED, *UNOPENED, *LOCAL, *REMOTE, *FILEPND, *DELETED, *DAMAGED	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

着信または発信 (OPTION)

戻される配布情報のタイプを指定します。

***IN** 受信配布についての情報が戻されます。

***OUT** 発信配布についての情報が戻されます。発信配布は、要求された配布確認と一緒に 1 人または複数のユーザーに送られる配布についての、システムが保管する状況です。

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

この要求と関連したユーザー ID およびユーザー ID アドレスを指定します。

***CURRENT**

配布情報が戻されます。

***ALLAUT**

配布情報、および代わりに処理を行なう許可を与えてくれたすべてのユーザーの情報が戻されます。

ユーザー ID

配布情報を戻すユーザーのユーザー ID を指定してください。指定するユーザー ID が自身のものでない場合には、このパラメーターで指定するユーザーに代わって処理を行なう許可を得なければなりません。

ユーザー ID アドレス

配布情報を戻すユーザーのユーザー ID アドレスを指定してください。指定するユーザー ID アドレスが自身のものでない場合には、このパラメーターで指定するユーザーに代わって処理を行なう許可を得なければなりません。

トップ

削除状況 (DLTSTS)

発信配布用に保存されている配布状況をシステムから削除するかどうかを指定します。

***NO** 配布状況はシステムから削除されません。

***YES** すべてのレシーバーが状況を戻している場合には、配布状況は削除されます。

注: 他のプロダクトがこの状況情報を使用します。他のプロダクトが配布の追跡に使用する情報を削除しないように注意してください。

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力が送られるデータベース・ファイルの名前を指定します。出力ファイルが存在していない場合には、指定したライブラリーにデータベース・ファイルが作成されます。この機能によってファイルが作成される場合には、テキスト記述に、「QRYDSTによってOUTFILEが作成されます」と記述され、特定権限をもたないユーザーの権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定された作成権限と同じになります。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

新しいファイルを作成する場合で、**着信または発信**プロンプト (OPTIONパラメーター) に*INが指定されている場合には、システムはQSYS中の様式名OSLINのQAOSILINをモデルとして使用します。

新しいファイルを作成する場合で、**着信または発信**プロンプト (OPTIONパラメーター) に*OUTが指定されている場合には、システムはQSYS中の様式名OSLOUTのQAOSILOTをモデルとして使用します。

***NONE**

出力はデータベース・ファイルに送られません。*NONEが指定されている場合には、このコマンドからの出力は、オプションおよびユーザーIDおよびアドレスが指定された文書交換アーキテクチャー(DIA)配布宛先見出し(*DRX)上の配布の数を含んだ完了メッセージとなります。

*INを**着信または発信**プロンプト (OPTIONパラメーター) に指定した場合には、新旧状況の合計カウントが戻されます。各QRYDSTの後で、新しい状況のすべてのメールが古い状況に変更されません。

注: オフィス・ビジョン/400は、新しい状況があるかのように、古いメール状況を無視し、新旧両方のメールを処理します。

データベース・ファイル名

画面の出力を受け取るデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスパール出力で印刷するかを指定します。

考えられる出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。このメンバーが存在していない場合には、システムは**出力を受け取るファイルプロンプト**（OUTFILEパラメーター）で指定されたファイルの名前のメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場合には、システムはそのファイル・メンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、システムはメンバーの終わりにレコードを追加するか、あるいはメンバーを消去してからレコードを追加します。

可能な**追加または置き換え**の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

状況 (STATUS)

情報を要求している配布のメール項目の状況を指定します。このパラメーターが有効なのは、***IN**が**着信**または**発信**プロンプト（OPTIONパラメーター）に指定されて、出力ファイルが**出力を受け取るファイルプロンプト**（OUTFILEパラメーター）に指定された場合だけです。

***ALL** 配布情報は、配布のメール項目の状況が何であるかにかかわらず戻されます。

***NEW** 配布情報は、メール項目の状況が**NEW**の配布についてだけ戻されます。

***OLD** 配布情報は、メール項目の状況が**OLD**の配布についてだけ戻され、これは、この配布はかつて照会されたが処理されなかったことを示します。

***OPENED**

配布情報は、メール項目の状況が**OPENED**の配布についてだけ戻されます。

***UNOPENED**

配布情報は、メール項目の状況が**NEW**または**OLD**のどちらかである配布についてだけ戻されます。

***LOCAL**

配布情報は、メール項目の状況が**LOCAL**の配布についてだけ戻され、これは、配布がローカル・システムにファイルされたことを示します。

***REMOTE**

配布情報は、メール項目の状況が**REMOTE**の配布についてだけ戻され、これは、配布がリモート・システムにファイルされたことを示します。

***FILEPND**

配布情報は、状況が**FILEPND**の配布についてだけ戻され、これは、配布をローカル・システムまたはリモート・システムにファイルしていますが、ファイル操作が終了していないことを示します。

*DELETED

配布情報は、状況がDELETEDの配布についてだけ戻され、これは、配布によって参照される文書が削除されていることを示します。

*DAMAGED

配布情報は、状況がDAMAGEDの配布についてだけ戻され、これは、配布によって参照される文書に損傷があることを示します。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字識別コードはコマンドの入力に使用される表示装置に関連づけられています。

ユーザー識別コードプロンプト（USRIDパラメーター）に指定された値は、文字セットおよびコード・ページ'930 500'に変換されます。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

QRYDSTの例

```
QRYDST USER(*CURRENT) OPTION(*IN)
        OUTFILE(*CURLIB/MYFILE) OUTMBR(*FIRST *ADD)
```

このコマンドは、このコマンドの現行ユーザーの着信配布に関する分布を要求します。出力はユーザーの現行ライブラリー内のデータベース・ファイルMYFILEに送られ、そのファイル中の先頭メンバーに追加されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： QRYDST

*ESCAPEメッセージ

CPF900B

ユーザー ID およびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF907C

配布を要求した&1は完了したが、確認が正常に実行されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF9097

QUERY配布要求は正常に実行されなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

問題状況の照会 (QRYPRBSTS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

問題状況QUERY (QRYPRBSTS)コマンドは、*IBMSRV(RETAIN)またはサービス提供元としてリストされている別のAS/400システムから問題状況情報を検索します。

制約事項: このコマンドは、共通の*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PRBID	問題識別コード	文字値, *PMR	必須, 定位置 1
ORIGIN	起点	要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク識別コード	通信名, *NETATR	
	要素 2: 制御点名	通信名, *NETATR	
RMTCPNAME	リモート制御点	通信名, *IBMSRV, *SELECT	オプション
RMTNETID	リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR	オプション
SRVID	サービス番号	文字値	オプション
AUTOPRBCRT	問題の自動作成	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

問題識別コード (PRBID)

問題ログ項目の問題識別コードを指定します。別のシステムを起点とする問題が同じ識別コードをもつことがあります。このパラメーターをORIGINパラメーターと一緒に使用して、特定の起点システムからの1つの問題を選択することができます。

***PMR** *PMR特殊値は、弊社保守サポートにサービス要求を送る時に使用します。PRBIDが*PMRである場合には、SRVIDを指定しなければなりません。

問題識別コード

問題識別コードを指定してください。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

起点 (ORIGIN)

問題ログ項目の起点であるシステムのノードを指定します。このパラメーターをPRBIDパラメーターと一緒に使用して、問題を固有に識別することができます。

ネットワーク識別コードとして指定できる値は次の通りです。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

ネットワーク識別コード

ネットワーク識別コードを指定してください。

制御点名として指定できる値は次の通りです。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

制御点名

制御点名を指定してください。

[トップ](#)

リモート制御点 (RMTCPNAME)

サービス要求が送られるサービス提供元の宛先を指定します。

リモート制御点名として指定できる値は次の通りです。

***IBMSRV**

サービス要求が弊社保守サポートに送られます。

***SELECT**

サービス要求が送られる宛先をユーザーが選択できるサービス提供元のリストが表示されます。

リモート制御点名

要求の宛先である制御点の名前を指定してください。

[トップ](#)

リモート・ネットワーク 識別コード (RMTNETID)

サービス提供元のネットワークのリモート名を指定します。

***NETATR**

サービス提供元はローカル・ネットワークにあります。

リモート・ネットワーク識別コード

要求が送られるサービス提供元のネットワーク名を指定してください。

[トップ](#)

サービス番号 (SRVID)

問題ログ項目の保守割り当て番号を指定します。この番号は、問題が弊社保守サポートに報告された時に割り当てられます。

保守割り当て番号

問題ログ項目の保守割り当て番号を指定してください。

[トップ](#)

問題の自動作成 (AUTOPRBCRT)

問題がシステム上に存在しない場合に問題が自動的に作成されるかどうかを指定します。

***YES** 問題を作成します。

***NO** 問題を作成しません。

[トップ](#)

QRYPRBSTSの例

例1:別のシステム上での問題状況の照会

```
QRYPRBSTS PRBID(1234567890) RMTCPNAME(SYSTEM99)
          RMTNETID(IBMNETID) AUTOPRBCRT(*YES)
```

このコマンドは、別のシステム(SYSTEM99)上の特定問題の状況を検索します。

例2: IBM保守の照会

```
QRYPRBSTS PRBID(*PMR) RMTCPNAME(IBM SRV) RMTNETID(*NETATR)
          AUTOPRBCRT(*YES)
```

このコマンドは、IBM保守データベースで状況PMR 8X123を検索します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: QRYPRBSTS

*ESCAPE メッセージ

CPF7AA7

問題&1が見つからなかったか、または使用中である。

CPF7AD4

ネットワークID &1が正しい形式になっていない。

CPF7A84

QUERY状況要求が指定したシステムとは別のシステムに経路指定された。

CPF7A88

要求に応答してエラーが示された。

CPF7A9A

リモート制御点およびネットワーク識別コードが正しくない。

CPF7A9B

問題&1を照会することができない。

CPF7A97

サービス識別コードが正しくない。

CPF7A98

サービス識別コードは使用できない

CPF7A99

QUERYは*IBMSRVに送らなければならない。

CPF7B18

制御点&1は正しい形式になっていない。

CPF8C08

制御点名に*SELECTを指定することはできない。

CPF8C09

&1はサービス提供元として定義されていない。

CPF8C24

要求の処理中にエラーが起こった。

STATUS メッセージ*CPZ7A80**

&1に対する状況照会要求の送信中。

[トップ](#)

TIEファイル照会 (QRYTIEF)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター

例

エラー・メッセージ

技術情報交換ファイルのQUERY (QRYTIEF)コマンドによって、リモート保守サポート・ネットワークからファイルを受信する準備ができていないかどうかを知ることができます。受信される最大ファイルのサイズを指定するメッセージが戻されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

QRYTIEFの例

QRYTIEF

このコマンドは、リモート・サポート・ネットワークから受け取られるファイルの数、および受け取られる最大ファイルのサイズを示すメッセージを送ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: QRYTIEF

なし

[トップ](#)

QSHの開始 (QSH)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

QSHとして知られるQSH開始(STRQSH)コマンドは、**QSH**シェル解釈プログラムを開始します。

対話式ジョブで実行すると、STRQSHは対話式シェル・セッションを開始します。そのジョブでシェル・セッションがまだ活動状態になっていない場合には、次のことが実行されます。

1. 新しいシェル・セッションが開始され、端末ウィンドウが表示されます。
2. **QSH**がファイル /ETC/PROFILE (存在している場合) からのコマンドを実行します。
3. **QSH**がユーザーのホーム・ディレクトリー中のファイル .PROFILE (存在している場合) からのコマンドを実行します。
4. **QSH**がENV変数の拡張部分で指定されたファイル (存在している場合) からのコマンドを実行します。

対話式ジョブでシェル・セッションがすでに活動状態になっている場合には、既存のセッションに再接続されます。端末ウィンドウから、シェル・コマンドを入力し、そのコマンドからの出力を表示することができます。

端末ウィンドウの使用法

端末ウィンドウには、次の2つの部分があります。

- コマンドを入力するための入力行、および
- 入力されたコマンドのエコーおよびそのコマンドによって生成された出力が入る出力域。

端末ウィンドウでは、次の機能キーがサポートされています。

F3 (終了)

端末ウィンドウをクローズしQSHセッションを終了します。

F5 (最新表示)

出力域を最新表示します。

F6 (印刷)

出力域をスプール・ファイルに印刷します。

F7 (上)

出力域を上を1ページ分ロールします。

F8 (下)

出力域を下を1ページ分ロールします。

F9 (コマンドの複写)

前のコマンドを検索します。このキーを複数回押して、任意の前のコマンドを検索することができます。たとえば、入力した最後のコマンドの前のコマンドを検索するためには、このキーを2回押します。また、特定のコマンドにカーソルを位置づけてこのキーを押すことによって、そのコマンドを選択して実行することができます。2バイトCCSIDで対話式ジョブが実行されている時には、このキーは使用できません。

F11 (行折返しの切替え)

出力域の行の折返し/切捨てモードを切り替えます。行折返しモードでは、端末ウィンドウの幅よりも長い行は次の行に折り返されます。切捨てモードでは、端末ウィンドウの幅を越える行の部分は表示されません。

F12 (切断)

QSHセッションから切り離します。このキーは、端末ウィンドウをクローズするだけでQSHセッションを終了するわけではありません。切断されたQSHセッションは、STRQSHコマンドを再び実行することによって再表示することができます。

F13 (消去)

出力域を消去します。

F17 (最上部)

出力域の最上部を表示します。

F18 (最下部)

出力域の最下部を表示します。

F19 (左)

出力域を左にシフトします。

F20 (右)

出力域を右にシフトします。

F21 (CLコマンド入力)

CLコマンドを入力できるコマンド入力ウィンドウを表示します。

また、現在実行中のコマンドを中断するためには、システム要求の2を使用することができます。

エラー・メッセージ: STRQSH

*ESCAPE メッセージ

QSH0002

QSHセッションでエラーが見つかりました。理由コードは&1,エラー番号は&2です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CMD	コマンド	文字値, *NONE	オプション

[トップ](#)

コマンド (CMD)

実行したいシェル・コマンドを指定します。

使用できる値は、次の通りです。

***NONE:**

コマンドを指定しないで、対話式セッションが開始されます。

コマンド

実行するシェル・コマンド。コマンドの長さは最大5000バイトとすることができます。空白または他の特殊文字を使用する場合には、コマンドをアポストロフィ(')で囲まなければなりません。アポストロフィを指定したい場合には、2つのアポストロフィ('')を使用する必要があります。

注: 小文字を指定した時には、そのケースが保存されます。

[トップ](#)

例

なし

[トップ](#)

エラー・メッセージ: STRQSH

***ESCAPE** メッセージ

QSH0002

QSHセッションでエラーが見つかりました。理由コードは&1,エラー番号は&2です。

[トップ](#)

修飾名定義 (QUAL)

パラメーター
例
エラー・メッセージ

修飾子(QUAL)コマンド定義ステートメントは修飾名の一部を記述します。名前がPARMまたはELEMステートメントで定義されたパラメーターまたはリスト項目の使用可能な値である場合には、名前を修飾するために使用される各修飾子についてQUALステートメントを使用してその名前を修飾名に変更することができます。

ソース・ファイルにQUALステートメントが入力される順序は、修飾子を指定し、妥当性検査プログラムおよびコマンド処理プログラムに渡す定位置順序を決定します。修飾名の最初の修飾は、単純名、総称名、または定義された特殊値でなければならない。

QUALステートメント（複数個ある場合には最初のQUALステートメントだけ）には、修飾子を定義するPARMまたはELEMステートメントに指定しなければならないステートメント・ラベル値と一致するステートメント・ラベルが必要です。この場合、パラメーターまたはリスト項目の修飾子が値1 / 値2 / 値3の形式でコマンドに入力されます。ここで、値1～3はそれぞれQUALステートメントによって記述される修飾子です。これらの値は同じ順序で、ピリオドが除去され、最大長になるまで各値が埋め込まれて、コマンド処理プログラムに渡されます。

注: QUALステートメントには、定義中のコマンドによって弊社提供コマンド処理プログラムが呼び出される場合にだけ使用できる一定のパラメーターおよび事前定義の値が含まれます。一部の高水準言語の制約のために、これらの値は、ユーザー定義コマンドの定義ステートメントで有用でないことがあります。このようなパラメーターおよび値は、弊社提供コマンド用という語句によって識別されますが、その語句は適用されるパラメーター・キーワードまたは事前定義値の直後に続きます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	値のタイプ	*NAME, *GENERIC, *CHAR, *INT2, *INT4, *SNAME, *CNAME, *UINT2, *UINT4, *CNAME	必須, 定位置 1
LEN	長さの指定	要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: 値の長さ	整数	
CONSTANT	定数値	文字値	オプション
RSTD	制約された値	*NO, *YES	オプション
DFT	省略時の値	文字値	オプション
VALUES	有効な値	値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション
REL	比較式	要素リスト	オプション
	要素 1: 比較演算子	*GT, *EQ, *GE, *NL, *LT, *NE, *LE, *NG	
	要素 2: 値	文字値	

キーワード	記述	選択項目	注
RANGE	値の範囲	要素リスト	オプション
	要素 1: 下限値	文字値	
	要素 2: 上限値	文字値	
SPCVAL	特殊値	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 取り出し値	文字値	
	要素 2: 受け取り置き換え値	文字値	
MIN	許される最小値	<u>0</u> , 1	オプション
ALWUNPRT	印刷不能文字使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
ALWVAR	変数名使用可能	<u>*YES</u> , *NO	オプション
FULL	全桁入力必須	<u>*NO</u> , *YES	オプション
EXPR	式の評価	<u>*NO</u> , *YES	オプション
VARY	可変の長さ	単一値: <u>*NO</u> その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 長さ値の戻し	*YES	
	要素 2: 値の長さ	<u>*INT2</u> , *INT4	
PASSATR	属性バイト受け渡し	<u>*NO</u> , *YES	オプション
DSPINPUT	画面入力	<u>*YES</u> , *PROMPT, *NO	オプション
CHOICE	テキスト選択	文字値, <u>*VALUES</u> , *NONE, *PGM	オプション
CHOICEPGM	プログラム選択	単一値: <u>*NONE</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: プログラム選択	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
INLPMTLEN	初期プロンプト長	<u>*CALC</u> , *PWD, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256, 512	オプション
PROMPT	プロンプト・テキストまたはメッセージID	文字値, <u>*NONE</u>	オプション

トップ

値のタイプ (TYPE)

パラメーター名またはリスト要素名を修飾するために使用する修飾子のタイプを指定します。修飾子として指定できるのは、名前、総称名、引用符のついた文字ストリング、引用符のつかない文字ストリング、または整数です。修飾子のタイプを指定するためには、次のオプションの1つを入力してください。どの修飾名についても、最初の修飾子のタイプは名前(*NAME)または総称名(*GENERIC)でなければなりません。

*NAME

修飾名は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字、ピリオド、下線、あるいは特殊文字の1つの¥, @,または#とすることができます。また、名前は始めと終わりを2重引用符(")で囲むか、あるいは括弧で囲まれた文字のストリングとすることもできます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

*SNAME

修飾名は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字の1つの¥, @,または#でなければなりません。残りの文字は英数字、下線、あるい

は特殊文字の1つの¥, @,または#とすることができます。文字ストリングは括弧で囲むことができます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

*CNAME

修飾名は名前を表す文字ストリングです。この名前の最大長は256桁です。最初の文字は英字か、または特殊文字¥, @,または#の1つでなければなりません。残りの文字は英数字、あるいは特殊文字の1つの¥, @,または#とすることができます。文字ストリングは括弧で囲むことができます。特殊値(*LIBLまたは*NONEなど)を使用する場合には、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定しなければなりません。

*GENERIC

修飾子は、総称名を表す文字ストリングです。総称名には後にアスタリスク(*)を付けて最大255文字を使用することができます。この名前は、名前がすべてアスタリスク(*)の前の文字で始まる1グループのオブジェクトを識別します。アスタリスクを含めなかった場合には、システムは、総称名を1つの完全なオブジェクト名と見なします。

*CHAR

修飾子は、(任意選択で)アポストロフィで囲むことができる文字ストリングです。文字ストリングに特殊文字(アスタリスク(*)以外)がある場合には、それをアポストロフィで囲まなければなりません。文字ストリングの最大長は5000文字です。

***INT2** 修飾子は、2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***INT4** 修飾子は、4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

*UINT2

修飾子は、2バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

*UINT4

修飾子は、4バイトの符号なし2進数として渡される整数です。

[トップ](#)

長さの指定 (LEN)

値のタイプ (TYPE)パラメーターに*NAME, *GENERIC,または*CHARが指定されている場合に、修飾子の長さを指定します。

[トップ](#)

定数値 (CONSTANT)

定義中のコマンドが処理される時に、値が修飾子の定数としてコマンド処理プログラムに渡されることを指定します。修飾子はコマンド上には外見上現れません。指定する場合には、値は次のパラメーターによって指定された要件を満たすものでなければなりません。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 長さの指定 (LENパラメーター)
- 有効な値 (VALUESパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)

- 特殊値 (SPCVALパラメーター)

このパラメーターに文字定数を指定する場合には、32桁より長くすることはできません。

このQUALステートメントに定数を指定し、他のQUALステートメントが直後に続いている場合には、いずれか一方にラベルが先行していないかぎり、これらのステートメントを定数としても定義しなければなりません。ラベルは、新しいQUALステートメントのグループの始まりを示すもので、前のグループと異なるように定義することができます。

また、定義中の修飾子に定数を指定した場合には、このQUALステートメントの **プロンプト・テキスト** または **メッセージID (PROMPT)**パラメーターにプロンプト・テキストを指定することはできません。しかし、それでも他の修飾子または修飾子のグループに対してのプロンプトは表示され、その値が修飾名としてコマンド処理プログラムに渡されます。

省略時の値 (DFT)パラメーターを指定した場合、または**式の評価 (EXPR)**パラメーターに ***YES**を指定した場合には、このパラメーターは無効です。

このパラメーターには変数をコーディングすることはできません。

[トップ](#)

制約された値 (RSTD)

修飾子に入力する値が**有効な値 (VALUES)**パラメーターまたは**単一値 (SNGVAL)**パラメーターに指定された値の1つに制限されるか、あるいは次のパラメーターによって指定された要件を満たすどの値でも使用できるかどうかを指定します。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 長さの指定 (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)

***NO** このQUALステートメントによって定義された修飾子に入力する値は、次のパラメーターによって指定された要件を満たすものならどのようなものでもかまいません。

- 値のタイプ (TYPEパラメーター)
- 長さの指定 (LENパラメーター)
- 比較式 (RELパラメーター)
- 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 特殊値 (SPCVALパラメーター)

***YES** このQUALステートメント中の修飾子に入力される値は、**有効な値 (VALUES)**パラメーターの値の1つ、または**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターの比較値の1つに限定されます。

[トップ](#)

省略時の値 (DFT)

ユーザーによって値が指定されなかった場合に修飾子に割り当てられる省略時の値を指定します。省略時の値は、次のいずれかを満たすものでなければなりません。

- 省略時の値は、次のパラメーターによって指定されている修飾子要件を満たすものでなければなりません。
 - 値のタイプ (TYPEパラメーター)
 - 長さの指定 (LENパラメーター)
 - 比較式 (RELパラメーター)
 - 値の範囲 (RANGEパラメーター)
- 省略時の値は、**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターの比較値の1つでなければなりません。
- **制約された値 (RSTD)**パラメーターに*YESを指定した場合には、**有効な値 (VALUES)**パラメーターの値のリスト、あるいは**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターの比較値のリストにこれがないとできません。
- 省略時の値が文字定数である場合には、32桁を超えることはできません。

このパラメーターが有効となるのは、**許される最小値 (MIN)**パラメーターが0（これは、このリストのこのQUALステートメントによって定義される修飾子が任意選択であることを意味します）の場合だけです。省略時の値が修飾名の最初の部分を定義するものである場合で、省略時の値がこのQUALステートメントがさらに詳しく定義するPARMまたはELEMステートメントに指定されている場合には、このQUALステートメントでは省略時の値は意味をもちません。このパラメーターを指定しない場合には、それ自体に省略時の値があります。すなわち、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME, または*GENERICを指定した場合には、省略時の値は空白です。*INT2, *INT4, *UINT2, または*UINT4を**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに指定した場合には、省略時の値はゼロ(0)です。システム想定での省略時の値は、コマンド・プロンプトによって表示されません。かわりに空白の入力フィールドが表示されます。このパラメーターに省略時の値を指定した場合には、指定通りにプロンプト機能によって表示されます。

DFTパラメーターは、**定数値 (CONSTANT)**パラメーターが指定されている場合には無効です。

値 指定された要件を満たすか、あるいは**有効な値 (VALUES)**パラメーターまたは**特殊値 (SPCVAL)**パラメーターに指定された値の1つである省略時の値を指定してください。

この値には変数をコーディングすることはできません。

トップ

有効な値 (VALUES)

最大300個の定数（固定値）からなるリストを指定してください。このリストから修飾子の値として1つの定数を入力することができます。このパラメーターが有効なのは、次のすべての要件が満たされた場合だけです。

- *YESが**制約された値 (RSTD)**パラメーターに指定されている。
- **値の範囲 (RANGE)**パラメーターと**比較式 (REL)**パラメーターが両方とも指定されていない。
- 固定情報が、このQUALステートメントの**値のタイプ (TYPE)**パラメーターおよび**長さの指定 (LEN)**パラメーターにより指定されている属性を備えていること。

このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。修飾子の値として入力できる定数(300以内)を指定してください。

比較式 (REL)

修飾子の値と、他のパラメーターの値または固定情報との関係を指定します。関係を指定するためには、次の比較演算子のどれかの後に、固定情報または他のパラメーターの値を入力してください。

- *LT より小さい
- *LE 小さいか等しい
- *EQ 等しい
- *GE 大きいか等しい
- *GT より大きい
- *NL 小さくない
- *NE 等しくない
- *NG 大きくない

有効な値 (VALUES)パラメーターまたは**値の範囲 (RANGE)**パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無効です。**値のタイプ (TYPE)**パラメーターによって*CHAR (文字タイプ) を指定した場合には、文字ストリングのEBCDIC値は比較では符号のない整数として使用されます。このパラメーターに文字定数を指定する場合には、32桁より長くすることはできません。

トップ

値の範囲 (RANGE)

修飾子の値の範囲または限界を指定します。修飾子の値は、指定された下限値より大きいか等しくなければならず、指定された上限値より小さいか等しくなければなりません。*CHARなどの非数字データ・タイプの場合には、値の範囲および指定されたデータは、右寄せにされ、左側にブランクを埋め込まれます。先行ゼロが指定されていないか、あるいはデータ長が1文字しかないかぎり、非数字データの間隔を定義するのに数値範囲は使用しないでください。**有効な値 (VALUES)**パラメーターまたは**比較式 (REL)**パラメーターを指定した場合には、このパラメーターは無効です。このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。

トップ

特殊値 (SPCVL)

PARMステートメントの**キーワード (KWD)**パラメーターで指定されたパラメーターに入力できる特殊値を定義する最大300個の項目からなるリストを指定します。各項目は、すべての妥当性検査の要件を満たしていても入力できる文字ストリング (比較値) を指定します。入力された文字ストリングが1つの項目の比較値に一致していて、置き換え値を指定した場合には、ストリングは置き換え値によって置き換えられてから、それ以上の検査なしにコマンド処理プログラムに渡されます。置き換え値を除外した場合には、比較値がコマンド処理プログラムに渡されます。比較値は文字ストリングですが、置き換え値は、渡すことができればどのようなものでもかまいません。比較値にCL変数を使用する場合には、そのタイプは*CHARでな

ければなりません。ただし、最初の修飾子は、名前、総称名、または*ALLのように後に名前のついたアスタリスク(*)である比較値に対する特殊な置き換え値だけをもつことができます。

各置き換え値は、コマンド処理プログラムに渡すことができるものでなければなりません。置き換え値は、長さの指定 (LEN)パラメーターに指定されたものより長くなってはならず、*INT2, *INT4, *UINT2, または*UINT4 を値のタイプ(TYPE)パラメーターに指定した場合には、置き換え値のタイプはそれと同じでなければいけません。値のタイプ (TYPE)パラメーターに文字タイプ(*CHARや*NAMEなど)を指定した場合には、置き換え値は文字ストリングでなければなりません。このパラメーターに指定する文字定数は、32桁より長くすることはできません。置き換え値を指定しない場合には、比較値は渡すことができる値でなければなりません。

*CURLIBの終わりの値が指定されている場合には、値*CURLIBではなく現行ライブラリーの名前がコマンド処理プログラムに渡されます。比較値が*CURLIBで、置き換え値を指定しなかった場合、あるいは置き換え値が*CURLIBで、アポストロフィで囲まれている場合には、値*CURLIBがコマンド処理プログラムに渡されます。

この値には変数をコーディングすることはできません。

トップ

許される最小値 (MIN)

このQUALステートメントで定義中の修飾子が必須であるか、任意指定であるかを指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、0と見なされ、修飾子が任意指定であることを意味します。必須の修飾名が必要な場合には、最初のQUALとこれを参照するPARMまたはELEMの両方のこのパラメーターに1を指定しなければなりません。

0 定義中の名前については、修飾子は任意選択です。

1 定義中の名前については、修飾子は必須です。修飾子を入力しなければなりません。

トップ

印刷不能文字使用可能 (ALWUNPRT)

このQUALステートメントがX'FF'を超える16進文字およびX'00' - X'3F'の範囲の16進文字を受け入れるかどうかを指定します。このパラメーターが有効なのは、値のタイプ (TYPE)パラメーターに*CHARまたは*Xを指定した場合だけです。

***YES** すべての文字を表示装置または印刷装置に送ることができます。

***NO** 印刷不能文字をコマンド処理プログラムに渡すことはできません。

トップ

変数名使用可能 (ALWVAR)

修飾子に変数名を使用できるかどうかを指定します。値のタイプ (TYPE)パラメーターに*VARNAME, *ZEROELEM, *NULL, またはステートメント・ラベルを指定した場合には、*NOを指定することはできません。

***YES** 変数名を修飾子として使用することができます。

***NO** 変数名を修飾子として使用することはできません。

[トップ](#)

全桁入力必須 (FULL)

修飾子の値の文字数が**長さの指定 (LEN)**パラメーターに指定された数(LENを指定した場合) あるいは省略時の長さ(LENを指定しなかった場合) と正確に同じでなければならぬかを指定します。

***NO** 修飾子の値の文字数は、**長さの指定 (LEN)**パラメーターに指定された長さより小さくすることができます。

***YES** 修飾子の値の文字数は、**長さの指定 (LEN)**パラメーターに指定した長さ、または同じタイプの省略時の長さと正確に同じでなければなりません。同じ長さが必須条件であることを指定できるのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CHAR, *NAME,または*GENERICを指定した場合だけです。

[トップ](#)

式の評価 (EXPR)

修飾子が文字連結のある式を受け入れることができるかどうかを指定します。

***NO** 修飾子の値として連結式を使用することはできません。

***YES** 修飾子の値として連結式を使用することができます。

[トップ](#)

可変の長さ (VARY)

コマンド処理プログラムに渡す修飾子の値の前に、修飾子の値に入力された文字数を示す長さ値を付けるかどうかを指定します。

単一値

***NO** 修飾子の値の前に桁数値を付けません。

要素1: 長さ値の戻し

YES** コマンド処理プログラムに渡される修飾子の値の前に、修飾子に実際に指定された文字数を示す2進数の長さフィールドが先行します。YES**が有効となるのは、**値のタイプ (TYPE)**パラメーターに*CHAR, *NAME, *SNAME, *CNAME,または*GENERICを指定した場合だけです。

PASSATR(*YES)およびRTNVAL(*YES)が指定されている場合には、*YESを指定しなければなりません。

注: 長さの値は、コマンド・パラメーターに入力され、後書きブランクを除去した実際の文字数です。渡される長さの値は、定義されたパラメーターの長さまたは宣言された変数の長さと異なることがあります。文字ストリング・データが入っているフィールドの長さは、パラメーターについて定義された長さまたはCLプログラム変数について宣言されたLENによって決定されます。長さの値は、実際にコマンド・パラメーターに入力された文字ストリング・データ・フィールド中の文字の数を定義します。

要素2: 値の長さ

***INT2** 修飾子値は、2バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

***INT4** 修飾子値は4バイトの符号付き2進数として渡される整数です。

トップ

属性バイト受け渡し (PASSATR)

(弊社提供コマンドの場合) 修飾子とともにコマンド処理プログラムに属性バイトを渡すかどうかを指定します。

***NO** 修飾子の受け渡し時に属性バイトは渡されません。

YES** 属性バイトは修飾子とともに渡されます。すなわち、属性バイトは、データ値がその値の省略時のデータ・タイプの結果として生じたものであるかどうかを示し、さらにCHARが値のタイプ (TYPE)**パラメーターに指定されている場合には、文字ストリングがアポストロフィで囲まれているかどうかを示します。

トップ

画面入力 (DSPINPUT)

キーワード値をジョブ・ログに入れるか、あるいはプロンプト画面に表示するかどうかを指定します。

***YES** パラメーター値がプロンプト画面に表示され、ジョブ・ログに入れられることを指定します。

***PROMPT**

応答***PROMPT**は、パラメーター値がプロンプト画面に表示されるが、ジョブ・ログに入れられないことを示します。

***NO** パラメーター値がプロンプト画面に表示されず、ジョブ・ログに入れられないことを示します。

トップ

テキスト選択 (CHOICE)

プロンプト画面で入力フィールドの右側に表示される選択項目テキストを指定します。最大30桁のテキストを表示することができます。

***VALUES**

選択項目テキストは、TYPE, RSTD, RANGE, SNGVAL, SPCVAL,およびVALUESパラメーターに指定された値を基にして生成されます。定数をRANGEパラメーターに指定する場合は、選択項目テキストはハイフンで区切られた最小値と最大値で始まります。RANGEを最小値と最大値として定数で指定しないで、RSTD(*NO)を指定する場合は、選択項目テキストはTYPEパラメーターに指定された値を基にしたパラメーター・タイプの簡略説明で始まります。SNGVALパラメーターに指定した値が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、選択項目テキストに追加されます。選択テキストに追加された最後の項目が、値がコマンド定義ソースに定義されていて、コンマとブランクで区切られている順序で、SPCVALまたはVALUESパラメーターに指定された値です。30桁に入らないほど多くの値がある場合には、最後の値の後にピリオドが3つ続けられます。

以下はCHOICE(*VALUES)によって生成されることがある選択項目テキストの例です。

- TYPE(*DEC), RANGE(1.0 999.9),およびSPCVAL((*NOMAX -1))を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

1.0-999.9, *NOMAX

- TYPE(*NAME), RSTD(*NO), SNGVAL(*ALL),およびSPCVAL(*LIBL *CURLIB)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

名前, *ALL, *LIBL, *CURLIB

- RSTD(*YES), SNGVAL(*ALL),およびSPCVAL(*ALRTBL *BNDDIR *CHTFMT *CLD *CLS *CMD)を指定すると、選択項目テキストは次のようになります。

*ALL, *ALRTBL, *BNDDIR...

*NONE

値は表示されません。

- *PGM 呼び出されるプログラムが表示する値を決定します。呼び出されるプログラムはPARMステートメントの**プログラム選択 (CHOICEPGM)**パラメーターで識別されます。

メッセージ識別コード

使用できる値フィールドのテキストが入っているメッセージの検索に使用されるメッセージのメッセージIDを指定します。コマンド作成(CRTCMD)コマンドの **プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルは、メッセージの検索に使用されます。

'選択項目テキスト'

30文字以内をアポストロフィで囲んで指定してください。

[トップ](#)

プログラム選択 (CHOICEPGM)

可能な選択項目テキストおよび許される値を入力するためにコマンド・プロンプトが出されている間に、呼び出すプログラムを指定します。**テキスト選択 (CHOICE)**パラメーターに*PGMを指定した場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。そうでない場合には、指定することはできません。

単一値

*NONE

選択可能項目テキストおよび指定可能な値を表示するために使用するプログラムはありません。

修飾子1: プログラム選択

名前 選択可能項目テキストまたは指定可能な値を表示するためにプロンプト表示中に呼び出すプログラムの名前を指定します。プログラムが呼び出される時に例外が起こった場合には、選択可能項目テキストは空白のままになり、指定可能値のリストはコマンドから取られます。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 プログラムが入っているライブラリーの名前を指定してください。

初期プロンプト長 (INLPMTLEN)

コマンドのプロンプトが出された時に修飾子に対して最初に表示される入力フィールドの長さを指定します。ユーザーは、このフィールドの先頭位置にアンパーサンド(&)を入力することによって（次の桁はブランクにする）、このフィールドを最大長の512バイトまで拡張することができます。INLPMTLENは、TYPEが*NAME, *SNAME, *CNAME, *GENERIC,または*CHARと指定された場合にのみ有効です。FULL(*YES), RSTD(*YES),またはCONSTANTが指定された場合には、INLPMTLEN(*CALC)を指定するか、あるいはこれを省略時の値として使用しなければなりません。

*CALC

プロンプターが、パラメーターのタイプと長さに基づいてプロンプト・フィールドの長さを決定します。

***PWD** システム値QPWDLVLの現在の値が'0'または'1'の場合には、プロンプト・フィールドの長さは10バイトになります。そうでない場合には、プロンプト・フィールドの長さはパラメーターの長さによって決定されます。INLPMTLEN(*PWD)は、TYPEが*CHAR, *NAME, *SNAME,または*CNAMEと指定された場合にのみ有効です。

初期プロンプト長

初期長をバイト数で指定してください。有効な値は1-12, 17, 25, 32, 50, 80, 132, 256,および512です。

プロンプト・テキストまたはメッセージID (PROMPT)

修飾子（このQUALステートメントで定義）に使用されるプロンプト・テキストがある場合にそれを指定します。最初の修飾子または**定数値 (CONSTANT)**パラメーターが指定されている修飾子には、このパラメーターを指定することはできません。最初の修飾子のプロンプト・テキストは、この修飾子を示すPARMまたはELEMステートメントのPROMPTパラメーターから取られます。プロンプト・テキストには、コマンドのプロンプトが出されるとときに修飾子入力フィールドの横に現れる修飾子の簡略説明が表示されます。

*NONE

このQUALステートメントによって定義された修飾子についてはプロンプト・テキストは表示されません。この修飾子はそれでも入力フィールドの形でプロンプトが表示されますが、テキストは表示されません。

メッセージ識別コード

メッセージ識別コードを指定し、これは、プログラムで修飾子のプロンプトを出す時に表示される最大30文字のプロンプト・テキストを含むメッセージを指定します。指定された識別コードをもつメッセージをコマンド作成(CRTCMD)コマンドの**プロンプト・テキスト用メッセージ・ファイル (PMTFILE)**パラメーターに指定されたメッセージ・ファイルで見つけることができない場合には、メッセージ識別コードそのものがプロンプト・テキストとして使用されます。

'プロンプト・テキスト'

プログラムが修飾子のプロンプトを表示している時に表示されるプロンプト・テキストを指定してください。このテキストは、アポストロフィで囲んだ30文字以内の文字ストリングでなければなりません。

QUALの例

例1: 1つの要素としての修飾ジョブ名

```

    PARM  KWD(SPLFILE)  TYPE(L1)  DFT(*)  SNGVAL(*)
L1:  ELEM  TYPE(*NAME)  MIN(1)    /* FOR FILE NAME */
    ELEM  TYPE(Q1)
Q1:  QUAL  TYPE(*NAME)  MIN(1)    /* FOR JOB NAME  */
    QUAL  TYPE(*NAME)           /* FOR USER NAME */
    QUAL  TYPE(*CHAR)  LEN(6)    /* FOR JOB NUMBER */

```

SPLFILEパラメーターはオプションであり、指定しない場合は、アスタリスク(*)が省略時の値になります。そうでない場合は、この値は2つの要素のリストで構成されます。最初の要素はファイル名であり、これは必要です。2番目の要素は修飾ジョブ名です。最初の修飾子は必要です。最後の2つの修飾子はオプションです。以下は、有効なSPLFILEパラメーター構文の幾つかの例です。

- SPLFILE(*)
- SPLFILE(MYSPLFILE MYJOB)
- SPLFILE(MYSPLFILE 123456/USERA/MYJOB)

例2: 1つの要素としての修飾オブジェクト名のリスト

```

    PARM  KWD(DTAMBR)  TYPE(L1)  DFT(*ALL)  MAX(32) +
    SNGVAL(*ALL)
L1:  ELEM  TYPE(Q1)  MIN(1)
    ELEM  TYPE(*NAME)  MIN(0)  MAX(32)  SPCVAL(*NONE) +
    DFT(*NONE)
Q1:  QUAL  TYPE(*NAME)  MIN(1)
    QUAL  TYPE(*NAME)  DFT(*CURRENT)  SPCVAL(*CURRENT)

```

DTAMBRという名前のパラメーターはオプションであり、指定しない場合は、*ALLが省略時の値になります。そうでない場合は、この値はそれ自体がリストである各要素のリストで構成されます。各サブリストは、オプションで1つ以上のメンバー名が後に続いた修飾ファイル名で構成されます。メンバー名を指定しない場合は、*NONEが省略時の値として使用されます。ライブラリー修飾子をこのファイルに指定しない場合は、*CURRENTが省略時の値として使用されます。各サブリストには、1つのファイル名と最大32個までのメンバー名を入れることができます。最大32個までのこのようなサブリストは、DTAMBRの値として表示することができます。以下は、有効なDTAMBRパラメーター構文の幾つかの例です。

- DTAMBR(*ALL)
- DTAMBR((PFILE1 *NONE))
- DTAMBR((LIB1/PFILE1 (MBR1 MBR2)))
- DTAMBR((*CURRENT/PFILE1 (MBR1 MBR2 MBR3)) (LIB2/PFILE2 (MBR1 MBR2)))

エラー・メッセージ: QUAL

なし

[トップ](#)

活動化グループの再利用 (RCLACTGRP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

活動化グループ再利用(RCLACTGRP)コマンドは指定された活動化グループを削除し、その範囲に属する資源を解放します。このコマンドはジョブまたは省略時の活動化グループの範囲に属する資源を再利用しません。このコマンドは通常、アプリケーションの制御プログラムの中でのみ使用されます。

活動化グループが次の基準を満たしている場合には、再利用することができます。

- 活動化グループが省略時の活動化グループでない。

省略時の活動化グループは再利用することができない。

- 活動化グループは活動状態になっていない。

活動化グループの中で実行されているプログラムまたはプロシージャがある場合には、その活動化グループは再利用できない。

- 活動化グループがデバッグ活動化グループの1つでない。

ジョブがデバッグ・モードになっている場合には、使用中の活性化グループは、呼び出しスタックまたは活動化グループの表示画面上で活動状態として表示されることはありません。

- 活動化グループは共用活動化グループではありません。

共用活動化グループは、別のジョブによって使用中なのでそれを再利用することはできません。

活動化グループが再利用される時には、その活動化グループの有効範囲内のすべての資源が再利用されます。活動化グループの有効範囲内の資源には、活動化グループ中のプログラムの静的記憶域、オープンされているファイル、ユーザー・インターフェース管理機能(UIM)アプリケーション資源、共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信会話、階層ファイル・システム(HFS)資源、ユーザー定義の通信セッション、およびコミットメント定義の保留中の変更が含まれます。

クローズ・オプションをこのコマンドに指定することができ、混合、通信、2進データ同期(BSC)、およびシステム間通信機能(ICF)ファイルのクローズ時にこのオプションが使用されます。活動化グループに対して活動化グループ・レベル・コミットメント定義が開始されていて、保留中のコミット可能な変更がある場合には、クローズ・オプションは、システムがコミットメント定義を終了する前に保留中の変更を暗黙のうちにコミットまたはロールバックするかどうかを指示します。クローズ・オプション*NORMALを指定する際に、活動化グループ・レベル・コミットメント定義を使用してファイルをクローズする時にエラーが起これない時には、コミットが実行されます。そうでない場合には、ロールバックが実行されます。コミットメント制御のもとでシステムがどのようにロールバック操作を実行するかについては、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)解説書を参照してください。

活動化グループは、同じジョブ内で再び必要となることがない場合のみ再利用すべきです。そうしなければ、他のプログラムが再利用された資源を後でアクセスしようとした場合に、エラーおよび予測できない結果が起こる可能性があります。したがって、このコマンドは通常、アプリケーションの制御プログラムの中でのみ使用すべきです。ACTGRP(*ELIGIBLE)を指定するには、ジョブ環境についての完全な知識が必要です。そうでなければ、予測できない結果が起こることがあります。

このコマンドの適切な使用法の詳細については、SYSTEMVIEW SYSTEM MANAGER/400を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、複数のスレッドを使用できるジョブでは失敗します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACTGRP	活動化グループ	名前, *ELIGIBLE	必須, 定位置 1
OPTION	クローズ・オプション	*NORMAL, *ABNORMAL	オプションナル, 定位置 2

[トップ](#)

活動化グループ (ACTGRP)

再利用される活動化グループを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ELIGIBLE**

ジョブ内のすべての適格活動化グループが削除されます。

活動化グループ名

再利用する活動化グループを指定してください。活動化グループは、活動状態の呼び出しがない場合にかぎり再利用することができます。活動状態の呼び出しが存在している場合には、要求が正常に実行されなかったことをユーザーに知らせるメッセージが表示されます。活動化グループが見つからなかった場合には、活動化グループが見つからないために要求が正常に実行されなかったことをユーザーに知らせるメッセージが表示されます。

[トップ](#)

クローズ・オプション (OPTION)

活動化グループ・レベル・コミットメント定義について保留中の変更をコミットするのまたはロールバックするのか、混合、通信、BSC、およびICFファイルがクローズされた時に、正常または異常のどちらのクローズ通知が接続したホスト・システムに送られるのかを指定します。その他すべてのファイルおよび活動化グループの有効範囲内のオブジェクトについては、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NORMAL**

活動化グループ・レベル・コミットメント定義について保留中の変更はコミット（コミットメント

定義を使用しているファイルをクローズ中の時エラーがない場合) され、混合、通信、BSC,およびICFファイルがクローズされた時には、正常クローズ通知が接続したホスト・システムに送られます。

***ABNORMAL**

活動化グループ・レベル・コミットメント定義について保留中の変更はロールバックされ、混合、通信、BSC,およびICFファイルがクローズされた時には、異常クローズ通知が接続したホスト・システムに送られます。

[トップ](#)

RCLACTGRPの例

RCLACTGRP ACTGRP(MYGROUP)

このコマンドは、活動化グループMYGROUPを再利用します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RCLACTGRP

*ESCAPE メッセージ

CPF1653

活動化グループ&1が見つからない。

CPF1654

活動化グループ&1を削除することができない。

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

DDM会話再利用 (RCLDDMCNV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

分散データ管理(DDM)会話再使用(RCLDDMCNV)コマンドは、そのジョブの属性値が*KEEPであっても、このソース・ジョブによって現在使用されていないすべての分散データ管理機能(DDM)ソース・システム会話を再使用します。RCLDDMCNVコマンドを使用することによって、オープンされているすべてのファイルをクローズしたり、あるいは資源再利用(RCLRSC)コマンドによって実行される他のどの機能も実行する必要がなくなります。このコマンドは、コマンドが入力されるソース・システムのジョブのDDM会話だけに適用されます。

このコマンドはこのジョブで使用されるすべてのDDM会話に適用されますが、これを使用することは、すべての会話が解除されることを意味するものではありません。会話が解除されるのは、その会話に対して活動ユーザーがいなくなった場合だけです。

このコマンドにはパラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

RCLDDMCNVの例

RCLDDMCNV

このコマンドはコマンドが入力されるジョブのすべてのDDM会話を検査して、それぞれの会話にユーザーがいるかどうかを判別して、使用していないものを再利用します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RCLDDMCNV

なし

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト回復 (RCLDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト回復(RCLDLO)コマンドによって、次を回復することができます。

- 文書
- フォルダー
- フォルダーおよびフォルダー内に直接または間接的に入っているすべての文書およびフォルダー
- 内部文書ライブラリー・システム・オブジェクト
- 内部文書ライブラリー・システム・オブジェクト、ファイルされていない配布文書、およびシステム上のすべてのファイル済みフォルダーおよび文書。関連文書明細が同期化されます。
- 内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトと、1つの補助記憶域プール(ASP)内のすべてのファイル済みフォルダーおよび文書。関連文書明細が同期化されます。

すべての文書ライブラリー・オブジェクトを再利用するためにRCLDLOコマンドを使用する時には、オブジェクトは検索明細索引およびテキスト検索索引と同期化されます。RCLDLOコマンドを使用して生成されたテキスト検索索引を更新するためのすべての要求が処理された時に、テキスト検索索引の同期が完了します。

制約事項(1)内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトまたはすべての文書ライブラリー・オブジェクトを再利用するためには、*ALLOBJまたは*SECADMの特殊権限が必要です。これらのオブジェクトは、フォルダーまたは文書が使用中でない時にしか再利用することはできません。(2)文書またはフォルダーを再利用中には、これらを排他的に使用しなければなりません。文書またはフォルダーを再利用するためには、権限は不要です。また、システム配布ディレクトリーに登録されている必要もありません。(3)このコマンドを使用中に、内部オブジェクトがロックされていることを示すエラー・メッセージを受け取ることがあります。別のユーザーが文書ライブラリー機能を使用していることがあり、そのためにRCLDLOコマンドを実行することができません。他の文書ライブラリー活動が終了した時にこのコマンドをやり直してください。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *INT, *ALL, *FLR, *DOCCTL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー中	文字値, <u>*NONE</u>	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
SYSOBJATR	システム・オブジェクト属性	<u>*NONE</u> , *INTDOC, *DST	オプション
ASP	補助記憶域プールID	1-32, <u>*ANY</u>	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
OUTFILE	出力を受け取るファイル	修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前, <u>*NONE</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, <u>*FIRST</u>	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	<u>*REPLACE</u> , *ADD	

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

再利用するオブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***FLR** フォルダーおよびそれに直接または間接的に入っているすべてのフォルダーおよび文書が再利用されることとなります。

*SYSOBJNAM

再利用されるフォルダーまたは文書を識別するために、システム・オブジェクト名が使用されます。内部および配布文書を含むフォルダー内にない文書を再利用する時には、このパラメーターを使用しなければなりません。

***INT** 内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトが再利用されます。

注: 内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトは、システム上の文書およびフォルダーを管理するために使用されます。RCLDLO DLO(*INT)は、内部オブジェクトが損傷した場合にだけ必要になります。内部オブジェクトが損傷している場合に、文書およびフォルダーにアクセスを試みると、メッセージCPF8A46（内部システム・オブジェクトに損傷がある）が出され、おそらくその後メッセージCPF9032（文書交換セッションが開始されなかった）が出されます。

*DOCCTL

内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトと文書明細が再利用されます。DLO(*DOCCTL)は、すべての文書ライブラリー・オブジェクトとそれらの文書明細との関係を同期化するもので、それらの間の矛盾を修正します。

注: RCLDLO DLO(*DOCCTL)コマンドは、内部システム・オブジェクト、文書明細、およびDLOの間の一貫性を保証するために必要なRCLDLO DLO(*ALL)処理のサブセットを実行する、長時間実行機能となる場合があります。

***ALL** 内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトとすべての文書およびフォルダー(ASPパラメーターで指定)が再利用されます。DLO(*ALL)は、すべての文書ライブラリー・オブジェクトとそれらの文書明細との関係を同期化するもので、これらの間の矛盾を修正するために使用することができます。

注: RCLDLO DLO(*ALL)コマンドは、システムにある文書およびフォルダーの数によっては、長時間実行機能となる場合があります。RCLDLOコマンドをユーザーの裁量で出せる場合には、ユーザーは必要な時間をスケジュールできるまで、この操作を回避することもできます。

文書ライブラリー・オブジェクト名

再利用される文書またはフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

フォルダー中 (FLR)

再利用するフォルダーまたは文書が入っているフォルダーを指定するか、あるいはそれに直接または間接的に入っているすべての文書およびフォルダーとともに再利用するフォルダーを指定します。フォルダーまたは文書名、または*FLRが**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに入力された場合にかぎり、フォルダー名がこのパラメーターに入力されます。

*NONE

再利用されるフォルダーまたは文書がフォルダー内にありません。

フォルダー名

再利用する文書またはフォルダーが入っているフォルダーの名前を指定するか、あるいはそれに直接的に入っているすべてのフォルダーおよび文書とともに再利用するフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

再利用するオブジェクトのシステム・オブジェクト名を指定します。*SYSOBJNAM が**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに指定された場合には、システム・オブジェクト名をこのパラメーターに入力しなければなりません。

[トップ](#)

システム・オブジェクト属性 (SYSOBJATR)

再利用するオブジェクトの属性を指定します。このパラメーターに*NONE以外の値を入力できるのは、**文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)**パラメーターに*SYSOBJNAMが指定された場合だけです。

*NONE

オブジェクトの属性は指定されません。

*INTDOC

再利用するオブジェクトは内部文書です。

***DST** 再利用するオブジェクトは配布文書です。

[トップ](#)

補助記憶域プールID (ASP)

再利用される文書ライブラリー・オブジェクトの補助記憶域プール(ASP)の識別コード(ID)を指定します。*ANY以外の値をこのパラメーターに指定できるのは、DLOパラメーターに*ALLまたは*DOCCTLが指定された場合だけです。

***ANY** 再利用されるオブジェクトはどのASPにも存在しています。DLOパラメーターに*ALLが指定された時には、システム上のすべての文書ライブラリー・オブジェクトが再利用されます。

ASP-ID

指定されたASPに存在する文書ライブラリー・オブジェクトのみが再利用されます。他のASPに存在する文書ライブラリー・オブジェクトはすべて無視されます。有効な値は1 - 32であって、文書ライブラリー・オブジェクトを含む既存のASPを指定するものでなければなりません。ASP 1はシステムASPです。

注: ファイルされていない配布文書は、システムASP内の文書ライブラリー・オブジェクトとして分類されます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

特殊な出力が送られるデータベース・ファイルの名前を指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。出力ファイルがこの機能によって作成された場合には、記述テキストは「RCLDLOによって作成されたOUTFILE」となり、このファイルに対して特定権限をもたないユーザーの権限は*EXCLUDEになります。*NONE以外の値をこのパラメーターに指定できるのは、DLOパラメーターに*ALLまたは*DOCCTLが指定された場合だけです。

このファイルに送られる出力には、物理的に障害のある（したがって使用不能な）文書や、システムで見つからなかった（そして文書明細が除去されている）文書またはフォルダーの名前が含まれます。このファイルの目的は、ハードウェア障害からの回復時に失われたもの(ユーザーASPなど)の記録をユーザーに提供することにあります。

***NONE**

出力はデータベース・ファイルに送られません。

データベース・ファイルの名前は、次の1つのライブラリー値によって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

データベース・ファイル名

出力を受け取るデータベース・ファイルの修飾名を指定してください。このファイルは他のRCLDLOコマンドが出された時に再使用することができます。出力はOUTMBR パラメーターで指定された通りにファイルに追加されます。弊社提供のデータベース・ファイルQSYS/QARCLDLOを指定することはできません。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

出力が送られる先のデータベース・ファイル・メンバーの名前を指定します。メンバーがすでに存在している場合には、システムがこのパラメーターの2番目の要素を使用して、新しいレコードが追加される前にそのメンバーが消去されるかどうかを判別します。メンバーが存在せず、メンバー名が指定されていない場合には、システムはOUTFILEパラメーターで指定された出力ファイルの名前でメンバーを作成します。出力ファイル・メンバー名が指定されていて、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

出力を受け取るメンバーに指定できる値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。OUTMBR(*FIRST)が指定されていて、メンバーが存在していない場合には、システムがOUTFILEパラメーターに指定されたファイルの名前を使用してメンバーを作成します。メンバーが存在していれば、システムはメンバーの終わりにレコードを追加するか、あるいはメンバーを消去してレコードを追加します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーを指定します。OUTMBR (メンバー名) を指定し、そのメンバーが存在していない場合には、システムがそれを作成します。

指定できるメンバーに対して実行する操作の値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは既存のメンバーを消去して新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

RCLDLOの例

例1: フォルダの再利用

```
RCLDLO  DLO(FLR1)
```

このコマンドはフォルダーFLR1を再利用します。

例2: フォルダー内の文書の再利用

```
RCLDLO  DLO(A)  FLR(FLR2)
```

このコマンドはフォルダーFLR2内のフォルダーまたは文書を再利用します。

例3: フォルダーとフォルダー内の文書およびフォルダーのすべての再利用

```
RCLDLO  DLO(*FLR)  FLR(FLR3)
```

このコマンドは、フォルダーFLR3と、そのフォルダー内に直接的または間接的に入っているフォルダーおよび文書のすべてを再利用します。

例4: 内部文書の再利用

```
RCLDLO  DLO(*SYSOBJNAM)  SYSOBJNAM(AMBT133080)
```

```
SYSOBJATR(*INTDOC)
```

このコマンドは、システム・オブジェクト名AMBT133080で指定された内部文書を再利用します。

例5:配布文書の再利用

```
RCLDLO  DLO(*SYSOBJNAM)  SYSOBJNAM(AMBT133082)
SYSOBJATR(*DST)
```

このコマンドは、システム・オブジェクト名AMBT133082で指定された配布文書を再利用します。

例6:文書ライブラリー・システム・オブジェクトの再利用

```
RCLDLO  DLO(*INT)
```

このコマンドは、内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトを再利用します。

例7:文書ライブラリー・システム・オブジェクトおよび文書明細の再利用

```
RCLDLO  DLO(*DOCCTL)
```

このコマンドは、内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトと、フォルダーおよび文書の文書明細を再利用します。

例8:文書ライブラリー・システム・オブジェクトと文書およびフォルダーのすべての再利用

```
RCLDLO  DLO(*ALL)
```

このコマンドは、内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトと、フォルダーおよび文書を再利用し、その文書明細と同期します。

例9:文書ライブラリー・システム・オブジェクトとASP内の文書およびフォルダーのすべての再利用

```
RCLDLO  DLO(*ALL)  ASP(2)
```

このコマンドは、内部文書ライブラリー・システム・オブジェクトと、ASP 2内にあるフォルダーおよび文書を再利用し、その文書明細と同期します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RCLDLO

*ESCAPEメッセージ

CPF8AA4

&2の再利用は正常に行なわれなかった。

CPF8A29

&2の再利用は一部正常に行なわれた。

[トップ](#)

ライブラリーの再利用 (RCLLIB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ライブラリー再利用(RCLLIB)コマンドは、ライブラリーの内部オブジェクト（そのライブラリー内のすべてのオブジェクトのオブジェクト記述情報が入っているオブジェクト）およびライブラリー・オブジェクトそのものを再作成します。

このコマンドは、可能であれば、ライブラリーの損傷または破壊されている内部オブジェクトを再作成します。

制約事項:

1. 再作成されるライブラリーに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)および使用(*USE)権限が必要です。これは、ライブラリー削除(DLTLIB)コマンドによってライブラリーを削除する時に必要な権限と同じものです。
2. ライブラリーの（オブジェクト記述情報が入っている）内部オブジェクトだけが再作成されます。ライブラリー内のその他のオブジェクトは、妥当性検査も再作成もされません。
3. このコマンドは、QTEMP以外のすべてのライブラリーに対して使用することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

再作成されるライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 再作成されるライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

RCLLIBの例

RCLLIB LIB(TESTLIB)

このコマンドは、ライブラリーTESTLIBのオブジェクト記述情報が損傷しているかどうかを判別します。ライブラリーの損傷した部分は再作成されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RCLLIB

*ESCAPEメッセージ

CPF210A

ライブラリー&1を再利用できない。

CPF210B

ライブラリー&1の再利用の試みが正常に実行されなかった。

CPF2127

ユーザー・プロファイル&2に損傷がある。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

光ディスク再利用 (RCLOPT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

光ディスク再利用(RCLOPT)コマンドは、光ディスク索引データベース・ファイルまたは内部ライブラリー、あるいはその両方を再作成します。これらのファイルと索引は、ボリュームおよびディレクトリー情報を保守するために使用されます。これらのファイルと索引を再作成しなければならない理由のいくつかは次の通りです。すなわち、CISCからRISCへの移行の後、光ディスク媒体が手動で物理的に移動または除去された後、媒体の移動中にハードウェア障害が起こった後、あるいはデータベースまたは索引が損傷したり壊れたりした時に、これらのファイルと索引を再作成しなければならない場合があります。このコマンドでは、直接接続の光ディスク装置の排他的が必要です。

注: このコマンドは、完了までに長い時間を要する（おそらく24時間を超える）可能性があります。完了までの時間は、次のようないくつかの要因が影響します。すなわち、光ディスク・ライブラリーの数、各ライブラリー内の媒体の数、各媒体の容量、各媒体上のファイルおよびディレクトリーの数、それにこのコマンドで選択したオプションなどが、影響します。

制約事項: このコマンドを使用するためには、*USE権限が必要です。これは、*EXCLUDEの共通認可で出荷されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MLB	光媒体ライブラリー	名前, *ALL	必須, 定位置 1
OPTION	オプション	*SYNC, *UPDATE, *RESET	オプション的, 定位置 2
VOL	ボリューム識別コード	文字値, *ALL	オプション的
DIR	ディレクトリー索引再作成	*NO, *YES	オプション的

[トップ](#)

光媒体ライブラリー (MLB)

光ディスク索引が再作成される直接接続の光ディスク装置を指定します。

***ALL** すべての直接接続の光ディスク装置の光ディスク索引が再作成されます。

光ディスク装置名

光ディスク索引を再作成する直接接続の光ディスク装置の名前を指定してください。

[トップ](#)

オプション (OPTION)

どのタイプの再利用操作が実行されるかを指定します。

***SYNC**

光ディスク・ボリューム索引は内部装置索引と同期化されます。ボリュームが光ディスク・ボリューム索引の中にない場合には、そのボリュームについてボリュームとディレクトリー索引の両方の項目が作成されます。このオプションは通常、最少時間で完了するので、ほとんどの場合、*UPDATEまたは*RESETオプションを試みる前にこれを先に試みるようにしてください。

***UPDATE**

光ディスク・ボリューム索引が再作成され、任意選択で、光ディスク・ディレクトリー索引が、光ディスク・カートリッジから読み取られた情報を使用して再作成されます。ほとんどの場合、このオプションは、単一のボリュームまたは光ディスク・カートリッジ用の索引を再作成するために使用されます。

***RESET**

内部装置索引と光ディスク・ボリューム索引が再作成されます。光ディスク・ディレクトリー索引は、光ディスク・カートリッジから読み取られた情報を使用して、任意選択で再作成されます。*RESETを選択した場合には、少なくとも1回すべてのボリュームをドライブにマウントする必要があります。光ディスク・ディレクトリー索引は、ディレクトリー索引再作成パラメーターが*YESに設定された場合に作成されます。DIR(*YES)を指定すると、もう一度すべてのボリュームをマウントしなければならないこととなります。ほとんどの場合、*RESETを使用するのは、*SYNCまたは*UPDATE（あるいはその両方）が試みられた後にしてください。

トップ

ボリューム識別コード (VOL)

OPTION(*UPDATE)が指定されている場合に、再利用操作時にどのボリュームが使用されるかを指定します。

***ALL** 光ディスク装置のすべてのボリュームが使用されます。

ボリューム識別コード

再利用操作時に使用する特定のボリュームのボリューム識別コードを指定してください。

トップ

ディレクトリー索引再作成 (DIR)

光ディスク再利用処理時に処理された各ボリュームについて光ディスク・ディレクトリー索引が再作成されるかどうかを指定します。このパラメーターは、*UPDATEおよび*RESETにだけ適用されます。*SYNCが指定されると、DIR(*NO)が使用されます。さらに、このオプションは、媒体形式タイプが*UDFであるボリュームには適用されません。*UDFボリュームのディレクトリー索引情報は保守されないからです。*UDFボリュームが処理されると、DIR(*NO)が使用されます。

***NO** 処理された各ボリュームについて、光ディスク・ディレクトリー索引は再作成されません。

***YES** 処理された各ボリュームについて、光ディスク・ディレクトリー索引が再作成されます。非UDFボリュームの場合には、*UPDATEおよび*RESETにだけ適用されます。

注: 値*NOを選ぶと、光ディスク再利用要求の完了に必要な時間が短縮される可能性があります。

RCLOPTの例

```
RCLOPT  MLB(OPT01)  OPTION(*UPDATE)  VOL(VOL01)  DIR(*YES)
```

このコマンドは、光ディスク・ライブラリーOPT01内の光ディスク・ボリュームVOL01の光ディスク・ボリューム索引および光ディスク・ディレクトリー索引を再作成します。

トップ

エラー・メッセージ： RCLOPT

*ESCAPEメッセージ

OPT0125

コマンド&1がエラーで完了し、ジョブ・ログに詳細がある。

OPT1320

光ディスク・ボリューム&1は使用中である。

OPT1325

光ディスク・ボリュームの形式が認識されません。

OPT1330

光ディスク・ボリュームが見つからないか、または使用不能です。

OPT1331

光ディスク・ボリューム&1が見つかりません。

OPT1346

リモート光ディスク装置にあるボリュームには操作を行なうことができない。

OPT1360

光ディスク・ボリューム&1の媒体ディレクトリーが壊れています。

OPT1460

光ディスク・ボリューム&1が光ディスク装置にない。

OPT1530

&1は有効な光ディスク装置を表していない。

OPT1555

光ディスク装置&1は使用中です。

OPT1605

媒体または装置エラーが起きました。

OPT1640

ファイルまたはディレクトリーの読み取り中にエラーが起こった。

OPT1652

装置&1は光ディスク媒体ライブラリーでない。

OPT1790

操作が許可されないか、または別の要求と矛盾しています。

OPT1805

光ディスク・ボリューム索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1810

光ディスク・ディレクトリー索引ファイルのアクセス中にエラー。

OPT1815

内部プログラム・エラーが起きました。

OPT1820

光ディスク装置&1で内部エラーが起こった。

OPT1821

光ディスク装置&1でエラーが起こった。

OPT1825

光ディスク装置&1で光ディスク索引が間違っている。

OPT1860

光ディスク装置&1に対する要求が正常に実行されなかった。

OPT1861

装置&1に構成された装置記述がない。

OPT1862

資源&1に活動状態の装置記述がない。

OPT1863

光ディスク・ライブラリーを再利用する必要がある。

OPT1872

光ディスク要求がタイムアウトまたは取り消されました。

OPT2040

バックアップ制御ファイルのアクセス中にエラー。

OPT2155

光ディスク装置&1で光ディスク再利用が正常に実行されなかった。

OPT2165

ボリューム&1で光ディスクの再利用が正常に実行されなかった。

OPT2187

光ディスク索引が矛盾していて、光ディスク再利用が必要である。

OPT2188

光ディスク索引ファイルが損傷している。

OPT2190

ボリューム&1をアクセスしている時に光ディスク再利用処理時にエラーが起こった。

OPT2191

ボリューム&1のボリューム・ディレクトリーの読み取り中にエラーが起こった。

OPT2301

内部システム・オブジェクトが使用中である。

OPT7740

ユーザーにはライブラリー&3タイプ&4のオブジェクト&2が認可されていない。

[トップ](#)

資源再利用 (RCLRSC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

資源再利用 (RCLRSC)コマンドは、実行を終了して制御を制御プログラムに戻したプログラムによって割り振られた資源を解放するために、アプリケーション中の制御プログラムによって使用されるためのものです。これらのプログラムによって使用された資源は、その後は、システム上で実行される他のプログラムで使用することができます。LVLパラメーターによって指定された参照レベルに基づいて、このコマンドは、有効範囲が省略時の活動化グループとなっている資源を再利用します。このコマンドは、有効範囲がジョブとなっている資源または有効範囲が省略時の活動化グループ以外の任意の活動化グループとなっている資源を再利用しません。このコマンドによって再利用される資源は次の通りです。

- 静的記憶域

オリジナル・プログラム・モデル(OPM)プログラムの場合には、その静的記憶域が再利用されます。ユーザ一段階の統合化言語環境(ILE)プログラムの場合には、その静的記憶域が、次の呼び出しで再初期設定されるようにマーク付けされます。サービス・プログラム、システム段階のILEプログラム、または省略時の活動化グループ以外の活動化グループで実行される任意のILEブロックの静的記憶域は影響を受けません。

- オブジェクト・タイプ*FILEのオープン・ファイル
- ユーザー・インターフェース管理機能(UIM)アプリケーション資源
- 共通プログラミング・インターフェース(CPI)通信会話
- 階層ファイル・システム(HFS)資源
- ユーザー定義の通信セッション

さらに、上記の基準に基づいて分散データ管理機能(DDM)ファイルがクローズされた後で、活動化グループまたはそれらが開始された参照レベルに関係なく、現在使用されていないこのジョブの中のすべてのDDMソース・システム会話が終了します。

ファイルおよびほとんどのプログラム（正常に終了する（戻される）CLプログラム、最終レコード(LR)標識がオンに設定されているRPGプログラム、およびCOBOL プログラムなど）の静的記憶域を再利用するためには、RCLRSCコマンドは**必要ありません**。RCLRSCコマンドがアプリケーション内で任意のCOBOLプログラムがまだ活動状態である間に処理される可能性がある場合には、このコマンドを使用すべきではありません。

このコマンドの適切な使用法の詳細については、アプリケーションで使用されるプログラミング言語（1つまたは複数）に関連する解説書を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドはスレッド・セーフではありません。このコマンドは、複数のスレッドを使用できるジョブでは失敗します。
2. ファイル送信 (SNDF)、ファイル受信 (RCVF)、ファイル送信/受信 (SNDRCVF)コマンドも使用するCLプログラムの中でこのコマンドが使用される場合には、このコマンドにはLVL(*CALLER)を指定しないで

ください。このようなプログラムにRCLRSC LVL(*CALLER)を指定することにより、プログラムの実行後にSNDF, RCVF,またはSNDRCVFコマンドが使用された時に予測できない結果が起こる原因となります。

- このコマンドがコマンド入力行から出される場合には、このコマンドにLVL(*CALLER)を指定しないでください。指定すると、予測できない結果となります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LVL	プログラム・レベル	*, *CALLER _	オプション、位置 1
OPTION	クローズ・オプション	*NORMAL , *ABNORMAL	オプション

トップ

プログラム・レベル (LVL)

資源が再利用される参照レベルを指定します。

- *
_ 参照レベルは、このコマンドが入っているプログラムまたはプロシージャです。資源が実行を完了したプログラムまたはプロシージャを再利用されて、制御権がユーザーのプログラムに戻されます。

*CALLER

参照レベルは、このRCLRSCコマンドが入っているプログラムまたはプロシージャを呼び出したプログラムまたはプロシージャです。この値を指定すると、高水準言語で書かれた制御プログラムまたはプロシージャは、CLプログラムを呼び出して、制御プログラムまたはプロシージャのレベルまで資源を再利用することができます。結果は、コマンドが制御プログラムまたはプロシージャを出した場合と同様になります。

注: *CALLER値の使用によって、コマンド入力行からまたはオープン・ファイル処理するプログラム内からRCLRSCコマンドを実行すると、予期しない結果が起こることがあります。

トップ

クローズ・オプション (OPTION)

接続されたホスト・システムに対して、混合、通信、2進データ同期(BSC)、およびシステム間通信機能(ICF)ファイルのクローズ時に正常または異常クローズのいずれの通知を送信するかを指定します。このパラメーターは他のすべてのファイルおよびオブジェクトでは無視されます。

*NORMAL

接続されたホスト・システムに対して、混合、通信、BSC,およびICFファイルのクローズ時に、正常なクローズ通知が送信されます。

*ABNORMAL

接続されたホスト・システムに対して、混合、通信、BSC,およびICFファイルのクローズ時に、異

常なクローズ通知が送信されます。制御プログラムがホスト・システムに通信しなければならないエラー状態を検出した時にこれを使用してください（エラー状態がファイルに関連していなくてもよい）。

トップ

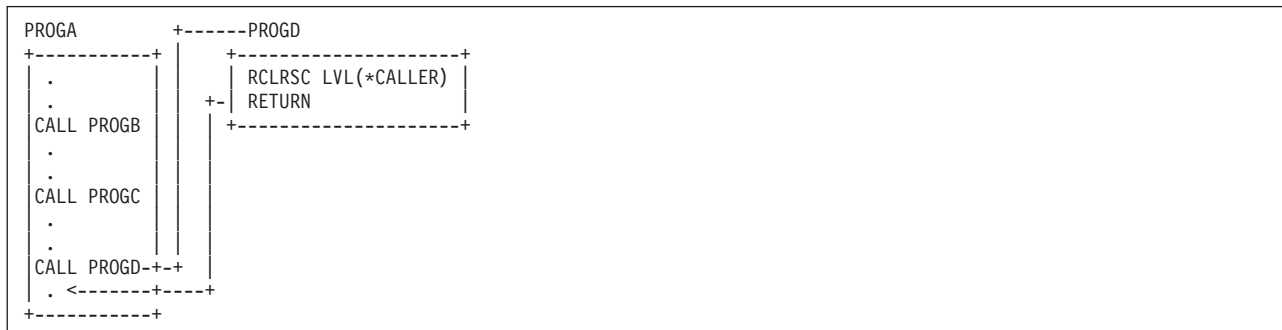
例

例1(OPM)

```
PROGA
:
CALL PROGB
RCLRSC
:
CALL PROGC
RCLRSC
:
```

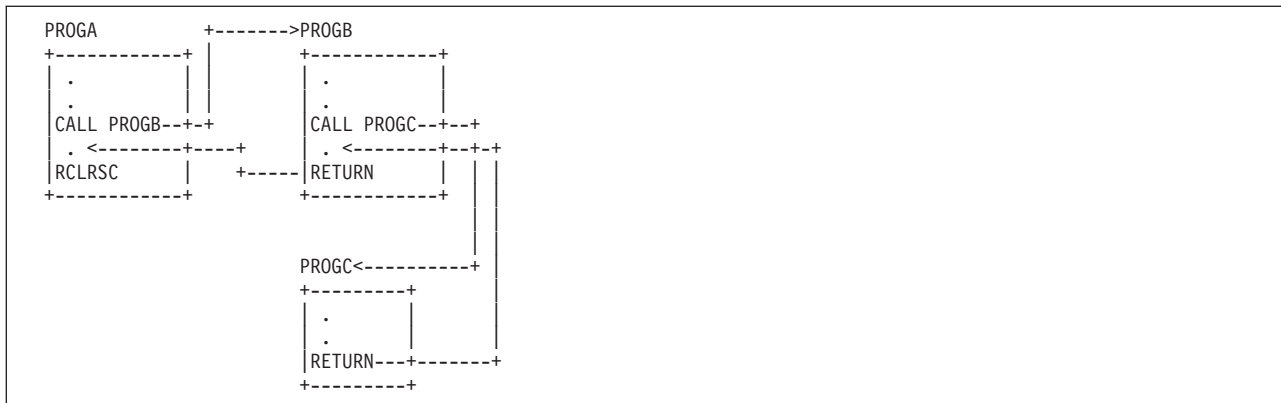
この例では、PROGAがアプリケーションの制御プログラムです。PROGAは他のプログラムを呼び出し、それらのプログラムは実行を終了すると制御をPROGAに戻します。制御は次の順次命令に戻されるので、それぞれのCALLコマンドに続けてRCLRSCコマンドが出され、呼び出し先プログラムが使用していた静的記憶域が解放され、オープンされたままになっていたファイルがクローズされます。

例2(OPM)



この例では、PROGAが高水準言語で作成された制御プログラムです。RCLRSCコマンドを高水準言語プログラムから出すことはできないので、そのコマンドを出すためにPROGDというCLプログラムが呼び出されます。RCLRSCコマンドがPROGDで出されると、PROGBおよびPROGCが使用していた静的記憶域が解放され、オープンされたままになっていたファイルがクローズされます。

例3(OPM)



この例では、PROGAが制御プログラムです。RCLRSCコマンドが出されると、PROGBおよびPROGCが使用していた静的記憶域が解放され、オープンされたままになっていたファイルがクローズされます。

例4(OPM)

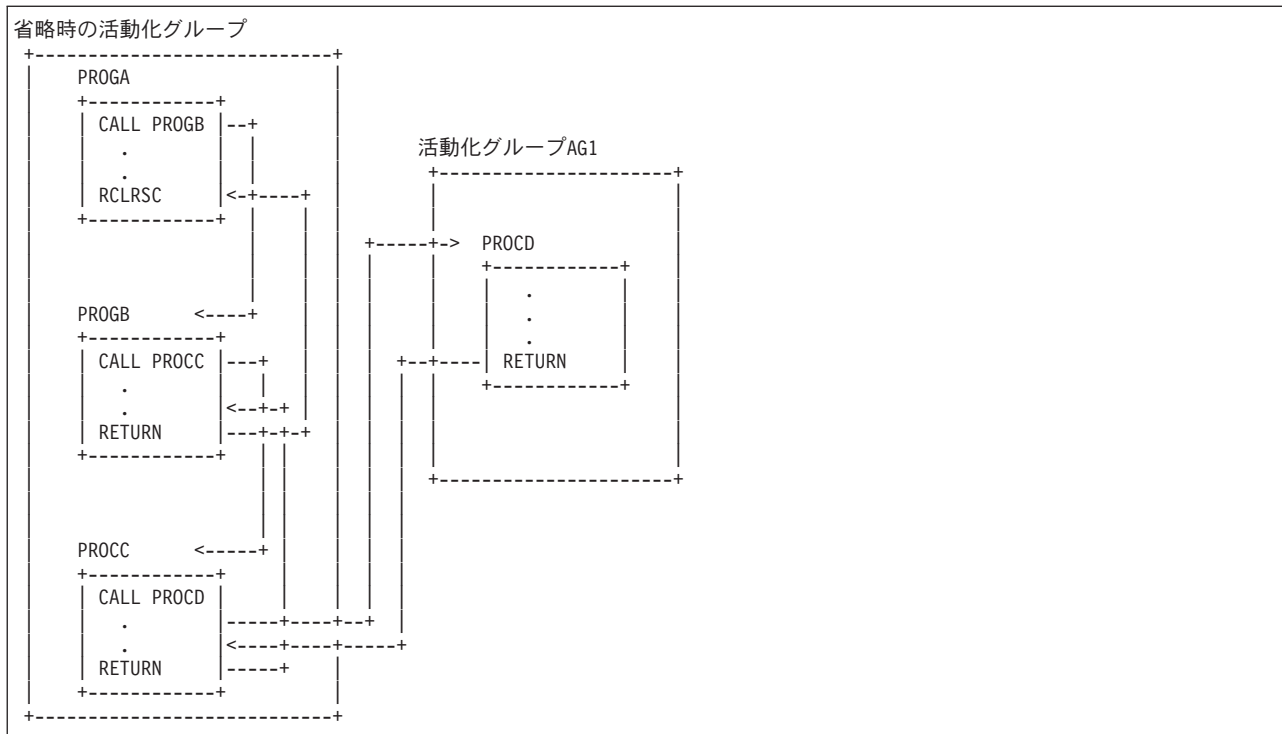


この例では、PROGAがPROGBを呼び出し、PROGBから戻った後に、PROGAはプログラムPROGCに移ります。PROGBはすでに呼び出されているので、静的記憶域が存在し、PROGCからPROGBを呼び出しても静的記憶域の新規割り振りは行われず、PROGCはPROGBが使用していた静的記憶域を再利用できません。PROGAによって呼び出された時にPROGBがファイルをオープンしていた場合には、それらのファイルはオープンされたままとなり、PROGCによって呼び出された時にPROGBがファイルをオープンしていた場合には、それらのファイルはクローズされます。

例5(OPM)

この例では、PROGAがPROGBを呼び出し、次にPROGBがPROGCを呼び出します。PROGCはファイルをオープンします。制御はPROGAに戻ります。PROGAはPROGBの2度目の呼び出しをし、PROGBがRCLRSCを呼び出します。RCLRSCはプログラムの現在の呼び出しのスタック内の位置に基づいているため、PROGCによってオープンされたファイルは影響を受けません。PROGCは現行のPROGBより前に呼び出されています。RCLRSCによってファイルをクローズするには、RCLRSCコマンドをPROGAによって呼び出す必要があります。

例6(OPM & ILE)



この例は、ILEプロシージャおよび活動化グループがRCLRSCコマンドによりどのように影響を受けるかを示しています。

この例では、PROGAは省略時の活動化グループで実行されるプログラムです。PROGAは省略時の活動化グループで実行されるプログラムPROGBを呼び出します。PROGBは、省略時の活動化グループで実行されるILEプロシージャPROCCを呼び出します。PROCCはILEプロシージャPROCDを呼び出し、活動化グループAG1が作成されます。PROCDはPROCCに戻ります。PROCCはPROGBに戻ります。PROGBは、次にRCLRSCコマンドを呼び出すPROGAに戻ります。

PROGAがRCLRSCコマンドを呼び出します。PROGAはまだ使用中であるので、PROGAが使用中の資源はまだオープンされています。プログラムおよびプロシージャは省略時の活動化グループで実行され、もはや活動状態ではないので、プログラムPROGBまたはプロシージャPROCCによるすべての資源は再利用されます。プロシージャPROCDは活動化グループAG1で実行され、RCLRSCコマンドの影響を受けるのは省略時の活動化グループだけであるので、プロシージャPROCDによってオープンされた資源はそのままになります。

RCLRSCコマンドのこれ以外の使用では、ファイルはオープンされたままになり、記憶域は割り振られたままになる可能性があります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPE メッセージ

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF1892

機能&1は使用できない。

[トップ](#)

スプール記憶域の再利用 (RCLSPLSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール記憶域再利用(RCLSPLSTG)コマンドは、ユーザーが指定した日数を超過した、スプール・ファイル用の使用されていない記憶域を再利用します。スプール・ファイルはシステム上のデータベース・ファイル・メンバーに記憶されます。スプール・ファイルを削除すると、そのメンバーは空になりますが、削除はされません。したがって、このメンバーは次に作成されるスプール・ファイルに再利用することができます。空のメンバーを再利用すると、新規スプール・ファイルの作成時のパフォーマンス時間が向上します。RCLSPLSTG コマンドは、システム補助記憶域プール(ASP 1)およびすべての基本ユーザー補助記憶域プール(ASP 2-32)内の使用されていない空のデータベース・メンバーを削除します。RCLSPLSTGコマンドでは、1次または2次補助記憶域プール(ASP)内の使用されていない空のデータベース・メンバーは削除されません。1次または2次補助記憶域プール(ASP)内の使用されていない空のデータベース・メンバーが自動的に削除されるように、QRCLSPLSTGシステム値を設定することができます。このコマンドは同期処理を使用します。同期処理の詳細については、バックアップおよび回復の手引き(SD88-5008)を参照してください。

制約事項: このコマンドを使用するには、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,またはQSRVBASとしてサインオンしているか、あるいは*ALLOBJ権限を持っていないければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DAYS	日数	1-366, *NONE	必須, 定位置 1

[トップ](#)

日数 (DAYS)

これは必須パラメーターです。

間隔 (日数) を指定します。指定された日数の間に新しいスプール・ファイルを作成するために既存のスプール記憶域が使用されなかった場合には、その記憶域は削除されます。

考えられる値は、次の通りです。

***NONE**

間隔は使用されません。すべての未使用スプール記憶域は削除されます。新しいスプール・ファイルを作成するための記憶域は残りません。このために、新しいスプール・ファイルを作成するのに時間がかかることとなります。

注: この値を使用すると、システム・パフォーマンスに悪い影響を及ぼすことがあります。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ファイルおよびファイル・システム」トピックを参照してください。

メンバー保存間隔

有効な値の範囲は1から366です。指定された日数は、秒まで計測されます。

[トップ](#)

RCLSPLSTGの例

RCLSPLSTG DAYS(30)

このコマンドは、30日以上使用されていないままのプール・ファイル用の使用されていないすべての記憶域を再利用します。日付およびタイム・スタンプが記憶域に入れられているので、30日を1秒でも超えて使用されないと、その記憶域が再利用されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RCLSPLSTG

なし

[トップ](#)

記憶域再利用 (RCLSTG)

実行可能場所: 対話環境 (*INTERACT *IPGM *IREXX *EXEC)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

記憶域の再利用(RCLSTG)コマンドは、可能な場合に、不完全な更新が行われたオブジェクト（データベース・ファイル、ライブラリー、装置記述、ストリーム・ファイルなど）と間違っで記録されたオブジェクトの所有権情報が入っているユーザー・プロファイルを訂正します。使用不能なオブジェクトや不完全な部分はすべて削除されます。

このコマンドは、損傷しているか破棄された権限リストによって保護されているすべてのオブジェクトを再利用し、そのオブジェクトを権限リストQRCLAUTLに割り当てます。

このコマンドの実行に必要な時間は補助記憶装置内のオブジェクト数によって異なるので、システムはコマンドを指定したワークステーションに定期的にメッセージを送信します。

また、RCLSTGコマンドを使用して、IPL時に、システムに完全に操作可能にするには十分な記憶域が使用可能でない場合に記憶域を再利用することもできます。その場合システム操作員は、記憶域が不十分だというメッセージの受信直後にこのコマンドを指定することができます。

ほんのわずかな追加補助記憶域しか使用可能でない場合には、RCLSTGコマンドを実行するために必要なシステム・オーバーヘッドが残りの記憶域より多く必要になることがあります。その場合には、RCLSTGコマンドは失敗します。

注: RCLSTGコマンドは、システム中のオブジェクトの数とタイプおよびオブジェクトの損傷の程度に応じて長時間実行機能となる可能性があります。RCLSTGでは各オブジェクトへのタッチが複数回行われるので、十分なメモリーがあれば、RCLSTGの実行に要する時間を大幅に削減することができます。逆に言えば、メモリーがわずかであると、RCLSTGの実行に要する時間が著しく増加する可能性がある記憶域スラッシングがもたらされることがあります。データベース・ファイル・オブジェクトに損傷がある場合には、キー順アクセス・パスの再作成が必要になることがあります。この操作には、多くの時間がかかります。RCLSTGコマンドをユーザーの自由で実行できる場合には、ユーザーは、必要な時間をスケジュールできるまで、この操作を避けることができます。

制約事項:

1. このコマンドは、共通の*EXCLUDE権限で出荷され、ユーザー・プロファイルQPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASは、このコマンドを使用する私用認可をもっています。
2. ASPDEVパラメーターにオプション*SYSBASが指定された場合には、RCLSTGコマンドを指定する前に、すべてのサブシステムが非活動状態になっている必要があります。サブシステムを非活動状態にするためには、SBSパラメーターに*ALLを指定したシステム終了(ENDSYS)コマンドまたはサブシステム終了(ENDSBS)コマンドを使用することができます。ENDSYSまたはENDSBSコマンドを使用するには、ジョブ制御(*JOBCTL)権限が必要です。
3. 補助記憶装置内の永続オブジェクトだけが再利用されます。一時オブジェクトはシステム初期プログラム・ロード(IPL)を実行することによって再利用されます。
4. IPL後にRCLSTGコマンドを実行する前には、IPL完了までに数分の待機が必要です。実行中のジョブがないことを確認するには活動ジョブ処理(WRKACTJOB)コマンドを使用してください。

5. ASPDEVパラメーターにオプション*SYSBASが指定された場合には、このジョブは制御サブシステム内にあり、システムで活動状態の唯一のジョブであることが必要です。
6. ASPDEVパラメーターにオプション*SYSBASを指定する時には、システムに構成されたすべての補助記憶域プール(ASP)装置がVARY OFF状況になっていなければなりません。
7. ASPグループ上の補助記憶域プール(ASP)装置がASPDEVパラメーターで指定されている場合には、これが活動ユーザーをもつこと、あるいは異なるジョブで使用中にすることはできません。RCLSTGコマンドを実行するには、ASP装置またはグループがAVAILABLEまたはFAILEDの状況になっていなければなりません。
8. RCLSTGの実行時には、ディレクトリー変換機能が活動状態になってはいけません。ディレクトリー変換が活動状態になっていないことを確認するには、OPTION(*CHECK)を指定したディレクトリー変換(CVTDIR)コマンドを使用できます。そうでない場合には、再利用機能のディレクトリー回復部分を省略するためにオプションOMIT(*DIR)を指定する必要があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SELECT	選択	*ALL, *DBXREF	オプションル
OMIT	除外	*NONE, *DBXREF, *DIR	オプションル
ASPDEV	ASP装置またはグループ	名前, *SYSBAS	オプションル

トップ

選択 (SELECT)

実行する再利用機能を指定します。

***ALL** すべての再利用機能を実行します。

***DBXREF**

データベース相互参照テーブルの再利用機能を実行します。

トップ

除外 (OMIT)

再利用操作から除外する再利用機能を指定します。

***NONE**

再利用機能を除外しません。

***DBXREF**

データベース相互参照テーブルの再利用機能を除外します。

***DIR** 再利用機能のディレクトリー回復部分は省略されます。

トップ

ASP装置またはグループ (ASPDEV)

再利用する補助記憶域プール(ASP)を指定します。

*SYSBAS

システムASPおよびすべての基本ASPが再利用されます。システムASPのASP番号は1です。基本ASPのASP番号は2から32までです。

補助記憶域プール装置名

指定したASP装置が再利用されます。ASP装置のASP番号は32より大きくなります。ASP装置のための記憶域の再利用は、制限状態でなくとも実行することができます。再利用するには、ASP装置がAVAILABLEまたはFAILEDの状況になっていなければなりません。それぞれが別のASP装置についてRCLSTG を実行する複数のジョブを投入し、複数のASP装置を並行して再利用することができます。

補助記憶域プール識別コード

ASPグループ内の基本ASPおよびセカンダリーASPが再利用されます。ASPグループ内の任意のASPの名前が受け入れられます。基本およびセカンダリーASPのASP番号は32より大きくなります。ASPグループのための記憶域の再利用は、制限状態でなくとも実行することができます。再利用するには、ASP装置がAVAILABLEまたはFAILEDの状況になっていなければなりません。それぞれが別のASPグループについてRCLSTG を実行する複数のジョブを投入し、複数のASPグループを並行して再利用することができます。

トップ

RCLSTGの例

例1:システムASPおよびすべての基本ASPの記憶域を再利用

RCLSTG

このコマンドは、対話式に指定され、最後の初期プログラム・ロード(IPL)の前に作成されたすべてのシステム・オブジェクトを見つけます。所有者のないオブジェクトには、省略時の所有者が与えられ、指定されたライブラリーから失われたオブジェクトは、QRCLライブラリーまたは省略時ライブラリーに挿入されるか、あるいは削除されます。

指定されたディレクトリーから失われたオブジェクトは、'/QRECLAIM'ディレクトリー（そのオブジェクトがもともとルート・ファイル・システムにあった場合）または'/QOPENSYS/QRECLAIM'ディレクトリー（そのオブジェクトがもともとQOPENSYSファイル・システムにあった場合）に挿入されます。

失われたオブジェクトで削除されるのは、損傷していて使用できない一部のユーザー・オブジェクトおよび一部のOS/400システム・オブジェクトです。

RCLSTGコマンドによって（必要な時に）作成されるQRCLライブラリーは永続ライブラリーです。

RCLSTGコマンドによって（必要な時に）作成される'/QRECLAIM'および'/QOPENSYS/QRECLAIM'ディレクトリーは、永続ディレクトリーですが、この操作の終了時に、すべてのオブジェクトが再利用されたためにオブジェクトが入っていない場合には、これらのディレクトリーは削除されます。

例2:データベース相互参照テーブルを再利用するために記憶域を再利用

RCLSTG SELECT(*DBXREF)

このコマンドは、データベース相互参照テーブルを再利用します。

例3:データベース相互参照テーブルの再利用を省略し、システム全体の記憶域を再利用

```
RCLSTG OMIT(*DBXREF)
```

このコマンドは、すべての記憶域再利用機能を実行しますが、データベース相互参照テーブルの再利用を省略します。

例4:ディレクトリーの再利用を省略して記憶域を再利用

```
RCLSTG OMIT(*DIR)
```

このコマンドは、すべての記憶域再利用機能を実行しますが、ディレクトリーの再利用を省略します。

例5: 1つのASP装置の記憶域を再利用

```
RCLSTG ASPDEV(MYASPDEV)
```

このコマンドは、ASP装置名MYASPDEVの記憶域を再利用します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RCLSTG

*ESCAPE メッセージ

CPF180B

機能&1は使用できない。

CPF180C

機能&1は使用できない。

CPF2119

ライブラリー&1はロックされている。

CPF2120

ライブラリー&1を削除することはできない。

CPF2126

ライブラリー&1を回復しようとしたが、正常に実行されなかった。

CPF2127

ユーザー・プロファイル&2に損傷がある。

CPF5729

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF8201

ユーザー・プロファイル&1が存在していないかまたは損傷している。

CPF8204

記憶域再利用時にコミットメント制御を活動状態にすることはできない。

CPF8205

ライブラリー&1が存在していないか、あるいは損傷がある。

CPF8206

記憶域再利用時にディレクトリー変換を活動状態にすることはできません。

CPF8209

システムは記憶域再利用のための適切な状態にない。

CPF8210

補助記憶域プール装置またはグループ&2の記憶域の再利用に失敗しました。

CPF8211

ライブラリー&1が破損しています。RCLSTGコマンドは終了しました。

CPF8212

ユーザー定義のファイル・システム(UDFS) ASPを再利用する場合は、SELECT(*DBXREF)またはOMIT(*DBXREF)は無効です。

CPF8224

メンバーの移動またはメンバー名の変更中に重複オブジェクトが見つかった。

CPF8251

RCLSTGコマンドは終了しました。ライブラリー&1が破損しています。

CPF8252

損傷のあるライブラリー&1の再作成中にエラーが起こった。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

STATUS メッセージ*CPI8206**

ディスクから&1%のオブジェクトが読み取られました。

CPI8207

ファイルIDテーブルの回復進行中。

CPI8210

データベース関係処理中。

CPI8212

データベース/ライブラリー/ディレクトリーの回復進行中。

CPI8213

システムでオブジェクトの処理中。

CPI8214

すべての永久オブジェクトに有効な所有者がある。

CPI8215

オブジェクト記述の検査進行中。

CPI8216

最終クリーンアップ進行中。

CPI8217

メール・サーバー・フレームワーク・クリーンアップ進行中。

CPI8218

ディレクトリー回復処置進行中。

CPI8219

ディレクトリー・クリーンアップ進行中。

CPI8220

メッセージ待ち行列QSYSOPRが*HOLD転送モードになっている。

CPIA916

ディレクトリーの&1%が処理されました。

[トップ](#)

一時記憶域の再利用 (RCLTMPSTG)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

一時記憶域の再利用(RCLTMPSTG)コマンドで、一時的に圧縮解除したパネル・グループ、メニュー、表示装置ファイル、および印刷装置ファイルのコピー、それによって解放されたシステム記憶域空間によって使用された記憶域を再利用することができます。

- 圧縮されたオブジェクトとは圧縮解除されたオブジェクトより記憶域スペースを少ししか占有しないオブジェクトのことです。圧縮されたオブジェクトが使用されるか、あるいは圧縮されたプログラムが呼び出される時には、圧縮解除されたバージョンのオブジェクトが自動的にユーザーに使用可能になります。
- 圧縮解除されたオブジェクトは、それに割り振られたシステム記憶域スペースを使用し、最終的な使用可能状態になります。
- 一時的に圧縮解除したオブジェクトは圧縮済みオブジェクトの一時的な圧縮解除されたコピーです。システムまたはユーザーが一時記憶域スペースを再利用する必要があると判断するまで、システムは一時コピーが占有している記憶域スペースを圧縮解除したオブジェクトに割り振ります。

次の場合に、一時記憶域は自動的に再利用されます。

- RCLTMPSTGコマンドが実行されます。
- 次のIPLが実行される。
- オブジェクトが頻繁に使用され、システムがそのオブジェクトを永続的に圧縮解除するようになる。

オブジェクトが永続的に圧縮解除された場合には、そのオブジェクトのすべての一時形式の他にオブジェクトの圧縮バージョンも破棄されます。しかし、圧縮済みバージョンは、そのオブジェクトが一時的な圧縮解除である限り元のまま残ります。

制約事項:

1. このコマンドは、共通の*EXCLUDE権限で出荷され、ユーザー・プロファイルQPGMR,QSYSOPR,QSRV,およびQSRVBASは、このコマンドを使用する私用認可を持っています。
2. 指定されたオブジェクトに対するオブジェクト管理権限およびライブラリーに対する実行権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *ALL , *ALLUSR, *CURLIB, *LIBL, *USRLIBL	オプション、定位置 1
DAYS	未使用の日数	1-366, 7 , *NONE	オプション、定位置 2

ライブラリー (LIB)

記憶域が再利用されるライブラリーの名前を指定します。このパラメーターで指定するライブラリー中であり、**未使用の日数**プロンプト (DAYSパラメーター) で指定した日数より多くの日数の間使用されていない、一時的に圧縮解除されたすべてのオブジェクトが再利用されます。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***ALL** システムにあるすべてのライブラリー(QSYSを含む) が検索されます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*USRLIBL

現行ライブラリー項目が現行スレッドのライブラリー・リストに存在する場合には、現行ライブラリーおよびライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。現行ライブラリー項目がない場合には、ライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーが検索されます。

*CURLIB

現行ライブラリーだけが検索されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

*ALLUSR

すべてのユーザー・ライブラリーが検索されます。次のものを除き、英字Qで始まらない名前のすべてのライブラリーが検索されます。

```
#CGULIB      #DSULIB      #SEULIB
#COBLIB      #RPGLIB
#DFULIB      #SDALIB
```

次のQXXXライブラリーは弊社提供のものですが、一般的に、これらにはよく変更されるユーザー・データが入ります。したがって、これらのライブラリーは「ユーザー・ライブラリー」と見なされ、検索されます。

```
QDSNX      QRCLXXXXX   QUSRIJS    QUSRVXRXMX
QGPL       QSRVAGT    QUSRINFSKR
QGPL38     QSYS2      QUSRNOTES
QMGTC      QSYS2XXXXX QUSROND
QMGTC2     QS36F      QUSRPOSGS
QMPGDATA   QUSER38    QUSRPOSSA
QMQMDATA   QUSRADSM   QUSRPYMSVR
QMQMPROC   QUSRBRM    QUSRDRARS
QPFRDATA   QUSRDIRCL  QUSRSYS
QRCL       QUSRDIRDB  QUSRVI
```

1. 'XXXXXX'は1次補助記憶域プール(ASP)の番号です。
2. 前のリリースのCLプログラム内でコンパイルされるユーザー・コマンドを入れるために、弊社がサポートする前の各リリース用にQUSRVXRXMXの形式の別のライブラリー名を作成するこ

とができます。QUSR VXR MXユーザー・ライブラリーのVXR MXは弊社が引き続きサポートしている前のリリースのバージョン、リリース、およびモディフィケーション・レベルです。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

未使用の日数 (DAYS)

オブジェクトが使用または変更されていない日数を指定します。一時的に圧縮解除されたオブジェクトは、指定された日数より多くの日数の間、使用または変更されていない場合には再利用されます。使用または変更されている場合には、一時的に圧縮解除されたままになっています。

考えられる値は、次の通りです。

7 8日以上使用または変更されていないオブジェクトが再利用されます。

*NONE

オブジェクトが使用または変更されていない日数に関係なく再利用されます。

使用されていない日数

日数を指定してください。有効な値の範囲は1から366です。

[トップ](#)

RCLTMPSTGの例

RCLTMPSTG LIB(QGPL)

このコマンドは、直前の7日間使用または変更されなかった、ライブラリーQGPL中のオブジェクトの一時的に圧縮解除されたすべてのコピーによって利用されていたスペースを再利用します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RCLTMPSTG

*ESCAPE メッセージ

CPF2110

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF2113

ライブラリー&1を割り振ることができない。

CPF2176

ライブラリー&1に損傷がある。

CPF3B07

&1KBの記憶域が再利用され、&5個のオブジェクトが処理されなかった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

[トップ](#)

配布受信 (RCVDST)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布受信(RCVDST)コマンドにより、文書またはファイルなどの着信配布を受け取ることができます。文書またはファイルは、フォルダーまたは文書オブジェクトに入れるか、あるいは処理のために出力ファイルに入れることができます。

制約事項:このコマンドの要求元はシステム配布ディレクトリーに登録しなければなりません。他のユーザーの配布情報を要求する場合には、ユーザー認可(GRTUSRPMN)コマンドによりそのユーザーに代わって処理を行なう許可を得ていなければなりません。要求元が他のユーザーに代わって処理を行なう場合には、個人用配布を要求することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTID	配布識別コード	文字値	必須, 定位置 1
USRID	ユーザー識別コード	単一値: *CURRENT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
DOC	文書	文字値, *NONE	オプション, 定位置 2
FLR	フォルダー中	文字値, *NONE	オプション, 定位置 3
OUTFILE	出力を受け取るファイル	単一値: *NONE その他の値: 修飾オブジェクト名	オプション
	修飾子 1: 出力を受け取るファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
OUTMBR	出力メンバー・オプション	要素リスト	オプション
	要素 1: 出力を受け取るメンバー	名前, *FIRST	
	要素 2: レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	
OUTDATYP	出力のデータ・タイプ	単一値: *DFT , *ALL その他の値 (最大 24 回の繰り返し): *DSTINFO, *MSG, *DOCD, *CRTDATE, *EXPDATE, *DOCDATE, *FILDATE, *CHGDATE, *ACTDATE, *CMPDATE, *AUTHOR, *CPYLIST, *DOCCLS, *FILCAB, *SUBJECT, *KWD, *REF, *STATUS, *PROJECT, *RPYDATE, *AUTUSR, *DSTEXPDATE, *IDP, *DOC	オプション
ACKRCV	肯定応答受信	*YES , *NO	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
DSTIDEXN	配布IDエクステンション	1-99, *NONE	オプション
KEEP	メール・ログに保管	*NO , *YES	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL , *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

トップ

配布識別コード (DSTID)

配布の固有の配布識別コードを指定します。この識別コードは、これを作成したシステムによって配布に割り当てられます。受信配布だけを受け取ることができます。識別コードが発信配布を表している場合には、エラー・メッセージが戻されます。

配布ID 配布識別コードは、送信元ユーザーIDの後半部分（右側に埋め込みをした8桁）、送信元ユーザーIDの前半部分（右側に埋め込みをした8桁）、および先行ゼロを含めて4桁のゾーン順序番号から構成されます。たとえば、'NEWYORK SMITH 0204'などです。送信する情報プロンプト（TYPEパラメーター）に***DSTID**を指定した場合には、このパラメーターが必須です。

これは必須パラメーターです。

トップ

ユーザー識別コード (USRID)

ユーザーIDおよびユーザーIDアドレスを要求と関連づけるかどうかを指定します。

***CURRENT**

自分自身で要求を実行します。

ユーザーID

別のユーザーのユーザーIDまたは自身のユーザーIDを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは***ALLOBJ**権限をもっていなければなりません。

ユーザーIDアドレス

別のユーザーのアドレスまたは自身のアドレスを指定してください。別のユーザーのための代行処理が許可されているか、あるいは***ALLOBJ**権限をもっていなければなりません。

トップ

文書 (DOC)

配布を受け取った時にこれを入れる文書オブジェクトの名前を指定します。この文書は既存のものであってはならず、私用文書として作成されます。この文書は、ユーザーが所有するか、あるいはユーザーが代行処理を行なう権限認可ユーザーによって所有されます。

***NONE**

受信中の配布は文書オブジェクトに入れられません。

文書名 配布を入れる文書の名前を指定してください。最大12桁を指定することができます。

[トップ](#)

フォルダー中 (FLR)

配布を受け取る文書が入っているフォルダーの名前を指定します。このフォルダーはすでに存在しているものでなければならず、またこのフォルダーに新しい文書を作成する権限が必要です。

***NONE**

受け取る文書はフォルダーに入れられません。文書を受け取って処理のためにデータベース・ファイルに入れ、**文書** (DOCパラメーター) を指定しない場合には、この値を指定してください。

フォルダー名

文書を入れるフォルダーの名前を指定してください。文書を入れるフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、フォルダー名を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

出力を受け取るファイル (OUTFILE)

出力を向けるデータベース・ファイルの名前およびライブラリーを指定します。出力ファイルが存在していない場合に、このコマンドは、指定されたライブラリーにデータベース・ファイルを作成します。特定権限をもたないユーザーの権限は、ファイルを作成するライブラリーに指定された作成権限と同じになります。ライブラリーの作成権限を表示するためには、ライブラリー記述表示(DSPLIBD)コマンドを使用してください。

***NONE**

出力はデータベース・ファイルに送られません。

データベース・ファイル名

出力を受け取るデータベース・ファイルの名前を指定してください。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目が存在しない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーを指定してください。

注: 新しいファイルを作成する場合には、システムは、QSYS中の様式名OSRCVDのQAOSIRCVをモデルとして使用します。

[トップ](#)

出力メンバー・オプション (OUTMBR)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのプール出力で印刷するかを指定します。

考えられる出力を受け取るメンバーの値は次の通りです。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。このメンバーが存在していない場合には、システムは出力を受け取るファイルプロンプト (OUTFILEパラメーター) で指定されたファイルの名前のメンバーを作成します。

メンバー名

出力を受け取るファイル・メンバーの名前を指定してください。このメンバーが存在していない場合には、システムはそのファイル・メンバーを作成します。そのメンバーがすでに存在している場合には、システムはメンバーの終わりにレコードを追加するか、あるいはメンバーを消去してからレコードを追加します。

可能な追加または置き換えの値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

トップ

出力のデータ・タイプ (OUTDTATYP)

データベース・ファイルに書き出す配布データのタイプを指定します。

***DFT** 次のレコード・コードが出力ファイルに書き出されます。

レコード・コード

記述

010 配布記述

020 メッセージ・テキスト

105 文書記述

800 文書データ

***ALL** すべてのレコード様式が出力ファイルに書き出されます。

***DSTINFO**

配布記述レコードが書き出されます。レコード・コードは010です。

***MSG** メッセージ・テキスト・レコードが書き出されます。レコード・コードは020です。

***DOCD**

文書記述レコードが書き出されます。レコード・コードは105です。

***DOCCLS**

文書クラス・レコードが書き出されます。レコード・コードは155です。

***SUBJECT**

件名レコードが書き出されます。レコード・コードは165です。

***FILCAB**

ファイル・キャビネット参照レコードが書き出されます。レコード・コードは160です。

***AUTHOR**

作成者レコードが書き出されます。レコード・コードは145です。

***KWD** キーワード・レコードが書き出されます。レコード・コードは170です。

***CPYLST**

コピー・リスト・レコードが書き出されます。レコード・コードは150です。

***FILDATE**

ファイル日付レコードが書き出されます。レコード・コードは125です。

***EXPDATE**

満了日レコードが書き出されます。レコード・コードは115です。

***DOCDATE**

文書日付レコードが書き出されます。レコード・コードは120です。

***CRTDATE**

作成日レコードが書き出されます。レコード・コードは110です。

***ACTDATE**

処置期日レコードが書き出されます。レコード・コードは135です。

***CHGDATE**

最終変更日レコードが書き出されます。レコード・コードは130です。

***CMPDATE**

完了日レコードが書き出されます。レコード・コードは140です。

***REF** 参照レコードが書き出されます。レコード・コードは175です。

***STATUS**

状況レコードが書き出されます。レコード・コードは180です。

***PROJECT**

プロジェクト・レコードが書き出されます。レコード・コードは185です。

***AUTUSR**

認可ユーザー識別コードおよびアドレスが書き出されます。これは、この配布の内容を認可したユーザーです。レコード・コードは190です。

***DSTEXPDATE**

配布満了日および時刻が書き出されます。レコード・コードは195です。

***RPYDATE**

応答要求日付および時刻が書き出されます。レコード・コードは200です。

***IDP** 交換文書プロファイル(IDP)が書き出されます。レコード・コードは500です。

***DOC** 文書データ・レコードが書き出されます。レコード・コードは800です。

肯定応答受信 (ACKRCV)

配布確認（肯定応答）を配布の送信元に送り返すかどうかを指定します。

***YES** 配布確認(COD)が送信元に送り返されます。

***NO** 配布確認は送信元に送り返されません。

トップ

配布IDエクステンション (DSTIDEXN)

配布識別コードプロンプト（DSTIDパラメーター）で指定された配布識別コードのエクステンション（ある場合）を指定します。この2桁のエクステンションは、重複した配布を固有に識別する01-99の範囲の値です。省略時の値は01です。

***NONE**

重複した配布はありません。*NONEは01のエクステンションと同等です。

配布IDエクステンション

配布と関連したエクステンションを指定してください。これは重複した配布を固有に識別するために使用されます。

トップ

メール・ログに保管 (KEEP)

受け取った配布をメール・ログから削除するかあるいはメール・ログに保存しておくか、そのいずれかを指定します。

***NO** 要求したすべての情報がOUTFILEまたはDOCに書き出されると、配布はユーザーの着信メールから除去されます。

***YES** 要求したすべての情報がOUTFILEまたはDOCに書き出されても、配布はユーザーの着信メールから除去されません。

トップ

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。文字識別コードはコマンドの入力に使用される表示装置に関連づけられています。

配布識別コードプロンプト（DSTIDパラメーター）およびユーザー識別コードプロンプト（USRIDパラメーター）に指定された値が、配布QUERY(QRYDST)コマンドによって作成された出力ファイルから読み取られている場合には、このパラメーターに'930 500'を指定してください。

***SYSVAL**

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

RCVDSTの例

例1: 現行ユーザー配布の受信

```
RCVDST  DISTID('SYSTEM1  USERA  0001')
          OUTFILE(MYLIB/MYFILE)  OUTMBR(MYMBR *ADD)
          OUTDTATYP(*ALL)  CMDCHRID(*DEVD)
```

このコマンドは、現行ユーザー配布をライブラリーMYLIB内にある出力ファイルMYFILEに受け取ります。この配布はメンバーMYMBRに追加されます。出力ファイル情報のすべては出力ファイルMYFILEに追加されます。

例2: ユーザーに配布済みの配布の受信

```
RCVDST  DSTID('BAKER RCH38P 0019')  DSTINDEXN(01)
          OUTFILE(JOWLIB/DOCUMENTS)  USRID(*CURRENT)
```

このコマンドは、ユーザーに送信された配布を受け取ります。また、JOWLIBという名前のライブラリー内のDOCUMENTSという名前のデータベース・ファイル中の先頭メンバーにコピーされます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RCVDST

*ESCAPEメッセージ

CPF8A87

文書名&2が正しくない。

CPF8A97

フォルダー名&1が正しくない。

CPF900B

ユーザーIDおよびアドレス&1 &2はシステム配布ディレクトリーに入っていない。

CPF900C

サインオンおよびユーザーの検査が正常に実行されなかった。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9098

配布は受け取られなかった。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9860

出力ファイルの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル受信 (RCVF)

実行可能場所:

- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)

スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター

例

エラー・メッセージ

ファイル受け取り(RCVF)コマンドは、表示装置ファイルまたはデータベース・ファイルからデータを受け取るために、CLプロシージャによって使用されます。このコマンドは、ファイルからレコードを読み取り、そのレコードからのデータを1つまたは複数のCL変数に入れます。これらのCL変数は、CLソース・プログラムがコンパイルされた時に、プログラム中で自動的に宣言されており、ファイル宣言(DCLF)コマンドがソース・プログラムの一部として処理されています。データの受信に使用するレコード様式の各フィールドに、1つのCL変数があります。ユーザーが画面に入力するデータ、あるいは入力レコードに入っているデータがRCVFコマンドによってプログラム中のCL変数にコピーされて、ここでプログラムによって処理されます。

DCLFコマンドに指定されたレコード様式の、1つのレコード様式だけを各RCVFコマンドに指定することができます。ファイルが前のRCVF、SNDRCVF、またはSNDFコマンドによってオープンされていない場合には、このコマンドによってオープンされます。前のRCVFコマンドでファイルの終わり条件のためにファイルがクローズされた場合には、エラーが起きます。ファイルのオープンの前に一時変更コマンドを入力した場合には、このコマンドに指定されたファイルを一時変更することができます。プログラムがコンパイルされた時にDCLFコマンドに指定されたファイルが表示装置ファイルであった場合には、そのファイルは別の表示装置ファイルにのみ一時変更することができます。ファイルがデータベース・ファイルであった場合には、そのファイルは、単一レコード様式をもつ別のデータベース・ファイルにのみ一時変更することができますが、一時変更するレコード様式のフィールドがプログラムに宣言されたCL変数と対応していなければならないことに注意してください。

制約事項:

- このコマンドはCLプロシージャ内でのみ有効です。
- このコマンドは条件付きのスレッド・セーフです。RCVFコマンドは、データベース・ファイルに対して出す時はスレッド・セーフです。RCVFは、表示装置ファイルに対して出す時はスレッド・セーフではなく、表示装置ファイルからデータを受け取るために複数のスレッドを使用するジョブで使用してはいけません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	表示装置	名前, <u>*FILE</u>	オプションル, 位置 1
RCDFMT	レコード様式	名前, <u>*FILE</u>	オプションル, 位置 2
OPNID	オープン・ファイル識別コード	単純名, <u>*NONE</u>	オプションル

キーワード	記述	選択項目	注
WAIT	待機	*YES, *NO	オプション

トップ

表示装置 (DEV)

データを送ってくる表示装置の名前を指定します。このパラメーターにCL変数名を使用した場合には、プログラムでいくつかの装置からデータを受け取るためのRCVF コマンドは1つしか必要としません。(装置名を指定する変数は、同じコマンドを反復して実行している間に変更することができます。) ファイルが表示装置ファイルである場合にかぎり、このパラメーターを指定することができます。

***FILE** ユーザーのデータは、装置ファイル (DCLFコマンドのFILEパラメーターで宣言された装置ファイル) と関連した装置から送られてきます。装置ファイルに複数の装置名が指定されている場合には、*FILEを指定することはできません。

名前 装置の名前、またはユーザーのデータを送ってくる装置の名前が入っているCL変数の名前を指定してください。

トップ

レコード様式 (RCDFMT)

ファイルからデータを受け取るために使用するレコード様式の名前を指定します。この様式には、レコード中のすべてのフィールドが入っています。装置ファイルに複数のレコード様式がある場合には、このパラメーターはレコード様式名でコーディングしなければなりません。ファイルがデータベース・ファイルの場合には、指定したレコード様式は、データをレコードからCL変数にマップするために使用されます。実行時には、ファイルの実際のレコード様式名が異なることがあります。RCVFはINVITE DDS キーワードを無視します。

***FILE** 装置ファイルのレコード様式は1つだけであり、したがって、その様式でデータが受け入れられません。装置ファイルに複数のレコード様式が指定された場合には、*FILEを指定することはできません。

名前 表示装置からデータ・レコードを受け取る時のレコード様式の名前を指定してください。レコード様式名に、CL変数を使用することはできません。

トップ

オープン・ファイル識別コード (OPNID)

同じCLプロシージャー内の先行するファイル宣言(DCLF)コマンドで宣言したオープン・ファイル識別コードを指定します。このパラメーター値にCL変数を指定することはできません。

***NONE**

オープン・ファイル識別コードは指定されていません。このコマンドは、OPNIDパラメーターに*NONEを指定したDCLFコマンドと関連したファイルを使用します。オープン・ファイル識別コードとして*NONEを持つファイルはCLプロシージャーの中で1つしか宣言できません。

単純名 同じCLプロシージャー内の先行するDCLFコマンドのOPNIDパラメーター値と一致する名前を指定してください。

待機 (WAIT)

CLプロシージャが、ユーザーの装置からデータを受け取るまで待機するか、あるいはこのRCVFコマンドの後のコマンドの処理に進むかを指定します。WAIT(*NO)が指定された場合には、入力操作を完了するために、プログラムは後でWAITコマンドをプログラム中で出す必要があります。ファイルが表示装置ファイルである場合にかぎり、このパラメーターを指定することができます。

***YES** プログラムは、装置からの入力操作が完了するまで待ちます。それまでは後続のコマンドは処理されません。

***NO** プログラムは入力データを待ちません。プロンプトの中にWAITコマンドが出てくるまで後続のコマンドが実行されます。

トップ

RCVFの例

例1: データベース・ファイルからのデータの受け取り

```
DCLF FILE(MENU1)
:
RCVF OPNID(*NONE)
```

CLプロシージャは、MENU1という名前のデータベース・ファイルからデータを受け取ります。RCVFコマンドは、オープン・ファイル識別コードが指定されていないファイル宣言コマンドと関連付けられます。

例2: 表示装置からのデータの受け取り

```
DCLF FILE(SCREENX) RCDfmt(R1 R2)
:
RCVF DEV(DISPLAY2) RCDfmt(R1)
```

CLプロシージャは、DISPLAY2という名前の表示装置のユーザーからデータを受け取ります。データは、SCREENXという名前の装置ファイルにあるR1という名前のレコード様式で受け取ります。プロシージャは、処理を続行する前にユーザー・データを待機します。

例3: ファイルの終わり例外の処理

```
DCLF FILE(INPUT) OPNID(INFILE1)
:
RCVF OPNID(INFILE1)
MONMSG CPF0864 EXEC(GOTO EOF)
```

CLプロシージャは、INPUTという名前のデータベース・ファイルから順次にレコードを受け取ります。プロシージャはファイルの終わり例外CPF0864をモニターし、メッセージを受け取ると、ラベルEOFに移動します。

例4: WAITコマンドと一緒にRCVFを使用

```
DCLF FILE(MSCREEN) RCDfmt(MIN1 MIN2 MIN3)
```

:
RCVF DEV(&DNAME) RCDfmt(MIN2) WAIT(*NO)
WAIT DEV(&DNAME)

CLプロシージャーは、MSCREENという名前の装置ファイルを経由して、いくつかの装置（一度に1つずつ）からユーザー・データを受け取ります。プロシージャーは、レコード様式MIN2を使用して、変数&DNAMEに指定された装置からデータを受け取りますが、データが送られてくるのを待ちません。いくつかの装置からデータを受け取るのに同じRCVFコマンドが使用されます。CL変数&DNAMEが使用されるので、コマンドが実行されるたびに、DEVパラメーターにある装置名だけを変更する必要があります。WAITコマンドは実際にはデータを受け取るので、各装置に対するWAITコマンドは、プロシージャーの後の方で出す必要があります。プロシージャーにデータを送る各装置（一度に1つずつ）に対して、RCVFコマンドとWAITコマンドの両方を処理することができます。ユーザー応答が遅延した場合は、ユーザーがデータで応じるか、受け取り終了(ENDRCV)コマンドが要求を取り消すまで、何度でも必要なだけコマンドを処理することができます。

トップ

エラー・メッセージ： RCVF

*ESCAPEメッセージ

CPF0859

ファイル一時変更により入出力バッファー・サイズを超えた。

CPF0860

&2のファイル&1がデータベース・ファイルでない。

CPF0861

ライブラリー&2のファイル&1が表示装置ファイルでない。

CPF0863

1 0進CL変数に2進データの値が大きすぎる。

CPF0864

&2のファイル&1でファイルの終わりが検出された。

CPF0865

ファイル&1に複数のレコード様式がある。

CPF0883

ファイル&1のDEVパラメーターの*FILEが正しくない。

CPF0886

レコードに正しくないデータ・フィールドが入っている。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

CPF502A

メンバー&4で可変長レコード・エラー。

CPF502B

トリガー・プログラムでエラーが起こった。

CPF502D

メンバー&4で参照制約違反。

CPF502E

メンバー&4の参照制約を妥当性検査することができない。

CPF502F

メンバー&4に対する検査制約違反。

CPF5029

メンバー&4でデータ・マッピング・エラー。

CPF503A

メンバー&4で参照制約違反。

CPF503B

メンバー&4にレコードを挿入または更新することができない。

CPF5068

プログラム装置&4がライブラリー&3のファイル&2に見つからない。

CPF5070

ライブラリー&3のファイル&2には獲得済みプログラム装置がない。

[トップ](#)

ジャーナル項目受信 (RCVJRNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジャーナル項目受信(RCVJRNE)コマンドにより、指定されたユーザー出口プログラムは引き続きジャーナル項目を受信することができます。このプログラムは、たとえば、項目を(1) ICFファイルに書き出してバックアップ・システム上のファイルに対する更新値を指定するようにセットアップしたり、あるいは(2)項目をテープに書き出して、テープへのジャーナル機能をまねるようにセットアップすることができます。受信されたジャーナル項目の情報を使用して、ジャーナル処理されているデータベース・ファイルを更新し、ディスク障害が起こった場合にデータの消失を最小にし、また、1次システムのシステムの障害の場合にバックアップ・システムのデータベース・ファイルを更新することができます。

出口プログラムに渡されるジャーナル項目の形式は、ENTFMTパラメーターに指定された値によって決まります。

制約事項:

- 指定されたレシーバーの範囲内で順序番号がリセットされる場合には、FROMENTLRG, FROMENT, TOENTLRG,またはTOENTパラメーター（指定されている場合）の最初のオカレンスが使用されます。
- FILE, JRNCDE, ENTTYP, JOB, PGM, USRPRF, CCIDLRG, CMTCYCID,およびDEPENTパラメーターを使用して、ジャーナル項目の範囲内の使用可能なすべての項目のサブセットを指定することができます。
 - これらのパラメーターを使用して値を指定しない場合には、使用可能なすべてのジャーナル項目が受け取られます。
 - これらのパラメーターの複数を指定する場合には、JRNCDEパラメーターに*IGNFILSLTが指定されている場合を除いて、ジャーナル項目はこれらのパラメーターに指定されたすべての値を満足させるものでなければなりません。
 - JRNCDEパラメーターにジャーナル・コードが指定されていて、そのジャーナル・コードに*IGNFILSLTが指定されている場合には、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目がFILEパラメーターに指定されたものを除いたすべての選択基準を満たす場合には、それらのジャーナル項目が選択されます。
- 指定されたレシーバー範囲内の1つまたは複数のジャーナル・レシーバーが、このデータを省略しているレシーバー・サイズ・オプション(RCVSIZOPT)または固定長データ・オプション(FIXLENDTA)が有効なジャーナルに接続されている場合には、選択基準の指定にJOB, PGM, およびUSRPRFパラメーターを使用することはできません。
- オブジェクトの最大数(32767オブジェクト)を超えるオブジェクトが識別されている場合には、エラーが起こって項目は受け入れられません。*ALLFILEが指定されている場合には、この制限は無視されます。
- ジャーナル・キャッシュが使用されている場合には、キャッシュ内の項目は戻されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JRN	ジャーナル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジャーナル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
EXITPGM	項目を受け取るプログラム	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 項目を受け取るプログラム	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FILE	ジャーナルされた物理ファイル	単一値: <u>*ALLFILE</u> その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 3
	要素 1: ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: ファイル	名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , *ALL	
RCVRNG	ジャーナル・レシーバーの範囲	単一値: <u>*CURRENT</u> , *CURCHAIN その他の値: 要素リスト	オプション, 定位置 4
	要素 1: 開始ジャーナル・レシーバー	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: 終了ジャーナル・レシーバー	単一値: <u>*CURRENT</u> その他の値: 修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 終了ジャーナル・レシーバー	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
FROMENTLRG	大きい開始順序番号	文字値, <u>*FIRST</u>	オプション
FROMTIME	開始日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始日付	日付	
	要素 2: 開始時刻	時刻	
TOENTLRG	大きい終了順序番号	文字値, *LAST, <u>*NONE</u>	オプション
TOTIME	終了日および時刻	要素リスト	オプション
	要素 1: 終了日付	日付	
	要素 2: 終了時刻	時刻	
NBRENT	ジャーナル項目の数	整数, <u>*ALL</u>	オプション
JRNCD	ジャーナル・コード	単一値: <u>*ALL</u> , *CTL その他の値 (最大 17 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ジャーナル・コード値	A, B, C, D, E, F, J, L, M, O, P, R, Q, S, T, U	
	要素 2: ジャーナル・コードの選択	<u>*ALLSLT</u> , *IGNFILSLT	
ENTTYP	ジャーナル項目タイプ	単一値: <u>*ALL</u> , *RCD その他の値 (最大 300 回の繰り返し): 文字値	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	単一値: *ALL , * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
PGM	プログラム	名前, *ALL	オプション
USRPRF	ユーザー・プロファイル	名前, *ALL	オプション
CCIDLRG	大きいコミット・サイクルID	文字値, *ALL	オプション
DEPENT	従属項目	*ALL , *NONE	オプション
ENTFMT	入力様式	*TYPE1 , *TYPE2, *TYPE3, *TYPE4, *TYPEPTR, *JRNENTFMT	オプション
NULLINDLEN	ヌル値標識の長さ	単一値: *ENTFMT その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: フィールドのデータ形式	1-8000, *VARLEN	
	要素 2: 可変長フィールドの長さ	1-8000	
DELAY	遅延時間	要素リスト	オプション
	要素 1: 遅延時間の値	1-99999, 30 , *NEXTENT	
	要素 2: 最大遅延時間の値	1-99999, *CLS	
BLKLEN	ブロック長	32-4000, *NONE , *CALC	オプション
JRNENTFMT	ジャーナル項目の形式	RJNE0100 , RJNE0200	オプション
RTNPTR	ポインターを戻す	*NONE , *SYSMNG, *USRMNG	オプション
INCENT	項目の組み込み	*ALL, *CONFIRMED	オプション
FROMENT	開始順序番号	1-999999999, *FIRST	オプション
TOENT	終了順序番号	1-999999999, *LAST, *NONE	オプション
CMTCYCID	コミット・サイクル識別コード	1-999999999, *ALL	オプション

トップ

ジャーナル (JRN)

受け取ったジャーナル項目が入っていたジャーナルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: ジャーナル

ジャーナル名

ジャーナルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

トップ

項目を受け取るプログラム (EXITPGM)

コマンドから渡される各ジャーナル項目の受け取りを制御するユーザー作成出口プログラムを指定します。このコマンドと出口プログラムとのインターフェースに関する追加情報は、このパラメーターに使用可能な値のリストの後にあり、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報でより詳細に説明しています。

これは必須パラメーターです。

修飾子 1: 項目を受け取るプログラム

プログラム名

コマンドから渡される各ジャーナル項目の受け入れを制御する出口プログラムの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

プログラムを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

プログラムが入っているライブラリーを指定してください。

出口プログラム・インターフェースに関する詳細

プログラムが呼び出される時には、同時に2つのパラメーターがそのプログラムに渡されます。最初のパラメーターで、単一のジャーナル項目またはジャーナル項目のブロックが渡されます。

- 単一のジャーナル項目が渡された場合で、プログラムによって定義されたパラメーターの長さがそのジャーナル項目の長さより小さい場合には、プログラムに渡されるジャーナル項目は切り捨てられます。プログラムによって定義されたパラメーターの長さがジャーナル項目の長さより大きい場合には、ジャーナル項目の長さを超えたパラメーターの桁には意味のない情報が入っています。ユーザーのプログラムは、ジャーナル項目の長さを超えた桁にあるデータを参照してはいけません。
- BLKLEN(*NONE)を指定した場合には、2番目のパラメーターの最初のバイトに8を指定することによって、出口プログラムは以後の出口プログラムの呼び出しで複数の項目を戻すようにシステムに指示することができます。これは「ブロック・モード」と呼ばれ、出口プログラムは最初のパラメーターの最初の5バイトにゾーン値としてブロックのサイズをバイト数で指定する必要があります。この指定にエラー

がある場合には、1つのジャーナル項目だけがブロックで渡されます。BLKLEN(*NONE)を指定しない場合には、2番目のパラメーターの最初のバイトに8を指定しても何の効果もなく、最初のパラメーターの最初の5バイトは無視されます。

- ポインターが戻される場合には、この最初のパラメーターは16バイト境界に位置合わせする必要があります。ジャーナル項目特定データには実際のポインターを含めることができるためです。

*TYPE1, *TYPE2, *TYPE3, および*TYPE4形式の場合には、渡される単一ジャーナル項目またはジャーナル項目ブロックの終わりにゼロを埋めるゾーン・ジャーナル項目の長さフィールドがあります。このフィールドは、最後のジャーナル項目が渡されたことを示します。各ジャーナル項目の情報の形式は、ENTFMTパラメーター記述に表示されます。最初のパラメーターの形式は、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER)にある「ジャーナル管理」情報で詳細に説明されます。

注: 出口プログラムのパラメーター仕様の最大長は、その言語に依存したものとなります（たとえば、CLの場合には、最大長は9999です）。この制約事項の詳細については、対応するプログラミング言語を参照してください。

LEN(3)の文字変数が出口プログラムの2番目のパラメーターで渡されます。このパラメーターはシステムから出口プログラムに渡されることになり、出口プログラムからシステムに渡すことができます。その値は次のリストに表示されます。

- 2番目のパラメーターの先頭バイトの情報：

文字(1)

出口プログラムに渡される場合

- 0 出口プログラムのこの呼び出しではジャーナル項目は渡されません。
- 1 単一のジャーナル項目が出口プログラムに渡されます。
- 2 1つまたは複数のジャーナル項目のブロックが出口プログラムに渡されます。
- 3 この呼び出しでは出口プログラムにジャーナル項目は渡されず、ジャーナル項目の受け取り操作が開始された時に接続されていたジャーナル・レシーバーがもはや接続されていないために、これ以上の項目を渡すことはできません。

注: システムは、理由コード3で出口プログラムを一度呼び出した後で、RCVJRNEコマンドを終了します。

- 4 この呼び出しでは出口プログラムにジャーナル項目は渡されず、リモート・ジャーナルが活動化されていない限り、これ以上の項目を渡すことはできません。

注: この値を出口プログラムに渡すことができるのは、リモート・ジャーナルの接続されたレシーバーからジャーナル項目を受け取っていて、そのジャーナルのジャーナル状態が現在*INACTIVEになっている場合だけです。

文字(1)

出口プログラムからシステムに渡されます

- 8 コマンド処理プログラムを要求して、1つまたは複数のジャーナル項目をブロックで渡すことを開始します。BLKLEN(*NONE)を指定しない場合には、2番目のパラメーターの最初のバイトに8を指定しても何の効果もなく、最初のパラメーターの最初の5バイトは無視されます。
- 9 RCVJRNEコマンドを要求して終了します。出口プログラムは制御をシステムに戻します。

- 2番目のパラメーターの第2バイトの情報：

文字(1)

出口プログラムに渡される場合

N 出口プログラムのこの呼び出しの後では、追加のジャーナル項目を引き続き渡すことはできません。すなわち、RCVJRNEコマンドは出口プログラムのこの呼び出しの後で終了します。

Y 出口プログラムのこの呼び出しの後で、追加のジャーナル項目を引き続き渡すことができます。

この2番目の文字で出口プログラムからシステムに渡される情報はすべて無視されます。

出口プログラムの2番目のパラメーターの第2バイトは、ジャーナル項目が出口プログラムの呼び出し当たりに単一ジャーナル項目として渡されているか、あるいは呼び出し当たりにジャーナル項目の1つのブロックとして渡されているかを指定します。

- 2番目のパラメーターの第3バイトの情報：

文字(1)

出口プログラムに渡される場合

'00'X 1つまたは複数のジャーナル項目が出口プログラムに渡されていて、各ジャーナル項目の固定長部分に入っているオブジェクト名は必ずしもジャーナル項目がジャーナルに入れられた時点のオブジェクトの名前を反映しているわけではありません。

注: この値が戻されるのは、V4R2M0より前のジャーナルに接続されたジャーナル・レシーバーからジャーナル項目を受け取っている場合だけです。

0 ジャーナル項目は現在渡されていないので、このバイトに通常は戻される情報が適用されません。

1 1つまたは複数のジャーナル項目が出口プログラムに渡されていて、各ジャーナル項目の固定長部分に入っているオブジェクト名は必ずしもジャーナル項目がジャーナルに入れられた時点のオブジェクトの名前を反映しています。

2 1つまたは複数のジャーナル項目が出口プログラムに渡されていて、各ジャーナル項目の固定長部分に入っているオブジェクト名は必ずしもジャーナル項目がジャーナルに入れられた時点のオブジェクトの名前を反映しているわけではありません。ジャーナル項目の固定長部分に入っているオブジェクト名は、ジャーナル項目がジャーナルに入れられる前に分かっているオブジェクトの名前として戻されるか、あるいは*UNKNOWNとして戻されることがあります。

注: この値が戻されることになるのは、ジャーナル項目をリモート・ジャーナルから受け取り、リモート・ジャーナルが現在そのソース・ジャーナルから受け取っている場合だけです。リモート・ジャーナルの変更(CHGRMTJRN)コマンドまたはジャーナル状態の変更(QJOCHANGEJOURNALSTATE) APIが呼び出されて、現在ジャーナル項目をリモート・ジャーナルに複製している場合には、リモート・ジャーナルがそのソース・ジャーナルから受け取られます。CHGRMTJRNコマンドまたはQJOCHANGEJOURNALSTATE APIへの呼び出しから戻った後で、リモート・ジャーナルは同期または非同期の転送モードで保守されて、リモート・ジャーナルは受け取り中でなくなります。

第3バイトに入っている出口プログラムからシステムに渡される情報は無視されることとなります。出口プログラムの2番目のパラメーターの第2バイトは、ジャーナル項目が出口プログラムの呼び出し当たりに単一ジャーナル項目として渡されているか、あるいは呼び出し当たりにジャーナル項目の1つのブロックとして渡されているかを指定します。

注: 現在使用可能な追加のジャーナル項目がないことを示す**N**が出口プログラムの2番目のパラメーターの第2バイトに渡された場合には、その出口プログラムから戻る時に、RCVJRNEコマンドが追加のジャーナル項目がジャーナルに入れられるのを待機する必要があることを必ずしも意味するわけではありません。

せん。出口プログラムが戻る時に、追加のジャーナル項目がすでに使用可能になっている可能性があります。DELAY パラメーターに指定された内容に応じて、すぐに出口プログラムに渡されることも渡されないこともあります。DELAY(N)が指定された場合には、システムは、ジャーナル項目を出口プログラムに渡す前に、N秒間待機することになります。DELAY(*NEXTENT) が指定された場合には、ジャーナル項目はすぐに出口プログラムに渡されることになります。

出口プログラムのパラメーターの第3バイトは、ジャーナル項目が出口プログラムの呼び出し当たりに単一ジャーナル項目として処理されるか、あるいは呼び出し当たりにジャーナル項目の1つのブロックとして処理されるかを指定します。ジャーナル項目のブロックで戻される場合には、この属性はブロックに入れて戻されるジャーナル項目のすべてのオブジェクト名に適用されます。

出口プログラムと、ジャーナル項目の受け取りに使用されるこれら2つのパラメーターの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

トップ

ジャーナルされた物理ファイル (FILE)

ジャーナル項目が受け取られる最大300の修飾済みファイル名を指定します。このパラメーターは、ジャーナル項目が受け取られるファイル・メンバーの名前も指定します。

指定されたファイル・メンバー名に基づいて、受け取るジャーナル項目を判別するために、次が実行されます。

- ジャーナルがローカル・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在している場合には、ジャーナル識別コードは指定されたファイル・メンバーから判別されます。そのジャーナル識別コードについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて受信されます。
- ジャーナルがリモート・ジャーナルである場合、あるいは指定されたファイル・メンバーが現在システムに存在していない場合には、指定されたファイル・メンバーと対応している使用可能なジャーナル識別コードをすべて判別するために、指定されたレシーバーの範囲が検索されます。それらのジャーナル識別コードについて指定されたレシーバー範囲内のジャーナル項目がすべて受信されます。

たとえば、ファイル・メンバーが指定された名前で作成されて、ジャーナル処理されてから、削除された場合には、指定されたファイル・メンバーと対応したジャーナル識別コードが複数あることがあります。この場合、別のファイル・メンバーが同じ名前で作成されて、ジャーナル処理もされてから、削除されています。これらの処置のすべてが指定されたレシーバー範囲内で行われる必要があります。

注:

1. ジャーナル処理がそのオブジェクトのために開始されている場合には、ジャーナル識別コードはそのオブジェクトと対応した固有の識別コードです。このオブジェクトが名前変更、移動、または復元された場合であっても、ジャーナル識別コードは一定になっています。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。
2. このパラメーターにデータベース・ファイルを指定した時に、次のジャーナル・コード値を持つジャーナル項目が受け取られるのは、それらが他のパラメーターに指定された値を満たしている場合だけです。
 - ジャーナル・コードD (データベース・ファイル・レベル情報項目)。

- ジャーナル・コード F (ファイル・メンバー・レベル情報項目)。
- ジャーナル・コード R (レコード・レベルの情報項目)
- ジャーナル・コード U (ユーザー生成の項目)
- その他のジャーナル・コード (そのジャーナル・コードに*IGNFILSLTが指定されている場合)。そのジャーナル・コードに*ALLSLTが指定されている場合には、そのコードを持つジャーナル項目は受け取られません。

単一値

***ALLFILE**

受け取られるジャーナル項目の検索は、指定したファイル名に限定されません。

要素 1: ジャーナルされた物理ファイル

修飾子 1: ジャーナルされた物理ファイル

***ALL** ジャーナル処理された変更が現在ジャーナル・レシーバーに入っている指定ライブラリー (このライブラリー名が指定されている必要がある) にあるすべての物理ファイルのジャーナル項目を受け取ります。*ALLが指定されていて、ユーザーがファイルのすべてに対して必要な権限を持っていない場合には、エラーが起こり、コマンドは終了します。

物理ファイル名

ジャーナル項目が受け取られるデータベース物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素 2: メンバー

***FIRST**

ファイルの最初のメンバー項目が受け取られます。

***ALL** ファイルに現在存在しているメンバーの項目が受け取られます。

メンバー名

ジャーナル項目が受け取られるメンバー名を指定します。

ファイル名要素に*ALLを指定した場合には、このメンバー名がライブラリー中のすべての適用可能なファイルに対して使用されます。たとえば、FILEパラメーターにライブラリー名/*ALL *FIRSTが指定された場合には、指定されたライブラリーで適用できるすべてのファイルの最初のメンバーのジャーナル項目が受け取られます。

トップ

ジャーナル・レシーバーの範囲 (RCVRNG)

受け取られたジャーナル項目の検索で使用される開始（最初の）および終了（最後の）ジャーナル・レシーバーを指定します。システムは開始ジャーナル・レシーバー（最初の値で指定）で検索を開始し、終了ジャーナル・レシーバー（最後の値で指定）が処理されるまでレシーバー連鎖を検索していきます。

いずれかの時点で2重レシーバー（対で接続され、切り離されるレシーバー）が使用された場合には、システムは、レシーバー連鎖を検索する時に対のレシーバーのうち最初のものを使用します。ジャーナル属性処理(WRKJRNA)コマンドを使用して、レシーバー連鎖におけるレシーバーの順序を表示することができます。

検索操作が開始される前にレシーバー連鎖で問題（レシーバーの損傷や不在など）が見つかった場合には、システムは2重レシーバーのうち2番目のものを使用しようとします。2番目のレシーバーも損傷していたり、見つからなかったりした場合には、操作が終了します。

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の受け取りを開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

***CURCHAIN**

ジャーナル項目の受け取りを開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが入っているジャーナル・レシーバー連鎖が使用されます。このレシーバー連鎖は連鎖の切れ目を超えません。連鎖に切れ目がある場合には、レシーバーの範囲は連鎖中の最新の切れ目からジャーナル項目の受け取りを開始する時点で接続されているレシーバーまでとなります。

要素 1：開始ジャーナル・レシーバー

修飾子 1：開始ジャーナル・レシーバー

開始ジャーナル・レシーバー名

受け取られるジャーナル項目が入っている最初のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。

修飾子 2：ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

要素 2：終了ジャーナル・レシーバー

単一値

***CURRENT**

ジャーナル項目の受け取りを開始する時点で接続されているジャーナル・レシーバーが使用されます。

修飾子 1: 開始ジャーナル・レシーバー

終了ジャーナル・レシーバー名

受け取り可能なジャーナル項目が入っている最後のジャーナル・レシーバーの名前を指定してください。この名前を持つレシーバーが見つかる前に、レシーバー連鎖の終わりに達した場合には、エラー・メッセージが送られ、ジャーナル項目は受け取られません。

注: この範囲内のレシーバーの最大数は1024です。この最大数を超えるレシーバーが指定された場合には、例外が起こり、ジャーナル項目は受け取られません。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジャーナル・レシーバーを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

ジャーナル・レシーバーが入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)

受け取りの対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT) パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG) パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

*FIRST

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目が、受け取る最初の項目です。

開始順序番号

受け取りの対象とみなされる最初のジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

開始日および時刻 (FROMTIME)

受け取る最初のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。指定した開始日および時刻またはその後の最初のジャーナル項目の開始日および時刻が、ジャーナル項目を受け取る開始点です。

要素 1: 開始日付

開始日 開始日を指定してください。

要素 2: 開始時刻

開始時刻

開始時刻を指定してください。時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。
- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたはHHMMSS)を指定します（ここで、**HH** =時間、**MM** =分、および**SS** =秒です）。

トップ

大きい終了順序番号 (TOENTLRG)

受け取りの対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***NONE**

ジャーナル項目は指定されません。ジャーナル項目は、コマンドが（要求取り消しまたはジョブ取り消しコマンドによって）取り消されるか、終了理由コード(9)が設定されるまでは出口プログラムに渡されます。渡すべき次の項目がない場合には、RCVJRNEコマンドはDELAYパラメーターで指示された秒数だけ待ってから、次に渡す項目を見つけようとしています。

注: TOENTLRG(*NONE)が有効なのは、RCVRNGパラメーターがジャーナル項目の受け取りの開始の時点で接続されているレシーバーを指定している場合だけです。

***LAST** 指定されたジャーナル・レシーバー範囲内の最後のジャーナル項目が、受け取りの対象とみなされる最後の項目です。

終了順序番号

受け取りの対象とみなされる最終ジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

注: FROMおよびTOプロンプトに指定する値を同じにすることができます。たとえば、FROMENTLRG(234)およびTOENTLRG(234)を指定することができます。

トップ

終了日および時刻 (TOTIME)

受け取る最後のジャーナル項目の日付および時刻を指定します。指定した終了日および時刻またはその前に作成されたジャーナル項目の終了日および時刻が、ジャーナル項目を受け取る終了点です。

要素 1: 終了日付

終了日 受け取る最後の項目の日付を指定してください。

要素 2: 終了時刻

終了時刻

最後に受け取った項目の作成時刻を指定してください。時刻は、時刻区切り記号付きまたは時刻区切り記号なしの24時間形式で指定することができます。

- 時刻区切り記号を使用しない場合には、4または6桁のストリング(HHMMまたは HHMMSS)を指定してください。ここで、HH =時、MM =分、SS =秒です。
- 時刻区切り記号を使用する場合には、ユーザーのジョブに指定された時刻区切り記号を使用して、時、分、および秒を区切った5または8桁のストリングを指定してください。このコマンドをコマンド入力行から入力する場合には、ストリングをアポストロフィで囲まなければなりません。ジョブに指定された区切り記号以外の時刻区切り記号を使用した場合には、このコマンドは正常に実行されません。

トップ

ジャーナル項目の数 (NBRENT)

受け取られるジャーナル項目の合計数を指定します。

***ALL** 選択値を満たす指定したジャーナル・レシーバーの範囲に含まれるすべてのジャーナル項目が受け取られます。

値 受け取るジャーナル項目の最大数を指定してください。NBRENTパラメーターに指定された値が満たされる前にTOENTLRG、TOENT、またはTOTIMEパラメーターによって識別された指定のジャーナル項目に達した場合には、コマンドは正常に終了します。

トップ

ジャーナル・コード (JRNCDE)

受け取る項目を限定するために使用されるジャーナル・コードを指定します。

単一値

***ALL** 受け取られるジャーナル項目は指定したコードを持つものには限定されません。

***CTL** 受け取られるジャーナル項目は、ジャーナル機能を制御するために作成されたものです。ジャーナル項目はコードJまたはFを持っています。

要素 1: ジャーナル・コード値

ジャーナル・コード

ジャーナル項目を限定するジャーナル・コードを指定してください。指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目しか受け取られません。

指定できるジャーナル・コードの説明は、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報にあります。

要素 2: ジャーナル・コードの選択

***ALLSLT**

この他のすべての選択パラメーターを満足させる場合に限り、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が受け取られます。

***IGNFILSLT**

すべての選択パラメーター(FILEパラメーターを除く)を満足させる場合に限り、指定されたジャーナル・コードを持つジャーナル項目が受け取られます。

注: ジャーナル・コードD, FまたはRの場合は, この値は正しくありません。

トップ

ジャーナル項目タイプ (ENTTYP)

受け取られるジャーナル項目を, 指定されたジャーナル項目タイプに限定するかどうかを指定します。

単一値

***ALL** 受け取られるジャーナル項目は, 指定したジャーナル項目タイプの項目に限定されません。

***RCD** レコード・レベル操作の項目タイプを持つ項目だけが受け取られます。有効な項目タイプはBR, DL, DR, IL, PT, PX, UB, UP,およびURです。

その他の値

項目タイプ

受け取るジャーナル項目を限定する項目タイプを指定してください。指定した項目タイプが入っているジャーナル項目しか受け取れません。最大300の有効な項目タイプを指定できます。項目タイプの詳細は, ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報にあります。

トップ

ジョブ名 (JOB)

関連したジョブに基づいて受け取るジャーナル項目を指定します。

単一値

***ALL** 受け取られるジャーナル項目は, 指定したジョブの項目に限定されません。

***** 受け取られるジャーナル項目は, 現行ジョブの項目に限定されます。

その他の値

ジョブ識別コード

ジョブ名, ユーザー名, および使用するジョブのジョブ番号を指定してください。ジョブ名だけまたはジョブ名とユーザー名を使用するように指定することもできます。

ジョブ名

ジョブのジョブ名を指定してください。

ユーザー名

ジョブのユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

トップ

プログラム (PGM)

関連したプログラムに基づいて受け取るジャーナル項目を指定します。

***ALL** 受け取られるジャーナル項目は、指定したプログラムによって作成された項目に限定されません。

プログラム名

ジャーナル項目が受け取りの対象とみなされるプログラム名を指定します。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USRPRF)

受け取るものとみなされるジャーナル項目は指定されたユーザー・プロファイルに対して作成されたジャーナル項目に限定されることを指定します。

***ALL** 受け取られるジャーナル項目は、指定したユーザー・プロファイルの項目に限定されません。

ユーザー・プロファイル名

ジャーナル項目を受け取るユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

大きいコミット・サイクルID (CCIDLRG)

関連したコミット・サイクルに基づいて受け取るジャーナル項目を指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクル識別コードを共用するすべてのジャーナル項目から構成されます。ジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用し、オプション5を入力することによって表示することができます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 受け取られるジャーナル項目は、指定したコミット・サイクル識別コードに限定されません。

コミット・サイクル識別コード

受け取るジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードを指定してください。可能な範囲は1から18,446,744,073,709,551,600です。

[トップ](#)

従属項目 (DEPENT)

ジャーナル項目記録処置を以下のようにして受け取るかどうかを指定します。

- トリガー・プログラムの結果として行われる
- 参照制約の一部であるレコード上
- ジャーナル処理済み変更適用(APYJRNCHG)またはジャーナル処理済み変更除去(RMVJRNCHG)の操作中に無視

***ALL** トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目を受け取ります。

*NONE

トリガー・プログラム、参照制約、およびジャーナル処理済み変更の適用または除去の操作によって無視される項目に関連したジャーナル項目を受け取りません。

トップ

入力様式 (ENTFMT)

受け取られるジャーナル項目の形式を指定します。ジャーナル項目のそれぞれのフィールドが何を表すかについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

注: ENTFMT(*TYPE1)またはENTFMT(*TYPE2)が指定されていない場合には、NULLINDLENパラメーターを指定しなければなりません。

注: ジャーナルの **レシーバー・サイズ・オプション**フィールド(RCVSIZOPT)が*MAXOPT3として指定されていた場合には、順序番号およびコミット・サイクル識別コード・フィールドが18,446,744,073,709,551,600の最大値に達する可能性があります。ENTFMT(*TYPE1), ENTFMT(*TYPE2), ENTFMT(*TYPE3),およびENTFMT(*TYPE4)形式のこれら2つのフィールドの長さは、10桁の数を保留するように定義されます。10桁より大きい順序番号、コミット・サイクル識別コード、適用または除去された項目のカウント、あるいは相対レコード番号が見つかり、これらのENTFMTオプションの1つが指定されている場合には、その項目についてフィールドは-1に設定されます。

*TYPE1

受け取られるジャーナル項目は指定可能な最少の情報を含むように形式設定されます。各ジャーナル項目の情報フィールドおよび情報の形式は、以下に示されています。

表 1. 図: テーブル 1 - *TYPE1ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (2)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
日付	: 6	: 19	: 24
時刻	: 6	: 25	: 30
ジョブ名	: 10	: 31	: 40
ユーザー名	: 10	: 41	: 50
ジョブ番号	: 6	: 51	: 56
プログラム名	: 10	: 57	: 66
オブジェクト名	: 10	: 67	: 76
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 77	: 86
メンバー名	: 10	: 87	: 96
カウント/RRN (3)	: 10	: 97	: 106
フラグ	: 1	: 107	: 107
コミット・サイクル ID (4)	: 10	: 108	: 117
未完了データ	: 1	: 118	: 118
最小化された項目	: 1	: 119	: 119
特定データ	:	:	:
予約済み	: 6	: 120	: 125
項目特定データ	: N (1)	: 126	: N+125

注:

(1) 項目特定データ・フィールドの長さは、項目ごとに異なります。これは、受け取られた各ジャーナル項目中のすべての項目特定データを十分に収容できる長さです。

(2) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(3) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

***TYPE2**

受け取られるジャーナル項目に、ENTFMT(*TYPE1)が指定された時に戻される情報、受け取られるジャーナル項目の記録を開始したユーザーの名前を指定したユーザー・プロファイル・フィールド、および項目が送られるシステムの名前が含まれます。*TYPE2ジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 2. 図: テーブル 2 - *TYPE2ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (2)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
日付	: 6	: 19	: 24
時刻	: 6	: 25	: 30
ジョブ名	: 10	: 31	: 40
ユーザー名	: 10	: 41	: 50
ジョブ番号	: 6	: 51	: 56
プログラム名	: 10	: 57	: 66
オブジェクト名	: 10	: 67	: 76
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 77	: 86
メンバー名	: 10	: 87	: 96
カウント/RRN (3)	: 10	: 97	: 106
フラグ	: 1	: 107	: 107
コミット・サイクル ID (4)	: 10	: 108	: 117
ユーザー・プロファイル	: 10	: 118	: 127
システム名	: 8	: 128	: 135
未完了データ	: 1	: 136	: 136
最小化された項目	: 1	: 137	: 137
特定データ	:	:	:
予約済み	: 18	: 138	: 155
項目特定データ	: N (1)	: 156	: N + 155

注:

(1) 項目特定データ・フィールドの長さは、項目ごとに異なります。これは、受け取られた各ジャーナル項目中のすべての項目特定データを十分に収容できる長さです。

(2) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(3) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

(4) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

*TYPE3

受け取るジャーナル項目には、ENTFMT(*TYPE2)が指定された時に戻される情報、およびヌル値標識が含まれます。受け取った項目の形式はNULLINDLENパラメーターで指定された値によって異なります。NULLINDLENパラメーターの説明におけるテーブルには、*TYPE3の3つの形式が示されています。

*TYPE4

受け取るジャーナル項目には、ENTFMT(*TYPE3)が指定された時に戻される情報、ジャーナル識別コード、物理ファイル・トリガー標識、および参照制約標識が含まれます。受け取った項目の形式はNULLINDLENパラメーターで指定された値によって異なります。NULLINDLENパラメーターの説明におけるテーブルには、*TYPE4の3つの形式が示されています。

*TYPEPTR

受け取られるジャーナル項目には、ENTFMT(*JRNENTFMT)およびJRNENTFMT(RJNE0100)が指定された場合と同じ情報が含まれ、項目特定データには、特定のジャーナル項目タイプのポインターが入っている場合があります。受け取った項目の形式はNULLINDLENパラメーターで指定された値によって異なります。NULLINDLENパラメーターの説明におけるテーブルには、*TYPEPTRの2つの形式が示されています。

注: NULLINDLEN(*VARLEN)とENTFMT(*TYPEPTR)を同時に指定することはできません。

*JRNENTFMT

受け取るジャーナル項目の形式はJRNENTFMTパラメーターによって決定されます。RTNPTRパラメーターは、受け取るジャーナル項目にポインターを入れられるかどうかを指示します。受け取った項目の形式はNULLINDLENパラメーターで指定された値によって異なります。NULLINDLENパラメーターの説明におけるテーブルには、*JRNENTFMTの6つの形式が示されています。

トップ

ヌル値標識の長さ (NULLINDLEN)

ユーザーによって受け取られるジャーナル項目のヌル値標識部分に使用される長さ（バイト数）を指定します。このパラメーターは、ENTFMT(*TYPE1)またはENTFMT(*TYPE2)が指定されている場合には無効です。

単一値

*ENTFMT

ヌル値標識フィールドは十分に長いので、受け取られるジャーナル項目のすべてのヌル値標識を含めることができます。ヌル値標識の数は項目によって変化することがあるので、ヌル値標識フィールドの長さも各項目で変わります。

注:

ユーザーが*TYPE3形式を選択した場合は、この形式では以下の情報は使用できません。

1. LOBフィールドまたはバイト・ストリーム・ファイル書き込み操作のために、ジャーナル項目データが未完であるかどうかを示す未完了データ。
2. ジャーナル項目に最小化された項目特定データがあるかどうかを示す最小化項目。これは、ジャーナルではジャーナル項目のオブジェクト・タイプにMINENTDTAが指定されているためです。

未完了データ標識、最小化された項目特定データ標識、およびこれらのジャーナル項目に関する詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「ジャーナル管理」情報を参照してください。

NULLINDLEN(*ENTFMT)が指定された場合の*TYPE3ジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 3. 図: テーブル 3 - ENTFMT(*TYPE3)の場合のNULLINDLEN(*ENTFMT)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (5)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (6)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (7)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ヌル値標識 の数(1)	: 5 :	: 150 :	: 154 :
ヌル値標識	: M (2)	: 155	: 154 + M
項目特定データ の長さ(3)	: 5 :	: 155 + M :	: 159 + M :
項目特定データ	: N (4) :	: 160 + M :	: 159 + M : + N

注:

- (1) このフィールドには、受け取られたジャーナル項目のヌル値標識の数(10進数)が含まれます。
- (2) ヌル値標識の長さは項目ごとに変えることができ、変数Mによって指定されます。
- (3) このフィールドには、受け取られたジャーナル項目の項目特定データの長さ(10進数)が含まれます。
- (4) 項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Nによって指定されます。
- (5) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (6) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (7) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

NULLINDLEN(*ENTFMT)が指定された場合の*TYPE4ジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 4. 図: テーブル 4- ENTFMT(*TYPE4)の場合のNULLINDLEN(*ENTFMT)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (5)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (6)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (7)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ジャーナル識別コード	: 10	: 150	: 159
参照 制約	: 1 :	: 160 :	: 160 :
トリガー	: 1	: 161	: 161
未完了データ	: 1	: 162	: 162
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 163 :	: 163 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 164 :	: 164 :
予約済み	: 5	: 165	: 169
ヌル値標識 の数(1)	: 5 :	: 170 :	: 174 :
ヌル値標識	: M (2)	: 175	: 174 + M
項目特定データ の長さ(3)	: 5 :	: 175 + M :	: 179 + M :
項目特定データ	: N (4) :	: 180 + M :	: 179 + M + N

注:

- (1)このフィールドには、受け取られたジャーナル項目のヌル値標識の数(10進数)が含まれます。
- (2)ヌル値標識の長さは項目ごとに変えることができ、変数Mによって指定されます。
- (3)このフィールドには、受け取られたジャーナル項目の項目特定データの長さ(10進数)が含まれます。
- (4)項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Nによって指定されます。

表 4. 図: テーブル 4 - ENTFMT(*TYPE4)の場合のNULLINDLEN(*ENTFMT)ジャーナル項目形式 (続き)

- | |
|--|
| <p>(5) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。</p> <p>(6) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。</p> <p>(7) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。</p> |
|--|

NULLINDLEN(*ENTFMT), JRNENTFMT(RJNE0100),およびRTNPTR(*SYSMNG)が指定された場合の*TYPEPTRまたは*JRNENTFMTジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 5. 図: テーブル 5 - JRNENTFMT(RJNR0100)が指定された場合のENTFMT(*TYPEPTR)または ENTFMT(*JRNENTFMT)に対するNULLINDLEN(*ENTFMT)ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
次のジャーナル項目 のヘッダーへの 変位(1)	: 4	: 0	: 3
このジャーナル項目 のヌル値標識への 変位(1)	: 4	: 4	: 7
このジャーナル項目 の項目特定データ への変位(1)	: 4	: 8	: 11
ポインター・ハンドル (2)	: 4	: 12	: 15
順序番号	: 20	: 16	: 35
ジャーナル・コード	: 1	: 36	: 36
項目タイプ	: 2	: 37	: 38
タイム・スタンプ	: 26	: 39	: 64
ジョブ名	: 10	: 65	: 74
ユーザー名	: 10	: 75	: 84
ジョブ番号	: 6	: 85	: 90
プログラム名	: 10	: 91	: 100
オブジェクト	: 30	: 101	: 130
カウント/RRN	: 10	: 131	: 140
標識フラグ	: 1	: 141	: 141
コミット・サイクルID	: 20	: 142	: 161
ユーザー・プロファイル	: 10	: 162	: 171
システム名	: 8	: 172	: 179
ジャーナル識別コード	: 10	: 180	: 189
参照制約	: 1	: 190	: 190
トリガー	: 1	: 191	: 191
未完了データ	: 1	: 192	: 192
オブジェクト名標識	: 1	: 193	: 193
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1	: 194	: 194
最小化された項目 特定データ	: 1	: 195	: 195
ヌル値標識 の長さ(1)	: 4	: NVI DISP (3)	: NVI DISP + 3
ヌル値標識	: M (4)	: NVI DISP + 4	: NVI DISP + 3 + M
項目特定データ の長さ	: 5	: ESD DISP (5)	: ESD DISP + 4

表 5. 図: テーブル 5 - JRNENTFMT(RJNR0100)が指定された場合のENTFMT(*TYPEPTR)または
ENTFMT(*JRNENTFMT)に対するNULLINDLEN(*ENTFMT)ジャーナル項目形式 (続き)

予約済み	: 11	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: + 5	: + 15
項目特定データ	: N (6)	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: + 16	: + 15 + N

注:

- (1) このフィールドはBINARY(4)で表されます。
- (2) このフィールドはUNSIGNED BINARY(4)で表されます。
- (3) NVI DISPは、「このジャーナル項目のヌル値標識への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (4) ヌル値標識の長さは項目ごとに変えることができ、変数Mによって指定されます。
- (5) ESD DISPは、「このジャーナル項目の項目特定データへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (6) 項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Nによって指定されます。

NULLINDLEN(*ENTFMT)およびJRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合の*JRNENTFMTジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 6. 図: テーブル 6 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT)に対する NULLINDLEN(*ENTFMT) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
次のジャーナル項目 のヘッダーへの 変位(5)	: 4	: 0	: 3
このジャーナル項目 のヌル値標識への 変位(5)	: 4	: 4	: 7
このジャーナル項目 の項目特定データ への変位(5)	: 4	: 8	: 11
このジャーナル項目の トランザクションID への変位(1)	: 4	: 12	: 15
このジャーナル項目 の作業論理単位への 変位(1)	: 4	: 16	: 19
このジャーナル項目 のレシーバー情報 への変位(1)	: 4	: 20	: 23
順序番号(1)	: 8	: 24	: 31
不定形式タイム・ スタンプ(1)	: 8	: 32	: 39
スレッドID(1)	: 8	: 40	: 47
システム順序番号 (1)	: 8	: 48	: 55
カウント/RRN(1)	: 8	: 56	: 63
コミット・サイクル ID(1)	: 8	: 64	: 71
ポインター・ハンドル(1)	: 4	: 72	: 75
リモート・ポート(1)	: 2	: 76	: 77
アーム番号(1)	: 2	: 78	: 79
プログラム・ライブラリー ASP番号(1)	: 2	: 80	: 81
リモート・アドレス	: 16	: 82	: 97
ジャーナル・コード	: 1	: 98	: 98
項目タイプ	: 2	: 99	: 100
ジョブ名	: 10	: 101	: 110
ユーザー名	: 10	: 111	: 120
ジョブ番号	: 6	: 121	: 126
プログラム名	: 10	: 127	: 136
プログラム・ライブラリー名	: 10	: 137	: 146
プログラム・ライブラリー ASP 装置名	: 10	: 147	: 156
オブジェクト	: 30	: 157	: 186
ユーザー・プロファイル	: 10	: 187	: 196

表 6. 図: テーブル 6 - JRNFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNFMT)に対する
NULLINDLEN(*ENTFMT) ジャーナル項目形式 (続き)

ジャーナル識別コード	: 10	: 197	: 206
アドレス・ファミリー	: 1	: 207	: 207
システム名	: 8	: 208	: 215
標識フラグ	: 1	: 216	: 216
オブジェクト名標識	: 1	: 217	: 217
参照制約 (2)	: 1/8 :	: 218 1/8 :	: 218 1/8 :
トリガー(2)	: 1/8	: 218 2/8	: 218 2/8
未完了データ(2)	: 1/8	: 218 3/8	: 218 3/8
APYJRNCBG/RMVJRNCBG の間は無視(2)	: 1/8 :	: 218 4/8 :	: 218 4/8 :
最小化された項目 特定データ(2)	: 1/8 :	: 218 5/8 :	: 218 5/8 :
予約済み(2)	: 3/8	: 218 6/8	: 218 8/8
予約済み	: 9	: 219	: 227
トランザクション形式ID	: 4 :	: XID DISP :	: XID DISP :
		: (10)	: + 3
グローバル・トランザクション の長さ(5)	: 4 :	: XID DISP :	: XID DISP :
		: + 4	: + 7
分岐修飾子の 長さ(5)	: 4 :	: XID DISP :	: XID DISP :
		: + 8	: + 11
トランザクション 分岐ID	: 128 :	: XID DISP :	: XID DISP :
		: + 12	: + 139
作業論理単位	: 39 :	: LUW DISP :	: LUW DISP :
		: (3)	: + 38
レシーバー名	: 10 :	: RCV DISP :	: RCV DISP :
		: (4)	: + 9
レシーバー・ライブラリー名	: 10 :	: RCV DISP :	: RCV DISP :
		: + 10	: + 19
レシーバー・ライブラリー ASP 装置名	: 10 :	: RCV DISP :	: RCV DISP :
		: + 20	: + 29
レシーバー・ライブラリー ASP 番号(5)	: 2 :	: RCV DISP :	: RCV DISP :
		: + 30	: + 31
ヌル値標識 の長さ(5)	: 4 :	: NVI DISP :	: NVI DISP :
		: (6)	: + 3
ヌル値標識	: M (7) :	: NVI DISP :	: NVI DISP :
		: + 4	: + 3
		:	: + M
項目特定データ の長さ	: 5 :	: ESD DISP :	: ESD DISP :
		: (8)	: + 4
予約済み	: 11 :	: ESD DISP :	: ESD DISP :
		: + 5	: + 15
項目特定データ	: N (9) :	: ESD DISP :	: ESD DISP :
		: + 16	: + 15 + N

表 6. 図: テーブル 6 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT)に対する NULLINDLEN(*ENTFMT) ジャーナル項目形式 (続き)

<p>=====</p> <p>注:</p> <p>(1)このフィールドはUNSIGNED BINARYで表されます。</p> <p>(2)このフィールドはBITで表されます。</p> <p>(3) LUW DISPは、「このジャーナル項目の作業論理単位への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。</p> <p>(4) RCV DISPは、「このジャーナル項目のレシーバー情報への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。</p> <p>(5)このフィールドはBINARYで表されます。</p> <p>(6) NVI DISPは、「このジャーナル項目のヌル値標識への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。</p> <p>(7)ヌル値標識の長さは項目ごとに変えることができ、変数Mによって指定されます。</p> <p>(8) ESD DISPは、「このジャーナル項目の項目特定データへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。</p> <p>(9)項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Nによって指定されます。</p> <p>(10) XID DISPは、「このジャーナル項目のトランザクションIDへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。</p>

フィールド長

受け取られるジャーナル項目のヌル値標識部分のフィールド長を指定してください。有効な値の範囲は1-8000桁です。

NULLINDLEN(フィールド長) が指定された場合の*TYPE3ジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 7. 図: テーブル 7 - ENTFMT(*TYPE3)の場合のNULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (3)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (4)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (5)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ヌル値標識	: フィールド: 150 : 長 : : (1) :	: 149 + : フィールド : 長	
項目特定データ	: M (2) : :	: 150 + : フィールド: : 長	: 149 + M + : フィールド : 長

注:
 (1)ヌル値標識フィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。
 (2)項目特定データ・フィールドの長さは、項目ごとに変わることができ、変数Mによって指定されます。この長さでは、受け取られた各ジャーナル項目のすべての項目特定データが収容されます。
 (3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
 (4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
 (5)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

NULLINDLEN(フィールド長) が指定された場合の*TYPE4ジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 8. 図: テーブル 8 - ENTFMT(*TYPE4)の場合のNULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (3)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (4)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (5)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ジャーナル識別コード	: 10	: 150	: 159
参照 制約	: 1 :	: 160 :	: 160 :
トリガー	: 1	: 161	: 161
未完了データ	: 1	: 162	: 162
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 163 :	: 163 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 164 :	: 164 :
予約済み	: 5	: 165	: 169
ヌル値標識	: フィールド: : 長 : (1)	: 170 : :	: 169 + : フィールド : 長
項目特定データ	: M (2) : :	: 170 + : フィールド: : 長	: 169 + M + : フィールド : 長

注:

(1)ヌル値標識フィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。

(2)項目特定データ・フィールドの長さは、項目ごとに変わることができ、変数Mによって指定されます。この長さでは、受け取られた各ジャーナル項目のすべての項目特定データが収容されます。

(3)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

表 8. 図: テーブル 8 - ENTFMT(*TYPE4)の場合のNULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

(4) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウンタあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
(5) ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

NULLINDLEN(フィールド長) およびJRNENTFMT(RJNE0100)が指定された場合の*TYPEPTRまたは*JRNENTFMTジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表9. 図: テーブル9 - JRNENTFMT(RJNE0100)が指定された場合のENTFMT(*TYPEPTR)またはENTFMT(*JRNENTFMT)に対するNULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
次のジャーナル項目 のヘッダーへの 変位(1)	: 4	: 0	: 3
このジャーナル項目 のヌル値標識への 変位(1)	: 4	: 4	: 7
このジャーナル項目 の項目特定データ への変位(1)	: 4	: 8	: 11
ポインター・ハンドル (2)	: 4	: 12	: 15
順序番号	: 20	: 16	: 35
ジャーナル・コード	: 1	: 36	: 36
項目タイプ	: 2	: 37	: 38
タイム・スタンプ	: 26	: 39	: 64
ジョブ名	: 10	: 65	: 74
ユーザー名	: 10	: 75	: 84
ジョブ番号	: 6	: 85	: 90
プログラム名	: 10	: 91	: 100
オブジェクト	: 30	: 101	: 130
カウント/RRN	: 10	: 131	: 140
標識フラグ	: 1	: 141	: 141
コミット・サイクルID	: 20	: 142	: 161
ユーザー・プロファイル	: 10	: 162	: 171
システム名	: 8	: 172	: 179
ジャーナル識別コード	: 10	: 180	: 189
参照制約	: 1	: 190	: 190
トリガー	: 1	: 191	: 191
未完了データ	: 1	: 192	: 192
オブジェクト名標識	: 1	: 193	: 193
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 194 :	: 194 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 195 :	: 195 :
ヌル値標識	: フィールド : 長 : (3) :	: NVI DISP : (4) : :	: NVI DISP : +フィールド : 長 : - 1
項目特定データ の長さ	: 5 :	: ESD DISP : (5) :	: ESD DISP : + 4
予約済み	: 11 :	: ESD DISP : + 5 :	: ESD DISP : + 15

表9. 図: テーブル9 - JRNENTFMT(RJNE0100)が指定された場合のENTFMT(*TYPEPTR)またはENTFMT(*JRNENTFMT)に対するNULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

-----+-----+-----+-----			
項目特定データ	: N (6)	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: + 16	: + 15 + N
=====			
注:			
(1)このフィールドはBINARY(4)で表されます。			
(2)このフィールドはUNSIGNED BINARY(4)で表されます。			
(3)ヌル値標識フィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。			
(4) NVI DISPは、「このジャーナル項目のヌル値標識への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。			
(5) ESD DISPは、「このジャーナル項目の項目特定データへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。			
(6)項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Nによって指定されます。			

NULLINDLEN(フィールド長) およびJRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合の*JRNENTFMTジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 10. 図: テーブル10 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT)に対する NULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
次のジャーナル項目 のヘッダーへの 変位(5)	: 4	: 0	: 3
このジャーナル項目 のヌル値標識への 変位(5)	: 4	: 4	: 7
このジャーナル項目 の項目特定データ への変位(5)	: 4	: 8	: 11
このジャーナル項目の トランザクションID への変位(1)	: 4	: 12	: 15
このジャーナル項目 の作業論理単位への 変位(1)	: 4	: 16	: 19
このジャーナル項目 のレシーバー情報 への変位(1)	: 4	: 20	: 23
順序番号(1)	: 8	: 24	: 31
不定形式タイム・ スタンプ(1)	: 8	: 32	: 39
スレッドID(1)	: 8	: 40	: 47
システム順序番号 (1)	: 8	: 48	: 55
カウント/RRN(1)	: 8	: 56	: 63
コミット・サイクル ID(1)	: 8	: 64	: 71
ポインター・ハンドル(1)	: 4	: 72	: 75
リモート・ポート(1)	: 2	: 76	: 77
アーム番号(1)	: 2	: 78	: 79
プログラム・ライブラリー ASP番号(1)	: 2	: 80	: 81
リモート・アドレス	: 16	: 82	: 97
ジャーナル・コード	: 1	: 98	: 98
項目タイプ	: 2	: 99	: 100
ジョブ名	: 10	: 101	: 110
ユーザー名	: 10	: 111	: 120
ジョブ番号	: 6	: 121	: 126
プログラム名	: 10	: 127	: 136
プログラム・ライブラリー名	: 10	: 137	: 146
プログラム・ライブラリー ASP 装置名	: 10	: 147	: 156
オブジェクト	: 30	: 157	: 186
ユーザー・プロファイル	: 10	: 187	: 196

表 10. 図: テーブル10 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT)に対する NULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

ジャーナル識別コード	: 10	: 197	: 206
アドレス・ファミリー	: 1	: 207	: 207
システム名	: 8	: 208	: 215
標識フラグ	: 1	: 216	: 216
オブジェクト名標識	: 1	: 217	: 217
参照制約 (2)	: 1/8 :	: 218 1/8 :	: 218 1/8 :
トリガー(2)	: 1/8	: 218 2/8	: 218 2/8
未完了データ(2)	: 1/8	: 218 3/8	: 218 3/8
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視(2)	: 1/8 :	: 218 4/8 :	: 218 4/8 :
最小化された項目 特定データ(2)	: 1/8 :	: 218 5/8 :	: 218 5/8 :
予約済み(2)	: 3/8	: 218 6/8	: 218 8/8
予約済み	: 9	: 219	: 227
トランザクション形式ID	: 4 :	: XID DISP :(10)	: XID DISP : + 3
グローバル・トランザクション ID の長さ(5)	: 4 :	: XID DISP : + 4	: XID DISP : + 7
分岐修飾子の 長さ(5)	: 4 :	: XID DISP : + 8	: XID DISP : + 11
トランザクション 分岐ID	: 128 :	: XID DISP : + 12	: XID DISP : + 139
作業論理単位	: 39 :	: LUW DISP :(3)	: LUW DISP : + 38
レシーバー名	: 10 :	: RCV DISP :(4)	: RCV DISP : + 9
レシーバー・ライブラリー名	: 10 :	: RCV DISP : + 10	: RCV DISP : + 19
レシーバー・ライブラリー ASP 装置名	: 10 :	: RCV DISP : + 20	: RCV DISP : + 29
レシーバー・ライブラリー ASP 番号(5)	: 2 :	: RCV DISP : + 30	: RCV DISP : + 31
ヌル値標識	: フィールド: : 長 : (6) :	: NVI DISP : (7) : :	: NVI DISP : +フィールド : 長 : - 1
項目特定データ の長さ	: 5 :	: ESD DISP : (8)	: ESD DISP : + 4
予約済み	: 11 :	: ESD DISP : + 5	: ESD DISP : + 15
項目特定データ	: N (9) :	: ESD DISP : + 16	: ESD DISP : + 15 + N
注:			
(1) このフィールドはUNSIGNED BINARYで表されます。			

表 10. 図: テーブル10 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT)に対する NULLINDLEN(フィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

- (2)このフィールドはBITで表されます。
- (3) LUW DISPは、「このジャーナル項目の作業論理単位への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (4) RCV DISPは、「このジャーナル項目のレシーバー情報への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (5)このフィールドはBINARYで表されます。
- (6)ヌル値標識フィールドの長さはNULLINDLENパラメーターに指定された長さです。
- (7) NVI DISPは、「このジャーナル項目のヌル値標識への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (8) ESD DISPは、「このジャーナル項目の項目特定データへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (9)項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Nによって指定されます。
- (10) XID DISPは、「このジャーナル項目のトランザクションIDへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。

要素 1: フィールドのデータ形式

*VARLEN

ヌル値標識フィールドは可変長フィールドです。

フィールド長

受け取られるジャーナル項目のヌル値標識部分のフィールド長を指定してください。有効な値の範囲は1-8000桁です。

要素 2: 可変長フィールドの長さ

最大フィールド長

受け取られるジャーナル項目のヌル値標識部分の最大フィールド長を指定してください。有効な値の範囲は1-8000桁です。ジャーナル項目に、ユーザーが指定した値より多くのヌル値標識が入っていて、切り捨ての結果として'F1'X標識値が失われた場合には、RCVJRNE要求は異常終了します。

この要素を指定できるのは、このパラメーターの最初の要素で*VARLENも指定した場合だけです。

注: NULLINDLEN(*VARLEN)とENTFMT(*TYPEPTR)を同時に指定することはできません。

注: NULLINDLEN(*VARLEN)とRTNPTR(*SYMSMSG)またはRTNPTR(*USRMNG)を同時に指定することはできません。

NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) が指定された場合の*TYPE3ジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 11. 図: テーブル11 - ENTFMT(*TYPE3)の場合のNULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (4)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (5)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (6)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ヌル値標識 の数(1)	: 2 :	: 150 :	: 151 :
ヌル値標識	:フィールド: :長 :	: 152 : :	: 151 + : : :フィールド : : :長
項目特定データ の長さ(2)	: 5 : :	: 152 + : : :フィールド: : : :長	: 156 + : : : :フィールド : : :長
項目特定データ	: M (3) : :	: 157 + : : :フィールド: : : :長	: 156 + M + : : : :フィールド: : : :長

注:
 (1)このフィールドには、受け取られたジャーナル項目のヌル値標識の数(2進数)が含まれます。
 (2)このフィールドには、受け取られたジャーナル項目の項目特定データの長さ(10進数)が含まれます。
 (3)項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Mによって指定されます。
 (4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
 (5)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
 (6)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) が指定された場合の*TYPE4ジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 12. 図: テーブル12 - ENTFMT(*TYPE4)の場合のNULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
項目の長さ	: 5	: 1	: 5
順序番号 (4)	: 10	: 6	: 15
ジャーナル・コード	: 1	: 16	: 16
ジャーナル項目タイプ	: 2	: 17	: 18
タイム・スタンプ	: 26	: 19	: 44
ジョブ名	: 10	: 45	: 54
ユーザー名	: 10	: 55	: 64
ジョブ番号	: 6	: 65	: 70
プログラム名	: 10	: 71	: 80
オブジェクト名	: 10	: 81	: 90
オブジェクト・ライブラリー	: 10	: 91	: 100
メンバー名	: 10	: 101	: 110
カウント/RRN (5)	: 10	: 111	: 120
フラグ	: 1	: 121	: 121
コミット・サイクル ID (6)	: 10	: 122	: 131
ユーザー・プロファイル	: 10	: 132	: 141
システム名	: 8	: 142	: 149
ジャーナル識別コード	: 10	: 150	: 159
参照 制約	: 1 :	: 160 :	: 160 :
トリガー	: 1	: 161	: 161
未完了データ	: 1	: 162	: 162
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 163 :	: 163 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 164 :	: 164 :
予約済み	: 5	: 165	: 169
ヌル値標識 の数(1)	: 2 :	: 170 :	: 171 :
ヌル値標識	:フィールド: : 長 :	172 : :	: 171 + :フィールド : 長
項目特定データ の長さ(2)	: 5 : :	: 172 + :フィールド: : 長	: 176 + :フィールド : 長
項目特定データ	: M (3) : :	: 177 + :フィールド: : 長	: 176 + M + :フィールド : 長

注:
 (1) このフィールドには、受け取られたジャーナル項目のヌル値標識の数(2進数)が含まれます。

表 12. 図: テーブル12 - ENTFFMT(*TYPE4)の場合のNULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

- (2)このフィールドには、受け取られたジャーナル項目の項目特定データの長さ(10進数)が含まれます。
- (3)項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Mによって指定されます。
- (4)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、順序番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (5)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、適用または除去された項目のカウントあるいは相対レコード番号が10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。
- (6)ジャーナルのRCVSIZOPTが*MAXOPT3である時に、コミット・サイクル識別コードが10桁より大きい場合には、このフィールドは-1に設定されます。

NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) およびJRNENTFMT(RJNE0100)が指定された場合の *JRNENTFMTジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 13. 図: テーブル13 - JRNENTFMT(RJNE0100)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT) に対する NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	: 長さ	: 開始	: 終了
次のジャーナル項目 のヘッダーへの 変位(1)	: 4	: 0	: 3
このジャーナル項目 のヌル値標識への 変位(1)	: 4	: 4	: 7
このジャーナル項目 の項目特定データ への変位(1)	: 4	: 8	: 11
ポインター・ハンドル (2)	: 4	: 12	: 15
順序番号	: 20	: 16	: 35
ジャーナル・コード	: 1	: 36	: 36
項目タイプ	: 2	: 37	: 38
タイム・スタンプ	: 26	: 39	: 64
ジョブ名	: 10	: 65	: 74
ユーザー名	: 10	: 75	: 84
ジョブ番号	: 6	: 85	: 90
プログラム名	: 10	: 91	: 100
オブジェクト	: 30	: 101	: 130
カウント/RRN	: 10	: 131	: 140
標識フラグ	: 1	: 141	: 141
コミット・サイクルID	: 20	: 142	: 161
ユーザー・プロファイル	: 10	: 162	: 171
システム名	: 8	: 172	: 179
ジャーナル識別コード	: 10	: 180	: 189
参照制約	: 1	: 190	: 190
トリガー	: 1	: 191	: 191
未完了データ	: 1	: 192	: 192
オブジェクト名標識	: 1	: 193	: 193
APYJRNCHG/RMVJRNCHG の間は無視	: 1 :	: 194 :	: 194 :
最小化された項目 特定データ	: 1 :	: 195 :	: 195 :
ヌル値標識 の長さ(1)	: 4 :	: NVI DISP (3)	: NVI DISP + 3
ヌル値標識	: フィールド: : 長	: NVI DISP : + 4	: NVI DISP : + フィールド : 長
項目特定データ の長さ	: 5 :	: ESD DISP (4)	: ESD DISP + 4

表 13. 図: テーブル13 - JRNENTFMT(RJNE0100)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT) に対する NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

予約済み	: 11	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: + 5	: + 15
項目特定データ	: M (5)	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: + 16	: + 15 + M

注:

- (1) このフィールドはBINARY(4)で表されます。
- (2) このフィールドはUNSIGNED BINARY(4)で表されます。
- (3) NVI DISPは、「このジャーナル項目のヌル値標識への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (4) ESD DISPは、「このジャーナル項目の項目特定データへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (5) 項目特定データの長さは項目ごとに変えることができ、変数Mによって指定されます。

NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) およびJRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合の *JRNENTFMTジャーナル項目の形式は、以下に示されています。

表 14. 図: テーブル14 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT) に対する NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式

フィールド名	:	長さ	:	開始	:	終了
次のジャーナル項目 のヘッダーへの 変位(5)	:	4	:	0	:	3
このジャーナル項目 のヌル値標識への 変位(5)	:	4	:	4	:	7
このジャーナル項目 の項目特定データ への変位(5)	:	4	:	8	:	11
このジャーナル項目の トランザクションID への変位(1)	:	4	:	12	:	15
このジャーナル項目 の作業論理単位への 変位(1)	:	4	:	16	:	19
このジャーナル項目 のレシーバー情報 への変位(1)	:	4	:	20	:	23
順序番号(1)	:	8	:	24	:	31
不定形式タイム・ スタンプ(1)	:	8	:	32	:	39
スレッドID(1)	:	8	:	40	:	47
システム順序番号 (1)	:	8	:	48	:	55
カウント/RRN(1)	:	8	:	56	:	63
コミット・サイクル ID(1)	:	8	:	64	:	71
ポインター・ハンドル(1)	:	4	:	72	:	75
リモート・ポート(1)	:	2	:	76	:	77
アーム番号(1)	:	2	:	78	:	79
プログラム・ライブラリー ASP番号(1)	:	2	:	80	:	81
リモート・アドレス	:	16	:	82	:	97
ジャーナル・コード	:	1	:	98	:	98
項目タイプ	:	2	:	99	:	100
ジョブ名	:	10	:	101	:	110
ユーザー名	:	10	:	111	:	120
ジョブ番号	:	6	:	121	:	126
プログラム名	:	10	:	127	:	136
プログラム・ライブラリー名	:	10	:	137	:	146
プログラム・ライブラリー ASP 装置名	:	10	:	147	:	156
オブジェクト	:	30	:	157	:	186

表 14. 図: テーブル14 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT) に対する NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

ユーザー・プロファイル	: 10	: 187	: 196
ジャーナル識別コード	: 10	: 197	: 206
アドレス・ファミリー	: 1	: 207	: 207
システム名	: 8	: 208	: 215
標識フラグ	: 1	: 216	: 216
オブジェクト名標識	: 1	: 217	: 217
参照制約 (2)	: 1/8	: 218 1/8	: 218 1/8
トリガー(2)	: 1/8	: 218 2/8	: 218 2/8
未完了データ(2)	: 1/8	: 218 3/8	: 218 3/8
APYJRNCBG/RMVJRNCBG の間は無視(2)	: 1/8	: 218 4/8	: 218 4/8
最小化された項目 特定データ(2)	: 1/8	: 218 5/8	: 218 5/8
予約済み(2)	: 3/8	: 218 6/8	: 218 8/8
予約済み	: 9	: 219	: 227
トランザクション形式ID	: 4	: XID DISP	: XID DISP
	:	: (9)	: + 3
グローバル・トランザクション ID の長さ(5)	: 4	: XID DISP	: XID DISP
	:	: + 4	: + 7
分岐修飾子の 長さ(5)	: 4	: XID DISP	: XID DISP
	:	: + 8	: + 11
トランザクション 分岐ID	: 128	: XID DISP	: XID DISP
	:	: + 12	: + 139
作業論理単位	: 39	: LUW DISP	: LUW DISP
	:	: (3)	: + 38
レシーバー名	: 10	: RCV DISP	: RCV DISP
	:	: (4)	: + 9
レシーバー・ライブラリー名	: 10	: RCV DISP	: RCV DISP
	:	: + 10	: + 19
レシーバー・ライブラリー ASP 装置名	: 10	: RCV DISP	: RCV DISP
	:	: + 20	: + 29
レシーバー・ライブラリー ASP 番号(5)	: 2	: RCV DISP	: RCV DISP
	:	: + 30	: + 31
ヌル値標識 の長さ(5)	: 4	: NVI DISP	: NVI DISP
	:	: (6)	: + 3
ヌル値標識	:フィールド:	NVI DISP	NVI DISP
	:長	: + 4	: + 3
	:	:	: + フィールド
	:	:	: 長
項目特定データ の長さ	: 5	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: (7)	: + 4

表 14. 図: テーブル14 - JRNENTFMT(RJNE0200)が指定された場合のENTFMT(*JRNENTFMT) に対する NULLINDLEN(*VARLENフィールド長) ジャーナル項目形式 (続き)

予約済み	: 11	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: + 5	: + 15
項目特定データ	: M (8)	: ESD DISP	: ESD DISP
	:	: + 16	: + 15 + M

注:

- (1) このフィールドはUNSIGNED BINARYで表されます。
- (2) このフィールドはBITで表されます。
- (3) LUW DISPは、「このジャーナル項目の作業論理単位への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (4) RCV DISPは、「このジャーナル項目のレシーバー情報への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (5) このフィールドはBINARYで表されます。
- (6) NVI DISPは、「このジャーナル項目のヌル値標識への変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (7) ESD DISPは、「このジャーナル項目の項目特定データへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。
- (8) 項目特定データの長さは項目ごとに変わることができ、変数Mによって指定されます。
- (9) XID DISPは、「このジャーナル項目のトランザクションIDへの変位」というラベルのフィールドの値によって決定されます。

トップ

遅延時間 (DELAY)

最後の項目がすでに受け取られている場合に、コマンド処理プログラム(CPP)が新しいジャーナル項目の到着を待つ秒数を指定します。ジャーナル中の最後の項目が受け取られて出口プログラムに渡された後で、CPPは次の項目を受け取ろうとします。新しいジャーナル項目がない場合には、出口プログラムの2番目のパラメーターの最初のバイトに値0が渡されます。

注: このパラメーターが有効なのは、TOENTLRG(*NONE)およびTOENT(*NONE)が指定されていて、RCVRNGパラメーターに指定されている最後のレシーバーが、ジャーナル項目の受け取りの開始の時点で接続されているジャーナル・レシーバーを識別する場合だけです。

ジャーナルの最後の項目が出口プログラムに渡されて、出口プログラムに渡すジャーナル項目を現在使用できない場合には、次の1つが行われます。

- リストの最初の要素に秒数が指定された場合には、出口プログラムがただちに呼び出されて、追加のジャーナル項目が現在使用できないことを示す'0'が2番目の出口パラメーターの最初のバイトに渡されます。出口プログラムがコマンドに制御を渡すと、システムは指定された秒数だけ遅延します。

遅延時間が経過すると、システムは、出口パラメーターに渡す追加のジャーナル項目が使用できるかどうかを検査します。使用可能なものがなくなるまで、追加の項目が出口プログラムに順次渡されます。使用可能なジャーナル項目がなくなると、出口プログラムが呼び出されて、現在使用できるジャーナル項目がもうないことを示す'0'が2番目の出口プログラム・パラメーターの最初のバイトとして渡されます。出口プログラムがコマンドに制御を渡すと、システムは再び指定された秒数だけ遅延します。

遅延の後に、出口パラメーターに渡す新しいジャーナル項目がない場合には、出口プログラムが呼び出されて、使用できるジャーナル項目がもうないことを示すために、'0'が2番目の出口プログラム・パラ

メーターの最初のバイトとして渡されます。その後で、出口プログラムは、このコマンドを終了することを示す'9'の値を2番目のパラメーターの最初のバイトとして渡します。

- *NEXTENTがリストの最初の要素に指定された場合には、追加のジャーナル項目が使用できるようになった時に、出口プログラムに渡されます。このオプションを使用する場合には、リストの2番目の要素は、出口プログラムの呼び出しから次の呼び出しまでの最大秒数を示します。指定された最大遅延時間の後で渡す追加のジャーナル項目がもうない場合には、出口プログラムが呼び出されて、現在使用できる追加のジャーナル項目がもうないことを示す'0'が2番目の出口プログラム・パラメーターの最初のバイトに渡されます。

最大の遅延時間は、次のいずれかで指定することができます。

- 現在使用できる最後のジャーナル項目を渡す出口プログラムに対する呼び出しから、新しいジャーナル項目が使用できないことを示す出口プログラムに対する次の呼び出しまでの時間
- 追加のジャーナル項目が使用できないことを示す出口プログラムに対する呼び出しからその次の呼び出しまでの時間

最大遅延時間が経過した後で出口プログラムが呼び出された場合には、出口プログラムは、このコマンドが終了することを示す値'9'を2番目のパラメーターの最初のバイトとして渡すことができます。

注: DELAYパラメーターの前の説明では、RCVJRNEコマンドの開始時に接続されていたジャーナル・レシーバーがまだ接続されているとみなされています。そのジャーナル・レシーバーが切り離された場合には、出口プログラムによってすべてのジャーナル項目が受け取られた後で、出口プログラムに理由コード3が渡されて、RCVJRNEコマンドが終了します。

要素 1: 遅延時間の値

30 コマンドは30秒間待機してから、出口プログラムに渡す追加のジャーナル項目が使用できるかどうかを検査します。

*NEXTENT

固定した遅延時間は使用されません。追加のジャーナル項目が使用できるようになった時に、それが出口プログラムに渡されます。

注: RCVJRNE出口プログラムによってRCVJRNEコマンドの追加の呼び出しが行なわれる場合に、前の呼び出しでTOENTLRG(*NONE)またはTOENT(*NONE)が指定されていると、その追加の呼び出しでDELAY(*NEXTENT)を指定することはできません。

注: INCENT(*ALL)とDELAY(*NEXTENT)を同時に指定することはできません。

秒 出口プログラムに渡す追加のジャーナル項目が使用できるかどうかを検査する前に、コマンドが遅延する長さを秒数で指定します。有効な値の範囲は1-99999です。

要素 2: 最大遅延時間の値

この要素は、最初の要素で固定した遅延時間が使用されない時に、出口プログラムの呼び出しから次の呼び出しまでの最大秒数を指定します。この要素が有効なのは、最初の要素で*NEXTENTが指定された場合だけです。

***CLS** 出口プログラムの呼び出しから次の呼び出しまでの最大秒数として、省略時の処理待機時間が使用されます。

秒 出口プログラムの呼び出しから次の呼び出しまでの時間の最大長を指定します。有効な値の範囲は1-99999です。

トップ

ブロック長 (BLKLEN)

システムが1つまたは複数のジャーナル項目を出口プログラムに送って、出口プログラムに渡されたバッファのブロック長を指定するかどうかを指定します。EXITPGMパラメーターには、ブロック・モードのセマンティクスについての詳細があります。

***NONE**

最大1つのジャーナル項目が出口プログラムに送られます。

***CALC**

1つまたは複数のジャーナル項目がブロックで出口プログラムに渡されます。渡されるブロックの長さ（出口プログラムに渡される最初のパラメーター）はシステムによって決定され、最適なものとなります。

ブロック長

出口プログラムに渡されるバッファの長さ（キロバイト）を指定(EXITPGMパラメーター)してください。有効な値の範囲は32-4000です。

トップ

ジャーナル項目の形式 (JRNENTMFT)

出口プログラムが受け取るジャーナル項目の形式を指定します。形式は、ジャーナル項目検索(QJORETRIEVEJOURNALENTRIES) APIで記述されます。これらの形式に関連した詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト[HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）を参照してください。

このパラメーターが有効なのは、ENTFMT(*JRNENTFMT)も指定されている場合だけです。

RJNE0100

受け取るジャーナル項目はRJNE0100形式です。

RJNE0200

受け取るジャーナル項目はRJNE0200形式です。ブロック・モードでは、単一の項目ブロックは複数のレシーバーから受け取られません。

トップ

ポインターを戻す (RTNPTR)

受け取るジャーナル項目に特定のジャーナル項目タイプのポインターを含められる項目特定データが含まれるかどうかを指定します。

このパラメーターが有効なのは、ENTFMT(*JRNENTFMT)も指定されている場合だけです。

***NONE**

受け取るジャーナル項目にはポインターは含められません。

***SYSMNG**

受け取るジャーナル項目に特定のジャーナル項目タイプのポインターを含められる項目特定データが含まれるように指定します。システムは、ジャーナル項目で受け取ったポインターに関連した資

源の解放を管理します。出口プログラムがシステムに制御権を戻すと、ポインター、それに関連付けられたポインター・ハンドル、および関連した記憶域が解放されます。

注: NULLINDLEN(*VARLEN)とRTNPTR(*SYSMSG)またはRTNPTR(*USRMNG)を同時に指定することはできません。

*USRMNG

受け取るジャーナル項目に特定のジャーナル項目タイプのポインターを含められる項目特定データが含まれるように指定します。ユーザーは、ジャーナル項目で受け取ったポインターに関連した資源の解放を管理します。出口プログラムがシステムに制御権を戻した時に、ポインター、それに関連付けられたポインター・ハンドル、および関連した記憶域は解放されません。ユーザーは、ポインター・ハンドル削除(QJDELETEPOINTERHANDLE) APIを使用してこれらの資源を解放する必要があります。このAPIに関連した詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説(英文)を参照してください。

注: NULLINDLEN(*VARLEN)とRTNPTR(*SYSMSG)またはRTNPTR(*USRMNG)を同時に指定することはできません。

トップ

項目の組み込み (INCENT)

確認済みのジャーナル項目だけを受け取るか、あるいは確認済みと未確認の両方のジャーナル項目を受け取るかを指定します。このパラメーターが適用されるのは、リモート・ジャーナルからジャーナル項目を出力用に受け取る場合だけです。

確認済みの項目とは、このリモート・ジャーナルに送られていて、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっているジャーナル項目のことです。

未確認の項目とは、このリモート・ジャーナルに送られているが、ローカル・ジャーナル上の同一のジャーナル項目について補助記憶域への入出力(I/O)の状態がわかっていないジャーナル項目、あるいはこれらのジャーナル項目のオブジェクト名情報がまだリモート・ジャーナルにわかっている項目のことです。未確認のジャーナル項目が存在できるのは、リモート・ジャーナルの接続されたレシーバー内だけです。これが適用されるのは、特定のリモート・ジャーナルに対して同期転送モードが使用されている場合だけです。

*CONFIRMED

確認済みのジャーナル項目だけを受け取ります。

*ALL 確認済みおよび未確認のジャーナル項目をすべて受け取ります。

注: INCENT(*ALL)とDELAY(*NEXTENT)を同時に指定することはできません。

トップ

開始順序番号 (FROMENT)

受け取りの対象とみなされる最初のジャーナル項目を指定します。

注: 開始順序番号 (FROMENT)パラメーターか大きい開始順序番号 (FROMENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***FIRST**

指定したジャーナル・レシーバーの範囲の最初のジャーナル項目が、受け取る最初の項目です。

開始順序番号

受け取りの対象とみなされる最初のジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

終了順序番号 (TOENT)

受け取りの対象とみなされる最後のジャーナル項目を指定します。

注: 終了順序番号 (TOENT)パラメーターか大きい終了順序番号 (TOENTLRG)パラメーターのいずれかに値を指定することができますが、両方には指定できません。

***NONE**

ジャーナル項目は指定されません。ジャーナル項目は、コマンドが（要求取り消しまたはジョブ取り消しコマンドによって）取り消されるか、終了理由コード(9)が設定されるまでは出口プログラムに渡されます。渡すべき次の項目がない場合には、RCVJRNEコマンドはDELAYパラメーターで指示された秒数だけ待ってから、次に渡す項目を見つけようとしています。

注: TOENT(*NONE)が有効なのは、RCVRNGパラメーターがジャーナル項目の受け取りの開始の時点で接続されているレシーバーを指定している場合だけです。

***LAST** 指定されたジャーナル・レシーバー範囲内の最後のジャーナル項目が、受け取りの対象とみなされる最後の項目です。

終了順序番号

受け取りの対象とみなされる最終ジャーナル項目の順序番号を指定します。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

注: FROMおよびTOプロンプトに指定する値を同じにすることができます。たとえば、FROMENT(234)およびTOENT(234)を指定することができます。

[トップ](#)

コミット・サイクル識別コード (CMTCYCID)

関連したコミット・サイクルに基づいて受け取るジャーナル項目を指定します。コミット・サイクルは、同じコミット・サイクル識別コードを共用するすべてのジャーナル項目から構成されます。ジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードは、ジャーナル表示(DSPJRN)コマンドを使用し、オプション5を入力することによって表示することができます。

注: コミット・サイクル識別コードフィールド(CMTCYCID)か大きいコミット・サイクルIDフィールド(CCIDLRG)のいずれかに値を入力することができますが、両方には入力できません。

***ALL** 受け取られるジャーナル項目は、指定したコミット・サイクル識別コードに限定されません。

コミット・サイクル識別コード

受け取るジャーナル項目のコミット・サイクル識別コードを指定してください。可能な範囲は1から9,999,999,999です。

[トップ](#)

例

例 1 :ジャーナル項目の受け取り

```
RCVJRNE  JRN(APPLIB/JRN1)  EXITPGM(MYLIB/RCVPGM)
          FILE(APPLIB/FILE3) TOENT(*LAST)  ENTFMT(*TYPE3)
          NULLINDLEN(*ENTFMT)
```

このコマンドは、ジャーナル項目を、（ジャーナル項目の受け取りの開始）時点に接続されていたジャーナル・レシーバーからライブラリーAPPLIBのジャーナルJRN1で受け取り、それらを一度に1つずつライブラリーMYLIBのプログラムRCVPGMに渡します。ライブラリーAPPLIBのファイルFILE3の最初のメンバーに関するファイル・レベル情報を持つ項目だけが、受け取られます。出口プログラムに渡される各項目の形式は、NULLINDLENパラメーターの説明の中の「ENTFMT(*TYPE3)の場合のNULLINDLEN(*ENTFMT)ジャーナル項目形式」テーブルに示されています。

例 2 :ジャーナル項目の受け取り

```
RCVJRNE  JRN(JRNLIB/MYJRN) EXITPGM(RCVLIB/PGMA)
          FILE(FILELIB/PFILEB MBRONE)
          TOENT(*LAST)  ENTFMT(*TYPE3)  NULLINDLEN(*VARLEN 30)
```

このコマンドは、ライブラリーFILELIBのファイルPFILEBのメンバーMBRONEに関するファイル・レベル情報を持つジャーナル項目を、（ジャーナル項目の受け取りの開始）時点に接続されていたジャーナル・レシーバーからライブラリーJRNLIBのジャーナルMYJRNで受け取り、それらを一度に1つずつライブラリーRCVLIBのプログラムPGMAに送ります。出口プログラムに渡される各項目の形式は、NULLINDLENパラメーターの説明の中の「ENTFMT(*TYPE3)の場合のNULLINDLEN(*VARLENフィールド長)ジャーナル項目形式」テーブルに示されています。受け取られる各項目のヌル値標識部分は30文字の長さです。

例 3 : DELAY(*NEXTENT)を使用したジャーナル項目の受け取り

```
RCVJRNE  JRN(JRNLIB/MYJRN) EXITPGM(RCVLIB/PGMA)
          RCVRNG(*CURCHAIN) TOENT(*NONE)  DELAY(*NEXTENT)
```

このコマンドは、使用可能なすべてのジャーナル項目を、ライブラリーJRNLIBのジャーナルMYJRNと関連した、ジャーナル項目の受け取りの開始時点に接続されていたジャーナル・レシーバーを含むジャーナル・レシーバーの連鎖から受け取ります。これらのジャーナル項目は、それらが使用可能になった時に次々にライブラリーRCVLIBの出口プログラムPGMAに送られます。出口プログラムの呼び出しから次の呼び出しまでの時間の最大長は、省略時の処理待機時間値と等しくなります。

トップ

エラー・メッセージ

*ESCAPEメッセージ

CPF7002

ライブラリー&2のファイル&1が物理ファイルではない。

CPF7006

メンバー&3が&2のファイル&1に見つからない。

CPF7007

&2のファイル&1のメンバー&3を割り振ることができない。

CPF701B

中断された操作のジャーナルの回復が行なわれなかった。

CPF705C

INCENT(*ALL)はローカル・ジャーナルに使用できない。

CPF7053

RCVRNGパラメーターの値が正しくない。理由コードは&1です。

CPF7054

FROMとTOの値が正しくない。

CPF7055

最大オブジェクト数を超えた。

CPF7057

*LIBLとFILE(*ALL)またはOBJ(*ALL)と一緒に指定することはできない。

CPF706A

重要なヌル値標識が切り捨てられた。

CPF706D

&2のRCVJRNE出口プログラム&1が正常に実行されなかった。

CPF7060

ファイル&1メンバー&5はジャーナル&3にジャーナル処理されていない。

CPF7061

ジャーナル処理された項目の変換が正常に行なわれなかった。

CPF7062

ジャーナル&1から項目が変換されなかったか、または受け取られなかった。

CPF7065

ジャーナル・コード(JRNCDE)に項目タイプ(ENTTYP)は正しくない。

CPF707B

DELAY(*NEXTENT)を使用することはできない。

CPF7074

指定したSEARCHに対してRCVRNGが正しくない。

CPF708C

DELAY(*NEXTENT)はINCENT(*ALL)と一緒に使用できない。

CPF708D

ジャーナル・レシーバーが論理的に損傷していることが判明した。

CPF709C

JOB, PGM,およびUSRPRFはレシーバー範囲に正しくない。

CPF7096

RCVRNGの終了レシーバーは、接続されているレシーバーを識別しなければならない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

[トップ](#)

メッセージ受信 (RCVMSG)

実行可能場所: コンパイル済み CL プログラムまたはインタープ
リットされた REXX (*BPGM *IPGM *BREXX *IREXX)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

メッセージ受信(RCVMSG)コマンドは、前にメッセージ待ち行列に送られたメッセージを受け取るために、プログラムによって使用されます。

RCVMSGコマンドは、ジョブ・メッセージ待ち行列（呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列または外部メッセージ待ち行列(*EXT)）、あるいは指定のメッセージ待ち行列からのメッセージを受け取ります。プログラムは、メッセージ待ち行列自身の呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列からメッセージを受け取るか、あるいは別の呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列からメッセージを受け取ることができます。

このコマンドは、指定されたメッセージ待ち行列で受け取ったメッセージを、プログラム内の制御言語(CL)変数にコピーします。メッセージとその属性は、KEYVARからDTACCSIDまでのパラメーターによって指定されたCL変数にコピーされます。

メッセージ・タイプ、メッセージの参照キー、またはその両方を指示することによって、受け取るメッセージを指定することができます。メッセージを受け取るプログラムも、RCVMSGコマンドで、メッセージがメッセージ待ち行列から除去されるか、それとも古いメッセージとしてそこに残されるかを指定することができます。指定されたメッセージ待ち行列がこのコマンドの入力されるジョブにも、その他のどのジョブにも割り振られていない場合には、そのメッセージ待ち行列は、このコマンドの処理が続いている間、このコマンドによって暗黙に割り振られます。

指定されたタイプのメッセージが待ち行列に存在しない場合には、要求元のプログラムは、メッセージが到着するのを待つか、あるいは他の処理を続行することができます。これにより、一組のメッセージ待ち行列をポーリングすることができます。

受け取ったメッセージが未処理の例外メッセージである場合に、このコマンドが例外を処理すべきかどうかをプログラムで指定することができます。未処理の例外メッセージとは、統合化言語環境(ILE)プロシージャーに送られたエスケープ、状況、または通知メッセージです。このコマンドが実行される時には、ILEプロシージャーは、例外が処理されることをシステムに通知する処置をまだ取っていません。ILEプロシージャーがとることができる1つの処置は、このコマンドを使用してメッセージを受け取るCLプログラムを呼び出すことです。とることができる処置の詳細については、ILE概念 (SD88-5033)にあります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PGMQ	呼出スタック項目メッセージ待行列	単一値: *EXT その他の値: 要素リスト	オプションナル, 位置 1
	要素 1: 関係	*SAME , *PRV	
	要素 2: 呼出スタック項目識別コード	要素リスト	
	要素 1: 呼び出しスタック項目	文字値, *	
	要素 2: モジュール	名前, *NONE	
	要素 3: バインド済みプログラム	名前, *NONE	
MSGQ	メッセージ待ち行列	単一値: *PGMQ その他の値: 修飾オブジェクト名	オプションナル, 位置 2
	修飾子 1: メッセージ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL , *CURLIB	
MSGTYPE	メッセージ・タイプ	*ANY , *NEXT, *PRV, *INFO, *INQ, *RPY, *FIRST, *COPY, *COMP, *DIAG, *EXCP, *RQS, *LAST	オプションナル, 位置 3
MSGKEY	メッセージ・キー	文字値, *NONE , *TOP	オプションナル, 位置 4
WAIT	待機時間	整数, <u>0</u> , *MAX	オプションナル, 位置 5
RMV	メッセージ除去	*YES , *NO, *KEEPEXCP	オプションナル
CCSID	コード化文字セットID	1-65535, *HEX, *JOB	オプションナル
RJTDFTRPY	デフォルト応答の拒否	*NOALWRJT , *ALWRJT	オプションナル
KEYVAR	KEYVARのCL変数 (4)	文字値	オプションナル
MSG	第1 レベル・テキストのCL変数	文字値	オプションナル
MSGLEN	MSGLENのCL変数 (5 0)	10 進数	オプションナル
SECLVL	第2 レベル・テキストのCL変数	文字値	オプションナル
SECLVLEN	SECLVLENのCL変数 (5 0)	10 進数	オプションナル
MSGDTA	メッセージ・データのCL変数	無制限	オプションナル
MSGDTALEN	MSGDTALENのCL変数 (5 0)	10 進数	オプションナル
MSGID	MSGIDのCL変数 (7)	文字値	オプションナル
SEV	SEVのCL変数 (2 0)	10 進数	オプションナル
SENDER	SENDERのCL変数 (80)	文字値	オプションナル
SENDERFMT	送信元の形式	*SHORT , *LONG	オプションナル
RTNTYPE	RTNTYPEのCL変数 (2)	文字値	オプションナル
ALROPT	ALROPTのCL変数 (9)	文字値	オプションナル
MSGF	MSGFのCL変数 (10)	文字値	オプションナル
MSGFLIB	MSGFLIBのCL変数 (10)	文字値	オプションナル
SNDMSGFLIB	SNDMSGFLIBのCL変数 (10)	文字値	オプションナル
TXTCCSID	テキスト CCSIDのCL変数(5 0)	10 進数	オプションナル

キーワード	記述	選択項目	注
DTACCSID	データ CCSIDのCL変数(5 0)	10 進数	オプション

トップ

呼出スタック項目メッセージ待行列 (PGMQ)

受け取られるメッセージの送信元である呼び出しスタック項目メッセージ待行列を指定します。呼び出しスタック項目メッセージ待行列は、*EXT待行列とするか、あるいはプログラムまたはILEプロシージャの呼び出しスタック項目と関連しているメッセージ待行列とすることができます。

このパラメーターに値を指定した場合には、メッセージ待行列 (MSGQ)パラメーターに*PGMQを指定することができます。

単一値

***EXT** メッセージは、ジョブの外部メッセージ待行列から受け取られます。外部メッセージ待行列は、表示装置ユーザーなどの、ジョブの外部要求元と通信するために使用されます。

要素1: 関係

このパラメーター要素1は、メッセージ待行列が要素2によって識別されるプログラムまたはプロシージャと関連付けられるか、あるいはプログラムまたはプロシージャの呼び出し側と関連付けられるかを指定します。

*SAME

メッセージは、要素2によって識別されるプログラムまたはプロシージャのメッセージ待行列から受け取られます。

***PRV** メッセージは、このパラメーターの要素2によって識別されるプログラムまたはプロシージャを呼び出したプログラムまたはプロシージャのメッセージ待行列から受け取られます。

注: 要素2によって識別されるものより前のメッセージ待行列がILEプログラム入りロプロシージャ(PEP)用のものである場合には、メッセージはPEPメッセージ待行列の直前のメッセージ待行列から受け取られます。これは、実際には要素2によって識別されるものの2つ前のメッセージ待行列となります。

要素2: 呼出スタック項目識別コード

このパラメーターの2番目の要素には3個の要素があります。要素1はOPMプログラム名、ILEプロシージャ名、または特殊値を指定します。要素2は、要素1に指定された値の修飾子として使用されるILEモジュール名を指定します。要素3は、要素1に指定されたものに応じて、OPMプログラム名、ILEプログラム名、あるいはサービス・プログラム名のいずれかを指定することができます。要素3は要素1に指定されたものの修飾子としても使用されます。

要素1: 呼び出しスタック項目

* このコマンドを実行するOPMプログラムまたはILEプロシージャを指定します。

名前 呼び出しスタック項目の識別に使用されるOPMプログラムまたはILEプロシージャの名前を指定してください。

この要素がOPMプログラムを識別する場合には、最大10文字の名前を指定することができます。この要素がILEプロシージャを識別する場合には、最大256文字の名前を指定することができます。

各プロシージャ名をコロン(:)で区切って、ネストされたプロシージャ名を指定することができます。ネストされたプロシージャ名を指定する時には、まず一番外側のプロシージャ名を識別し、続いてその中に含まれるプロシージャを識別します。一番内側のプロシージャ名は、ストリング中で最後に識別します。

名前の先頭に3個のより小記号(<<<)を置くか、あるいは名前の終りに3個のより大記号(>>>)を置くことによって、プログラムまたはプロシージャの部分名を指定することができます。より大記号とより小記号の両方を使用する場合には、プログラムは、指定するプログラム名またはプロシージャ名を250文字に制限します。

システムは、指定されたプログラム名またはプロシージャ名の中から、最後に呼び出されたプログラムまたはプロシージャを検索します。

部分プログラム名または部分プロシージャ名を検索する場合：

- プログラム名またはプロシージャ名の最初にだけ指定されたより小(<<<)記号は切り捨てられ、残りの文字ストリングが右寄せにされます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャ名の終わりの桁から始まって逆順に行なわれます。
- プログラム名またはプロシージャ名の最後にだけ指定されたより大(>>>)記号は切り捨てられます。指定されたストリングの残りの文字が呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。比較はプログラム名またはプロシージャ名の最初の桁から始まります。
- プログラム名またはプロシージャ名により小記号(<<<)とより大記号(>>>)の両方が指定されている時には、その両方が切り捨てられます。残りの文字が使用され、指定したストリング全体の長さが走査され、呼び出しスタック上の現行のプログラムまたはプロシージャと比較されます。

要素2: モジュール

*NONE

ILEモジュール修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるILEモジュール名を指定します。

要素3: プログラム

*NONE

プログラム修飾子は指定されません。

名前 メッセージ待ち行列の識別に使用されるプログラム名を指定します。

[トップ](#)

メッセージ待ち行列 (MSGQ)

受け取られるメッセージが入っているメッセージ待ち行列（プログラム・メッセージ待ち行列以外）を指定します。

単一値

*PGMQ

呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (**PGMQ**)パラメーターに指定されたプログラム・メッセージ待ち行列が、そこからメッセージが受け取られる唯一の待ち行列です。

修飾子 1: メッセージ待ち行列

名前 受け取られるメッセージが入っているメッセージ待ち行列の名前を指定してください。メッセージ待ち行列名を指定した場合には、呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (**PGMQ**)パラメーターを指定することはできません。

修飾子 2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

メッセージ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

名前 メッセージ待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

トップ

メッセージ・タイプ (MSGTYPE)

このプログラムによって受け取られるメッセージのタイプを指定します。

***ANY** (送信元のコピーを除く) どんなタイプのメッセージも受け取られます。受け取りメッセージを受け取るには、MSGTYPE(*COPY)を指定しなければなりません。

*NEXT

メッセージ・キー (MSGKEY)パラメーターに指定されたメッセージの次のメッセージが受け取られます。使用可能でない別のメッセージの場合は、すべてのCL変数にブランクが戻されます。

メッセージが、呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列から受け取られると、*NEXTは1つの呼び出しスタック項目についてだけ動作します。*NEXTは、同じプログラムの複数の呼び出しスタック項目についてメッセージを受け取るために使用することはできません。

***PRV** **メッセージ・キー (MSGKEY)**パラメーターに指定されたメッセージの直前のメッセージが受け取られます。

***INFO** 通知メッセージが受け取られます。

***INQ** 照会メッセージが受け取られます。

***RPY** 応答メッセージが受け取られます。このプログラムは、照会メッセージをメッセージ待ち行列に送り、その応答を必要とします。

*FIRST

現在メッセージ待ち行列またはプログラム待ち行列にある最初のメッセージが受け取られます。

*COPY

前に送信された照会メッセージのコピーが、このプログラムによって受け取られます。呼出スタック項目メッセージ待ち行列 (PGMQ)パラメーターまたはメッセージ待ち行列 (MSGQ)パラメーターに指定するメッセージ待ち行列は、INQメッセージの送信時に応答を受けるメッセージ待ち行列 (RPYMSGQ)パラメーターに指定したものと同一待ち行列でなければなりません。

*COMP

完了メッセージが受け取られます。このタイプのメッセージを受け取ることができるのは、プログラム・メッセージ待ち行列からに限られます。

***DIAG** 診断メッセージが受け取られます。このタイプのメッセージを受け取ることができるのは、プログラム・メッセージ待ち行列からに限られます。

*EXCP

例外メッセージが受け取られます。例外メッセージ (エスケープ、通知、状況) はプログラムによって後入れ先出し法(LIFO)の順で受け取られます。受け取り側のプログラムはMONMSGコマンドを使用して例外メッセージをモニターすることができます。

注: 非例外メッセージは先入れ先出し法(FIFO)の順で受け取られます。

プロシージャのメッセージ待ち行列から例外メッセージが受け取られた場合には、関連の例外はRCVMSGコマンドの実行時に、処理されない場合があります。例外がRCVMSGコマンドによって処理されるようにするかどうかを指定するためには、RMVパラメーターを使用することができます。

***RQS** 要求メッセージが受け取られます。このタイプのメッセージを受け取ることができるのは、プログラム・メッセージ待ち行列からに限られます。

***LAST** 現在メッセージ待ち行列またはプログラム待ち行列にある最後のメッセージが受け取られます。

トップ

メッセージ・キー (MSGKEY)

受け取られるメッセージのメッセージ参照キーを指定します。

*NONE

メッセージ参照キーは指定されません。

***TOP** メッセージ待ち行列の上部が使用されます。*TOPを使用できるのは、**メッセージ・タイプ (MSGTYPE)**パラメーターに*NEXTを指定した場合だけです。これでメッセージ待ち行列の最初のメッセージが受け取られることとなります。プログラム・メッセージ待ち行列の場合には、これは受け取られた最後の要求メッセージの後のメッセージです (ある場合)。

名前 このメッセージ受け取り機能によって使用されるメッセージのメッセージ参照キーが入っているCL変数の名前を指定してください。変数は、長さが4文字の文字変数でなければなりません。

トップ

待機時間 (WAIT)

このコマンドの処理時に指定したタイプのメッセージがメッセージ待ち行列にない場合に、プログラムがその到着を待機する時間の長さを秒数で指定します。メッセージが指定された時間内に到着しない場合には、受け取りメッセージ・フィールドに名前が指定された制御言語(CL)変数にブランク（または変数が10進変数の場合はゼロ）が埋め込まれます。

プログラムは、応答を受け取っていない限り、プログラム・メッセージ待ち行列からのメッセージを待つことはできません。

待ち時間が指定された（ゼロ以外の）場合には、そのメッセージを受け取る最初のユーザーにメッセージ待ち行列が暗黙に割り振られ、要求がプログラムによって処理されるまで解放されません。

メッセージが同じジョブ内のメッセージ待ち行列に送られ、そのメッセージ待ち行列が中断転送モードにあった場合には、このパラメーターは無視されます(WAIT(0)を暗黙指定し、これはWAITパラメーターの省略時の値です)。

MSGKEYに指定された値が照会メッセージを参照し、MSGTYPE(*RPY)が指定された場合には、プログラムはWAITパラメーターを無視します(WAITの値は0です)。

0 プログラムはメッセージの到着を待ちません。

***MAX** プログラムは無期限に指定されたメッセージの到着を待ちます。

秒数 プログラムがメッセージの到着を待つ秒数を指定します。

トップ

メッセージ除去 (RMV)

プログラムが受け取ったメッセージがメッセージ待ち行列から除去されるかどうかを指定します。メッセージが未処理の例外である場合には、このパラメーターは例外が処理されるかどうかも指定します。**メッセージ・タイプ (MSGTYPE)**パラメーターに*INQを指定した場合には、照会メッセージに対する応答を送ることができるように、このパラメーターにも*NOを指定しなければなりません。そうしないと、未応答の照会が除去される前に、省略時の応答が送られることになります。

***YES** メッセージはメッセージ待ち行列から除去されます。メッセージが、未処理の例外である場合には、その例外はRCVMSGコマンドを実行することによって処理されます。

***NO** メッセージはメッセージ待ち行列から除去されません。それは古いメッセージと同様メッセージ待ち行列に残ります。メッセージが、未処理の例外である場合には、その例外はRCVMSGコマンドを実行することによって処理されます。

注：古いメッセージとは、受け取られたが削除されていないメッセージのことです。古いメッセージは、次の方法の1つによって、再度受け取ることができます。

1. メッセージのメッセージ参照キーをMSGKEYパラメーターに指定する。
2. **メッセージ・タイプ (MSGTYPE)**パラメーターにメッセージ・タイプ*FIRST, *LAST, *NEXT, または*PRVを指定する。

***KEEPEXCP**

メッセージが例外メッセージであって、その例外が処理されていない場合には、その例外は未処理のまま残り、メッセージは新しいメッセージとしてメッセージ待ち行列に残ります。このメッセージは、*EXCPメッセージを受け取るためにRCVMSGコマンドを使用することによって、再び受け取

ることができます。メッセージが例外メッセージでない場合、あるいは例外メッセージであるがその例外がすでに処理されている場合には、そのメッセージは古いメッセージとしてメッセージ待ち行列に残ります。

RCVMMSGが実行された後で例外を処理するためには、RMV(*YES)またはRMV(*NO)を指定することによって、そのコマンドを再び実行することができます。

トップ

コード化文字セットID (CCSID)

メッセージ・テキストを戻したいコード化文字セット識別コード(CCSID)を指定します。これは、MSG、SECLVL、およびMSGDTAパラメーターに戻されるテキストにのみ適用されます。置き換えデータがMSGDTAパラメーターに戻されるか、あるいはMSGまたはSECLVLパラメーターに戻されたテキストに代入されると、変換可能な文字(*CCHAR)として定義されている置き換えテキストの部分のみが変換されます。置き換えデータの残りの部分は変換されません。*CCHARフィールドの詳細については、ADDMSGDコマンドを参照してください。

***JOB** 受け取ったメッセージは、戻される前にジョブのCCSIDに変換されます。

***HEX** 受け取ったメッセージは、戻される前に変換されません。

コード化文字セット識別コード

戻される前にメッセージの変換先としたいCCSIDを指定してください。有効な値の範囲は1-65535です。有効な値のリストについては、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバルゼーション」情報を参照してください。受け入れられるのは、ジョブの変更先とすることができるCCSIDの値だけです。

メッセージ・ハンドラーとそれによるCCSIDの使用の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「グローバルゼーション」トピックを参照してください。

トップ

デフォルト応答の拒否 (RJTDFTRPY)

未応答の照会メッセージを除去すると、その照会メッセージに対して省略時の応答が送られます。この値は、このコマンドを使用した結果として送られた省略時の応答を応答処理出口プログラムが拒否できるかどうかを指示します。応答処理出口プログラムは、出口点QIBM_QMH_REPLY_INQに対するシステム登録機能を通じて登録することができます。このパラメーターを適用できるのは、RMVキーワードに*YESを指定した場合だけです。

*NOALWRJT

応答処理出口プログラムが省略時の応答を拒否することは許可されません。

*ALWRJT

省略時の応答を拒否することが応答処理出口プログラムに許可されます。出口プログラムが応答を拒否した場合には、メッセージCPD2476（応答は応答処理出口プログラムによって拒否されました）が診断メッセージとしてこのコマンドを使用しているプログラムに送られます。CPD2476に続いて、このコマンドを使用しているプログラムはこのエラー状態を処理して回復するためにモニターする必要があることを示すCPF2422（応答は無効です）エスケープ・メッセージが出されます。

KEYVARのCL変数 (4) (KEYVAR)

このコマンドの入ったプログラムが受け取ったメッセージを識別するメッセージ参照キーが入っている、制御言語(CL)文字変数の名前（もしあれば）を指定します。RCVMSGコマンドが処理された時点で、システムは、このコマンドのKEYVARによって指定された変数にメッセージ参照キーを戻し、受け取ったメッセージを古いメッセージに変更します。次に、このメッセージ参照キーを後続のRCVMSGコマンドのMSGKEYパラメーターで使用して、古いメッセージを受け取ることができます。メッセージが見つからない場合には、KEYVAL変数に対してブランクが戻されます。応答タイプ・メッセージの場合には、このコマンドのMSGKEYパラメーターをSNDPGMMMSGコマンドのKEYVALパラメーターと一緒に使用してください。メッセージ参照キーは、また、メッセージ・サブファイルを作成するためにこのプログラムで使用することができます。CL変数は、メッセージ・サブファイルのDDSにSFLMSGKEYキーワードが指定されるフィールドの名前です。

注: 呼び出しスタック項目と関連していないメッセージ待ち行列の場合には、(RMVパラメーターに*YESを指定することによって) メッセージが受け取られて除去された後で、再びメッセージ参照キーを使用することができます。

変数は、長さが4文字の文字変数でなければなりません。

注: (プログラム・メッセージ送信(SNDPGMMSG)コマンドのKEYVALパラメーターによって指定されたCL変数から獲得された) メッセージ参照キーを使用して、照会メッセージに対する応答を受け取る場合には、メッセージ参照キーが送信元のコピーを参照していることに注意してください。送信元のコピー・メッセージは、照会メッセージが送られた先のメッセージ待ち行列にではなく、応答メッセージ待ち行列(省略時の値では照会メッセージを送ったプログラム・メッセージ待ち行列になります)に入っています。

トップ

第1 レベル・テキストのCL変数 (MSG)

プログラムがメッセージを受け取った時にそのメッセージを入れる制御言語(CL) 文字変数（ある場合）の名前を指定します。これには、メッセージが送信される前にテキスト中の置き換え変数に置き換えられたメッセージ・データ・フィールドが含まれます（応答および即時メッセージにはメッセージ・データ・フィールドは含まれません）。これは可変長フィールドですが、ほとんどのメッセージ・テキストは長さが132文字より短くなっています。

トップ

MSGLENのCL変数 (5 0) (MSGLEN)

受信可能なメッセージ・テキストの合計長が入っている制御言語(CL)の10進変数（ある場合）の名前を指定します。この変数は5桁の長さの10進変数でなければなりません。

トップ

第2 レベル・テキストのCL変数 (SECLVL)

プログラムによって受け取られるメッセージ・ヘルプが入っているCL文字変数（ある場合）の名前を指定します。これには、メッセージが送信される前にテキスト中の置き換え変数に置き換えられたメッセージ・データ・フィールドが含まれます（応答および即時メッセージには第2レベル・メッセージは含まれません）。これは可変長フィールドですが、ほとんどのオンライン・メッセージ・ヘルプは、長さが3000文字より短くなるように設計されています。

[トップ](#)

SECLVLLENのCL変数 (5 0) (SECLVLLEN)

受信可能なメッセージ・ヘルプの合計長が入っている制御言語(CL)10進変数（ある場合）の名前を指定します。この変数は5桁の長さの10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

メッセージ・データのCL変数 (MSGDTA)

メッセージの一部としてプログラムが受け取ったメッセージ・データ・レコードが入っている、制御言語(CL)文字変数の名前（もしあれば）を指定します。メッセージ・データ・レコードには、受け取ったメッセージのテキスト中で使用される置き換え値（1文字のストリング）が入っています。戻されるデータの容量とその形式は、そのメッセージによって異なります。システム・メッセージに組み込まれているポインターは無効となります。

注: 無効なポインターが含まれているデータを使用した場合には、エラー・メッセージが出されます。

[トップ](#)

MSGDTALENのCL変数 (5 0) (MSGDTALEN)

受け取るために使用可能なメッセージ・データ・レコードの合計長が入っている、制御言語(CL) 10進変数の名前（もしあれば）を指定します。この変数は5桁の長さの10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

MSGIDのCL変数 (7) (MSGID)

プログラムが受け取ったメッセージのメッセージ識別コードが入っている、制御言語(CL)文字変数の名前（もしあれば）を指定します。受け取られているメッセージが即時メッセージである場合には、メッセージ識別コードは空白として戻されます。変数の最小の長さは7文字です。

[トップ](#)

SEVのCL変数 (2 0) (SEV)

プログラムが受け取ったメッセージの重大度コードが入っている、制御言語(CL) 10進変数の名前（もしあれば）を指定します。受け取られているメッセージが即時メッセージである場合には、メッセージ重大度は戻されません。変数は、長さが2桁の10進変数でなければなりません。

[トップ](#)

SENDERのCL変数 (80) (SENDER)

RCVMSGコマンド終了に受け取ったメッセージの送信元の識別コードが入っている、制御言語(CL)文字変数の名前（もしあれば）を指定します。SENDERFMT指定によるCL変数の長さです。

SENDERFMT(*SHORT)が指定された場合には、変数は最小値が80桁でなければなりません。CL変数が80桁より長い場合には、追加情報が戻されます。SENDERFMT(*LONG)が指定された場合には、変数は最小値が720桁でなければなりません。

[トップ](#)

送信元の形式 (SENDERFMT)

どの形式の送信元識別が戻されるかを指定します。このパラメーターはSENDERパラメーターが指定されている時にだけ有効です。

***SHORT**

短形式の送信元情報が戻されます。短形式は、最小値が80桁でなければなりません。CL変数が80桁より長い場合には、追加情報が戻されます。最後に戻されたフィールドを超えるCL変数の桁位置は、ブランクに設定されます。次の情報が戻されます。

- 最初の26文字は送信元のジョブを示します。
 - ジョブ名(10)
 - ユーザー名(10)
 - ジョブ番号(6)
- 次の16文字は送信元プログラムを示します。
 - プログラム名(12) (ILEプロシージャの場合、これは結合プログラム名となる) ; 送信元のタイプが3の場合には、このフィールドの最初の3桁は「より小記号」(<<<)となり、この後にプログラム名の最後の9文字が続きます。
 - 命令番号(4) (ILEプロシージャの場合、このフィールドはブランクにセットされます)
- 次の13文字は日付および時刻です。
 - 日付(7) (0YYMMDDの形式)
 - 時刻(6) (HHMMSSの形式)
- 次の14文字は、メッセージがプログラム・メッセージ待ち行列に送られる場合の、送信先呼び出しスタック項目を示します。
 - プログラム名(10) (ILEプロシージャの場合、これはバインド・プログラム名です)
 - 命令番号(4) (ILEプロシージャの場合、このフィールドはブランクにセットされます)
- 次の1文字は送信元のタイプを示します。
 - "0"-送信元が12桁以下のOPMプログラムまたはSLICプログラムである場合

- "1"-送信元がILEプロシージャーであって、その名前が256桁以下の場合
- "2"-送信元がILEプロシージャーであって、その名前が256桁を超える場合
- "3"-送信元が12桁を超えるSLICプログラムである場合
- 次の1文字は送信先のタイプを示します。
 - "0"-受信先がOPMプログラムである場合
 - "1"-受信先がILEプロシージャーであって、その名前が256桁以下の場合
 - "2"-受信先がILEプロシージャーであって、その名前が256桁を超える場合
- 次の6文字はマイクロ秒です。
- 最後の10文字は、メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前であり、CL変数の長さが少なくとも87桁である場合に戻されます。

*LONG

長形式の送信元情報が戻されます。長形式は720桁で、最後の30桁がブランクにセットされます。次の情報が戻されます。

- 最初の26文字は送信元のジョブを示します。
 - ジョブ名(10)
 - ユーザー名(10)
 - ジョブ番号(6)
- 次の13文字は日付および時刻です。
 - 日付(7) (0YYMMDDの形式)
 - 時刻(6) (HHMMSSの形式)
- 次の1文字は送信元のタイプを示します。
 - "0"-送信元が12桁以下のOPMプログラムまたはSLICプログラムである場合
 - "1"-送信元がILEプロシージャーであって、その名前が256桁以下の場合
 - "2"-送信元がILEプロシージャーであって、その名前が256桁を超える場合
 - "3"-送信元が12桁を超えるSLICプログラムである場合
- 次の1文字は送信先のタイプを示します。
 - "0"-受信先がOPMプログラムである場合
 - "1"-受信先がILEプロシージャーであって、その名前が256桁以下の場合
 - "2"-受信先がILEプロシージャーであって、その名前が256桁を超える場合
- 次の12桁は送信元のプログラム名です (ILEプロシージャーの場合はこれは結合プログラム名となる) ; 送信元のタイプが3であって、プログラム名の長さが12桁を超える場合には、このフィールドの最初の3桁は「より小記号」(<<<)となり、この後にプログラム名の最後の9桁が続きます。
- 次の10文字は送信元のモジュール名です (送信元がILEプロシージャーでない場合には、このフィールドはブランクにセットされます)。
- 次の256文字は送信元のプロシージャー名です (送信元がILEプロシージャーでない場合には、このフィールドはブランクにセットされます)。
 - ネストされたプロシージャー名の場合には、各プロシージャー名はコロン(:)で区切られ、最も外側のプロシージャー名から始まり、最も内側のプロシージャー名で終わります。

- 256桁を超えるプロシージャー名の場合には、3つの「より小記号」(<<<)が戻され、その後にプロシージャー名の最後の253桁が続きます。プロシージャー名の全体を表示するためには、QMHRCVPM APIを使用することができます。
- 次の1文字は空白です。
- 次の4文字は使用可能なステートメント番号の数です。

注: ステートメント番号は、メッセージが送信された送信元プログラム中の点を表します。プログラムおよび非最適化プロシージャーの場合には、このカウントは常に1となります。最適化されたプロシージャーの場合には、このカウントは1より大きくなることもあり、各ステートメント番号はメッセージが送信できた点を表します。ステートメント番号を戻すことができない場合には、このカウントは0となります。

- 次の30文字は最大3つのステートメント番号を戻します（それぞれに10文字ずつ）。
- 次の320文字は、受信中のメッセージが呼び出しスタック項目と関連したメッセージ待ち行列に最初に送られたものである場合に、プログラムまたはプロシージャー情報を戻します（そうでない場合には、このフィールドは空白にセットされます）。
 - 送り先プログラム名(10) (ILEプロシージャーの場合には、これはバインド・プログラム名となります)。
 - 送り先モジュール名(10) (送信元がILEプロシージャーでない場合には、このフィールドは空白にセットされます)。
 - 送り先プロシージャー名(256) (送信元がILEプロシージャーでない場合には、このフィールドはすべて空白にセットされます)。
 - ネストされたプロシージャー名の場合には、各プロシージャー名はコロン(:)で区切られ、最も外側のプロシージャー名から始まり、最も内側のプロシージャー名で終わります。
 - 256桁を超えるプロシージャー名の場合には、3つの「より小記号」(<<<)が戻され、その後にプロシージャー名の最後の253桁が続きます。プロシージャー名の全体を表示するためには、QMHRCVPM APIを使用することができます。
 - 空白(10)
 - 受信側の呼び出しスタック項目に使用可能なステートメントの数(4)

注: ステートメント番号は、メッセージが送信された時に送り先プログラムが保留された（たとえば、呼び出し命令のために）点を表します。プログラムおよび非最適化プロシージャーの場合には、このカウントは常に1となります。最適化されたプロシージャーの場合には、このカウントは1より大きくなることもあり、各ステートメント番号はメッセージが送信できた点を表します。ステートメント番号を戻すことができない場合には、このカウントは0となります。

- - ステートメント番号(30) (最大3つのステートメントで、それぞれが10文字)
- 次の6文字はマイクロ秒です。
- 最後の10文字は、メッセージが送られた時にスレッドが実行されていたユーザー・プロファイルの名前です。

トップ

RTNTYPEのCL変数 (2) (RTNTYPE)

プログラムが受け取ったメッセージのタイプ・コードが入っている、制御言語(CL) 変数の名前（もしあれば）を指定します。変数は、長さが2桁の文字変数でなければなりません。

メッセージ・タイプを指示するために次の値が戻されます。

値	メッセージ・タイプ
01	完了
02	診断
04	情報
05	照会
06	コピー
08	要求
10	プロンプトを伴う要求
14	通知（例外としてRCVMSGの時間にすでに処理された）
15	エスケープ（例外はRCVMSGの実行時にすでに処理されている）
16	通知（例外はRCVMSGの実行時に処理されていない）
17	エスケープ（例外はRCVMSGの実行時に処理されていない）
21	応答，妥当性検査なし
22	応答，すでに妥当性検査済み
23	応答，メッセージ省略時の値を使用
24	応答，システム省略時の値を使用
25	応答，システム応答リストから
26	応答，出口プログラムから

[トップ](#)

ALROPTのCL変数 (9) (ALROPT)

プログラムが受け取ったメッセージの警報オプションを戻すために使用される、制御言語(CL)変数の名前（もしあれば）を指定します。変数は、長さが9桁の文字変数でなければなりません。

[トップ](#)

MSGFのCL変数 (10) (MSGF)

プログラムが受け取ったメッセージのメッセージ・ファイル名を戻すために使用される、制御言語(CL)変数の名前（もしあれば）を指定します。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージである場合には、記憶済みメッセージが入っているファイルのメッセージ・ファイル名が戻されます。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージでない場合には、メッセージ・ファイル名は空白で戻されます。変数は、長さが10桁の文字変数でなければなりません。

注: このパラメーターで戻されるメッセージ・ファイル名は、送信機能で指定されたかまたはその省略時のメッセージ・ファイルであり、一時変更メッセージ・ファイルではありません。メッセージの送信時に一時変更が指定されていた場合には、メッセージの受信時にも同じ一時変更を使用しなければなりません。

トップ

MSGFLIBのCL変数 (10) (MSGFLIB)

プログラムが受け取ったメッセージのメッセージ・ファイル・ライブラリー名を戻すために使用される、制御言語(CL)変数の名前（もしあれば）を指定します。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージである場合には、記憶済みメッセージのメッセージ・ファイルが入っているライブラリーのメッセージ・ファイル・ライブラリー名が戻されます。送信コマンドで*LIBLが指定されている場合には、*LIBLが戻されます。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージでない場合には、メッセージ・ファイル・ライブラリー名はブランクとして戻されます。変数は、長さが10桁の文字変数でなければなりません。

注: このパラメーターで戻されるメッセージ・ファイル・ライブラリー名は、送信機能で指定されたかまたはその省略時のメッセージ・ファイルであり、一時変更メッセージ・ファイル・ライブラリーではありません。メッセージの送信時に一時変更が指定されていた場合には、メッセージの受信時にも同じ一時変更を使用しなければなりません。

トップ

SNMSGFLIBのCL変数 (10) (SNMSGFLIB)

メッセージを送るために使用されたメッセージ・ファイル・ライブラリー名を戻すために使用される制御言語(CL)変数の名前（ある場合）を指定します。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージである場合には、記憶済みメッセージのメッセージ・ファイルが入っているライブラリーのメッセージ・ファイル・ライブラリー名が戻されます。送信コマンドで*LIBLが指定されている場合には、このパラメーターはライブラリーの実際の名前となります。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージでない場合には、メッセージ・ファイル・ライブラリー名はブランクとして戻されます。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージで、元のメッセージ・ファイルが壊れている場合には、メッセージ・ファイル・ライブラリー名がブランクとして戻されます。受け取ったメッセージが記憶済みメッセージでない場合には、このパラメーターはブランクとして戻されます。変数は、長さが10桁の文字変数でなければなりません。

トップ

テキスト CCSIDのCL変数(5 0) (TXTCCSID)

MSGおよびSECLVLパラメーターによって戻されるテキストと関連付けられているコード化文字セット識別コード(CCSID)を戻すために使用されるCL変数がある場合に、その名前を指定します。変換エラーが起こった場合、またはテキストを変換するように要求したCCSIDが65535である場合には、即時メッセージのメッセージ記述またはテキストが記憶されているCCSIDが戻されます。そうでない場合には、テキストを変換したかったCCSIDが戻されます。戻される前にテキストを変換したくないが、即時メッセージのメッセージ記述またはテキストが記憶されているCCSIDを知りたい場合には、CCSIDパラメーターに65535を指定してください。CCSIDはTXTCCSIDパラメーターに戻されます。また、渡したCCSIDを戻されたTXTCCSIDと比較することによって、変換エラーの有無を調べることもできます。この両者が等しくなく、65535でない場合には、変換エラーが起こりました。この変数は5桁の長さの10進変数でなければなりません。

データ CCSIDのCL変数(5 0) (DTACCSID)

*CCHARとして定義された置き換えデータと関連付けられているコード化文字セット識別コード(CCSID)を戻すために使用されるCL変数がある場合に、その名前を指定します。他のすべての置き換えデータは戻される前に変換されません。変換エラーが起こった場合、またはテキストを変換するように要求したCCSIDが65535である場合には、CCSIDメッセージ・データが戻されます。データに*CCHAR置き換えデータがない場合には、65535が戻されます。そうでない場合には、テキストを変換しなかったCCSIDが戻されます。即時メッセージでは、0が戻されます。渡したCCSIDを戻されたDTACCSIDと比較することによって、変換エラーの有無を調べることができます。この両者が等しくなく、65535でない場合には、変換エラーが起こりました。この変数は5桁の長さの10進変数でなければなりません。

トップ

RCVMSGの例

例1:メッセージの受信

```
RCVMSG MSGQ(SMITH) MSGKEY(&KEY) MSG(&WORK)
```

このコマンドは、プログラム変数&KEYによって指定されたメッセージ参照キーを持つメッセージをメッセージ待ち行列SMITHから受け取ります。メッセージのテキストはCL変数&WORKにコピーされます。

例2:新しいメッセージの受信

```
RCVMSG MSGQ(INV) WAIT(120) MSG(&WORK)
```

このコマンドは、INVという名前のメッセージ待ち行列から新しいメッセージを受け取ってCL変数&WORKに入れます。メッセージ待ち行列に新しいメッセージがない場合には、プログラムは120秒まで新しいメッセージの到着を待機します。待ち行列に複数の新しいメッセージがある場合には、その待ち行列の最初のメッセージがプログラムによって受け取られるメッセージです。

例3:プロシージャからのメッセージの受信

```
RCVMSG PGMQ(*SAME CURRENT_MONTH_TOTALS) MSGTYPE(*EXCP)
      RMV(*KEEPEXCP) MSGID(&MID) MSG(&MTEXT)
```

このコマンドは、プロシージャCURRENT_MONTH_TOTALSから例外メッセージを受け取ります。指定された名前が10文字を超えるので、システムはどのプログラムも検索しません。メッセージが未処理の例外であった場合には、そのメッセージは新しいメッセージとして呼び出しメッセージ待ち行列に残され、例外はRCVMSGコマンドによって処理されません。メッセージIDがCL変数&MIDに戻され、メッセージ・テキストはCL変数&MTEXTに戻されます。例外を処理して、メッセージを除去するには、次のRCVMSGコマンドを実行します。

```
RCVMSG PGMQ(*SAME CURRENT_MONTH_TOTALS) MSGTYPE(*EXCP)
      RMV(*YES)
```

例4:プログラムまたはプロシージャからのメッセージの受信

```
RCVMSG PGMQ(*SAME TARGETPGM) MSGTYPE(*EXCP) RMV(*NO)
      MSGID(&MID) MSG(&MTEXT)
```

このコマンドは、TARGETPGMという名前のプログラムまたはプロシージャのメッセージ待ち行列から例外メッセージを受け取ります。指定された名前は9文字だけであるので、システムはプログラムとプロシージャの両方を検索します。RMV(*NO)が指定されているので、メッセージが未処理の例外であった場合には、その例外がRCVMSGコマンドによって処理されます。メッセージは、古いメッセージとしてメッセージ待ち行列に残されます。

例5:修飾子を使用したメッセージの受信

```
RCVMSG  PGMQ(*SAME PRINT_RPT_FMT1 DEPTRPTS AREARPTS)
        MSGTYPE(*EXCP) RMV(*YES)
        MSGID(&MID)  MSG(&MTEXT)
```

このコマンドは、PRINT_RPT_FMT1という名前のプロシージャのメッセージ待ち行列から例外メッセージを受け取ります。プロシージャは、モジュールDEPTRPTSにコンパイル済みであり、結合プログラムAREARPTSに結合済みであることが必要です。RMV(*YES)が指定されているので、例外メッセージが未処理の例外に関するものである場合には、その例外が処理されます。メッセージは、常にメッセージ待ち行列から除去されます。

例6:部分プロシージャ名を使用したメッセージの受信

```
RCVMSG  PGMQ(*SAME 'HANDLE_FORM_NUM>>>') MSGID(&MID)
        MSG(&MTEXT)
```

このコマンドは、名前がHANDLE_FORM_NUMで始まる最新のプロシージャから新しいメッセージを受け取ります。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RCVMSG

*ESCAPEメッセージ

CPF2401

ライブラリー&1の使用を許可されていません。

CPF2403

&2にメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2407

&2にメッセージ・ファイル&1が見つからない。

CPF2408

メッセージ待ち行列&1は認可されていない。

CPF2411

&2のメッセージ・ファイル&1は認可されていない。

CPF241C

SENDERパラメーターの変数が小さすぎる。

CPF2410

メッセージ・キーがメッセージ待ち行列&1が見つからない。

CPF2415

要求の終わりに達した。

CPF2422

応答が正しくない。

CPF2423

SENDERパラメーターに指定した変数が&1バイトより短い。

CPF2433

システム・ログ・メッセージ待ち行列&1にこの機能を使用することはできない。

CPF2449

応答でなければならぬメッセージですが、応答ではありません。

CPF2450

ワークステーション・メッセージ待ち行列&1がジョブに割り振られていない。

CPF2451

メッセージ待ち行列&1は別のジョブに割り振られている。

CPF247A

呼び出しスタックの項目が見つからなかった。

CPF247E

CCSID &1が無効です。

CPF2471

フィールドの長さが正しくない。

CPF2477

メッセージ待ち行列&1は現在使用中である。

CPF2479

呼び出しスタックの項目が見つからなかった。

CPF2482

メッセージ・タイプ&1は正しくない。

CPF24A3

呼び出しスタックのカウンター・パラメーターの値が正しくない。

CPF24A8

待機時間の値が正しくない。

CPF24B3

メッセージ・タイプ&1は無効です。

CPF2531

&3のための&2のメッセージ・ファイル&1に損傷がある。

CPF2532

ジョブ・メッセージ待ち行列に損傷がある。ジョブ・ログは終了しました。

CPF2548

&2のメッセージ・ファイル&1に損傷がある。

CPF2551

メッセージ・キーとメッセージ・タイプの組み合わせが正しくない。

CPF36F7

メッセージ待ち行列QSYSOPRは別のジョブに割り振られている。

CPF8127

&9のメッセージ待ち行列&4に&8の損傷がある。VLICログは&7です。

CPF8176

装置記述&4のメッセージ待ち行列に損傷がある。

[トップ](#)

ネットワーク・ファイル受信 (RCVNETF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ネットワーク・ファイル受け取り(RCVNETF)コマンドは、ネットワーク・ファイルを受け取り、そのレコードを物理データベース・ファイルまたは保管ファイルにコピーします。このファイルはいったん受け取られると、ネットワーク・ファイルの待ち行列から除去されます。

元のファイルが保管ファイルである場合には、そのファイルを保管ファイルに受信しなければなりません。ファイルを受信するためには、TOFILEパラメーターによって指定されたファイルがすでに存在していなければなりません。

ソース物理ファイルが送信される時には、レコードの1-12桁目のソース順序番号および変更日がファイルと一緒に送信されます。これらは、ファイルがソース物理ファイルに受信された場合には保存され、ファイルが非ソース物理ファイルに受信された場合には切り捨てられます。もともと非ソース物理ファイルであったファイルがソース物理ファイルに受信されると、ソース順序番号が作成され、レコードの前に入れられます。

このファイルが物理ファイルである場合には、送信先ファイルのレコード長は、少なくとも元のファイルのレコード長と同じでなければなりません。送信先ファイルのレコード長が元のファイルのレコード長より大きい場合には、レコードの終りに送信先ファイルの省略時レコード値が埋め込まれます。

制約事項:

- 機密保護担当者権限をもつユーザーは、どのユーザーに送信されたファイルでも受信することができます。機密保護担当者権限以外の権限をもつユーザーは、それらのユーザーまたはそれらのユーザーのグループ・プロファイルに送信されたファイルしか受信できません。
- ユーザーは、送信先ファイルが入っているライブラリーに対して読み取り権限をもち、送信先ファイルに対して使用権限および追加権限をもっていなければなりません。さらに次の権限が必要となる場合もあります。
 - オブジェクト管理権限（ファイルにメンバーを追加する場合）。
 - オブジェクト管理権限および削除権限（保管ファイルまたは既存の物理ファイル・メンバーを消去する場合）。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FROMFILE	FROMファイル	文字値	必須, 定位置 1
TOFILE	TOファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: TOファイル	名前, *FROMFILE	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

キーワード	記述	選択項目	注
FROMMBR	受け取られるメンバー	文字値, *ONLY	オプションル, 定位置 3
TOMBR	TOメンバー	名前, *FROMMBR , *FIRST	オプションル, 定位置 4
MBROPT	レコードの置き換えまたは追加	*REPLACE , *ADD	オプションル
NBR	ファイル番号	整数, *LAST , *ONLY, *FIRST	オプションル
USER	ユーザー	名前, *CURRENT	オプションル
FROMTYPE	取り出しファイル・タイプ	*NETFILE , *SRC	オプションル

トップ

FROMファイル (FROMFILE)

受け取るファイルの名前を指定します。これは送信システム上のファイルの名前です。

これは必須パラメーターです。

トップ

TOファイル (TOFILE)

ネットワーク・ファイルを受け取る先のファイルの名前を指定します。このファイルの一時変更は無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***FROMFILE**

ネットワーク・ファイルは、送信されたファイルと同じ名前のファイルの中に受け取られます。

ファイル名

受け取りファイルの名前およびライブラリーを指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストが使用されます。

***CURLIB**

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、**QGPL**が使用されます。

ライブラリー名

ファイルのあるライブラリーを指定します。

トップ

受け取られるメンバー (FROMMBR)

受け取るファイル・メンバーの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***ONLY**

このファイルに1つのメンバーだけを受け取ります。ファイル番号プロンプト（NBRパラメーター）に*ONLYが指定されている場合、1つのファイルについて1つのメンバーだけが到着ファイル待ち行列に入ります。

メンバー名

受け取るメンバーの名前を指定してください。ファイルが保管ファイルの場合には、メンバー名を指定することはできません。

[トップ](#)

TOメンバー (TOMBR)

データを受け取るデータベース・ファイル・メンバーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***FROMMBR**

データは、受け取られるメンバープロンプト（FROMMBRパラメーター）で指定されたメンバーと同じ名前のメンバーに受け取られます。

***FIRST**

ファイル内の最初のメンバーが出力を受け取ります。

メンバー名

レコードを受け取るメンバーの名前を指定してください。ファイルが保管ファイルの場合には、メンバー名を指定することはできません。

[トップ](#)

レコードの置き換えまたは追加 (MBROPT)

新しいレコードで置き換えるか、または既存のレコードに追加するかどうかを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***REPLACE**

システムは、既存のメンバーを消去し、新しいレコードを追加します。

***ADD** システムは、既存のレコードの終わりに新しいレコードを追加します。

[トップ](#)

ファイル番号 (NBR)

受信されるファイル・メンバーの番号を指定します。この番号は、同じ名前のメンバーがファイルに複数ある時に、受信されるメンバーを識別するために使用されます。

考えられる値は次の通りです。

***LAST** 指定されたメンバー名をもつ最後のネットワーク・ファイル・メンバーを受け取ります。最後のメンバーは、システムに最後に到着したメンバーとして判別されます。

注: ユーザーのシステムに最後に到着したファイル・メンバーが、送信側ユーザーによって送信された最終メンバーにならない場合があります。ネットワークは、個別に送信されたファイルの到着順については保証しません。

*ONLY

指定されたファイル名の1つのファイル・メンバーだけを受け取ります。

メンバー番号

受け取るメンバーの番号を指定します。

[トップ](#)

ユーザー (USER)

ファイルの送信先のユーザーを指定します。

考えられる値は次の通りです。

*CURRENT

現行のユーザーに送信されたファイルを受け取ります。

ユーザー名

ファイルが送られた送信先のユーザーの名前を指定してください。機密保護担当者権限をもつユーザーだけは、自分または自分のグループ・プロファイル以外の名前を指定することができます。

[トップ](#)

取り出しファイル・タイプ (FROMTYPE)

受け取るファイルのタイプを指定します。このオプションは主として、ファイルがシステム/370 VMまたはMVSユーザーによって送られたAS/400またはシステム/38ソース・ファイルである時に使用します。VMまたはMVSは、ファイルがソース・ファイルであるかどうかを識別することができないので、ファイルがソース・ファイルであるか、非ソース・ファイルであるかをユーザーが指示することができます。

考えられる値は次の通りです。

*NETFILE

ファイル・タイプの変換が必要であるかどうかを判別するために、ネットワーク・ファイル・タイプが使用されます。

ファイルが非ソース・ファイルである場合は次のことが行われます。

- このファイルが別の非ソース・ファイルに受け取られる場合には、変更されずに受け取られません。

- このファイルがソース・ファイルに受け取られる場合には、順序番号および日付フィールドが追加されます。

ファイルがソース・ファイルである場合は次のことが行われます。

- このファイルが非ソース・ファイルに受け取られる場合には、順序番号および日付フィールド（各レコードの最初の12バイト）が除去されます。
- このファイルが別のソース・ファイルに受け取られる場合には、変更されずに受け取られます。

***SRC** 受け取られるファイルはソース・ファイルです。順序番号および日付フィールドはファイルの中に入っています。このファイルが別のソース・ファイルに受け取られる場合には、受け取られるファイルに順序番号および日付フィールドは追加されません。このファイルが非ソース・ファイルに受け取られる場合には、順序番号および日付フィールド（各レコードの最初の12バイト）が除去されます。

注: ネットワーク・ファイルの各レコードの最初の12バイトに順序番号および日付フィールドが入っていない場合には、***SRC**を指定してはいけません。

トップ

RCVNETFの例

例1:メンバーの受け取り

```
RCVNETF  FROMFILE(FILEA)  TOFILE(FILEB/FILEA)
          FROMMBR(PAYROLL)
```

このコマンドは、ファイルFILEAのメンバーPAYROLLをライブラリーFILEB内のファイルFILEAのメンバーPAYROLLに受け取ります。その名前の既存メンバーがある場合は、メンバー中のレコードが置き換えられます。その名前の複数のメンバーが使用可能な場合は、宛先システムに到着した最後のメンバーが受け取られます。

例2:ネットワーク・ファイルの受信

```
RCVNETF  FROMFILE(PERSONNEL)  NBR(*LAST)  USER(USR1)
```

このコマンドは、ユーザーUSR1に送信された、PERSONNELという名前のネットワーク・ファイルを受け取ります。FROMMBRパラメーターが指定されていないので、このファイルに対して使用可能なメンバー名が1つはなければなりません。USR1が指定されているので、このコマンドを使用できるのは、ユーザー・プロファイルUSR1をもつユーザー、グループ・プロファイルUSR1をもつユーザー、または機密保護担当者権限をもつユーザーだけです。

例3:ソース・ファイルの受け取り

```
RCVNETF  FROMFILE(FILEA)  TOFILE(FILEB/FILEA)
          FROMMBR(PAYROLL)  FROMTYPE(*SRC)
```

このコマンドは、受け取ろうとしているこのファイルがソース・ファイルであり、受け取ろうとしているファイルには順序番号および日付フィールドを追加しないことを指定します。

トップ

エラー・メッセージ： RCVNETF

*ESCAPEメッセージ

CPF2204

ユーザー・プロファイル&1が見つからない。

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF4101

ライブラリー&3にファイル&2が見つからないか、インライン・データ・ファイルがない。

CPF5715

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF8057

&2のファイル&1は物理ファイルでも保管ファイルでもない。

CPF8059

保管ファイルの場合はメンバー名を使用することはできない。

CPF8060

指定された選択項目と対応するファイルはない。

CPF8062

ネットワーク・ファイルのレコード長が受け入れファイルより大きい。

CPF8063

必要な資源を割り当てることができない。

CPF8070

ユーザー&1にはファイルの処理は許可されていない。

CPF8077

同じ名前の複数のファイルが見つかった。前に表示されたメッセージを参照してください。

CPF8080

保管ファイルにMBROPT(*ADD)を使用することはできない。

CPF8081

ファイル&5メンバー&6番号&7はすでに処理されている。

CPF8082

ネットワーク・ファイル&5メンバー&6番号&7を獲得することができなかった。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9006

ユーザーはシステム配布ディレクトリーに登録されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てるができない。

CPF9843

ライブラリー&3のオブジェクト&1タイプ&2をアクセスすることができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9848

ライブラリー&2のファイル&1メンバー&3をオープンすることができない。

CPF9849

ライブラリー&2メンバー&3のファイル&1の処理中にエラー。

[トップ](#)

TIEファイル受け取り (RCVTIEF)

実行可能場所:

- バッチ・ジョブ (*BATCH)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- バッチ REXX プロシージャ (*BREXX)
- QCMDEXEC, QCAEXEC, または QCAPCMD API (*EXEC) の使用

スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

技術情報交換ファイルの受信(RCVTIEF)コマンドによって、リモート保守サポート・ネットワークから送信されるファイルを受け取ることができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LIB	ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	必須, 定位置 1
TYPE	ファイル・タイプ	*ALL, *OTHER, *SAVF	オプション
OUTPUT	出力	*NONE, *PRINT	オプション
MAXRCDS	最大レコード数	整数, 10000, *NOMAX	オプション

[トップ](#)

ライブラリー (LIB)

ファイルが記憶される名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** データベース・ファイルを見つけるためにライブラリー・リストが使用されます。

*CURLIB

データベース・ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

データベース・ファイルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

ファイル・タイプ (TYPE)

受信するファイルのタイプを指定します。

***ALL** すべての使用可能なファイルを受け取りました。

***OTHER**

未指定の内容をもつファイルを受信します。

***SAVF**

保管ファイルを受け取りました。

[トップ](#)

出力 (OUTPUT)

コマンドからの出力を、要求元のワークステーションに表示するか、あるいはジョブのスプール出力で印刷するかを指定します。

***NONE**

受信したファイルのリストは印刷されません。

***PRINT**

出力はジョブのスプール出力で印刷されます。

[トップ](#)

最大レコード数 (MAXRCDS)

受信できるファイルの最大サイズ（レコード数）を指定します。1つまたは複数のファイルが最大サイズを超えている場合には、ファイルは受信されません。

10000 受信できる最大ファイル・サイズは10000レコードです。

***NOMAX**

システムの最大値500000レコードが使用されます。

数値 受信できるファイルの最大サイズ（レコード数）を指定します。

[トップ](#)

RCVTIEFの例

```
RCVTIEF LIB(MAIL) TYPE(*OPEN) OUTPUT(*PRINT) MAXRCDS(1000)
```

このコマンドは、TIEからすべてのOPENファイル（保管ファイルを除くすべてのファイル）を受け取ります。受け取られたファイルのリストが印刷されます。受け取られたファイルのいずれかが1000レコードより大きい場合には、RCVTIEFコマンドは失敗します。すべてのOPENファイルが正常に受け取られると、それらがメールボックスから除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RCVTIEF

なし

[トップ](#)

ディレクトリーの除去 (RD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの除去 (RD)コマンドは、ディレクトリー内のすべてのオブジェクトがリンク解除され、ディレクトリーが以後使用されないときに、指定されたディレクトリーをシステムから除去します。除去するディレクトリーにオブジェクトが入っている場合には、このコマンドは任意指定ですべてのオブジェクトをリンク解除してからディレクトリーを削除します。ディレクトリーのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がユーザーにない場合には、そのユーザーが権限をもっているオブジェクトだけをリンク解除します。オブジェクトをリンク解除できない場合には、リンク解除できないディレクトリーおよびディレクトリー内のすべてのオブジェクトは除去されません。

このコマンドはディレクトリーの除去 (RMVDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RMDIR
- RMVDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/),QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、指定されたディレクトリーに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限とその中のすべてのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限が必要です。ディレクトリー内の1つ以上のオブジェクトに対する*OBJEXIST権限がない場合には、それらのオブジェクトはリンク解除されずディレクトリーは除去されません。
2. "ルート" (/),QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、親ディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
3. QDLSファイル・システムでは、ディレクトリーに対する全(*ALL)権限とその親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. 接頭部ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
5. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
6. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーを除去することはできません。
 - a. ユーザーが、除去するディレクトリーの所有者である。
 - b. ユーザーが、除去するディレクトリーの親ディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
7. ディレクトリーがジョブの現行ディレクトリーである場合には、それを除去することはできません。
8. このコマンドを使用を使用して、予約されているディレクトリーおよびライブラリーを削除することはできません。

9. オブジェクトがQSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,またはQDLS内で使用中の場合には, そのオブジェクトをリンク解除することはできません。オブジェクトがQOPENSYSまたは"ルート" (I)ファイル・システム内で使用中の場合には, オブジェクトは正常にリンク解除されて, オブジェクトが使用されなくなったときに削除されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
RMVLNK	リンクの除去	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

ディレクトリーのパス名, あるいは除去するディレクトリーの1つまたは複数のパス名を突き合わせるパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は, 単純名, またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ, 疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか, あるいはパターンを含んでいる場合には, パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については, ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

リンクの除去 (RMVLNK)

ディレクトリー内のすべてのオブジェクトをリンク解除するか, あるいはディレクトリーにオブジェクトが含まれていた場合にそのディレクトリーを削除できないようにするかを指定します。

***NO** 空のディレクトリーだけが除去されます。ディレクトリーには, ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが, それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***YES** 指定されたディレクトリー内のすべてのオブジェクトが削除されます。ディレクトリーが入っているファイル・システムがディレクトリー内のリンクの除去をサポートしていない場合には, エラー・メッセージCPFA0AC "要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。"が送られます。

トップ

RDの例

RDの代替コマンド名はRMVDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、RDはそれらのすべてで直接RMVDIRに置き換えることができます。

例1: ディレクトリーとそのディレクトリー内のオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('W') RMVLNK(*YES)
```

このコマンドは、そのすべてのオブジェクトがリンク解除された後でディレクトリーWを除去します。ディレクトリーWにオブジェクトが入っていて、それらのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がある場合には、すべてのオブジェクトがリンク解除されてディレクトリーWが除去されます。すべてのオブジェクトをリンク解除する権限がない場合には、権限を持っているオブジェクトだけがリンク解除されて、ディレクトリーは除去されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RD

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B7

&1ディレクトリーは除去された。&2ディレクトリーは除去されなかった。

[トップ](#)

オブジェクト名変更 (REN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

オブジェクト名変更 (REN)コマンドは、ディレクトリー内のオブジェクトの名前を変更します。

このコマンドはオブジェクト名変更 (RNM)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RNM

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. このコマンドは1つのオブジェクトにだけ作用します。オブジェクト (OBJ)パラメーターでパターンが指定されていて、複数のオブジェクトがそのパターンと一致した場合には、対話式ジョブのリストからオブジェクトを選択することができます。これがバッチ・ジョブの場合には、このコマンドは失敗して、エラー・メッセージCPFA08E, "複数の名前がパターンと一致した。"が出されます。
2. "ルート" (/), QOPENSYSまたはユーザー定義ファイル・システムのオブジェクトの名前を変更するときには、名前変更するオブジェクトに対するオブジェクト管理(*OBJMGT)権限、およびオブジェクトが入っているディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。名前変更するオブジェクトがディレクトリーの場合には、そのディレクトリーに対する書き込み(*W)権限も必要です。
3. パス内の各ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のオブジェクトの名前を変更することはできません。
 - a. ユーザーがオブジェクトの所有者である。
 - b. ユーザーがディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
5. 既存のオブジェクト名変更 (RNMOBJ)コマンドおよび文書ライブラリー・オブジェクト名変更 (RNMDLO)コマンドからの権限要件および制約事項は、QSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,およびQDLSファイル・システム内のオブジェクトに適用されます。
6. QSYS.LIBおよび独立ASP QSYS.LIBファイル・システムでは、新しい名前に同じオブジェクト・タイプ設備部が含まれていなければなりません。
7. 名前を変更できないオブジェクトもあります。それらのオブジェクトの名前を変更しようとすると、エラーが戻されます。
8. ファイルがSQLテーブルのDATALINK列で、そのSQLテーブルの行がこのファイルを参照している場合には、ファイルの名前を変更することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OBJ	オブジェクト	パス名	必須, 定位置 1
NEWOBJ	新しいオブジェクト	文字値	必須, 定位置 2

トップ

オブジェクト (OBJ)

名前を変更するオブジェクトのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER (HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/ISERIES/INFOCENTER)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

新しいオブジェクト (NEWOBJ)

名前変更するオブジェクトの新しい名前を指定します。この名前にはディレクトリーの修飾子を含めることはできないため、既存のオブジェクトと同じディレクトリーに入ります。

トップ

RENの例

RENの代替コマンド名はRNMです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、RENはそれらのすべてで直接RNMに置き換えることができます。

例1:オブジェクト・リンクの名前変更

```
RNM  OBJ('DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
      NEWOBJ('JANUARY-1995-MONTHLY-PAYROLL-FILE')
```

このコマンドは、DECEMBER-1994-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルを JANUARY-1995-MONTHLY-PAYROLL-FILEという名前のファイルに名前変更します。

トップ

エラー・メッセージ: REN

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA08E

複数の名前がパターンと一致した。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A6

リンクの数がファイル・システムに使用可能な最大数を超えている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AA

スペースを獲得しようとしている時にエラーが起こった。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B4

NEWOBJパラメーターはスラッシュで始めることができない。

CPFA0B5

NEWOBJパラメーターにパスを含むことはできない。

CPFA0C4

オブジェクトがファイルではありません。オブジェクトは&1です。

[トップ](#)

戻り (RETURN)

実行可能場所:

- 対話式ジョブ (*INTERACT)
- バッチ・プログラム (*BPGM)
- 対話式プログラム (*IPGM)
- 対話式 REXX プロシージャ (*IREXX)

スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

戻り (RETURN)コマンドは、制御権を呼び出しスタック中の次位の呼び出しスタック項目またはジョブを制御するサブシステム・モニターに戻します。

このコマンドは、CLプログラムの外部で使用すると、F3キーと同じ機能を実行します。つまり、QCMD（システムに対するCLコマンドを解釈して処理する、IBM提供の制御言語処理プログラム）の最新の呼び出しから外部のプログラム・マネージャーに制御権を戻します。このコマンドは、CLプログラムの内部で使用すると、戻りプログラムを呼び出した時点で、呼び出し側プログラム内の次のコマンドまたは高水準言語ステートメントに制御権を戻します。このコマンドを経路指定ステップ（解釈CLコマンド処理プログラムであるQCMDプログラム、またはCLプログラム）内の最高呼び出しレベルで使用すると、経路指定ステップは終了されます。

注: サブシステムが次のコマンドから結果する制御付き終了をこうむっている時に、最高反復レベルから対話式にRETURNコマンドを入力すると、

- サブシステム終了 (ENDSBS)コマンド
- システム終了 (ENDSYS)コマンド
- システム電源遮断 (PWRDWN SYS)コマンド

照会メッセージを受け取らず、またコマンド入力画面に戻りたいと指示しなければ、ジョブ終了処理が実行されます。

このコマンドには、パラメーターはありません。

[トップ](#)

パラメーター

なし

[トップ](#)

RETURNの例

RETURN

このコマンドは、CLプログラム内で使用されると、最後の呼び出し側プログラム内の、このプログラムが呼び出された点の直後にあるCLコマンドまたは高水準言語ステートメントに制御権を戻します。このコマンドは、対話式ジョブで使用されると、QCMDの次の上位レベルに制御権を戻します。RETURNコマンドが経路指定ステップ内の最高呼び出しレベルのプログラム(QCMD)で実行されると、照会メッセージが送られ、ユーザーはコマンド入力画面に戻るオプションを選択することができます。そうでない場合は、経路指定ステップが通常どおり終了します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RETURN

*ESCAPE メッセージ

なし。

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト再編成 (RGZDLO)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト再編成(RGZDLO)コマンドによって、次を再編成することができます。

- すべての文書ライブラリー・オブジェクト (未ファイル・メール文書を任意に入れる)
- フォルダーに入っていないすべてのファイル済み文書
- 指定されたフォルダー内のすべての文書ライブラリー・オブジェクト
- すべての未ファイル・メール文書
- フォルダー名、文書名、またはシステム・オブジェクト名によって指定される個別の文書ライブラリー・オブジェクト

文書が再編成される時に、未使用の記憶域が除去されます。

制約事項:

- **FLR(*ANY)**または**FLR(*NONE)**のいずれかと一緒に**DLO(*ALL)**を指定するためには、*ALLOBJまたは*SECADMの特殊権限が必要です。
- 文書またはフォルダーを再編成するためには、*ALLOBJまたは*SECADMの特殊権限があるか、あるいはその文書またはフォルダーに対して少なくとも*CHANGE権限が必要で、さらにシステム・ディレクトリに登録されていなければなりません。
- 文書またはフォルダーを再編成するためには、排他アクセスが必要です。
- 未ファイル・メール文書を再編成するためには、システムのすべての文書およびフォルダー活動を停止しなければなりません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *ALL, *SYSOBJNAM	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE, *ANY	オプション, 定位置 2
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション
DAYS	最後の参照以降の日数	0-999, <u>0</u>	オプション
MAIL	未ファイル・メールの再編成	* <u>NO</u> , *YES, *ONLY	オプション

トップ

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

再編成中のオブジェクトの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

***ALL** すべての文書ライブラリー・オブジェクトが再編成されます。このパラメーターと一緒に **FLR(*NONE)**が指定された場合には、すべてのフォルダー外文書が再編成されます。このパラメーターと一緒に **FLR(*ANY)**が指定された場合には、すべてのファイル済み文書およびフォルダーが再編成されます。このパラメーターと一緒に **MAIL(*YES)**が指定された場合には、すべてのファイル済み文書およびフォルダーだけでなく、すべてのファイルされていないメール文書も再編成されます。このパラメーターと一緒に **MAIL(*ONLY)**が指定された場合には、ファイルされていないメール文書のみが再編成されます。このパラメーターと一緒に **FLR (フォルダー名)**が指定された場合には、すべてのフォルダーとフォルダー内の文書が再編成されます。

*SYSOBJNAM

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)パラメーターに指定されたシステム・オブジェクト名は、再編成中の文書またはフォルダーの識別に使用されます。

文書またはフォルダー名

再編成する文書またはフォルダーの名前を指定してください。次のもの再編成を指定すれば、**FLR**パラメーターを使用して文書を再編成することもできます。

- 再編成する文書が入っているフォルダー
- 再編成する文書が入っているネストされたフォルダーが入っているフォルダー

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

文書またはフォルダーが入っているフォルダーを指定します。文書またはフォルダーがフォルダー内に存在しない場合には、***NONE**が指定されます。

*NONE

文書またはフォルダーはフォルダー中に入っていません。**DLO(*ALL)**が指定された場合には、これは、フォルダー内に入っていないすべての文書を示します。**DLO (名前)**が指定された場合には、これは第1レベルのフォルダーを示します。

***ANY** すべての文書ライブラリー・オブジェクトが、フォルダー内に入っていないものも含めて再編成されます。この値が有効なのは、**DLO(*ALL)**が指定された場合だけです。

フォルダー名

文書またはフォルダーを入れるフォルダーの名前を指定してください。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

再編成中の個別のフォルダーまたは文書のシステム・オブジェクト名を指定します。

[トップ](#)

最後の参照以降の日数 (DAYS)

文書ライブラリー・オブジェクトを再編成する前に、これが最後に参照されてから経過する必要がある日数を指定します。

0 要求されたすべてのオブジェクトが再編成されます。

日数 文書ライブラリー・オブジェクトを再編成する前に、これが参照されてから経過する必要がある日数を指定します。

トップ

未ファイル・メールの再編成 (MAIL)

再編成されるオブジェクトを組み込むか、除去するか、あるいは未ファイルのメール文書に制限するかを指定します。

***NO** 未ファイルのメール文書は再編成されません。

***YES** 未ファイルのメール文書は再編成されます。この値が有効なのは、**DLO(*ALL)**および**FLR(*ANY)**が指定された場合だけです。

***ONLY**

未ファイルのメール文書だけが再編成されます。この値が有効なのは、**DLO(*ALL)**および**FLR(*ANY)**が指定された場合だけです。

トップ

RGZDLOの例

例1:フォルダーおよび文書の再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY)
```

このコマンドは、システム上に存在しているファイルされたフォルダーおよび文書のすべてを再編成します。

例2:フォルダー、文書、および未ファイル・メールの再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) MAIL(*YES)
```

このコマンドは、すべてのファイルされたフォルダー、文書、およびシステム上に存在しているすべて未ファイルのメール文書を再編成します。

例3:未ファイル・メールの再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) MAIL(*ONLY)
```

このコマンドは、システム上に存在している未ファイルのメール文書のすべてを再編成します。

例4:無フォルダー文書の再編成

```
RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*NONE)
```

このコマンドは、システム上に存在している無フォルダー文書のすべてを再編成します。

例5:フォルダー内の文書の再編成

RGZDLO DLO(*ALL) FLR(FLRA)

このコマンドは、フォルダーFLRAに入っているフォルダー内の文書のすべてを再編成してから、フォルダーFLRA内のフォルダーが再編成されます。

例6:個々の文書またはフォルダーの再編成

RGZDLO DLO(*SYSOBJNAM) SYSOBJNAM(DCN1371951)

このコマンドは、SYSOBJNAMオブジェクトで識別された個々の文書またはフォルダーを再編成します。

例7:文書の再編成

RGZDLO DLO(DOC1) FLR(FLRA)

このコマンドはフォルダーFLRA内のDOC1という名前の文書を再編成します。

例8:未参照文書の再編成

RGZDLO DLO(*ALL) FLR(*ANY) DAYS(30)

このコマンドは、過去30日間に参照されているファイルされた文書およびフォルダーを再編成します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RGZDLO

*ESCAPEメッセージ

CPF8AB1

&1オブジェクトが再編成されたが、&2オブジェクトは再編成されなかった。

CPF8AB2

RGZDLOコマンドが正しく実行されなかった。

[トップ](#)

物理ファイル・メンバー再編成 (RGZPFM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: 条件付き

パラメーター
例
エラー・メッセージ

物理ファイル・メンバー再編成(RGZPFM)コマンドは、データベース内の物理ファイルの1メンバーから削除済みレコードを除去(メンバーを圧縮)し、必要ならばそのメンバーを再編成します。

キー・ファイル(KEYFILE)パラメーターにキー順ファイルが示されている場合には、システムは、記憶域中のレコードの物理順序を物理ファイル・メンバーのアクセス・パスのキー順に合うように変更するか、あるいは物理ファイルの上に定義されている論理ファイル・メンバーのアクセス・パスに合うように変更することによって、メンバーを再編成します。再編成によって、プログラムがキー順物理ファイルまたはキー順論理ファイルを順序に読み取る時のファイル処理時間を短縮することができます。

メンバーが再編成されて、**KEYFILE(*NONE)**が指定されていないと、レコードが実際に記憶される順序が変更され、削除されたレコードはすべてファイルから除去されます。**KEYFILE(*NONE)**が指定された場合、あるいは省略時の値として使用される場合には、レコードの順序は変更されませんが、削除されたレコードはメンバーから除去されます。任意選択として、新しい順序番号とゼロの日付フィールドがレコードのソース・フィールドに入れられます。これらのフィールドは、メンバーが圧縮または再編成された後で変更されます。

注:

- このコマンドを取り消すと、システムは、再編成時に保守されないすべてのアクセス・パスを再作成します。**ALWCANCEL(*NO)**を指定した場合には、固有のアクセス・パスをもつ物理ファイル・メンバーに対する更新は、アクセス・パスが完全に再作成されるまでは防止されます。
- このコマンドを取り消した時に、**ALWCANCEL(*YES)**が指定されていた場合には、再編成が部分的に完了します。以後、同じパラメーターで別の再編成を行う場合には、最後の再編成が終了した個所から続行できます。
- RGZPFM**コマンドは、ジョブに対して現在有効となっているすべてのファイル一時変更を無視します。**FILE**および**KEYFILE**パラメーターに指定されているファイル名は、存在している可能性のあるこれらのファイルの一時変更に関係なく、再編成操作で実際に使用されるファイルを識別します。

制約事項:

- 物理メンバーの再編成時には、再編成中のファイルはロックされています。物理ファイル・メンバーに対して可能な並行アクセスの量を示すには、**ロック状態(LOCK)**パラメーターを指定できます。
- ユーザーは、再編成されるメンバーが含まれている物理ファイルに対するオブジェクト操作権、オブジェクト管理または変更権、すべてのデータ権限、およびそのライブラリーに対する実行権限をもっていなければなりません。また、**KEYFILE**パラメーターで指定されたファイルに対するオブジェクト操作権限およびそのライブラリーに対する実行権限も必要です。
- マルチスレッド・ジョブではこのコマンドは分散ファイルに対してスレッド・セーフではなく、タイプ***SNA**のリレーショナル・データベースを使用する分散ファイルに対して正常に実行されません。また、このコマンドは***SNA**タイプの分散データ管理機能(**DDM**)ファイルに対してもスレッド・セーフではなく、正常に実行されません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	データベース・ファイル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: データベース・ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
MBR	メンバー	名前, <u>*FIRST</u> , *LAST	オプション, 定位置 2
KEYFILE	キー・ファイル	単一値: <u>*NONE</u> , *FILE, *RPLDLTRCD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 論理ファイル	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: 論理ファイル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u> , *CURLIB	
	要素 2: メンバー	名前	
RBDACCPH	アクセス・パスの再作成	<u>*YES</u> , *OPTIMIZE, *NO	オプション
ALWCANCEL	取り消しの許可	<u>*NO</u> , *YES	オプション
LOCK	ロック状態	<u>*EXCL</u> , *EXCLRD, *SHRUPD	オプション
SRCOPT	ソース更新オプション	単一値: <u>*SAME</u> その他の値 (最大 2 回の繰り返し): *SEQNBR, *DATE	オプション
SRCSEQ	ソース・ステートメントの順序番号付け	要素リスト	オプション
	要素 1: 開始順序番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	
	要素 2: 増分番号	0.01-9999.99, <u>1.00</u>	
RCDFMT	レコード様式	名前, <u>*ONLY</u>	オプション

トップ

データベース・ファイル (FILE)

再編成されるメンバーが入っている物理ファイルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: データベース・ファイル

名前 物理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

メンバー (MBR)

再編成されるメンバーを指定します。

*FIRST

ファイル内の最初のメンバーまたは唯一のメンバーが再編成されます。

***LAST** ファイル内の最後のメンバーまたは唯一のメンバーが再編成されます。

名前 再編成するファイル・メンバーの名前を指定してください。

トップ

キー・ファイル (KEYFILE)

物理ファイル・メンバーの到着順序をキー順に一致するように変更するか、物理ファイル・メンバーを論理ファイル・メンバーの順序に再編成するか、あるいは再編成しないか、そのいずれかを指定します。このパラメーターに複数様式の論理ファイルおよびメンバーを指定した場合には、**レコード様式(RCDFMT)**パラメーターも指定しなければなりません。

注: 結合論理ファイルをキー・ファイルとして指定することはできず、このパラメーター中の論理ファイルに選択/除外アクセス・パスを指定することはできません。

単一値

*NONE

メンバーは再編成されません。削除済みレコードを取り除くことにより圧縮されるだけです。

***RPLDLTRCD**

メンバーは、ファイルの先頭にある削除済みレコードをファイルの終わりにある有効なレコードで置き換えることによって再編成されます。行が正確に現行到着順と一致しなければならない場合には、*RPLDLTRCDを使用しないでください。

***FILE** キー順アクセス・パスをもつ物理ファイル・メンバーの場合には、メンバー内のレコードの到着順序がキー順に一致するように変更されます。

要素1: 論理ファイル

物理ファイル・メンバーと関連した論理ファイルの名前およびライブラリーを指定してください。

修飾子1: 論理ファイル

ファイル名

キー・ファイルとして使用する論理ファイルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ファイルを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: メンバー

名前 物理ファイル・メンバーの再編成に使用する順序をもつ論理ファイルのメンバーを指定してください。

[トップ](#)

アクセス・パスの再作成 (RBDACCPH)

メンバーに関する有効なアクセス・パス(KEYFILEとして指定されたアクセス・パスまたはMAINT(*REBLD)アクセス・パス以外)を再作成または保守するかどうかを指定します。

***YES** アクセス・パスは、再編成操作の終わりに同期的に再作成されます。

*OPTIMIZE

アクセス・パスが再編成操作の終わりで非同期的に再作成されるか、再編成時に保守されるかのいずれかですが、それは最も早くアクセス・パスを作成することになるメソッドに基づいています。

***NO** アクセス・パスは再編成時に保守されます。

*NOを指定した場合には、ALWCANCEL(*YES)も指定しなければなりません。

[トップ](#)

取り消しの許可 (ALWCANCEL)

再編成を取り消せるようにするかどうかを指定します。

***NO** 再編成は取り消すことができません。ジョブが終了し、データの再編成が完了しない場合には、障害が起こった時点までの変更は廃棄されます。

*NOを指定した場合には、KEYFILE(*RPLDLTRCD)およびRDBACCPH(*NO)は指定してはならず、LOCK(*EXCL)も指定しなければなりません。

***YES** 再編成は取り消すことができます。再編成が完了前に取り消された場合には、同じパラメーターでの後続の再編成は、一般的に終了した個所から続行されます。再編成が取り消されてから行われた変更の数が多すぎる場合には、再編成は続行するのではなく、再開できます。

[トップ](#)

ロック状態 (LOCK)

物理ファイル・メンバーに対して獲得するロックを指定します。ロック状態は、再編成中に他のジョブで可能な並行アクセスの量を決定します。

***EXCL**

排他ロックが獲得されます。別のジョブからの物理ファイル・メンバーへの並行アクセスは許されません。

***EXCLRD**

排他的読み取り可能ロックが獲得されます。別のジョブからの物理ファイル・メンバーへの並行読み取りアクセスは許可されます。

*EXCLRDを指定した場合には、ALWCANCEL(*YES)も指定しなければなりません。

***SHRUPD**

共用更新ロックが獲得されます。別のジョブからの物理ファイル・メンバーへの並行更新、削除、および挿入アクセスは許可されます。

*SHRUPDを選択した場合には、行の結果の順序はKEYFILEキーワードで要求されたものと正確に一致しない場合があります。行は指定された順序に最も近い順序で再編成されますが、並行した更新、削除、および挿入操作では一部の行が再編成されない場合があります。行が正確に到着順(*NONE)またはキー順ファイルの順序と一致しなければならない場合には、*SHRUPDを使用しないでください。

*SHRUPDを指定した場合には、ALWCANCEL(*YES)も指定しなければなりません。

注: ロック状態の詳細については、CLプログラミング (SD88-5038)を参照してください。

トップ

ソース更新オプション (SRCOPT)

物理ソース・ファイルの場合に限り、メンバーが順序番号フィールドに新しい番号を入れるか、日付フィールドにゼロを入れるか、あるいはこの両方のフィールドを変更するか、そのいずれかを指定します。変更はレコードの圧縮または再編成が済んだ後で行なわれます。

単一値

***SAME**

レコードの順序番号フィールドおよび日付フィールドは変更されません。

その他の値

***SEQNBR**

レコードの順序番号フィールドに新しい順序番号が入れられます。SRCSEQパラメーターは、開始値および追加される値を指定します。

***DATE**

レコードの日付フィールドに空の日付(000000)が入れられます。

トップ

ソース・ステートメントの順序番号付け (SRCSEQ)

SRCOPTパラメーターに*SEQNBRも指定した時に限り、ソース・ファイル・メンバーの最初のレコードに与える順序番号、およびそのメンバーの他のすべてのレコードの番号を付け直すために使用する増分値を指定します。このパラメーターを指定しないで、メンバーに番号の付け直しが行なわれる場合には、順序番号および増分値はともに1.00とみなされます。

要素1: 開始順序番号

1.00 メンバーの最初のソース・レコードが、順序番号0001.00になります。

0.01-9999.99

メンバーの最初のソース・レコードの順序番号を指定してください。最大4桁の整数または最大2桁の小数部を指定することができます。開始値に小数部を含める場合には、小数点を使用しなければなりません。

要素2: 増分番号

1.00 メンバー内のソース・レコードの順序番号は、整数の増分値1を用いて付け直されます（たとえば、1.00, 2.00, 3.00...など）。 .

0.01-9999.99

最初のレコードの後にあるすべてのソース・レコードの番号を付け直すための増分値を指定してください。4桁を越えない整数または2桁を越えない小数部を指定することができます。増分値に小数部を含める場合には、小数点を使用しなければなりません。

たとえば、SRCSEQ(5000 10)を指定した場合には、再編成されるメンバーの中の最初のレコードの番号は5000.00となり、2番目は5010.00、3番目は5020.00などとなります。SRCSEQ(*N .25)を指定した場合には、レコードの番号は1.00, 1.25, 1.50, 1.75, 2.00, などとなります。開始値を.01として増分値を.01と指定した場合には、使用可能な固有の順序番号が999,999個あることとなります。最大順序番号9999.99に達した場合には、残りのレコードにも順序番号9999.99が割り当てられます。

[トップ](#)

レコード様式 (RCDFMT)

複数様式論理ファイルの順序に従って物理ファイル・メンバーを再編成する場合には、レコード様式名を指定します。

*ONLY

キー・ファイル (**KEYFILE**)パラメーターによって指定されている論理ファイルにはレコード様式が1つしかありません。その様式が、物理ファイル・メンバーの再編成のために使用されます。

名前 複数様式論理ファイルの場合に、物理ファイル・メンバーの再編成に使用するレコード様式を1つ選んで、その名前を指定してください。

[トップ](#)

RGZPFMの例

例1:レコードの削除による再編成

```
RGZPFM FILE(PAYROLL) MBR(MBR1)
```

このコマンドは、PAYROLLファイルのメンバーMBR1を、そのファイル・メンバーから削除済みレコードを除去して圧縮します。

例2:削除済みレコードの置き換えによる再編成

```
RGZPFM FILE(PAYROLL) MBR(MBR1) KEYFILE(*RPLDLTRCD)
ALWCANCEL(*YES) LOCK(*EXCLRD)
```

このコマンドは、PAYROLLファイルのメンバーMBR1を、そのファイルの先頭にある削除済みレコードをファイルの終わりにある有効なレコードで置き換えることによって圧縮します。再編成の進行中にコマンドを取り消し、他のジョブがPAYROLLファイルからデータを読み取れるようにすることができます。

例3:キー順での再編成

```
RGZPFM FILE(QCLSRC) MBR(CLMBR2) SRCOPT(*SEQNBR *DATE)
        KEYFILE(*FILE) SRCSEQ(1.00 .25)
```

このコマンドは、CLソース・ファイルQCLSRCのメンバーCLMBR2を、順序番号フィールドをキーとして使用し、キー順で再編成します。元のメンバーが再編成されると、再編成されたメンバーは新しい順序番号(1.00から始まり、.25ずつ増える)をもち、すべてのレコードにヌルの日付(000000)が入れられます。

トップ

エラー・メッセージ: RGZPFM

*ESCAPEメッセージ

CPF2981

&2のファイル&1のメンバー&3は再編成されなかった。

CPF3135

メンバー&2のアクセス・パスはすでに使用中である。

CPF32B8

分散ファイル・エラー、理由コード&3。

CPF32CF

分散ファイル・エラー、理由コード&3。

CPF32C3

分散ファイル・エラー、レベルIDが一致していない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9809

ライブラリー&1をアクセスすることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

*NOTIFYメッセージ

CPF2985

(G C)ソース順序番号が使用できる最大値を超えている。

トップ

通信装置解放 (RLSCMNDEV)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信装置解放(RLSCMNDEV)コマンドは、通信装置保留(HLDCMNDEV)コマンドで保留された特定の装置の通信機能を復元します。

制約事項: このコマンドは、*EXCLUDEの共通認可で出荷され、QPGMR, QSYSOPR, QSRV,およびQSRVBASユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用する私用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DEV	装置	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

装置 (DEV)

保留後に通信を解放する装置の名前を指定します。装置の名前を指定してください。HLDCMNDEVコマンドによって通信を保留することができる装置は、次の通りです。

DEV値

装置

- 3180 表示装置
- 3277 表示装置
- 3278 表示装置
- 3279 表示装置
- 3287 印刷装置 (ワークステーション)
- 5219 印刷装置 (ワークステーション)
- 5224 印刷装置 (ワークステーション)
- 5225 印刷装置 (ワークステーション)
- 5251 表示装置
- 5252 表示装置
- 5256 印刷装置 (ワークステーション)
- 5291 表示装置
- 5292 表示装置

PLU1 1次論理装置, タイプ1 (SNA用)
BSC 2進データ同期装置 (基本およびRJE)
B SCT この&SYS.システムはBSCマルチポイント従属端末です。
APPC 拡張プログラム間通信機能ネットワーク内の論理装置
これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RLSCMNDEVの例

RLSCMNDEV DEV(WSPR05)

このコマンドは、現在保留されている装置WSPR05の通信能力を復元します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RLSCMNDEV

***ESCAPE** メッセージ

CPF5920

装置&1がオフに構成変更されているか、あるいは診断モードになっている。

CPF5921

装置&1は通信装置でない。

CPF5935

コマンドの処理中にエラーが起こった。

CPF5984

機能の実行が認可されていない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

[トップ](#)

配布待ち行列の解放 (RLSDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列解放(RLSDSTQ)コマンドは、保留状況の配布待ち行列を解放して、送信できるようにします。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロファイルには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1
PTY	優先順位	*NORMAL, *HIGH	必須, 定位置 2

トップ

配布待ち行列 (DSTQ)

解放される配布待ち行列の名前を指定します。この待ち行列は、前に、配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドまたは配布待ち行列追加(ADDDSTQ)コマンドを使用して構成されているものでなければなりません。

これは必須パラメーターです。

トップ

優先順位 (PTY)

指定された待ち行列の通常優先順位部分が解放されるか、高優先順位部分が解放されるかを指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*NORMAL

通常優先順位待ち行列は、サービス・レベルがデータ低の配布用です。

*HIGH 高優先順位待ち行列は、サービス・レベルが高速、状況、またはデータ高の配布用です。

注: この値は、SYSTEMVIEW配布サービス(SVDS)タイプの配布待ち行列には正しくありません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RLSDSTQの例

例1: 待ち行列の通常の優先順位部分の解除

```
RLSDSTQ DSTQ(CHICAGO) PTY(*NORMAL)
```

このコマンドは、CHICAGO配布待ち行列の通常の優先順位部分を解除します。

例2: 待ち行列の高優先順位部分の解除

```
RLSDSTQ DSTQ(ATLANTA) PTY(*HIGH)
```

このコマンドは、ATLANTA配布待ち行列の優先順位の高い部分を解除します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RLSDSTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8805

システム名/グループの特殊値が許されていないか、あるいは正しく使用されていない。

CPF8806

システム名またはシステム・グループに値&1が正しくない。

CPF881C

*SVDS配布待ち行列&1に高優先順位待ち行列を使用することはできない。

CPF8812

配布待ち行列の処理中にエラーが起こった。

CPF8816

QSNADS通信サブシステムが活動していない。

CPF8817

配布待ち行列が保留中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ファイル・システム・ロックの解除 (RLSIFSLCK)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ファイル・システム・ロックの解除 (RLSIFSLCK)コマンドは、指定されたNFS クライアントによって保留されているすべてのネットワーク・ファイル・システム(NFS)のバイト範囲のロックを解除するか、指定されたオブジェクトに対して保留されているすべてのバイト範囲の（任意のタイプの）ロックを解除するために使用することができます。このコマンドを使用する必要があるのは、通常の手段を用いて開放することができない資源を解放するためだけです。

バイト範囲のロックの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTERのサイト [HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)で、API解説（英文）またはOS/400 NFSサポート (SC88-4019)のFCNTL APIを参照してください。

制約事項:

1. このコマンドを使用するには、入出力(I/O)システム構成(*IOSYSCFG) 特殊権限が必要です。
2. ディレクトリーのパス名接頭部に対する実行(*X)権限が必要です。
3. ロックを解除するオブジェクトに対する読み取り(*R) 権限が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	文字値	オプション、位置 1
OBJ	オブジェクト	パス名	オプション、位置 2

トップ

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

ローカル・ファイルに対するNFS関連ロックを解除するリモート・システムのホスト名またはIPアドレスを指定します。

正常に完了するには、リモート・システム名が有効になっていなければなりません。TCP/IPメニュー構成 (CFGTCP)コマンドでTCP/IPホスト・テーブル項目処理オプションを使用して、ホスト名をインターネット・アドレスに割り当てることができます。また、リモート・ネーム・サーバーは、リモート・システム名をIPアドレスにマップするために使用することもできます。リモート・ネーム・サーバーを指定するには、CFGTCPメニューのリモート・ネーム・サーバー変更オプションを使用します。

ホスト名は次の規則に従わなければなりません。

- 最初の文字はA-Zまたは0-9でなければなりません。
- 最後の文字はA-Zまたは0-9のいずれかでなければなりません。
- 大文字および小文字を使用できますが、区別はされません。
- ブランク()は使用できません。
- 特殊文字のピリオド(.)およびマイナス(-)を使用することができます。
- ピリオド(.)で区切られた名前の各部分の長さは63桁を超えることができません。
- 名前の長さは1-255桁の範囲内でなければなりません。

'リモート・ロケーション名'

ローカル・ファイルに対するNFS関連ロックを解除するリモート・システムのホスト名またはIPアドレスを指定します。

RMTLOCNAMEまたはオブジェクト (**OBJ**)パラメーターのいずれか（両方でなく）を指定する必要があります。

トップ

オブジェクト (OBJ)

バイト単位のすべてのロックを解除するオブジェクトのパス名を指定します。これは、ロックのタイプまたはそれが処理中のプロセスのタイプとは無関係に、そのオブジェクトに対するすべてのロックを解除します。

'パス名'

バイト単位のすべてのロックを解除するローカル・オブジェクトのパス名を指定します。

パス名を指定する場合の詳細については、[ISERIES INFORMATION CENTER \(HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER\)](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter)にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

リモート・ロケーション (**RMTLOCNAME**)または**OBJ**パラメーターのいずれか（両方でなく）を指定する必要があります。

トップ

RLSIFSLCKの例

例1: リモート・システムのロックの解除

```
RLSIFSLCK RMTLOCNAME('RAINBOW1')
```

このコマンドは、*RAINBOW1*という名前のシステムによってローカル・ファイルの保持されたNFS関連ロックを解除します。

例2: ローカル・オブジェクトのロックの解除

```
RLSIFSLCK OBJ('/CUSTACCOUNTS/MAY')
```

このコマンドは、オブジェクト/*CUSTACCOUNTS/MAY*に保持されたすべてのバイト範囲のロックを解除します。

トップ

エラー・メッセージ： RLSIFSLCK

*ESCAPEメッセージ

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0B6

CPYのOBJ中のパターンではTOOBJパラメーターは使用できない。

[トップ](#)

ジョブ解放 (RLSJOB)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ解放 (RLSJOB)コマンドは、ジョブ保留 (HLDJOB)コマンドによってジョブが処理を保留された後で、あるいはバッチ・ジョブ (BCHJOB)コマンドまたはジョブ投入 (SBMJOB)コマンドによって保留ジョブとしてジョブがシステムに投入された場合に、処理に適格なジョブにします。解放されるジョブは、保留時にジョブ待ち行列上にあるか、出力待ち行列上にあるか、またはサブシステムで活動状態になっている（システム資源を競合している）場合があります。ジョブを解放すると、そのジョブ中のすべてのスレッドも解放されることとなります。また、ジョブ保留 (HLDJOB)コマンドの**スプール・ファイルの保留 (SPLFILE)**パラメーターに*YESが指定されているために、保留されているスプール出力ファイルも解放されます。このコマンド(RLSJOB)を出すスレッドのライブラリー名スペース内の出力待ち行列にあるスプール出力ファイルのみが解放されます。**スプール・ファイル・アクション (SPLFACN)**ジョブ属性が*DETACHで、スプール・ファイルの保留中にジョブが終了された場合は、RLSJOBコマンドを使用してそのスプール・ファイルを解放することはできません。ジョブをシステムから除去した後にスプール・ファイルを解放するには、スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)コマンドを使用してください。

制約事項: コマンド発行側は、解放されるジョブのジョブ・ユーザー識別と同じユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。また、コマンド発行側はジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限をもつユーザー・プロファイルで実行しなければなりません。

ジョブ・ユーザー識別はユーザー・プロファイルの名前であり、これによってジョブは他のジョブに認識されます。これについては、WORK MANAGEMENTに詳細な説明があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	修飾ジョブ名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
DUPJOB OPT	重複ジョブ・オプション	*SELECT, *MSG	オプション

トップ

ジョブ名 (JOB)

解放するジョブの名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ジョブ名

名前 解放するジョブの名前を指定します。

修飾子2: ユーザー

名前 そのもとでジョブが開始されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

修飾子3: 番号

000000-999999

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

注: ユーザー名またはジョブ番号を指定しなかった場合には、システムに現在あるすべてのジョブのジョブ名が検索されます。指定した名前が複数個見つかった場合には、ジョブ修飾子を指定しなければなりません。

[トップ](#)

重複ジョブ・オプション (DUPJOB OPT)

このコマンドで重複ジョブが見つかった時に取られる処置を指定します。

***SELECT**

対話式セッション中に重複しているジョブが見つかった時には、選択画面が表示されます。そうでない場合には、メッセージが出されます。

***MSG** 重複しているジョブが見つかった時には、メッセージが出されます。

[トップ](#)

RLSJOBの例

例1:処理のためにジョブを保留解除する

```
RLSJOB JOB(PAYROLL)
```

このコマンドは、ジョブPAYROLLを処理のために保留解除します。対応するHLDJOBコマンドがSPLFILE(*YES)を指定していた場合は、ジョブPAYROLLのスプール・ファイルも保留解除されます。

例2:処理のためにジョブを保留解除する

```
RLSJOB JOB(DEPTXYZ/PAYROLL)
```

このコマンドは、ユーザー・プロファイルDEPTXYZを通じてユーザーによって投入され、後で保留された、PAYROLLという名前のジョブを保留解除します。システム内に重複名をもつジョブが存在する時は、ジョブ名の修飾形式が使用されます。

エラー・メッセージ： RLSJOB

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1321

ジョブ&1ユーザー&2ジョブ番号&3が見つからない。

CPF1332

重複したジョブ名の終わり。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1341

読み取りプログラムまたは書き出しプログラム&3/&2/&1は、ジョブ名として使用できない。

CPF1343

ジョブ&3/&2/&1は、この機能に対して正しくないジョブ・タイプである。

CPF1344

ジョブ&3/&2/&1を制御する権限がない。

CPF1349

ジョブ&3/&2/&1は開放されなかった。このジョブは保留されていません。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

ジョブ待ち行列解放 (RLSJOBQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ待ち行列解放(RLSJOBQ)コマンドは、指定されたジョブ待ち行列上でHLDJOBQ（ジョブ待ち行列保留）コマンドによって前に保留されているジョブをさらに処理できるように解放します。ジョブがHLDJOBQコマンド以外のものによって保留されていた場合には、そのジョブは解放されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOBQ	ジョブ待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ジョブ待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

ジョブ待ち行列 (JOBQ)

これは必須パラメーターです。

さらに処理できるよう解放するジョブ待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブ待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

そのジョブ待ち行列があるライブラリーを指定してください。

ジョブ待ち行列名

解放したいジョブ待ち行列の名前を指定してください。

[トップ](#)

RLSJOBQの例

RLSJOBQ JOBQ(QBATCH)

HLDJOBQコマンドによって保留されていたジョブ待ち行列QBATCH上のジョブが、保留中に待ち行列に入れられたジョブも含めて、処理に適格となります。HLDJOBコマンドによって保留されていたか、あるいは保留状態のジョブ待ち行列に入れられた特定のジョブは解放されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RLSJOBQ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3307

ジョブ待ち行列&1が&2に見つからなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3423

ライブラリー&2のジョブ待ち行列&1は解放されなかった。ジョブ待ち行列は保留されています。

[トップ](#)

ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ジョブ・スケジュール項目解放 (RLSJOBSCDE)コマンドによって、ジョブ・スケジュール内の項目、すべての項目、または項目のセットを解放することができます。各ジョブ・スケジュール項目には、ジョブを一度、または定期的なスケジュール間隔で自動的に投入するために必要な情報が入っています。

ジョブ・スケジュール項目を解放する場合には、項目の保留中にジョブの投入がスケジュールされた日付および時刻を過ぎても、ジョブは直ちに投入されません。ジョブは、投入がスケジュールされた将来の日付で投入されます。

制約事項:項目を解放するには、ジョブ制御(*JOBCTL)特殊権限が必要です。そうでない場合には、追加した項目だけしか解放することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
JOB	ジョブ名	総称名, 名前, *ALL	必須, 定位置 1
ENTRYNBR	項目番号	000001-999999, * ONLY , *ALL	オプション

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

ジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

***ALL** ユーザーに権限があるすべてのジョブ・スケジュール項目が解放されます。JOB(*ALL)が指定された場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。

総称名 ジョブ・スケジュール項目を検索するために使用される総称名を指定します。総称名は1つまたは複数の文字とその後にアスタリスク(*)が付いた文字ストリング (たとえば, ABC*)です。総称名を指定した場合には、その総称名で始まる名前のすべての項目 (ユーザーに権限がある場合) が解放されます。総称名を指定した場合には、ENTRYNBR(*ALL)も指定しなければなりません。総称 (接頭部) 名にアスタリスクが含まれていない場合には、システムは完全なジョブ名と見なします。

名前 解放したいジョブ・スケジュール項目の名前を指定します。

[トップ](#)

項目番号 (ENTRYNBR)

解放したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。項目が正常に追加された時に送信されるメッセージには、この項目番号が入っています。また、ジョブ・スケジュール項目処理 (WRKJOBSCDE)コマンドを使用して項目番号を判別することもできます。選択した項目の項目番号を表示するには、WRKJOBSCDE画面でF11キーを押してください。

*ONLY

ジョブ・スケジュールの1つの項目だけがJOBパラメーターに指定されたジョブ名を持ちます。
*ONLYが指定され、複数の項目が指定されたジョブ名を持つ場合には、項目は解放されずに、エラー・メッセージも送信されません。

***ALL** 指定されたジョブ名を持つすべての項目が解放されます。

000001-999999

解放したいジョブ・スケジュール項目の番号を指定します。

トップ

RLSJOBSCDEの例

例1:すべてのジョブ・スケジュール項目の解放

```
RLSJOBSCDE JOB(*ALL) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのジョブ・スケジュール項目を解放します。

例2:個々のジョブ・スケジュール項目の解放

```
RLSJOBSCDE JOB(PAYROLL) ENTRYNBR(*ONLY)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の項目PAYROLLを解放します。

例3:総称ジョブ・スケジュール項目の解放

```
RLSJOBSCDE JOB(PAY*) ENTRYNBR(*ALL)
```

このコマンドは、ジョブ・スケジュール内の、名前に接頭部PAYを持つすべての項目を解放します。

トップ

エラー・メッセージ： RLSJOBSCDE

*ESCAPE メッセージ

CPF1628

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4が見つからなかった。

CPF1629

ジョブ・スケジュール&1に対して認可されていない。

CPF1630

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に対して認可されていない。

CPF1632

ジョブ・スケジュール項目&3,番号&4に損傷がある。

CPF1636

指定されたジョブ名の項目が複数検出された。

CPF1637

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は使用中。

CPF1638

ジョブ・スケジュール項目&3番号&4は使用中。

CPF1640

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1は存在していません。

CPF1641

ライブラリー&2のジョブ・スケジュール&1に損傷がある。

CPF1645

指定された名前のジョブ・スケジュール項目が見つからない。

CPF1646

総称名が指定された時には項目番号は*ALLでなければならない。

CPF1648

&3項目が正常に解放された。&4個の項目が解放されていない。

CPF1649

項目番号は*ALLでなければならない。

[トップ](#)

出力待ち行列解放 (RLSOUTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出力待ち行列解放(RLSOUTQ)コマンドは、指定された出力待ち行列上のスプール・ファイルを解放します。ファイルが、スプール・ファイル保留(HLDSPLF)コマンドによって保留されているか、あるいは保留状態で作成された場合には、解放されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
OUTQ	出力待ち行列	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: 出力待ち行列	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

出力待ち行列 (OUTQ)

これは必須パラメーターです。

この待ち行列上のファイルをここで処理できるように、解放する出力待ち行列の名前を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

出力待ち行列を見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー・リストに現行ライブラリー項目がない場合には、QGPLが使用されます。

ライブラリー名

出力待ち行列が入っているライブラリーを指定してください。

出力待ち行列名

解放したい出力待ち行列の名前を指定します。

[トップ](#)

RLSOUTQの例

RLSOUTQ OUTQ(PRINTER)

PRINTERという名前の出力待ち行列上で、HLDOUTQコマンドによって保留されていたスプール・ファイルが将来の処理のために解放されます。これには、保留中に待ち行列に入れられたスプール・ファイルが含まれますが、HLDSPLFコマンドによって保留されていたかまたは保留状態の待ち行列に入れられた特定のファイルは除きます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RLSOUTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF2207

ライブラリー&3のタイプ*&2のオブジェクト&1の使用を認可されていない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3424

ライブラリー&2の出力待ち行列&1は解放されなかった。出力待ち行列は保留されていません。

[トップ](#)

読み取りプログラム解放 (RLSRDR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

読み取りプログラム解放(RLSRDR)コマンドは、ジョブ待ち行列のジョブの処理を続行できるように、指定されたスプール読み取りプログラムを解放します。指定された読み取りプログラムは直前のHLDRDR（読み取りプログラム保留）コマンドによって保留されているものです。この読み取りプログラムが保留された時には、データは失われません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
RDR	読み取りプログラム	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

読み取りプログラム (RDR)

これは必須パラメーターです。

解放したいスプーリング読み取りプログラムの名前を指定します。

読み取りプログラム名

解放する読み取りプログラムの名前を指定します。

[トップ](#)

RLSRDRの例

RLSRDR RDR(DISKETTE)

このコマンドは、DISKETTEという名前のディスク読み取りプログラムを追加処理のために解放します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RLSRDR

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1351

ジョブ&3/&2/&1のサブシステムで機能チェックが起こった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF3312

読み取りプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3315

読み取りプログラム&3/&2/&1は解放されなかった。読み取りプログラムは保留されていません。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3490

指定した読み取りプログラムに対して権限がない。

[トップ](#)

リモート・フェーズの解放 (RLSRMTPHS)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

リモート・フェーズ解放(RLSRMTPHS)コマンドは、AS/400とシステム/370 NETVIEW配布管理機能(NDM)ホスト・システムとの間でセッションを開始します。NDM によってフェーズが解放される（またはその解放が正常に行なわれない）と、セッションは終了します。

このコマンドを実行する時には、次の考慮事項が適用されます。

- PLANパラメーターで指定されたNDMの計画が存在していて、APPIDパラメーターで指定されたNDMホスト適用業務にすでに投入されていなければならない。
- PHASEパラメーターで指定されたNDMフェーズが存在していて、PLANパラメーターで指定されたNDMの計画の一部でなければならない。
- PHASEパラメーターで指定されたNDMフェーズは、ホスト・システムでHELDの状態になっていなければならない。
- DEVパラメーターで指定された装置はSNUF装置でなければならない、プログラム開始要求(PSR)可能でなければならない。
- このコマンドは、NDMホスト・システムに対するホスト・インターフェース・ノードとして現在機能中のノードでだけ実行しますが、解放は、このコマンドを出しているノードが宛先のNDMフェーズだけに制約されてはいません。このホスト・インターフェース・ノードを共有するすべてのノードに任意のフェーズを解放することができます。

制約事項: このコマンドを使用するためには、ユーザーはQPGMRまたはQSYSOPRとしてサインオンするか、あるいは*ALLOBJ権限を持っていなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PHASE	フェーズ	通信名	必須, 定位置 1
PLAN	計画	通信名	必須, 定位置 2
APPID	適用業務識別コード	名前	必須, 定位置 3
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	必須, 定位置 4
DEV	装置	名前	必須, 定位置 5

[トップ](#)

フェーズ (PHASE)

NETVIEW配布管理機能の解放するフェーズの名前を指定します。このフェーズは、PLAN パラメーターで指定された計画の一部としてNDMホスト・システムに存在していて、HELDの状態になっていなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

計画 (PLAN)

解放するフェーズが入っているNETVIEW配布管理機能計画の名前を指定します。この計画は、NDMホストに存在していなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

適用業務識別コード (APPID)

PHASEパラメーターによって指定されたフェーズ名が投入されたNETVIEW配布管理機能適用業務プログラムの名前を指定します。これは、生成された時にMVSに認識されたNDMと同じ名前です。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

リモート・フェーズの解放 (RMTLOCNAME)

この装置が通信しているリモート・ロケーションの名前を指定します。これは、DEVパラメーターによって指定された装置のRMTLOCNAMEパラメーターに入力した名前と同じ名前であればなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

装置記述 (DEV)

このコマンドの結果として開始される通信セッション用に使用されるAS/400装置の装置名を指定します。この装置はSNUF装置で、PSR可能でなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RLSRMTPHSの例

```
RLSRMTPHS  PHASE(MESSAGE)  PLAN(ALEXPLAN)  APPID(DSXNDM)
           RMTLOCNAME(A083187)  DEV(SNUFDEV)
```

このコマンドは、リモート・ロケーション名A083187で装置SNUFDEVを使用してセッションを開始し、SYSTEM/370 NETVIEW DISTRIBUTION MANAGERのホスト適用業務プログラムDSXNDMと接続します。セッション接続が行なわれると、フェーズMESSAGE（計画ALEXPLANの一部として）が解放を試行します。解放が正常終了した場合には、メッセージCPC8889 (NETVIEW DISTRIBUTION MANAGERによって解放されたフェーズMESSAGE)が送信されます。解放が正常終了しなかった場合には、メッセージCPF8880 (NETVIEW DISTRIBUTION MANAGERによって解放されなかったフェーズMESSAGE)が送信されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RLSRMTPHS

*ESCAPEメッセージ

CPF8880

NETVIEW配布管理機能によってフェーズ&1が解放されなかった。

[トップ](#)

スプール・ファイル解放 (RLSSPLF)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

スプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドは、出力待ち行列に指定されたファイルを解放します。解放されるファイルは、常にファイルの先頭から行われます。RLSSPLFコマンドは、次によって保留されたスプール・ファイルを開放することができます。

- HLDSPLFコマンド
- 装置ファイルで、または一時変更コマンドでHOLD(*YES)が指定されている
- 装置ファイルで、または一時変更コマンドで、あるいはCHGSPLFAコマンドでSAVE(*YES)が指定されている
- OPTION(*BYPASS)が指定されたHLDWTRコマンドおよびRLSWTRコマンド
- 用紙を印刷装置に入れるために、操作員がシステム要求を取り消した

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILE	スプール・ファイル	名前, *SELECT	必須, 定位置 1
JOB	ジョブ名	単一値: * その他の値: 修飾ジョブ名	オプション, 定位置 2
	修飾子 1: ジョブ名	名前	
	修飾子 2: ユーザー	名前	
	修飾子 3: 番号	000000-999999	
SPLNBR	スプール・ファイル番号	1-999999, *ONLY, *LAST, *ANY	オプション, 定位置 3
JOBSYSNAME	ジョブ・システム名	名前, *ONLY, *CURRENT, *ANY	オプション
CRTDATE	作成されたスプール・ファイル	単一値: *ONLY, *LAST その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: 作成日	日付	
	要素 2: 作成時刻	時刻, *ONLY, *LAST	
SELECT	ファイル選択	要素リスト	オプション
	要素 1: ユーザー	名前, *CURRENT, *ALL	
	要素 2: 印刷装置	名前, *ALL, *OUTQ	
	要素 3: 用紙タイプ	文字値, *ALL, *STD	
	要素 4: ユーザー・データ	文字値, *ALL	
要素 5: ASP	1-32, *ALL, *ASPDEV		
ASPDEV	ASP装置	名前, *, *SYSBAS, *CURASPGRP	オプション

トップ

スプール・ファイル (FILE)

これは必須パラメーターです。

ここで印刷装置やディスクなどの出力装置に書き出すことができるように、解放されるスプール・ファイルの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*SELECT

ファイル選択プロンプト(SELECTパラメーター)に指定された選択値を満たすすべてのスプール・ファイルが解放されます。この値は、**ジョブ名**プロンプト(JOBパラメーター)、**スプール・ファイル番号**プロンプト(SPLNBRパラメーター)、**ジョブ・システム名**プロンプト(JOBSYSNAMEパラメーター)、または**作成されたスプール・ファイル**プロンプト(CRTDATEパラメーター)で指定された値と一緒に使用することはできません。

スプール・ファイル名

解放するスプール・ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

さらに処理用に解放しているファイルを作成したジョブの名前を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*
- このスプール・ファイル解放(RLSSPLF)コマンドを出したジョブが、スプール・ファイルを作成したジョブと同じです。

ジョブ名

解放したいファイルを作成したジョブの名前を指定します。

ユーザー名

そのもとでジョブが実行されるユーザー・プロファイルを識別するユーザー名を指定してください。

ジョブ番号

システム割り当てジョブ番号を指定してください。

[トップ](#)

スプール・ファイル番号 (SPLNBR)

解放したいスプール・ファイルの番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

*ONLY

ジョブ内の1つのスプール・ファイルだけが指定されたファイル名をもっています。したがって、スプール・ファイルの番号は不要です。

*LAST 指定されたファイル名の最高の番号を持つスプール・ファイルが、解放されるファイルになります。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、スプール・ファイル番号は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、スプール・ファイル番号よりジョブ・システム名パラメーターまたはスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

スプール・ファイル番号

指定されたファイル名を持つ、解放するスプール・ファイルの番号を指定してください。

[トップ](#)

ジョブ・システム名 (JOBSYSNAME)

スプール・ファイルを作成したジョブ(JOBパラメーター) が実行されたシステムの名前を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、およびスプール・ファイル番号のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびスプール・ファイル作成日時を持つスプール・ファイルは、1つです。

***CURRENT**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、および作成日時を持つ現行システム上で作成されたスプール・ファイルが使用されます。

***ANY** 使用するスプール・ファイルを決定するのに、ジョブ・システム名は使用されません。スプール・ファイルの選択時に、ジョブ・システム名よりスプール・ファイル作成日時パラメーターが優先されるようにする時には、この値を使用してください。

ジョブ・システム名

スプール・ファイルを作成したジョブが実行されたシステムの名前を指定します。

[トップ](#)

作成されたスプール・ファイル (CRTDATE)

スプール・ファイルが作成された日時を指定します。このパラメーターは、ジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名のパラメーター要件が一致した後に考慮されます。

可能な単一値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、およびジョブ・システム名の最後の作成日時を持つスプール・ファイルが使用されます。

可能な作成日の値は次の通りです。

スプール・ファイル作成日

スプール・ファイルが作成された日付を指定します。

指定できる作成時刻の値は次の通りです。

***ONLY**

指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日を持つスプール・ファイルは、1つです。

***LAST** 指定されたジョブ名、ユーザー名、ジョブ番号、スプール・ファイル名、スプール・ファイル番号、ジョブ・システム名、およびスプール・ファイル作成日の最後の作成時刻を持つスプール・ファイルが使用されます。

スプール・ファイル作成時刻

スプール・ファイルが作成された時刻を指定します。

[トップ](#)

ファイル選択 (SELECT)

どのファイルのグループを解放するために選択する必要があるかを指定します。次の定位置値を使用して、ファイルを選択することができます。すなわち、ファイルを作成したユーザー、ファイルが待機している装置、指定された用紙タイプ、ファイルと関連したユーザー・データ・タグ、またはファイルが入っている補助記憶域プールです。各値と一致するファイルだけが選択されます。

ユーザーが使用できる値は次の通りです。

***CURRENT**

このコマンドを実行中のユーザーによって作成されたファイルだけが選択されます。

***ALL** すべてのユーザーによって作成されたファイルが選択されます。

ユーザー名

ユーザー名を指定してください。そのユーザー名によって作成されたファイルだけを選択します。

装置で使用できる値は次の通りです。

***ALL** 装置作成またはユーザー作成の出力待ち行列上にあるファイルが選択されます。

***OUTQ**

ユーザー作成の出力待ち行列のすべてのファイルが選択されます。ユーザー作成の出力待ち行列とは、装置によって自動的に作成されない出力待ち行列です。ユーザー作成の出力待ち行列は通常は装置と同じ名前にはなりません。同じ名前の場合には、それはライブラリーQUSRSYS内にはありません。

装置名 装置名を指定してください。その装置の装置作成の出力待ち行列に入れられたファイルだけが選択されます。装置作成の出力待ち行列は装置と同じ名前を持ち、QUSRSYSライブラリーにあります。この出力待ち行列がすでに存在していなければ、装置の作成時にシステムによって自動的に作成されます。装置作成の出力待ち行列を削除することはできません。

用紙タイプとして使用できる値は次の通りです。

***ALL** すべての用紙タイプのファイルが選択されます。

***STD** 標準用紙タイプを指定するファイルだけが選択されます。

用紙タイプ

ファイルを選択する用紙タイプを指定してください。

ユーザー・データとして使用できる値は次の通りです。

***ALL** ユーザー・データ・タグが指定されているファイルがどれも選択されます。

ユーザー・データ

ファイルを選択するためのユーザー・データ・タグを指定してください。

補助記憶域プール番号(ASP)に考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定された通りにすべてのファイルが選択されます。

*ASPDEV

補助記憶域プール装置(ASPDEV)パラメーターに指定されたファイルが選択されます。

ASP番号

選択するファイルの補助記憶域プール(ASP)を指定してください。有効な値は1 - 32です。

[トップ](#)

ASP装置 (ASPDEV)

選択されるスプール・ファイルが入っている補助記憶域プール装置名を指定します。このパラメーターが有効なのは、選択パラメーターのASP番号(ASP)要素が*ALLまたは*ASPDEVである場合だけです。

考えられる値は、次の通りです。

*
- 現在スレッドのライブラリー名スペースの一部となっているASPで見つかったファイルが選択されます。これには、システムASP (ASP 1)、すべての定義済み基本ユーザーASP (ASP 2-32)が含まれ、また、スレッドにASPグループがある場合には、スレッドのASPグループ内の1次および2次ASPが含まれます。

*SYSBAS

システムASP (ASP 1)およびすべての定義済みユーザーASP (ASP 2-32)で見つかったファイルが選択されます。

*CURASPGRP

スレッドのASPグループの1次および2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

補助記憶域プール装置名

指定された1次または2次ASPで見つかったファイルが選択されます。スレッドのASPグループ内にある1次または2次ASPのみを指定することができます。スレッドと関連したASPグループがない場合には、エラーが出されます。

[トップ](#)

RLSSPLFの例

```
RLSSPLF FILE(STOCK14) JOB(000047/SMITH/MASTER)
```

このコマンドは、MASTERという名前のジョブで作成されたSTOCK14という名前のスプール・ファイルを解放します。ファイルは、スプーリング書き出しプログラムによる処理のために選択できるようになります。ジョブは、SMITHという名前のユーザー・プロファイルの下で実行されていて、システムによりジョブ番号000047が割り当てられています。

エラー・メッセージ： RLSSPLF

*ESCAPE メッセージ

CPF337E

ASP装置&1がスレッドの現行ASPグループにありません。

CPF337F

ASP番号&2にはASP装置&1は使用できません。

CPF33D0

印刷装置&1が存在していない。

CPF33D1

ユーザー&1が存在していない。

CPF3303

ファイル&1はジョブ&5/&4/&3に見つからなかった。

CPF3304

ファイル&1番号&8を解放することができない。

CPF3309

&1という名前のファイルは活動状態でない。

CPF3322

ファイル&1番号&8は解放されなかった。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3340

指定された名前のファイルが、ジョブ&5/&4/&3で複数個見つかった。

CPF3342

ジョブ&5/&4/&3は見つからなかった。

CPF3343

重複したジョブ名が見つかった。

CPF3344

ファイル&1番号&8はもはやシステムにない。

CPF3357

ライブラリー&2に出力待ち行列&1が見つからない。

CPF3362

QTEMPのオブジェクトは、パラメーター値には正しくない。

CPF3492

スプール・ファイルに対しては許可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9833

*CURASPGRPまたは*ASPGRPPRIが指定されていて、スレッドにASPグループがない。

CPFB8ED

装置記述&1はこの操作には正しくありません。

[トップ](#)

書き出しプログラム解放 (RLSWTR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

書き出しプログラム解放(RLSWTR)コマンドは、ここで出力待ち行列上のファイル进行处理できるように、保留中の書き出しプログラムを解放します。保留時点で書き出しプログラムがファイルを書き出し中であった場合には、この同じファイルの書き出しを再開するため、あるいは次のファイルの書き出しを開始するために、書き出しプログラムを解放することができます。どのような場合にも、書き出しプログラム保留(HLDWTR)コマンドが出された時に書き出し中であったファイルのデータは失われていません。

注: 書き出し再開位置プロンプト(OPTIONパラメーター) か開始ページプロンプト(PAGEパラメーター) のいずれかを指定しなければなりません。両方を指定することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
WTR	書き出しプログラム	名前	必須, 定位置 1
OPTION	書き出し再開位置	-32766-32766, *CURRENT, *BEGIN, *BYPASS	オプション
PAGE	開始ページ	整数	オプション

[トップ](#)

書き出しプログラム (WTR)

これは必須パラメーターです。

解放するスプール書き出しプログラムの名前を指定します。書き出しプログラムの解放後に、出力待ち行列のファイル进行处理することができます (出力待ち行列が保留中でない場合)。

書き出しプログラム名

解放したい書き出しプログラムの名前を指定します。

[トップ](#)

書き出し再開位置 (OPTION)

書き出しプログラムを開始したいファイル中の位置を指定します。書き出しプログラムがファイルを書き出し中でない場合には、最初のオプション*CURRENTしか指定することができません。最後の3つのオプション (*BYPASS, +数字, および-数字) を指定できるのは、書き出しプログラムがこのファイルの書き出し中に保留された場合だけです。また、ディスク書き出しプログラムで有効なオプションは*CURRENTだけです。

考えられる値は、次の通りです。

***CURRENT**

書き出しプログラムは、書き出しプログラム保留(HLDWTR)コマンドによって保留された位置で解放されます。

***BEGIN**

書き出しプログラムは、現行ファイルの先頭で解放されます。

***BYPASS**

書き出しプログラムは次のファイルの始めで解放されます。現行ファイルは暗黙に待ち行列に保留されます。

+数字 書き出しプログラムは、保留された位置の**N**ページ後で解放されます。

-数字 書き出しプログラムは、保留された位置の**N**ページ前で解放されます。

トップ

開始ページ (PAGE)

書き出しプログラムが印刷を開始するページを指定します。このパラメーターは、**書き出し再開位置**プロンプト(OPTIONパラメーター)と一緒に使用することはできず、印刷装置書き出しプログラムの場合にだけ有効です。このパラメーターは、このファイルの作成中に書き出しプログラムが保留された場合にだけ指定することができます。

ページ番号

書き出しプログラムで印刷を開始したいこのファイルのページ番号を指定します。

トップ

RLSWTRの例

例1:ファイルの先頭での書き出しプログラムの解放

```
RLSWTR WTR(PRINTER) OPTION(*BEGIN)
```

このコマンドは、書き出しプログラムPRINTERを解放し、現在のファイルの作成をその先頭で開始します。

例2:指定された点での書き出しプログラムの解放

```
RLSWTR WTR(PRTR) OPTION(-3)
```

このコマンドは、書き出しプログラムPRTRを解放し、書き出しプログラムが保留された点より3ページ前で印刷を再び開始します。すなわち、前に印刷された最後の3ページが、この時点で印刷される最初の3ページとなります。

例3:ページ10での印刷の開始

```
RLSWTR WTR(PRTR) PAGE(10)
```

このコマンドは、書き出しプログラムPRTRを解放し、ページ10で印刷を再び開始します。

トップ

エラー・メッセージ： RLSWTR

*ESCAPE メッセージ

CPF1317

ジョブ&3/&2/&1に対して、サブシステムから応答がない。

CPF1340

ジョブ制御機能は実行されなかった。

CPF1352

この機能は実行されなかった。&3/&2/&1は移行状態である。

CPF3313

書き出しプログラム&1は、活動状態でなく、またジョブ待ち行列上にもない。

CPF3314

PAGEパラメーターは印刷書き出しプログラムの場合にだけ使用することができる。

CPF3316

保留されていないので書き出しプログラム&3/&2/&1は解放されなかった。

CPF3317

ディスク書き出しプログラムにOPTIONパラメーター値を使用することはできない。

CPF3330

必要な資源が使用できない。

CPF3331

書き出しプログラム&3/&2/&1の制御は認可されていない。

CPF3334

書き出しプログラム&3/&2/&1に対する前の保留は未処理である。

[トップ](#)

ディレクトリーの除去 (RMDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの除去 (RMDIR)コマンドは、ディレクトリー内のすべてのオブジェクトがリンク解除され、ディレクトリーが以後使用されないときに、指定されたディレクトリーをシステムから除去します。除去するディレクトリーにオブジェクトが入っている場合には、このコマンドは任意指定ですべてのオブジェクトをリンク解除してからディレクトリーを削除します。ディレクトリーのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がユーザーにない場合には、そのユーザーが権限をもっているオブジェクトだけをリンク解除します。オブジェクトをリンク解除できない場合には、リンク解除できないディレクトリーおよびディレクトリー内のすべてのオブジェクトは除去されません。

このコマンドはディレクトリーの除去 (RMVDIR)コマンドの別名で、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RD
- RMVDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/),QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、指定されたディレクトリーに対するオブジェクト存在(*OBJEXIST)権限とその中のすべてのオブジェクトに対する*OBJEXIST権限が必要です。ディレクトリー内の1つ以上のオブジェクトに対する*OBJEXIST権限がない場合には、それらのオブジェクトはリンク解除されずディレクトリーは除去されません。
2. "ルート" (/),QOPENSYS,およびユーザー定義ファイル・システムでは、親ディレクトリーに対する書き込み、実行(*WX)権限が必要です。
3. QDLSファイル・システムでは、ディレクトリーに対する全(*ALL)権限とその親ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
4. 接頭部ディレクトリーに対する実行(*X)権限が必要です。
5. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES機密保護解説書(SD88-5027)を参照してください。
6. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性はS_ISVTXモード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS,またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーを除去することはできません。
 - a. ユーザーが、除去するディレクトリーの所有者である。
 - b. ユーザーが、除去するディレクトリーの親ディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト(*ALLOBJ)特殊権限を持っている。
7. ディレクトリーがジョブの現行ディレクトリーである場合には、それを除去することはできません。
8. このコマンドを使用を使用して、予約されているディレクトリーおよびライブラリーを削除することはできません。

9. オブジェクトがQSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,またはQDLS内で使用中の場合には、そのオブジェクトをリンク解除することはできません。オブジェクトがQOPENSYSまたは"ルート" (/)ファイル・システム内で使用中の場合には、オブジェクトは正常にリンク解除されて、オブジェクトが使用されなくなったときに削除されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
RMVLNK	リンクの除去	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

ディレクトリーのパス名、あるいは除去するディレクトリーの1つまたは複数のパス名を突き合わせるパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

リンクの除去 (RMVLNK)

ディレクトリー内のすべてのオブジェクトをリンク解除するか、あるいはディレクトリーにオブジェクトが含まれていた場合にそのディレクトリーを削除できないようにするかを指定します。

***NO** 空のディレクトリーだけが除去されます。ディレクトリーには、ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが、それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***YES** 指定されたディレクトリー内のすべてのオブジェクトが削除されます。ディレクトリーが入っているファイル・システムがディレクトリー内のリンクの除去をサポートしていない場合には、エラー・メッセージCPFA0AC "要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。"が送られます。

トップ

RMDIRの例

RMDIRの代替コマンド名はRMVDIRです。次の例では代替コマンド名を使用していますが、RMDIRはそれらのすべてで直接RMVDIRに置き換えることができます。

例1: ディレクトリーとそのディレクトリー内のオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('W') RMVLNK(*YES)
```

このコマンドは、そのすべてのオブジェクトがリンク解除された後でディレクトリーWを除去します。ディレクトリーWにオブジェクトが入っていて、それらのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がある場合には、すべてのオブジェクトがリンク解除されてディレクトリーWが除去されます。すべてのオブジェクトをリンク解除する権限がない場合には、権限を持っているオブジェクトだけがリンク解除されて、ディレクトリーは除去されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RMDIR

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B7

&1ディレクトリーは除去された。&2ディレクトリーは除去されなかった。

[トップ](#)

アクセス・コード除去 (RMVACC)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

アクセス・コード除去(RMVACC)コマンドにより、アクセス・コード追加(ADDACC) コマンドによって前に定義されたアクセス・コードをシステムから除去することができます。

注:

- このコマンドは、除去するアクセス・コードが割り当てられている文書ライブラリー中の各オブジェクトを更新しなければならないので、実行時間が長くなることがあります。
- このコマンドは、アクセス・コードを、すべてのファイル済み文書、そのアクセス・コードに対して認可されているすべてのユーザー、およびシステムから除去します。

制約事項:このコマンドを使用するためには、*ALLOBJ権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ACC	文書アクセス・コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 1-2047	必須, 定位置 1

[トップ](#)

文書アクセス・コード (ACC)

システムから除去するアクセス・コード（複数の場合もある）を指定します。アクセス・コードは1-2047の範囲の10進数です。指定されたアクセス・コードがシステム上で定義されていない場合には、診断メッセージが送られ、指定された他のアクセス・コードが処理されます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RMVACCの例

RMVACC ACC(300)

このコマンドは、アクセス・コード300をシステムから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVACC

*ESCAPEメッセージ

CPF90A5

アクセス・コードを除去することができなかった。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9011

&1アクセス・コードは除去されたが、&2は除去されなかった。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

自動開始ジョブ項目除去 (RMVAJE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

自動開始ジョブ項目除去 (RMVAJE)コマンドは、指定されたサブシステム記述から自動始動ジョブ項目を除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
JOB	ジョブ名	名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

サブシステム記述 (SBSD)

除去する自動始動ジョブ項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 自動始動ジョブ項目が除去されるサブシステム記述の名前を指定します。

注:次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

*CURLIB

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 サブシステム記述が入っているライブラリーを指定します。

[トップ](#)

ジョブ名 (JOB)

この自動始動ジョブ項目から開始されるジョブの単純名を指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 この自動始動ジョブ項目から開始されるジョブの単純名を指定します。

[トップ](#)

RMVAJEの例

```
RMVAJE  SBS(MYLIB/PAYROLL)  JOB(INITIAL)
```

このコマンドは、自動始動されるINITIALという名前のジョブ項目をライブラリーMYLIBのPAYROLLサブシステム記述から除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVAJE

*ESCAPE メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

[トップ](#)

警報記述の除去 (RMVALRD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

警報記述除去(RMVALRD)コマンドは、警報記述追加(ADDALRD)コマンドによって前に追加された警報記述を除去することができます。警報の詳細については、AS/400 ALERT SUPPORT (SC41-5413)を参照してください。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
MSGID	メッセージ識別コード	名前	必須, 定位置 1
ALRTBL	警報テーブル	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 2
	修飾子 1: 警報テーブル	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	

[トップ](#)

メッセージ識別コード (MSGID)

除去される警報記述のメッセージIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 メッセージ識別コードを指定してください。

[トップ](#)

警報テーブル (ALRTBL)

除去される警報記述が入っている警報テーブルを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: 警報テーブル

名前 使用される警報テーブルの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

警報テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 警報テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

RMVALRDの例

RMVALRD MSGID(USR1234) ALRTBL(USER/USRMSG)

このコマンドは、メッセージID USR1234の警報記述を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVALRD

*ESCAPEメッセージ

CPF1A04

警報コード&1が警報テーブル&2に見つからない。

CPF1A05

&2の警報テーブル&1に損傷がある。

CPF2499

メッセージ識別コード&1を使用することはできない。

CPF7BB1

警報記述が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9811

ライブラリー&2でプログラム&1が見つからない。

CPF9812

ライブラリー&2にファイル&1が見つからない。

CPF9814

装置&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9821

ライブラリー&2のプログラム&1は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

CPF9825

装置&1は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

CPF9831

装置&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

権限リスト項目除去 (RMVAUTLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

権限リスト項目除去(RMVAUTLE)コマンドは、権限リストからユーザー項目を除去します。権限リストはすでに存在していなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを使用できるのは、権限リストの所有者、権限リストに権限リスト管理権限(*AUTLMGT)を持っているユーザー、または*ALLOBJ権限を持っているユーザーだけです。
2. *AUTLMGT権限を持つユーザーが少なくとも除去されているユーザーと同じ特定権限を持っている場合には、*AUTLMGT権限を持つユーザーだけがそのユーザーを除去することができます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
AUTL	権限リスト	総称名, 名前	必須, 定位置 1
USER	ユーザー	値 (最大 50 回の繰り返し): 名前	必須, 定位置 2

トップ

権限リスト (AUTL)

これは必須パラメーターです。

ユーザー名を除去する権限リストの名前。この権限リストは存在していなければなりません。

権限リスト名

権限リスト名。

総称*権限リスト名

権限リストの総称名。

総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリングです。たとえば、ABC*など。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、ユーザーが権限をもち、総称接頭部で始まる名前をもつすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていないと、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.ISERIES.IBM.COM/INFOCENTER](http://www.iseries.ibm.com/infocenter))の総称オブジェクト名トピックを参照してください。

トップ

ユーザー (USER)

これは必須パラメーターです。

権限リストから除去するユーザー名のリスト。最大50のユーザー名を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

[トップ](#)

RMVAUTLEの例

```
RMVAUTLE  AUTL(PAYROLL)  USER(TOM JULIE KAREN)
```

このコマンドは、ユーザーTOM, JULIE,およびKARENを権限リストPAYROLLから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVAUTLE

*ESCAPE メッセージ

CPF2253

ライブラリー&2に&1のオブジェクトが見つからなかった。

CPF2281

指定したユーザーはシステム上に存在しない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF2284

権限リスト&1の変更は認可されていない。

CPF2285

ユーザーの除去時に&1個のエラーが起こり、&2個の権限リストが処理された。

CPF2288

権限リストから*PUBLICを除去することはできない。

CPF2289

権限リスト&1を割り振ることができない。

[トップ](#)

停止点除去 (RMVBKP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

停止点除去(RMVBKP)コマンドは、指定されたデバッグ中のプログラムから1つまたは複数の停止点を除去します。また、デバッグ・モードにあるすべてのプログラムからすべての停止点を除去することもできます。

制約事項:

- このコマンドを使用できるのは、デバッグ・モードの時だけです。デバッグ・モードを開始するためには、デバッグ開始(STRDBG)コマンドを参照してください。
- 別のジョブをサービス中で、そのジョブがジョブ待ち行列上にあるか、あるいは保留、延期、または終了中の場合には、このコマンドを使用することはできません。
- このコマンドを使用して、バインド済みプログラムから停止点を除去することはできません。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
STMT	ステートメント識別コード	単一値: *, *ALL その他の値 (最大 10 回の繰り返し): 文字値	オプション、位置 1
PGM	プログラム	名前, *DFTPGM, *ALL	オプション、位置 2

トップ

ステートメント識別コード (STMT)

プログラム中で停止点が除去されるHLL（高水準言語）ステートメントまたは機械語命令を指定します。指定されたプログラム、プログラム (PGM)パラメーターに指定されたプログラム、または停止点に達した最新のプログラム（すなわち、STMTパラメーターに*の値が指定されている場合）から停止点を除去することができます。プログラムが指定されている場合には、1つまたは複数のステートメント識別コードまたはすべての停止点を指定することができます。STMTパラメーターに*の値が指定されている場合には、一番最近に停止されたプログラムが達した停止点が除去されます。さらにデバッグ・モードのすべてのプログラムからすべての停止点を除去することができます。

* プログラムが現在停止している最新の停止点が除去されます。

*ALL 指定したプログラムの中のすべての停止点が除去されます。

ステートメント識別コード

PGMパラメーターに指定したプログラムから除去するステートメント識別コードを指定します。指定できる識別コードの数は10個までです。

プログラム (PGM)

指定した停止点をどのプログラムから除去するかを指定します。このパラメーターを指定できるのは、*の値がステートメント識別コード (STMT)パラメーターに指定されていない場合だけです。

*DFTPGM

省略時のプログラムから停止点が除去されます。

***ALL** 現在デバッグ・モードになっているすべてのプログラムから停止点が除去されます。この値は、STMTパラメーターに値が指定されていない場合にのみ指定することができます。

プログラム名

指定した停止点を除去したいプログラムの名前を指定してください。

RMVBKPの例

RMVBKP STMT(100)

このコマンドは、ステートメント100にある停止点を省略時のプログラムから除去します。

エラー・メッセージ： RMVBKP

*ESCAPE メッセージ

CPF1999

コマンドでエラーが起こった。

バインド・ディレクトリー項目の除去 (RMVBNDDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

バインド・ディレクトリー項目の除去(RMVBNDDIRE)コマンドは、バインド・ディレクトリーから項目を除去します。

制約事項:

- 更新しているバインド・ディレクトリーが入っているライブラリーに対して、読み取り(*READ)権限およびオブジェクト操作(*OBJOPR)権限が必要です。
- バインド・ディレクトリーに対する*OBJOPRおよび削除(*DLT)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BNDDIR	ディレクトリーのバインド	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: ディレクトリーのバインド	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB, *USRLIBL	
OBJ	オブジェクトの仕様	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: オブジェクト	修飾オブジェクト名	
	修飾子 1: オブジェクト	総称名, 名前, *ALL	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL	
	要素 2: オブジェクト・タイプ	*SRVPGM, *MODULE	

[トップ](#)

ディレクトリーのバインド (BNDDIR)

項目を除去するバインド・ディレクトリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: ディレクトリーのバインド

名前 更新するバインド・ディレクトリーの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

*CURLIB

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

*USRLIBL

ジョブのライブラリー・リストのユーザー部分にあるライブラリーだけが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

[トップ](#)

オブジェクトの仕様 (OBJ)

バインド・ディレクトリーから除去する1つ以上のオブジェクト名を指定します。

このパラメーターには50個の値を指定することができます。

要素1: オブジェクト

修飾子1: オブジェクト

***ALL** 指定されたタイプのすべてのオブジェクトが指定されたディレクトリーから除去されます。

総称名 除去するオブジェクトの総称名を指定してください。総称名は1つまたは複数の文字の後にアスタリスク(*)を付けた文字ストリング（たとえば、ABC*など）です。アスタリスクは任意の有効な文字で置き換えられます。総称名は、名前が総称接頭部で始まる、ユーザーが権限を持っているすべてのオブジェクトを指定します。総称（接頭部）名にアスタリスクが入っていなければ、システムはその名前を完全なオブジェクト名と見なします。完全なオブジェクト名が指定されて、複数のライブラリーが検索される場合には、その名前に*ALLまたは*ALLUSRライブラリー値を指定できる場合にかぎり、複数のオブジェクトを除去することができます。

名前 除去するオブジェクトの名前を指定してください。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

名前 検索するライブラリーの名前を指定してください。

要素2: オブジェクト・タイプ

*SRVPGM

除去しようとするオブジェクトがサービス・プログラムであることを指示します。

*MODULE

除去しているオブジェクトがモジュールであることを示します。

RMVBNDIREの例

RMVBNDIRE BNDDIR(SOURCE) OBJ(LIST)

このコマンドによって、バインド・ディレクトリーSOURCEからオブジェクトLISTを除去することができます。

トップ

エラー・メッセージ： RMVBNDIRE

*ESCAPEメッセージ

CPF5D01

ライブラリー&2のバインド・ディレクトリー&1は使用不能である。

CPF5D09

ライブラリー&5のバインド・ディレクトリー&4にオブジェクト&2/&1 タイプ&3が見つかりません。

CPF980F

ライブラリー&2にバインド・ディレクトリー&1が見つからない。

CPF9801

ライブラリー&3にオブジェクト&2が見つからない。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

トップ

構成リスト項目除去 (RMVCFGLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

構成リスト項目除去(RMVCFGLE)コマンドにより、構成リストから項目が除去されます。

注: ユーザーは、構成リスト変更(CHGCFGL)コマンドの全画面の入力画面を使用して、構成リストTYPE(*SNAPASTHR)を除く既存のリストの項目を追加、除去、または変更することもできます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
TYPE	構成リスト・タイプ	*APPNDIR, *APPNLCL, *APPNRMT, *APPNSSN, *ASYNCADR, *ASYNCLOC, *RTLPASTR, *SNAPASTHR	必須, 定位置 1
APPNLCL	APPN ローカル・ロケーション項目	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ローカル・ロケーション名	通信名	
APPNRMT	APPN リモート・ロケーション項目	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	総称名, 名前, *ANY	
	要素 2: リモート・ネットワーク 識別コード	通信名, *NETATR, *NONE	
	要素 3: ローカル・ロケーション名	通信名, *NETATR	
CFGL	構成リスト	名前	オプション
ASYNCADRE	非同期ネットワーク・アドレス項目	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: ネットワーク・アドレス	文字値	
ASYNCLOCE	非同期リモート・ロケーション項目	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: リモート ロケーション名	名前	
RTLPASTR	小売業パスルー項目	値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: 小売業装置	名前	
FTRCPNAME	フィルター 処理 制御点名	総称名, 名前, *ANY	オプション
FTRCPNETID	フィルター 処理CP ネットワークID	通信名, *NETATR	オプション
LCLLOCNAME	ローカル・ロケーション名	総称名, 名前, *ANY	オプション

キーワード	記述	選択項目	注
SNAPASTHRE	SNAパススルー項目	値 (最大 254 回の繰り返し): 要素リスト	オプション
	要素 1: SNAパススルー・グループ名	通信名	

トップ

構成リスト・タイプ (TYPE)

使用できる構成リスト・タイプの1つを指定します。

これは必須パラメーターです。

*APPNDIR

拡張対等通信ネットワーク機能(APPN)ディレクトリー検索フィルター構成リストが使用されます。ユーザーは、この構成リスト中に1つのAPPNディレクトリー検索フィルター項目を指定することができます。

*APPNLCL

APPNローカル・ロケーション・リストが使用されます。構成リストには、最高478個までのAPPNローカル・ロケーション項目を指定することができます。

*APPNRMT

APPNリモート・ロケーション・リストが使用されます。構成リストには、最高1898個までのAPPNリモート・ロケーション項目を指定することができます。

*APPNSSN

APPNセッション・エンドポイント・フィルター構成リストが使用されます。ユーザーは、この構成リスト中に1つのAPPNセッション項目を指定することができます。

*ASYNCADR

非同期ネットワーク・アドレス・リストが使用されます。構成リストには、最高294個までの非同期ネットワーク・アドレス項目を指定することができます。

*ASYNCLOC

非同期リモート・ロケーション・リストが使用されます。ユーザーは構成リストに最大で32000個の非同期リモート・ロケーション項目を指定することができます。

*RTLPASTR

小売業パススルー・リストが使用されます。構成リストには、最高450個までの小売業パススルー項目を入力することができます。

*SNAPASTHR

SNAパススルー・リストが使用されます。構成リストには、1つのSNAパススルー項目を入力することができます。

トップ

APPN ローカル・ロケーション項目 (APPNLCL)

APPNローカル・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*APPNLCLが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ローカル・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のローカル・ロケーションを指定します。

[トップ](#)

APPN リモート・ロケーション項目 (APPNRMT)

APPNリモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*APPNRMTが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のリモート・ロケーションを指定します。

リモート・ネットワーク識別コード

構成リストから除去したい項目のリモート・ネットワーク識別コードを指定します。

ローカル・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のローカル・ロケーションを指定します。

[トップ](#)

構成リスト (CFGL)

構成リストの名前を指定します。この値は、必要ですが、構成リストが非同期ネットワーク・アドレス・リスト (構成リスト・タイプ (TYPE)パラメーターに*ASYNCADRが指定された) の時にだけ有効です。リスト・タイプにはシステム提供の名前、QAPPNLCL, QAPPNRMT, QASYNCADR, QASYNCLC, QRTLPASTR,およびQSNAPASSTRがあります。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

非同期ネットワーク・アドレス項目 (ASYNCADRE)

非同期ネットワーク・アドレス項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*ASYNCADRが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

ネットワーク・アドレス

構成リストから除去したい項目のネットワーク・アドレスを指定します。

注: ユーザーが指定するものと同じネットワーク・アドレスをもつすべての記入項目は、構成リストから除去されます。

[トップ](#)

非同期リモート・ロケーション項目 (ASYNCLOCE)

非同期リモート・ロケーション項目を指定します。構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*ASYNCLOCが指定されている場合には、この値の入力は必須です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

リモート・ロケーション名

構成リストから除去したい項目のリモート・ロケーションを指定します。

[トップ](#)

小売業パススルー項目 (RTLPASTRHRE)

小売業パススルー項目を指定してください。この値は、構成リスト・タイププロンプト (TYPEパラメーター) に*RTLPASTRHを指定した場合に必要です。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

このパラメーターに、最大50個の記入項目を直接指定することができます。項目は次の要素のそれぞれからの値から成っています。

小売業装置名

構成リストから除去される項目の小売業装置名を指定してください。

[トップ](#)

フィルター 処理制御点名 (FTRCPNAME)

ディレクトリー検索要求が行なわれる時に、ローカル・システムによってフィルター操作される隣接制御点の制御点名を指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)が指定された場合だけです。

***ANY** すべての制御点名がフィルター操作されます。

総称*フィルター操作CP名

フィルター操作される隣接制御点の総称制御点名（名前の一部にアスタリスクが続いたもの）を指定してください。総称制御点名によって、単一のネットワーク中で、アスタリスク(*)の前の文字と一致する名前をもつすべての制御点に対して1つのディレクトリー項目を定義することができます。

フィルター操作CP名

フィルター操作される隣接制御点の制御点名を指定してください。

[トップ](#)

フィルター 処理CP ネットワークID (FTRCPNETID)

ディレクトリー検索要求が行なわれる時に、ローカル・システムによってフィルター操作される隣接制御点の制御点ネットワーク識別コードを指定します。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNDIR)が指定された場合だけです。

***NETATR**

システム・ネットワーク属性に指定されたLCLNETID値が使用されます。

フィルター操作CPネットワークID

ローカル・システムによってフィルター操作される隣接制御点の制御点ネットワーク識別コードを指定してください。

[トップ](#)

ローカル・ロケーション名 (LCLLOCNAME)

ローカル・システムによってフィルター操作される呼び出し元が提供するローカル・ロケーション名を指定します。ローカル・システムがセッションを開始しているときには、これは使用されているローカル・ロケーション名です。別のシステムからバインドを受け取るときには、これは使用されている2次論理装置(SLU)名です。

注: このパラメーターが有効なのは、TYPE(*APPNSSN)が指定された場合だけです。

***ANY** すべてのローカル・ロケーション名がローカル・システムによってフィルター操作されます。

総称*ローカル・ロケーション名

フィルター操作されるローカル・ロケーションの総称ローカル・ロケーション名（名前的一部分にアスタリスクが続いたもの）を指定します。総称ローカル・ロケーション名によって、システム上で*の前の文字と一致する名前をもつすべてのローカル・ロケーション名に対して1つの項目を定義できます。

ローカル・ロケーション名

ローカル・システムによってフィルター操作されるローカル・ロケーション名を指定してください。

[トップ](#)

SNAパススルー項目 (SNAPASTHRE)

SNAパススルー項目を指定します。TYPE(*SNAPASTHR)を指定した場合には、この値が必要です。このパラメーターには、1つのグループ項目を指定することができます。

[トップ](#)

RMVCFGLEの例

```
RMVCFGLE TYPE(*ASYNCLOC) ASYNCLOC(RMTLOC1)
```

このコマンドは、構成リスト項目RMTLOC1を非同期リモート・ロケーション・リストQASYNCLOCから除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVCFGLE

*ESCAPEメッセージ

CPF260F

構成リスト&1は見つからなかった。

CPF261C

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF261D

構成リスト&1の索引は変更されなかった。

CPF2625

オブジェクト&1を割り振ることができない。

CPF263A

CFGLタイプ&1が既存のタイプ&2と一致していない。

CPF2634

オブジェクト&1は認可されていない。

CPF2663

構成リスト&1は前に削除されている。

CPF2666

構成リスト&1からすべての項目を除去することはできない。

[トップ](#)

クラスター・ノード項目の除去 (RMVCLUNODE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター・ノード項目除去(RMVCLUNODE)コマンドは、ノードをクラスターから除去するために使用されます。指定されたノードはクラスター・メンバーシップ・リストから除去され、クラスターのメンバーとはもう見なされません。また、ノードも、所属先の装置ドメインのメンバーシップから除去されます。除去しようとするノード上のクラスター資源グループ・オブジェクトが削除されるのは、そのノードの状況が「活動状態」になっている場合、あるいはこのコマンドが除去しようとするノードで呼び出される場合だけです。

ノードはその状況とは無関係に除去することができます。このコマンドを状況「活動状態」になっているノードで呼び出すと、クラスター内の任意のノードを除去することができます。このコマンドを状況「障害」になっているノードで呼び出すと、このコマンドを実行中のノードのみを除去することができます。活動状態ではないノードを除去するには、このコマンドを除去しようとするノードと活動状態になっているクラスター内のノードで呼び出す必要があります。

クラスターが区画に分割されていて、その区画中のどれかのノードを除去した場合は、自動マージを正常に完了するために、他のすべての区画中のそのノードを除去する必要があります。

除去しようとするノードが活動状態であると、クラスター資源グループ出口プログラムにはアクション・コード「ノード除去」が渡されます。クラスター資源グループの回復ドメイン内の全ノードの出口プログラムには、アクション・コード「フェイルオーバー」が渡されます。除去しようとするノードが装置クラスター資源グループの1次ノードである場合は、クラスター資源グループと関連付けられたハードウェアの所有権はバックアップ・ノードに移動されます。バックアップ・ノードがないか、あるいは全バックアップ・ノードが非活動状態であるか、あるいは異なるクラスター区画に入っているかのいずれかである場合は、ハードウェアの所有権は除去しようとするノードのままになります。

除去しようとするノードが非活動状態であると、クラスター資源グループ出口プログラムには、回復ドメイン内の全ノードでアクション・コード「ノード除去」が渡されます。装置クラスター資源グループと関連付けられたハードウェアの所有権は変更されませんが、除去しようとするノードのままになります。除去しようとするノードが非活動状態であると、このコマンドを除去しようとするノードで呼び出す場合は、クラスター資源グループ出口プログラムは、アクション・コード「コマンド削除」を使用して除去しようとするノードで呼び出されます。

除去しようとするノードが装置ドメインのメンバーであり、後からクラスターに追加し戻す場合は、任意の装置ドメインに追加する前に、大部分はIPLする必要があります。この状態の一例は、補助記憶域プールの装置記述が最後のIPL以後にオンに変更された場合です。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. クラスター内のノードのすべてが状況「新規」になっていると、このコマンドは、クラスターが最初に作成されたノードでしか呼び出すことができません。

4. メンバーシップ・リストには複数のノードがなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
NODE	ノードID	名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

除去しようとするノードが含まれているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

ノードID (NODE)

除去するノードIDを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 除去するノードの名前を指定してください。

[トップ](#)

RMVCLUNODEの例

```
RMVCLUNODE CLUSTER(MYCLUSTER) NODE(RCHCST01)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERのクラスター・メンバーシップからノードRCHCST01を除去します。クラスター資源サービスはノードRCHCST01で終了されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RMVCLUNODE

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

通信項目除去 (RMVCMNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

通信項目除去 (RMVCMNE)コマンドは、既存のサブシステム記述から通信項目を除去します。

制約事項:

- このコマンドを使用するには、以下が必要です。
 - 指定されたサブシステム記述に対するオブジェクト操作(*OBJOPR),オブジェクト管理(*OBJMGT),および読み取り(*READ)権限と、そのサブシステム記述が入っているライブラリーに対する実行(*EXECUTE)権限。
- このコマンドを実行する前に、除去中の通信項目を通じて活動状態のすべてのジョブを終了しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SBSD	サブシステム記述	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: サブシステム記述	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
DEV	装置	総称名, 名前, *ALL, *APPC, *ASYN, *BSC, *INTRA, *RETAIL, *FINANCE, *SNUF	オプション, 定位置 2
RMTLOCNAME	リモート・ロケーション	通信名	オプション
MODE	モード	名前, *ANY	オプション

[トップ](#)

サブシステム記述 (SBSD)

除去する通信項目が入っているサブシステム記述の名前およびライブラリーを指定します。

これは必須パラメーターです。

修飾子1: サブシステム記述

名前 通信項目が除去されるサブシステムの名前を指定します。

注:次のIBM提供オブジェクトはこのパラメーターには正しくありません。

- QSYSSBSD

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 一致が見つかるまで、スレッドのライブラリー・リストの中のすべてのライブラリーが検索されません。

***CURLIB**

オブジェクトを見つけるためにスレッドの現行ライブラリーが使用されます。スレッドの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 通信項目が除去されるサブシステム記述のライブラリーの名前を指定します。

[トップ](#)

装置 (DEV)

通信項目が除去される装置記述の名前、または装置のタイプを指定します。

注: このパラメーターか**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターのいずれかに値を指定しなければなりません、両方に指定することはできません。

***ALL** *ALL通信項目が除去されます。

***APPC**

*APPC通信項目が除去されます。

***ASYNC**

*ASYNC通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

***BSCCL**

*BSCCL通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

***FINANCE**

*FINANCE通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

***INTRA**

*INTRA通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

***RETAIL**

*RETAIL通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

***SNUF**

*SNUF通信項目が除去されます。この値が有効なのは、**モード (MODE)**パラメーターに*ANYが指定された場合だけです。

総称名 除去する総称通信項目の名前を指定します。

名前 通信項目が除去される装置記述の名前を指定します。

[トップ](#)

リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)

通信項目が除去されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

注: このパラメーターか**装置 (DEV)**パラメーターのいずれかを指定しなければなりません, 両方を指定することはできません。

通信名 この通信項目で使用されるリモート・ロケーションの名前を指定します。

トップ

モード (MODE)

装置 (DEV)パラメーターに指定された装置のモードの名前, あるいは通信項目が除去される**リモート・ロケーション (RMTLOCNAME)**パラメーターに指定されたリモート・ロケーションを指定します。

***ANY** モード名*ANYの通信装置またはリモート・ロケーション名が除去されることとなります。

名前 通信項目が除去される通信装置またはリモート・ロケーション名のモード項目の名前を指定してください。

トップ

RMVCMNEの例

```
RMVCMNE  SBS(LIB2/SBS1)  DEV(COMDEV)
```

このコマンドは, 装置COMDEVの通信装置項目をライブラリーLIB2のサブシステム記述SBS1から除去します。

トップ

エラー・メッセージ: RMVCMNE

***ESCAPE** メッセージ

CPF1619

ライブラリー&2のサブシステム記述&1に損傷がある。

CPF1691

活動サブシステム記述は変更されることも変更されないこともある。

CPF1697

サブシステム記述&1は変更されなかった。

トップ

SNMP用コミュニティの除去 (RMVCOMSNMP)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

SNMP用コミュニティ除去(RMVCOMSNMP)コマンドは、SNMPエージェント・コミュニティ・リストからシンプル・ネットワーク管理プロトコル(SNMP)コミュニティ・プロファイルを除去するために使用します。コミュニティ・プロファイルは、コミュニティ名、オブジェクト・アクセスの仕様、およびそのコミュニティの一部であるSNMP管理機能のリストから構成されています。コミュニティ名は、ASCIIコミュニティ(ASCIICOM)パラメーターと結合されて、コミュニティを定義します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
COM	コミュニティ名	文字値	必須, 定位置 1
ASCIICOM	コミュニティ名の変換	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

コミュニティ名 (COM)

除去しているSNMPコミュニティの名前を指定します。このコミュニティは、SNMPエージェント・コミュニティ・リスト中にすでに存在していなければなりません。

考えられる値は、次の通りです。

コミュニティ名

除去しているSNMPコミュニティの名前を指定してください。この名前には、表示できない文字を含めることができます。

[トップ](#)

コミュニティ名の変換 (ASCIICOM)

コミュニティ名がSNMP管理機能からの要求の中に指定されているコミュニティ名と比較される前に、そのコミュニティ名がASCII文字に変換されるかどうかを指定します。このパラメーターは、除去されるコミュニティを判別するために、コミュニティ名と組み合わせて使用されます。

考えられる値は、次の通りです。

***YES** コミュニティ名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前に、ASCII文字に変換されます。

***NO** コミュニティー名は、SNMP管理機能によって指定されたコミュニティ名と比較される前には、ASCII文字に変換されません。

[トップ](#)

RMVCOMSNMPの例

RMVCOMSNMP COM(ROCHESTER)

このコマンドは、SNMPエージェント・コミュニティ・リストからコミュニティROCHESTER を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVCOMSNMP

*ESCAPE メッセージ

TCP4001

SNMP構成情報のアクセス中にエラーが起こった。

TCP4009

コミュニティが存在していない。

TCP8050

&1を使用するためには*IOSYSCFG権限が必要である。

[トップ](#)

CRG装置項目の除去 (RMVCRGDEVE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ装置項目除去(RMVCRGDEVE)コマンドは、1つ以上の構成オブジェクトを装置クラスター資源グループから除去します。構成オブジェクト項目のすべては除去することができますが、クラスター資源グループ開始(STRCRG)コマンドを呼び出す前には、少なくとも1つの構成オブジェクト項目が存在していなければなりません。

除去しようとする構成オブジェクトと関連付けられたハードウェアの所有権は影響を受けません。ハードウェアは、このコマンドが呼び出される前に所有していたノードによってまだ所有されています。

出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、そのクラスター資源グループ出口プログラムが、アクション・コード「装置項目除去」を使用して回復ドメイン内の全活動ノードで呼び出されます。クラスター資源グループの状況は「装置項目除去保留」に設定されます。この出口プログラムが正常に完了すると、クラスター資源グループの状況は、このコマンドが呼び出された時点の値にリセットされます。出口プログラムが失敗し、クラスター資源グループがその元の状態にリストアできない場合は、クラスター資源グループの状況は「未確定」に設定されます。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. クラスター資源サービスは、要求を処理中のノードで活動状態になっていなければなりません。
4. 回復ドメイン内で少なくとも1つのノードが活動状態になっていなければなりません。
5. クラスター資源グループが活動状態であると、最後の装置項目は除去することができません。そのクラスター資源グループは最初に終了しなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 2
CFGOBJ	構成オブジェクト・リスト	値 (最大 256 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 3
	要素 1: 構成オブジェクト	名前	
	要素 2: 構成オブジェクト・タイプ	*DEVD	

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

クラスター資源グループの所属先のクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスター資源グループが含まれているクラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

クラスター資源グループ (CRG)

装置リスト項目の除去元のクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 装置リスト項目を入れるクラスター資源グループの名前を指定してください。

[トップ](#)

構成オブジェクト・リスト (CFGOBJ)

クラスター資源グループから除去する弾力的な装置を指定します。

このパラメーターには、256個までの値を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

要素1: 構成オブジェクト

クラスター資源グループの装置リストから除去することになる補助記憶域プールの装置記述オブジェクトを指定します。

名前 構成オブジェクトの名前を指定してください。

要素2: 構成オブジェクト・タイプ

要素 1 に指定された構成オブジェクトのオブジェクト・タイプを指定します。

***DEV**

構成オブジェクトのタイプは装置記述です。

[トップ](#)

RMVCRGDEVEの例

```
RMVCRGDEVE CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG)
           CFGOBJ((IASP01 *DEV))
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERの既存のクラスター資源グループMYCRGから、構成オブジェクトIASP01を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVCRGDEVE

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

CRGノード項目の除去 (RMVCRGNODE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

クラスター資源グループ・ノード項目除去(RMVCRGNODE)コマンドは、ノードをクラスター資源グループの回復ドメインから除去するために使用されます。除去しようとするノードは、回復ドメインから除去されるクラスター内で活動状態になっている必要はありません。ノードを回復ドメインから除去すると、クラスター資源グループ・オブジェクトがそのシステムから削除されます。クラスター資源グループが活動状態である場合には、その1次ノードはクラスター資源グループから除去することが**できません**。クラスター資源グループにバックアップ・ノードがない場合は、その1次ノードは除去することが**できません**。このコマンドでは、優先回復ドメインおよび現行の回復ドメインが更新される結果になります。

このコマンドは、クラスター資源グループ・タイプのすべてに以下を実行します。

1. クラスター資源グループの状況を「ノード除去保留」に設定します。
2. 出口プログラムがクラスター資源グループ用に指定されている場合は、その出口プログラムを、回復ドメイン内の全活動ノードで、アクション・コード「ノード除去」を使用して呼び出します。
3. この出口プログラムが全ノードで正常に完了すると、クラスター資源グループの状況を、コマンドが呼び出された時点の値にリセットします。
4. 出口プログラムがノードのいずれかで失敗し、クラスター資源グループの元の状態にリストアできない場合は、クラスター資源グループの状況を「未確定」に設定します。

このコマンドは、適用業務クラスター資源グループに以下を実行します。

1. クラスター資源サービスが引き継ぎIPアドレスを構成した場合は、それを除去します。

このコマンドは、装置クラスター資源グループに以下を実行します。

1. 除去しようとするノードが現行1次ノードである場合は、現行1次で構成オブジェクトのどれもオンに変更されていないと、そのクラスター資源グループ内に指定された装置の所有権は現行1次から新規1次に切り替えられます。任意の構成オブジェクトがオンに変更されていると、エラー・メッセージが戻されます。さらに、新規1次ノードが活動状態になっていなければなりません。装置は、所有権が切り替えられた後にオンに変更されません。新規1次になるノードはクラスター内で活動状態になっていなければなりません。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. クラスター資源サービスは、要求を処理中のノードで開始されていなければなりません。
4. 回復ドメイン内で少なくとも1つのノードが活動状態になっていなければなりません。
5. 現在1次となっているノードを除去するには、クラスター資源グループの状況は「活動状態」でなければなりません。
6. 除去操作の正常完了の後、クラスター資源グループの回復ドメイン中の少なくとも1つのノードが活動状態のままではいけません。

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
CRG	クラスター資源グループ	名前	必須, 定位置 2
NODE	ノードID	名前	必須, 定位置 3

トップ

クラスター (CLUSTER)

クラスター資源グループの所属先のクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスター資源グループが含まれているクラスターの名前を指定してください。

トップ

クラスター資源グループ (CRG)

ノードの除去元のクラスター資源グループを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 クラスター資源グループの名前を指定してください。

トップ

ノードID (NODE)

クラスター資源グループ・ノードから除去するノードを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 除去するノードの名前を指定してください。

トップ

RMVCRGNODEの例

```
RMVCRGNODE CLUSTER(MYCLUSTER) CRG(MYCRG) NODE(RHCST03)
```

このコマンドは、ノードRHCST03を、クラスターMYCLUSTERのクラスター資源グループMYCRGの回復ドメインから除去します。

トップ

エラー・メッセージ： RMVCRGNODE

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

装置ドメイン項目の除去 (RMVDEVDMNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

装置ドメイン項目除去(RMVDEVDMNE)コマンドは、クラスター・ノードを装置ドメインから除去するために使用されます。除去されたノードは装置クラスター資源グループの回復ドメイン内にもう存在していることはできません。

装置ドメインから除去されてしまったノードは、任意の装置ドメインに追加する前に、大部分はIPLする必要があります。この状態の一例は、補助記憶域プールの装置記述が最後のIPL以後にオンに変更された場合です。

このコマンドは、状況が「活動状態」になっているクラスター内の任意のノードで呼び出すことができます。

制約事項:

1. このコマンドを実行するには、入出力システム構成(*IOSYSCFG)特殊権限が必要です。
2. このコマンドは、クラスター資源グループの出口プログラムから呼び出すことはできません。
3. 除去するノードは、どの装置クラスター資源グループの回復ドメインにも存在していることはできません。
4. 除去されるノードと、装置ドメインの少なくとも1つの他のメンバーが「活動状態」になっていなければなりません。ある条件では、装置ドメインの全現行メンバーが「活動状態」になっていなければなりません。
5. ノードの除去元の装置ドメインの任意のメンバーが状況「区画」になっていると、このコマンドは失敗します。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
CLUSTER	クラスター	名前	必須, 定位置 1
DEVDMN	装置ドメイン	名前	必須, 定位置 2
NODE	ノードID	名前	必須, 定位置 3

[トップ](#)

クラスター (CLUSTER)

ノードが入っているクラスターを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ノードが含まれているクラスターの名前を指定してください。

[トップ](#)

装置ドメイン (DEVDMN)

ノードの除去元の装置ドメインを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ノードの除去元の装置ドメインの名前を指定してください。

[トップ](#)

ノードID (NODE)

装置ドメインから除去されるクラスター・ノードを指定します。

これは必須パラメーターです。

名前 ノードの名前を指定してください。

[トップ](#)

RMVDEVDMNEの例

```
RMVDEVDMNE CLUSTER(MYCLUSTER) DEVDMN(MYDOMAIN) NODE(NODE01)
```

このコマンドは、クラスターMYCLUSTERの装置ドメインMYDOMAINからノードNODE01を除去します。クラスター・メンバーシップ・リストがNODE01, NODE02,およびNODE03であり、3つのすべてのノードが同じ装置ドメイン中にあった場合は、ノードNODE02およびNODE03はまだ装置ドメインMYDOMAINに属しています。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RMVDEVDMNE

*ESCAPEメッセージ

CPF0001

&1コマンドでエラーが見つかった。

[トップ](#)

ディレクトリーの除去 (RMVDIR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリーの除去 (RMVDIR) コマンドは、ディレクトリー内のすべてのオブジェクトがリンク解除され、ディレクトリーが以後使用されないときに、指定されたディレクトリーを除去します。除去するディレクトリーにオブジェクトが入っている場合には、このコマンドは任意指定ですべてのオブジェクトをリンク解除してからディレクトリーを削除します。ディレクトリーのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がユーザーにない場合には、そのユーザーが権限をもっているオブジェクトだけをリンク解除します。オブジェクトをリンク解除できない場合には、リンク解除できないディレクトリーおよびディレクトリー内のすべてのオブジェクトは除去されません。

このコマンドは、次の代替コマンド名を使用して出すこともできます。

- RD
- RMDIR

統合ファイル・システム・コマンドの詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「統合ファイル・システム」情報を参照してください。

制約事項:

1. "ルート" (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムでは、指定されたディレクトリーに対するオブジェクト存在 (*OBJEXIST) 権限とその中のすべてのオブジェクトに対する *OBJEXIST 権限が必要です。ディレクトリー内の1つ以上のオブジェクトに対する *OBJEXIST 権限がない場合には、それらのオブジェクトはリンク解除されずディレクトリーは除去されません。
2. "ルート" (/), QOPENSYS, およびユーザー定義ファイル・システムでは、親ディレクトリーに対する書き込み、実行 (*WX) 権限が必要です。
3. QDLS ファイル・システムでは、ディレクトリーに対する全 (*ALL) 権限とその親ディレクトリーに対する実行 (*X) 権限が必要です。
4. 接頭部ディレクトリーに対する実行 (*X) 権限が必要です。
5. その他のファイル・システムの権限要件については、ISERIES 機密保護解説書 (SD88-5027) を参照してください。
6. 次の1つ以上が真でない場合には、「制限された名前変更およびリンク解除」属性（この属性は S_ISVTX モード・ビットと同じ）がオンに設定されている"ルート" (/), QOPENSYS, またはユーザー定義ファイル・システム内のディレクトリーを除去することはできません。
 - a. ユーザーが、除去するディレクトリーの所有者である。
 - b. ユーザーが、除去するディレクトリーの親ディレクトリーの所有者である。
 - c. ユーザーが全オブジェクト (*ALLOBJ) 特殊権限を持っている。
7. ディレクトリーがジョブの現行ディレクトリーである場合には、それを除去することはできません。
8. このコマンドを使用して、予約されているディレクトリーおよびライブラリーを削除することはできません。

9. オブジェクトがQSYS.LIB,独立ASP QSYS.LIB,またはQDLS内で使用中の場合には、そのオブジェクトをリンク解除することはできません。オブジェクトがQOPENSYSまたは"ルート" (I)ファイル・システム内で使用中の場合には、オブジェクトは正常にリンク解除されて、オブジェクトが使用されなくなったときに削除されます。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DIR	ディレクトリー	パス名	必須, 定位置 1
RMVLNK	リンクの除去	*NO, *YES	オプション

トップ

ディレクトリー (DIR)

ディレクトリーのパス名、あるいは除去するディレクトリーの1つまたは複数のパス名を突き合わせるパターンを指定します。

オブジェクト・パス名は、単純名、またはオブジェクトが入っているディレクトリーの名前で修飾された名前とすることができます。パス名の最後の部分にパターンを指定することができます。アスタリスク(*)は任意の数の文字が突き合わされ、疑問符(?)は単一文字が突き合わされます。パス名が修飾されているか、あるいはパターンを含んでいる場合には、パス名をアポストロフィで囲まなければなりません。

パス名を指定する場合の詳細については、ISERIES INFORMATION CENTER ([HTTP://WWW.IBM.COM/ESERVER/SERIES/INFOCENTER](http://www.ibm.com/eserver/series/infocenter))にある「CLの概念および解説書」トピックの中の「CL概念と参照」の中の「オブジェクト命名規則」を参照してください。

トップ

リンクの除去 (RMVLNK)

ディレクトリー内のすべてのオブジェクトをリンク解除するか、あるいはディレクトリーにオブジェクトが含まれていた場合にそのディレクトリーを削除できないようにするかを指定します。

***NO** 空のディレクトリーだけが除去されます。ディレクトリーには、ディレクトリー(.)および親ディレクトリー(..)の項目が含まれていることがありますが、それでも空のディレクトリーとして扱われます。

***YES** 指定されたディレクトリー内のすべてのオブジェクトが削除されます。ディレクトリーが入っているファイル・システムがディレクトリー内のリンクの除去をサポートしていない場合には、エラー・メッセージCPFA0AC "要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。"が送られます。

トップ

RMVDIRの例

例1: ディレクトリーとそのディレクトリー内のオブジェクトの除去

```
RMVDIR DIR('W') RMVLNK(*YES)
```

このコマンドは、そのすべてのオブジェクトがリンク解除された後でディレクトリーWを除去します。ディレクトリーWにオブジェクトが入っていて、それらのすべてのオブジェクトをリンク解除する権限がある場合には、すべてのオブジェクトがリンク解除されてディレクトリーWが除去されます。すべてのオブジェクトをリンク解除する権限がない場合には、権限を持っているオブジェクトだけがリンク解除されて、ディレクトリーは除去されません。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVDIR

*ESCAPEメッセージ

CPFA085

ユーザー&1のホーム・ディレクトリーが見つからなかった。

CPFA093

パターンに一致する名前が見つからなかった。

CPFA09C

オブジェクトが認可されていない。オブジェクトは&1です。

CPFA09D

プログラム&1でエラーが起こった。

CPFA09E

オブジェクトが使用中。オブジェクトは&1です。

CPFA0A1

入力または出力エラーが起こった。

CPFA0A3

パス名分析解決によりループしている。

CPFA0A7

パス名が長すぎる。

CPFA0A9

オブジェクトが見つからない。オブジェクトは&1です。

CPFA0AB

オブジェクトの操作が失敗しました。オブジェクトは&1です。

CPFA0AC

要求を完了することができない。ディレクトリーにオブジェクトが入っています。

CPFA0AD

機能がファイル・システムによってサポートされていない。

CPFA0B1

要求された操作は使用できない。アクセスの問題です。

CPFA0B2

要求を満たすオブジェクトはない。

CPFA0B7

&1ディレクトリーは除去された。&2ディレクトリーは除去されなかった。

[トップ](#)

ディレクトリー項目除去 (RMVDIRE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー項目除去(RMVDIRE)コマンドによって、特定のユーザー項目をシステム配布ディレクトリーから除去することができます。ユーザーIDおよびアドレスをディレクトリーから除去すると、すべての配布リストからも除去されます。ユーザーIDおよびアドレスに関連した記述が複数ある場合には、特定の記述だけを除去するオプション、またはすべての記述を除去するオプションがあります。

*ANYユーザーが除去されて*ANY *ANYディレクトリー項目が存在する場合には、ユーザーは配布リストから除去されませんが、その記述は*ANY *ANY記述に変更されます。

制約事項:

1. 機密保護管理者(*SECADM)特殊権限が必要です。
2. 除去しようとするユーザー項目には、ローカル文書交換アーキテクチャー(DIA)ライブラリー内の文書またはフォルダーに所有権があってはなりません。
3. 除去しようとするユーザー項目の配布待ち行列に受信配布があって、除去要求が対話式に投入されたものである場合には、メールを除去するかどうかを尋ねる照会メッセージが表示されます。NOと応答した場合には、ユーザー項目はディレクトリーから除去されません。コマンドがバッチ・プログラムで投入されている場合には、メールは消去されず、ユーザー項目はディレクトリーから除去されません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
USRID	ユーザー識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
USRD	ユーザー記述	文字値, *FIRST, *ALL	オプション
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEV その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

除去されるユーザー項目のユーザーIDおよびアドレスを指定します。両方の部分を指定しなければなりません。各フィールドには、最大8文字まで入力することができます。

ユーザー記述 (USRD)

ユーザーIDおよびアドレスに関連した記述を指定します。特定のユーザーIDおよびアドレスについてディレクトリーに複数の項目が存在することがあるので、記述は除去するユーザー項目を十分に定義します。

*FIRST

指定されたユーザーIDおよびアドレスのディレクトリーの最初の項目が除去されます。項目が1つしかない場合には、その項目が除去されます。

***ALL** 指定されたユーザーIDおよびアドレスのすべての記述が除去され、そのユーザーIDおよびアドレスも除去されます。

ユーザー記述

ユーザーの記述として最大50文字までを指定してください。これは、除去されるユーザーIDおよびアドレスのディレクトリーの中に存在する記述と全く同じものでなければなりません。そうでない場合には、エラー・メッセージが戻されます。

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEV D

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

使用するコード・ページを指定してください。

[トップ](#)

RMVDIREの例

RMVDIRE USRID(HURST NEWYORK) USRD('給与計算の管理者')

次が真であると、ユーザーIDおよびアドレスHURST NEWYORKが除去されます。

- 指定されたユーザーID, アドレス, および記述をもつ項目がディレクトリー内に存在している。
- ユーザーは文書交換アーキテクチャー(DIA)のライブラリー内に文書またはフォルダーを所有していない。
- ユーザーがOFFICEVISIONに登録されていない。
- ユーザーがメール待ち行列からメールをすべて受信済みである。

さらに、このユーザーはすべての配布リストから除去されます。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RMVDIRE

*ESCAPEメッセージ

CPF89A3

権限の理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF90A8

データ妥当性検査理由のために操作が正常に行なわれていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF9005

この要求を完了するのに必要なシステム資源を使用することができない。

CPF9009

システムには&2のファイル&1のジャーナルが必要である。

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9087

ディレクトリー項目は除去されなかった。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEV D), DOCCHRID(*DEV D)を使用することはできない。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

ディレクトリー・シャドウ・システムの除去 (RMVDIRSHD)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

ディレクトリー・シャドウ・システム除去(RMVDIRSHD)コマンドは、現在ローカル・システムにディレクトリー・データをシャドウ処理中のシステムを除去します。

制約事項:このコマンドを使用するためには、機密保護管理者(*SECADM)権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	システム名	文字値	必須, 定位置 1
RMVDTA	データの除去	*YES, *NO	オプション

[トップ](#)

システム名 (SYSNAME)

シャドウ処理が除去されるシステムの名前を指定します。この名前には最大 8 桁の英数字を含めることができます。大文字(A-Z),数字(0-9),および特殊文字(@, #, ¥ ,および組み込みブランク) を指定することができます。組み込みブランクは単一引用符(')で囲む必要があります。先行ブランクは使用できません。@, #,および¥文字は、正規の文字セットでなくすべてのキーボードで使用できるとは限らないので、好ましくありません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

データの除去 (RMVDTA)

このパラメーターは、除去されるシステムから受け取ったディレクトリー・データを除去するかどうかを指定します。

***NO** 前にシャドウ処理されているディレクトリー・データは、ローカル・システムに残されます。除去されるシステムからシャドウ処理されたデータがある別のシステムからデータをシャドウ処理しない限り、シャドウ処理によってこのデータを変更することはできません。

***YES** 指定されたシステムからシャドウ処理されたディレクトリー項目のデータは、ローカル・システムから除去されます。部門およびロケーション・データは除去されません。

[トップ](#)

RMVDIRSHDの例

RMVDIRSHD SYSNAME(NYCITY) RMVDTA(*YES)

このコマンドはシステムNYCITYをシャドーイングから除去し、NYCITYからシャドーイングされたデータのすべてを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVDIRSHD

*ESCAPEメッセージ

CPF89A5

シャドー供給者&1の除去または延期が正常に行なわれていない。

CPF90A8

要求した操作を実行するためには*SECADM特殊権限が必要である。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

[トップ](#)

DLO権限の除去 (RMVDLOAUT)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

文書ライブラリー・オブジェクト権限除去(RMVDLOAUT)コマンドにより、文書またはフォルダーに対する既存のユーザー権限を除去することができます。

次のタイプの権限を除去することができます。

- 既存の特定のユーザー権限
- あるオブジェクトに対する権限リストの権限
- 既存のアクセス・コード

制約事項 このコマンドを使用するためには、そのオブジェクトに対する*ALL権限または*ALLOBJ特殊権限をもっているか、あるいはそのオブジェクトの所有者でなければなりません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DLO	文書ライブラリー・オブジェクト	文字値, *SYSOBJNAM, *ALL	必須, 定位置 1
FLR	フォルダー	文字値, *NONE	オプション
USER	ユーザー・プロファイル	単一値: *SAME, *ALL その他の値 (最大 50 回の繰り返し): 要素リスト	オプション, 定位置 2
	要素 1: ユーザー・プロファイル	名前	
AUTL	権限リスト	名前, *SAME	オプション
ACC	文書アクセス・コード	値 (最大 50 回の繰り返し): 0-2047, *SAME, *ALL	オプション
SYSOBJNAM	システム・オブジェクト名	名前	オプション

[トップ](#)

文書ライブラリー・オブジェクト (DLO)

除去する権限と関連した文書またはフォルダーを指定します。

これは必須パラメーターです。

考えられる値は次の通りです。

***ALL** 指定されたフォルダー内のすべてのオブジェクトに対するユーザー権限が除去されます。*ALLを指定した場合には、**フォルダープロンプト** (FLRパラメーター) を指定する必要があります。

***SYSOBJNAM**

システム・オブジェクト名プロンプト (SYSOBJNAMパラメーター) で指定されるシステム・オブジェクト名に対するユーザー権限が除去されます。

文書またはフォルダー名

除去するユーザー権限と関連した文書またはフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。最大12桁を指定することができます。

[トップ](#)

フォルダー (FLR)

指定されたオブジェクトが入っているフォルダーを指定します。文書ライブラリー・オブジェクトプロンプト (DLOパラメーター) に*SYSOBJNAMを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

考えられる値は次の通りです。

***NONE**

フォルダー名は指定されません。文書ライブラリー・オブジェクトプロンプト (DLOパラメーター) に名前を指定して、オブジェクトがフォルダーに入っている場合には、*NONEを指定することはできません。文書ライブラリー・オブジェクトプロンプト (DLOパラメーター) に*ALLを指定した場合には、*NONEを指定することはできません。

フォルダー名

指定されたオブジェクトが入っているフォルダーのユーザー割り当て名を指定してください。オブジェクトの入っているフォルダーがさらに別のフォルダーに入っている場合には、この名前を一連のフォルダー名から構成することができます。最大63桁を指定することができます。

[トップ](#)

ユーザー・プロファイル (USER)

除去する特定権限をもっているユーザーの名前を指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

特定権限は除去されません。

***ALL** すべてのユーザーの特定ユーザー権限が除去されます (オブジェクトの所有者を除く)。

ユーザー・プロファイル名

除去する特定権限をもっているユーザー・プロファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

権限リスト (AUTL)

オブジェクトに対する除去する権限が入っている既存の権限リストの名前を指定します。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

オブジェクトに対して既存の権限リストに指定されている権限は除去されません。

権限リスト名

オブジェクトに対する除去する権限が入っている既存の権限リストの名前を指定してください。

[トップ](#)

文書アクセス・コード (ACC)

オブジェクトに対して除去するアクセス・コードを指定します。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

考えられる値は次の通りです。

***SAME**

オブジェクトのアクセス・コードは除去されません。

***ALL** オブジェクトのすべてのアクセス・コードが除去されます。

アクセス・コード

現在割り当てられているどのアクセス・コード(0-2047)を除去するかを指定してください。最大50個のアクセス・コードを指定することができます。

[トップ](#)

システム・オブジェクト名 (SYSOBJNAM)

文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定します。

オブジェクト名

10桁全体を使用して、文書またはフォルダーのシステム・オブジェクト名を指定してください。

[トップ](#)

RMVDLOAUTの例

RMVDLOAUT DLO(DOCA) FLR(MYFLR) AUTL(MYLIST)

このコマンドは、フォルダーMYFLR内のオブジェクトDOCAの権限リストMYLISTの権限を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVDLOAUT

***ESCAPEメッセージ**

CPF8A75

フォルダー&1のアクセスが認可されていない。

CPF8A77

フォルダー&1が見つからない。

CPF8A78

フォルダー&1は使用中である。

CPF8A79

フォルダー&1は論理的に損傷している。

CPF8A80

フォルダー&1の文書&2は使用中である。

CPF8A82

文書&2がフォルダー&1に見つからない。

CPF8A83

フォルダー&1の文書&2のアクセスが認可されていない。

CPF8A88

フォルダー&1の文書&2でこの操作を使用することはできない。

CPF8A89

フォルダー&1の文書&2が論理的に損傷している。

CPF90BA

文書ライブラリー・オブジェクトの権限要求が正常に実行されなかった。

CPF9073

文書ライブラリー・オブジェクト&1の機密保護の表示または変更権限がない。

CPF908A

要求元&1は登録されていない。

CPF908B

文書ライブラリー・オブジェクトが見つからない。

CPF908E

&1個のオブジェクトが変更されたが、&2個のオブジェクトは変更されなかった。

CPF909A

フォルダー&1の文書&2に損傷がある。

CPF9095

フォルダー&1に損傷がある。

[トップ](#)

配布リスト項目除去 (RMVDSTLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布リスト項目除去(RMVDSTLE)コマンドにより、配布リストから項目を除去することができます。最大 300個の項目をリストから一度に除去することができます。

制約事項:他の担当者が所有する配布リストから項目を除去するためには、機密保護管理者権限(*SECADM)が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
LSTID	リスト識別コード	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: リスト識別コード	文字値	
	要素 2: リスト識別コード修飾子	文字値	
USRID	ユーザー識別コード	値 (最大 300 回の繰り返し): 要素リスト	必須, 定位置 2
	要素 1: ユーザー識別コード	文字値	
	要素 2: アドレス	文字値	
	要素 3: ユーザー記述	文字値, *FIRST, *ALL	
CMDCHRID	コマンド文字識別コード	単一値: *SYSVAL, *DEVD その他の値: 要素リスト	オプション
	要素 1: グラフィック文字セット	整数	
	要素 2: コード・ページ	整数	

[トップ](#)

リスト識別コード (LSTID)

除去する項目が入っている配布リストの2つの部分から成るリスト識別コード(ID)を指定します。

これは必須パラメーターです。

リスト識別コード

リストIDは、少なくとも1つのスペースで区切られる2つの部分として入力されます。小文字を指定した場合には、システムはそれを大文字に変更します。

小文字が指定された場合には、システムはそれを大文字に変更し、大文字として記憶します。

[トップ](#)

ユーザー識別コード (USRID)

配布リストから除去するユーザーのユーザーID、アドレス、および記述を指定します。ユーザーIDおよびアドレスの両方を指定しなければなりません。記述を入力して、あるユーザーIDについて特定の記述の削除を指定することができます。

このパラメーターには複数の値を入力できます。

除去するリモート配布リストを識別するために、ユーザーIDおよびアドレスの代わりに、2つの部分から成るリストID（ユーザーIDおよびアドレス）を使用することができます。

ユーザーID、アドレス、および記述の3つを一組として最大300組まで指定することができます。有効な各組が配布リストから除去されます。

少なくとも1組のユーザーIDが必要です。

ユーザーIDおよびアドレス

除去するユーザーIDおよびアドレスを指定してください。

小文字が指定された場合には、システムはそれを大文字に変更し、大文字として記憶します。

*FIRST

指定されたユーザーIDおよびアドレスについて配布リスト中の最初の項目が除去されます。項目が1つしか存在しない場合には、それがリストから除去されます。

*ALL 指定されたユーザーIDおよびアドレスとともにすべての項目が配布リストから除去されます。

ユーザー記述

ユーザーの記述を指定してください。リスト識別コードが指定されている場合には、リストの記述を入力してください。記述の長さは最大50文字とすることができます。

[トップ](#)

コマンド文字識別コード (CMDCHRID)

コマンド・パラメーター値として入力するデータの文字識別コード（図形文字セットおよびコード・ページ）を指定します。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態に記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

単一値

*SYSVAL

システムは、QCHRIDシステム値からコマンド・パラメーターの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。

*DEVD

システムは、このコマンドが入力された表示装置記述からの図形文字セットおよびコード・ページ値を判別します。このオプションは、対話式ジョブから入力された時にだけ有効です。このオプションがバッチ・ジョブで指定された場合には、エラーが起こります。

要素1: グラフィック文字セット

1-32767

使用する図形文字セットを指定してください。

要素2: コード・ページ

1-32767

使用するコード・ページを指定してください。

注:

- ユーザーIDおよびアドレス、システム名およびグループ、およびX.400 O/Rパラメーターだけが、このパラメーターで指定された図形文字セット識別コード(GCID)に変換されます。指定したその他のパラメーター値はすべて、入力されたままの状態記憶されます。GCIDの値はこれらと一緒に記憶されます。
- このコマンドを対話式に実行した場合には、表示装置記述から省略時のGCID値が取られます。このコマンドをバッチで実行した場合には、省略時のGCID値はQCHRID システム値から取られます。このパラメーターに特定の文字セットおよびコード・ページを指定することによって、これらの値を一時変更することができます。

トップ

RMVDSTLEの例

```
RMVDSTLE  LSTID(CHICAGO DLIST)
           USRID((HURST PAYROLL 'MANAGER OF PAYROLL')
                (LEE DEPT554 *FIRST)
                (BOCA DLIST 'リモート配布リスト')
                (BRYON WAREHSE *ALL))
```

この例では、4つのユーザーIDが配布リストCHICAGO DLISTから除去されます。3番目のユーザーIDは実際にはリモート配布リストです。BRYON WAREHSEの項目のすべてがこのリストから除去されます。

トップ

エラー・メッセージ: RMVDSTLE

*ESCAPEメッセージ

CPF9024

システムが操作を終了する正しいレコードを獲得することができない。

CPF905C

変換テーブルを見つけようとした時にエラーが起こった。

CPF9092

項目がリスト&1 &2から除去されなかった。

CPF9093

&1個の項目がリスト&2 &3から除去された。

CPF9096

バッチ・ジョブではCMDCHRID(*DEVD), DOCCHRID(*DEVD)を使用することはできない。

CPF9838

ユーザー・プロファイルの記憶域限界を超えた。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

[トップ](#)

配布待ち行列の除去 (RMVDSTQ)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布待ち行列除去(RMVDSTQ)コマンドによって、配布サービス待ち行列テーブルから配布待ち行列項目を除去することができます。配布待ち行列は、他のシステムに送信または転送される前の配布を記憶するために使用されます。

RMVDSTQコマンドは対話式表示サポートを提供しません。これは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス(SD88-5031)を参照してください。

配布待ち行列名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID)を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロフィールには、このコマンドを使用するための私用認可があります。
- 次の配布待ち行列を除去することはできません。
 - 経路指定テーブルの中で参照されている待ち行列
 - 送信されるのを待機中の配布が入っている待ち行列
 - 待ち行列を使用するためのリモート・ライブラリーがすでに構成されているDLS (文書ライブラリー・サービス) 待ち行列
 - 受信先が活動状態であるか、または配布が受信された時に送信元で確認を受信した旨の肯定応答が得られていない場合のSVDS (SYSTEMVIEW SYSTEM MANAGER/400配布サービス) 待ち行列
- 配布待ち行列についてエラーを報告するメッセージは、システムの内部変換のために、その配布待ち行列名用に入力されたものと異なる文字で表示または印刷されることがあります。同様に、(ワークステーションに使用される言語によって) 配布待ち行列名の内部値が、配布待ち行列処理(WRKDSTQ)コマンドの場合に表示される文字と異なることがあります。配布待ち行列プロンプト (DSTQパラメーター) に指定された文字ストリング値が内部配布待ち行列値の規則と一致しない場合、あるいは定義されたどの配布待ち行列の内部値とも一致しない (大/小文字の相違を無視して) 場合には、エラーが報告される場合があります。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
DSTQ	配布待ち行列	文字値	必須, 定位置 1

トップ

配布待ち行列 (DSTQ)

除去する配布待ち行列項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RMVDSTQの例

RMVDSTQ DSTQ(CHICAGO)

このコマンドは、CHICAGOという名前の配布待ち行列項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVDSTQ

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8809

SNADS内部待ち行列でエラーが検出された。

CPF881B

配布待ち行列&1の配布が受信されている。

CPF8826

配布待ち行列&1の配布待ち行列項目が存在している。

CPF8827

配布待ち行列&1の経路指定テーブル項目が存在している。

CPF8828

*DLS配布待ち行列&1にリモート文書ライブラリー項目が存在している。

CPF8833

配布待ち行列&1はすでに存在している。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

配布経路の除去 (RMVDSTRTE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布経路除去(RMVDSTRTE)コマンドによって、配布サービス経路指定テーブルから項目を除去することができます。いったん、テーブルからシステムを除去すると、このシステムから直接そのシステムに配布を送信することはできなくなります。

対話式表示サポートは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

制約事項: このコマンドは共用*EXCLUDE権限で出荷され、QPGMRおよびQSYSOPRユーザー・プロファイルは、このコマンドを使用する私用認可をもちます。

システム名およびグループ名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID) を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値, *ANY	
	要素 2: システム・グループ	文字値, *ANY	

[トップ](#)

システム名 (SYSNAME)

経路指定テーブルから除去したいリモート・システムのシステム名およびグループ名を指定します。

最大8文字のシステム名および最大8文字のグループ名を指定することができます。

システム名として*ANYを指定することができます。SYSNAME (*ANY グループ) を指定するのは、特定のシステム名とは一致していないがグループ名と一致している配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を除去する場合です。テーブル中の各グループごとに*ANYを1つだけ使用することができます。

システム名にも*ANYが指定されている場合に限り、グループ名に*ANYを指定することができます。SYSNAME(*ANY *ANY)を指定するのは、他のどの経路指定テーブル項目とも一致しない配布の宛先を決定するために使用する経路指定テーブル項目を除去する場合です。経路指定テーブル中では、SYSNAME(*ANY *ANY)を1つだけ使用することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RMVDSTRTEの例

例1: 経路指定テーブルからのシステムの除去

```
RMVDSTRTE  SYSNAME(SYSTEMA GROUPA)
```

このコマンドは、SYSTEMAという名前の経路指定テーブル項目を除去します。

例2: 総称経路指定テーブル項目の除去

```
RMVDSTRTE  SYSNAME(*ANY GROUPNM1)
```

このコマンドは、システム名が*ANYで、グループ名がGROUPNM1の経路指定テーブル項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RMVDSTRTE

*ESCAPE メッセージ

CPF8802

配布待ち行列&1が見つからなかった。

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8815

経路指定テーブル項目&1 &2が見つからない。

CPF8831

経路指定テーブルに項目&1 &2がすでに存在している。

CPF8837

システム名/グループ&1 &2は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF8849

待ち行列&1は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

2 次システム名の除去 (RMVDSTSYSN)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

配布2次システム名除去(RMVDSTSYSN)コマンドによって、配布サービス2次システム名テーブルから項目を除去することができます。このテーブルには、ローカル・システムが配布を受信し、またそれをリダイレクトすることのある相手先のすべての代替（別名）システム名の名前が入っています。テーブルから代替システム名を除去すると、このシステムは、もはや代替システム用の配布を受信しなくなります。

対話式表示サポートは配布サービス構成(CFGDSTSRV)コマンドによって提供されます。配布ネットワーク構成の詳細については、AS/400 SNA配布サービス (SD88-5031)を参照してください。

システム名およびグループ名は、ジョブのコード化文字セット識別コード(CCSID) を使用して、図形文字セットおよびコード・ページ930 500に変換されます。

制約事項:

- このコマンドは*EXCLUDEの共通認可とともに出荷され、QPGMRおよびQSYSOPR ユーザー・プロフィールには、このコマンドを使用するための私用認可があります。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
SYSNAME	2次システム名	要素リスト	必須, 定位置 1
	要素 1: システム名	文字値	
	要素 2: システム・グループ	文字値	

[トップ](#)

2 次システム名 (SYSNAME)

除去する2次システム名テーブル項目のシステム名およびグループ名を指定します。

最大8文字のシステム名および最大8文字のグループ名を指定することができます。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RMVDSTSYSNの例

RMVDSTSYSN SYSNAME(SYS2LAJ1 ROCHESTR)

このコマンドは、配布サービス2次システム名テーブルからSYS2LAJ1 ROCHESTRという名前のシステムを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVDSTSYSN

*ESCAPE メッセージ

CPF8807

QSNADSジャーナルの使用中にエラーが起こった。

CPF8818

2次システム名テーブル項目&1 &2が見つからない。

CPF8835

システム名/グループ&1 &2はすでに指定されている。

CPF8837

システム名/グループ&1 &2は別の配布サービス機能によって使用中である。

CPF9845

ファイル&1のオープン中にエラーが起こった。

CPF9846

ライブラリー&2のファイル&1の処理中にエラーが起こった。

CPF9847

ライブラリー&2のファイル&1のクローズ中にエラーが起こった。

CPF9899

コマンドの処理中にエラーが起こった。

[トップ](#)

構成項目除去 (RMVEMLCFGE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

エミュレーション構成項目除去(RMVEMLCFGE)コマンドは、3270装置エミュレーション・セッションについての構成項目を構成ファイルから除去するために、使用されます。

制約事項: ユーザーはこのコマンドによって、システムと一緒に移入される省略時のエミュレーション構成項目である構成項目QEMDFTCFGEを除去することはできません。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EMLCFGE	構成項目	名前	必須, 定位置 1

[トップ](#)

構成項目 (EMLCFGE)

除去する構成項目の名前を指定します。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

RMVEMLCFGEの例

RMVEMLCFGE EMLCFGE(FASBPRINT)

このコマンドは、構成ファイルからエミュレーション構成項目FASBPRINTを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ: RMVEMLCFGE

*ESCAPEメッセージ

CPF85FA

エミュレーション項目QEMDFTCFGEが除去されなかった。

CPF853E

エミュレーション構成項目&1が見つからない。

CPF854B

エミュレーション構成ルーチンに内部エラーが見つかった。

[トップ](#)

環境変数の除去 (RMVENVVAR)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

環境変数の除去(RMVENVVAR)コマンドは、存在する1つの環境変数（またはすべての環境変数）を除去します。

制約事項: このコマンドを使用してシステム・レベルの環境変数を除去するためには、*JOBCTL特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
ENVVAR	環境変数	文字値, *ALL	必須, 定位置 1
LEVEL	レベル	*JOB, *SYS	オプション

[トップ](#)

環境変数 (ENVVAR)

削除する環境変数の名前を指定します。この名前の環境変数が指定されたレベル(LEVELパラメーター)に存在しない場合には、エラー・メッセージCPFA981が出されます。

特殊値*ALLが指定された場合には、指定されたレベル(LEVELパラメーター)のすべての環境変数が除去されます。

注: 小文字を指定した時には、大文字と小文字が区別されます。

アポストロフィを使用したい場合には、2つのアポストロフィ('')を使用しなければなりません。

これは必須パラメーターです。

[トップ](#)

レベル (LEVEL)

環境変数のレベルを指定します。

考えられる値は次の通りです。

***JOB** これはジョブ・レベルの環境変数です。

***SYS** これはシステム・レベルの環境変数です。

RMVENVVARの例

例1:ジョブ・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(ALTDIR)
```

このコマンドは、ALTDIRという名前のジョブ・レベル環境変数を除去します。

例2:システム・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(HOME)  TYPE(*SYS)
```

このコマンドは、HOMEという名前のシステム・レベル環境変数を除去します。

例3:すべてのジョブ・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(*ALL)
```

このコマンドは、すべてのジョブ・レベル環境変数を除去します。

例4:すべてのシステム・レベル環境変数の除去

```
RMVENVVAR  ENVVAR(*ALL)  LEVEL(*SYS)
```

このコマンドは、すべてのシステム・レベル環境変数を除去します。

トップ

エラー・メッセージ： RMVENVVAR

*ESCAPEメッセージ

CPFA981

この環境変数は存在していない。

CPFA98E

システム・レベルの環境変数を更新するには*JOBCTL特殊権限が必要です。

トップ

EWCバーコード項目の除去 (RMVEWCBCDE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置バーコード項目除去(RMVEWCBCDE)コマンドは、指定されたバーコード・グループのバーコード項目を除去します。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
BCDGRP	バーコード・グループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

バーコード・グループ (BCDGRP)

除去するバーコード・グループ項目の名前を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

除去中のバーコード項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。バーコード項目には、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

RMVEWCBCDEの例

```
RMVEWCBCDE BCDGRP(BCD01) INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWCSRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のバーコード・グループBCD01のバーコード項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVEWCBCDE

なし

[トップ](#)

EWC PTC項目の除去 (RMVEWCPTCE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

拡張無線制御装置PTC項目除去(RMVEWCPTCE)コマンドは、指定されたPTCグループのポータブル・トランザクション・コンピューター(PTC)項目を除去します。

制約事項: このコマンドを実行するには、ユーザー・プロファイルに*IOSYSCFG特殊権限が必要です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
PTCGRP	PTCグループ	名前	必須, 定位置 1
INZMBR	初期設定ソース・メンバー	名前	必須, 定位置 2
INZFILE	初期設定ソース・ファイル	修飾オブジェクト名	オプション, 定位置 3
	修飾子 1: 初期設定ソース・ファイル	名前, <u>QEWCSRC</u>	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, <u>*LIBL</u>	

[トップ](#)

PTCグループ (PTCGRP)

除去する項目のPTCグループ名を指定します。

[トップ](#)

初期設定ソース・メンバー (INZMBR)

除去中のPTC項目が入っているソース・ファイル・メンバーの名前を指定します。ソース・ファイル・メンバーには、拡張無線制御装置構成データが入っています。

[トップ](#)

初期設定ソース・ファイル (INZFILE)

ソース・ファイル・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定します。

ソース・ファイルの名前は次のライブラリー値の1つによって修飾することができます。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

ジョブの現行ライブラリーが検索されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

検索するライブラリーの名前を指定してください。

考えられる値は、次の通りです。

QEWCSRC

ソース・ファイル名QEWCSRCが使用されます。

ソース・ファイル名

ソース・メンバーが入っているソース物理ファイルの名前を指定してください。

[トップ](#)

RMVEWCPTCEの例

```
RMVEWCPTCE PTCGRP(PTC01) INZMBR(EWC01) INZFILE(QGPL/QEWCSRC)
```

このコマンドは、ライブラリーQGPLのソース・ファイルQEWCSRCのソース・ファイル・メンバーEWC01のPTCグループPTC01のPTC項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVEWCPTCE

なし

[トップ](#)

出口プログラムの除去 (RMVEXITPGM)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: はい

パラメーター
例
エラー・メッセージ

出口プログラム除去(RMVEXITPGM)コマンドは、登録済みまたは未登録の特定の出口点の出口プログラム項目を除去します。未登録の出口点というのは、出口プログラムが追加された時点で登録機能が出口点なしで作成した出口点です。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
EXITPNT	出口点	単純名	必須, 定位置 1
FORMAT	出口点形式	単純名	必須, 定位置 2
PGMNBR	プログラム番号	1-2147483647, *ALL	必須, 定位置 3

[トップ](#)

出口点 (EXITPNT)

出口プログラムが除去される既存の出口点の名前を指定します。

[トップ](#)

出口点形式 (FORMAT)

除去される出口プログラムの出口点様式の名前を指定します。

[トップ](#)

プログラム番号 (PGMNBR)

除去される出口プログラムのプログラム番号を指定します。

考えられる値は、次の通りです。

***ALL** 指定された出口点様式 (FORMATパラメーター) のすべての出口プログラムを指定された出口点 (EXITPNTパラメーター) から除去します。

プログラム番号

指定されたプログラム番号に対応する出口プログラムを除去します。

[トップ](#)

RMVEXITPGMの例

```
RMVEXITPGM  EXITPNT(USER_EXIT_ONE)  FORMAT(EXIT1)  PGMNBR(1)
```

このコマンドは、出口点形式EXIT1のプログラム順序番号1で追加された出口点USER_EXIT_ONEの出口プログラムを除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVEXITPGM

なし

[トップ](#)

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フォント・テーブル項目の除去 (RMVFNTTBLE)コマンドは、指定されたフォント・テーブルの項目を除去します。このコマンドは、以下の制御を行う印刷サービス機能(PSF)によって使用されるフォント・マッピング・テーブルの項目を除去します。

1. ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのマッピング
2. 印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのマッピング
3. ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング
4. 印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング
5. 印刷装置常駐から印刷装置常駐フォント置き換えへのマッピング

フォント・テーブル項目追加(ADDFNTTBLE)コマンドを実行することによって、ユーザー・テーブルに項目を追加しておかなければなりません。

印刷装置からホストへのフォント・マッピングおよびホストから印刷装置へのフォント・マッピング（上記にリストされた最初の4つのテーブル）の実行では、ユーザー・テーブルが最初に一致を検索されます。一致が見つからない場合には、次にシステム・フォント・テーブルまたはコード・ページ・テーブルが検索されます。

印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルの場合には、システムによって次の処理が実行されます。

- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントがその印刷装置によってサポートされている場合には、それが使用されます。印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルは検索されません。
- 印刷ジョブで指定された印刷装置常駐フォントが印刷装置によってサポートされていない場合には、印刷装置常駐から印刷装置常駐へのフォント置き換えテーブルが検索されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで見つかり、その項目が印刷装置によってサポートされている場合には、印刷装置常駐フォント置き換えテーブルで指定された置き換えフォントが使用されます。
 - 一致する項目が印刷装置常駐フォント置き換えで見つからない場合、あるいは項目が印刷装置によってサポートされていない場合には、システムはその内部フォント置き換えテーブルを使用してフォント置き換えを実行します。

フォント・マッピング・テーブルの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

制約事項

- このコマンドを使用するためには、PSF機能が必要です。

トップ

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FNTTBL	フォント・テーブル	単一値: *PHFCS, *HPFCS, *PHCP, *HPCP その他の値: 修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フォント・テーブル	名前	
	修飾子 2:	名前, *CURLIB, *LIBL	
PHFCS	印刷装置フォント項目	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: 幅	1-32767, *NONE, *PTSIZE	
	要素 3: 属性	*NONE, *BOLD, *ITALIC, *BOLDITC, *DBLWIDE, *ITCDBLWIDE	
	要素 4: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
	要素 5: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *WIDTH, *NONE	
PHCP	印刷装置コード・ページ項目	要素リスト	オプション
	要素 1: 図形文字セット	整数, *SYSVAL	
	要素 2: コード・ページ	整数	
HPFCS	ホスト・フォント項目	要素リスト	オプション
	要素 1: フォント文字セット	名前	
	要素 2: タイプ	*RASTER, *OUTLINE	
HPCP	ホスト・コード・ページ項目	要素リスト	オプション
	要素 1: コード・ページ	名前	
PPFCS	印刷装置相互間フォント	要素リスト	オプション
	要素 1: 識別コード	1-65535	
	要素 2: ポイント・サイズ	1.0-999.9, *ALL, *NONE	

トップ

フォント・テーブル (FNTTBL)

除去するフォント・テーブルを指定します。

単一値

*PHFCS

印刷装置常駐からホスト常駐フォント文字セットへのテーブルが除去されます。

*PHCP

印刷装置常駐からホスト常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが除去されます。

*HPFCS

ホスト常駐から印刷装置常駐フォント文字セットへのテーブルが除去されます。

*HPCP

ホスト常駐から印刷装置常駐コード・ページへのマッピング・テーブルが除去されます。

修飾子1: フォント・テーブル

名前 除去するフォント・テーブルの名前を指定します。

修飾子2: ライブラリー

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、ジョブのライブラリー・リストのすべてのライブラリーを検索します。

*CURLIB

フォント・テーブルを見つけるために、現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

名前 フォント・テーブルが入っているライブラリーの名前を指定してください。

トップ

印刷装置からホスト・フォントへ (PHFCS)

除去する印刷装置常駐フォント項目を指定します。

要素1: 印刷装置フォント

要素1: 識別コード

1-65535

ホスト常駐フォントにマップする印刷装置常駐フォント識別コードを指定します。

要素2: 幅

*NONE

このフォント識別コードには幅は指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

*PTSIZE

このフォントIDの幅は、指定されたポイント・サイズから計算されます。幅に*PTSIZEを指定した場合には、ポイント・サイズ・パラメーターを*NONEまたは*WIDTHにすることはできません。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。幅の値は*PTSIZEにするか、あるいは値を指定することができます。

1-32767

フォント識別コードの幅を指定します。固定ピッチ・ラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅を指定しなければなりません。ポイント・サイズの値は*WIDTHにするか、あるいは値を指定することができます。印刷装置常駐フォントのフォント幅の詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素3: 属性

*NONE

このフォントには特別のフォントの属性は指定されません。

***BOLD**

印刷装置常駐フォントは太字体のフォントです。

***ITALIC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体のフォントです。

***BOLDITC**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の太字フォントです。

***DBLWIDE**

印刷装置常駐フォントは横倍角フォントです。

***ITCDBLWIDE**

印刷装置常駐フォントはイタリック体の横倍角フォントです。

要素4: 図形文字セット

***SYSVAL**

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。

図形文字識別コード

フォントの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字識別コードの最初の部分です。

要素5: ポイント・サイズ

***WIDTH**

フォントのポイント・サイズは指定されたフォントの幅の値から計算されます。固定ピッチのラスター・フォント(1 - 750, 3840 - 4095)をマッピングする場合には、幅の値を指定してポイント・サイズの値を*WIDTHにすることをお奨めします。

***NONE**

このフォント識別コードにはポイント・サイズは指定されません。アウトライン・フォントにマッピングする場合には、*NONEを指定しなければなりません。

1.0-999.9

1.0 - 999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスター・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

印刷装置からホスト・コード・ページ (PHCP)

除去する印刷装置常駐コード・ページ項目を指定します。

要素1: 印刷装置コード・ページ

要素1: 図形文字セット

*SYSVAL

システム値QCHRIDに指定された図形文字セットが使用されます。このシステム値への変更が有効となるのは、印刷書き出しプログラムが開始される時のフォント・マッピング・テーブルだけです。QCHRIDが変更され、印刷装置が現在活動状態である場合には、この印刷装置書き出しプログラムを終了して再度開始しなければなりません。

整数 印刷装置常駐コード・ページの図形文字セットを指定します。図形文字セットは、図形文字セットとコード・ページから構成される図形文字識別コードの最初の部分です。たとえば図形文字識別コード697 500の場合には、697が図形文字セットで、500がコード・ページとなります。この例では、図形文字セットに697を指定します。

要素2: コード・ページ

整数 印刷装置常駐コード・ページの値を指定します。

[トップ](#)

ホストから印刷装置フォントへ (HPFCS)

除去するホスト常駐フォント項目を指定します。

要素1: ホスト・フォント

要素1: フォント文字セット

名前 フォント文字セットを指定します。

要素2: タイプ

*RASTER

ホスト常駐フォントはラスター・フォントです。

*OUTLINE

ホスト常駐フォントはアウトライン・フォントです。

[トップ](#)

ホストから印刷装置コード・ページ (HPCP)

除去するホスト常駐コード・ページ項目を指定します。

要素1: ホスト・コード・ページ

要素1: コード・ページ

名前 ホスト常駐コード・ページの名前を指定します。

[トップ](#)

印刷装置相互間フォント (PPFCS)

除去する印刷装置常駐フォント置き換えマッピングを指定します。

要素1: 印刷装置からのフォント

要素1: 識別コード

1-65535

置き換え印刷装置常駐フォントが変更される印刷装置常駐フォント識別コードを指定します。サポートされている印刷装置常駐フォントや、スケーラブル（ポイント・サイズが必要）かスケーラブルでない（ポイント・サイズに*NONEを指定）かの詳細については、印刷装置プログラミング(SD88-5073)を参照してください。

要素2: ポイント・サイズ

***NONE**

フォント・ポイント・サイズは指定されません。これはすべての非スケーラブル・フォントに指定してください。

***ALL** アウトライン（スケーラブル）・フォントのすべてのポイント・サイズがマップされることを指定します。フォントがスケーラブルでない場合には、これは*NONEと同じに扱われます。

1.0-999.9

1.0 - 999.9の範囲でポイント・サイズを指定します。印刷用ラスタ・フォント(2304 - 3839, 4096 - 53247, 61440 - 65534)をマッピングする場合には、ポイント・サイズの値を指定しなければなりません。

[トップ](#)

RMVFNTTBLEの例

例1: フォント項目の除去

```
RMVFNTTBLE FNTTBL(*PHFCS) PHFCS(254 84 *NONE 2039 7.0)
```

このコマンドは、QPHFCSテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのフォント文字セット・テーブル）から項目を除去します。

例2: コード・ページ項目の除去

```
RMVFNTTBLE FNTTBL(*PHCP) PHCP(*SYSVAL 38)
```

このコマンドは、QPHCPテーブル（印刷装置常駐からホスト常駐へのコード・ページ・テーブル）から項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVFNTTBLE

*ESCAPE メッセージ

CPF2182

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF2283

権限リスト&1が存在していない。

CPF88D2

ライブラリー&2のフォント・テーブル&1は変更されなかった。

CPF9810

ライブラリー&1が見つかりません。

CPF9820

ライブラリー&1の使用は認可されていない。

CPF9822

ライブラリー&2のファイル&1は認可されていない。

[トップ](#)

フィルター処置項目の除去 (RMVFTRACNE)

実行可能場所: すべての環境 (*ALL)
スレッド・セーフ: いいえ

パラメーター
例
エラー・メッセージ

フィルター処置項目の除去(RMVFTRACNE)コマンドでは、ユーザーは指定したフィルター・オブジェクトから処置項目を除去することができます。

[トップ](#)

パラメーター

キーワード	記述	選択項目	注
FILTER	フィルター	修飾オブジェクト名	必須, 定位置 1
	修飾子 1: フィルター	名前	
	修飾子 2: ライブラリー	名前, *LIBL, *CURLIB	
GROUP	グループ	名前	必須, 定位置 2

[トップ](#)

フィルター (FILTER)

処置項目が除去されるフィルターの修飾名を指定します。

考えられるライブラリーの値は次の通りです。

***LIBL** 最初に一致するものが見つかるまで、現行スレッドのライブラリー・リスト内のすべてのライブラリーが検索されます。

***CURLIB**

フィルターを見つけるために、ジョブの現行ライブラリーが使用されます。ジョブの現行ライブラリーとしてライブラリーが指定されていない場合には、QGPLライブラリーが使用されます。

ライブラリー名

フィルターが入っているライブラリーの名前を指定してください。

フィルター名

フィルターの名前を指定してください。

[トップ](#)

グループ (GROUP)

削除される処置項目を識別するグループを指定します。

[トップ](#)

RMVFTRACNEの例

RMVFTRACNE FILTER(MYLIB/MYFILTER) GROUP(CHICAGO)

このコマンドは、ライブラリーMYLIB内のフィルターMYFILTERのグループCHICAGOで識別された処置項目を除去します。

[トップ](#)

エラー・メッセージ： RMVFTRACNE

*ESCAPEメッセージ

CPF2150

オブジェクト情報機能に障害。

CPF2151

&1のタイプ*&3の&2に対する操作が正常に行なわれなかった。

CPF812F

フィルターに損傷がある。

CPF91DD

グループ&4の処置項目が見つからなかった。

CPF91EC

内部処理エラーが起こった。

CPF91E8

内部処理エラーが起こった。

CPF9802

&3のオブジェクト&2は認可されていない。

CPF9803

ライブラリー&3のオブジェクト&2を割り振りできません。

CPF9807

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーが削除された。

CPF9808

ライブラリー・リストの1つまたは複数のライブラリーを割り振ることができない。

CPF9830

ライブラリー&1を割り当てることができない。

[トップ](#)

付録. 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。

使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
Software Interoperability Coordinator, Department 49XA
3605 Highway 52 N
Rochester, MN 55901
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

Advanced Function Printing

AFP

AS/400

CICS

COBOL/400

C/400

DataPropagator

DB2

IBM

Infoprint

InfoWindow

iSeries

LPDA

OfficeVision

OS/400
Print Services Facility
RPG/400
SystemView
System/36
TCS
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

資料に関するご使用条件

お客様がダウンロードされる資料につきましては、以下の条件にお客様が同意されることを条件にその使用が認められます。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾をえずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示することはできません。

ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。

これらの資料の著作権はすべて、IBM Corporation に帰属しています。

お客様が、このサイトから資料をダウンロードまたは印刷することにより、これらの条件に同意されたものとさせていただきます。

コードに関する特記事項

本書には、プログラミングの例が含まれています。

IBM は、お客様に、すべてのプログラム・コードのサンプルを使用することができる非独占的な著作使用権を許諾します。お客様は、このサンプル・コードから、お客様独自の特別のニーズに合わせた類似のプログラムを作成することができます。

すべてのサンプル・コードは、例として示す目的でのみ、IBM により提供されます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

ここに含まれるすべてのプログラムは、現存するままの状態を提供され、いかなる保証も適用されません。商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任の保証の適用も一切ありません。



Printed in Japan